

港北第二地区橋梁計画設計(その1)(その2)

(別 冊)

昭和 56 年 8 月

日本住宅公団港北開発局
(その1)セントラルコンサルタント株式会社
(その2)計画エンジニアリング株式会社

目次

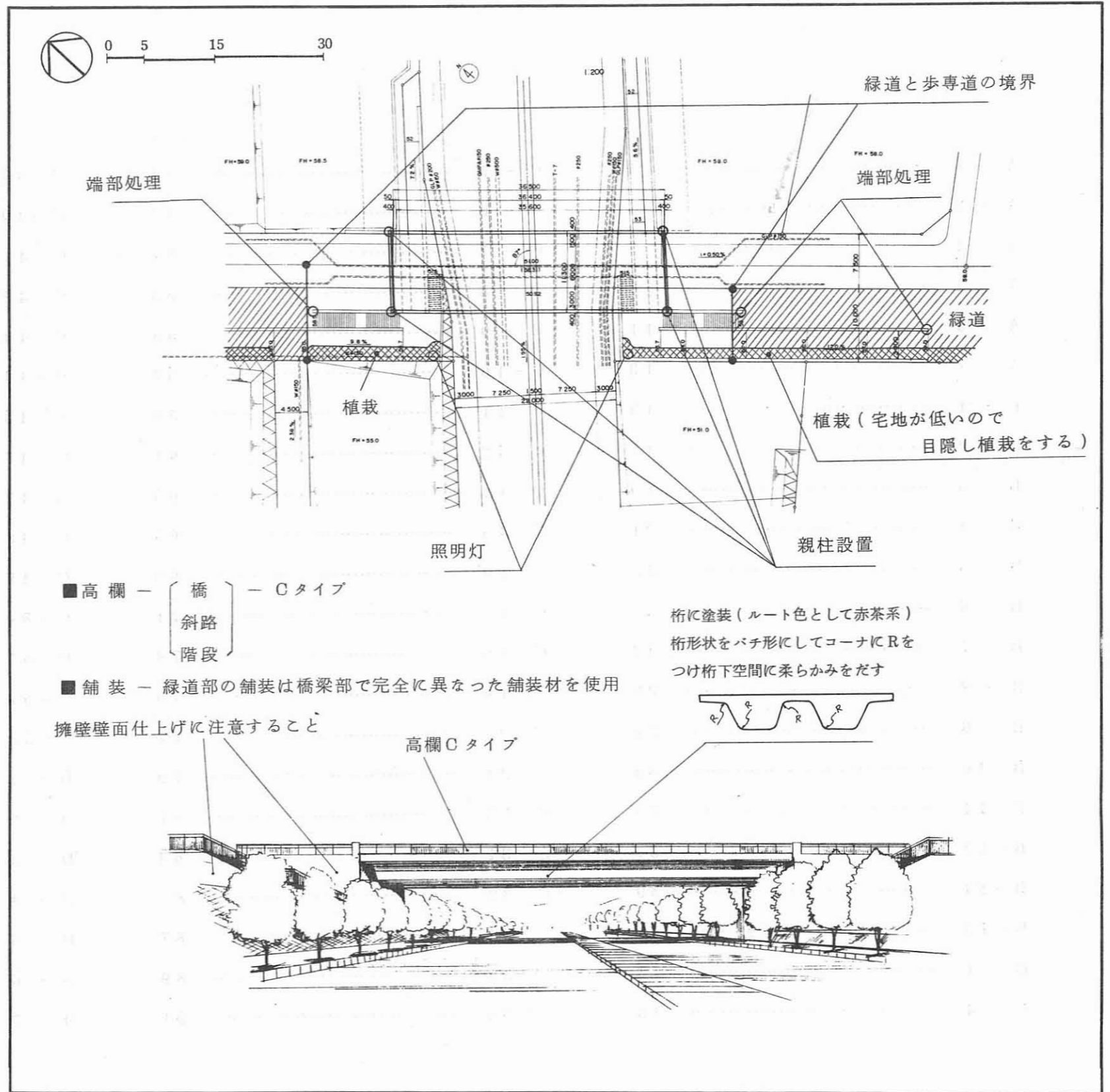
	ページ		ページ		ページ
A - 1	1	C - 5	47	C - 39	93
A - 2	3	C - 6	49	C - 40	97
A - 4	5	C - 7	51	C - 41	99
A - 5	9	C - 8	53	C - 42	101
A - 6	11	C - 9	55	C - 43	103
A - 7	13	C - 10	57	C - 44	105
B - 1	15	C - 11	59	C - 45	107
B - 2	17	C - 12	61	C - 46	111
B - 3	19	C - 14	63	C - 47	113
B - 4	21	C - 15	65	C - 48	115
B - 5	23	C - 16	69	C - 49	117
B - 6	25	C - 17	71	C - 50	121
B - 7	27	C - 18	73	C - 51	123
B - 8	29	C - 19	75	C - 52	125
B - 9	31	C - 20	77	C - 53	127
B - 10	33	C - 21	79	D - 1	129
B - 11	35	C - 25	81	D - 2	133
B - 13	37	C - 31	83	D - 3	135
B - 14	39	C - 32	85	D - 4	139
B - 15	41	C - 34	87	D - 5	143
C - 1	43	C - 35	89	D - 6	145
C - 4	45	C - 36	91	D - 7	147

A-1

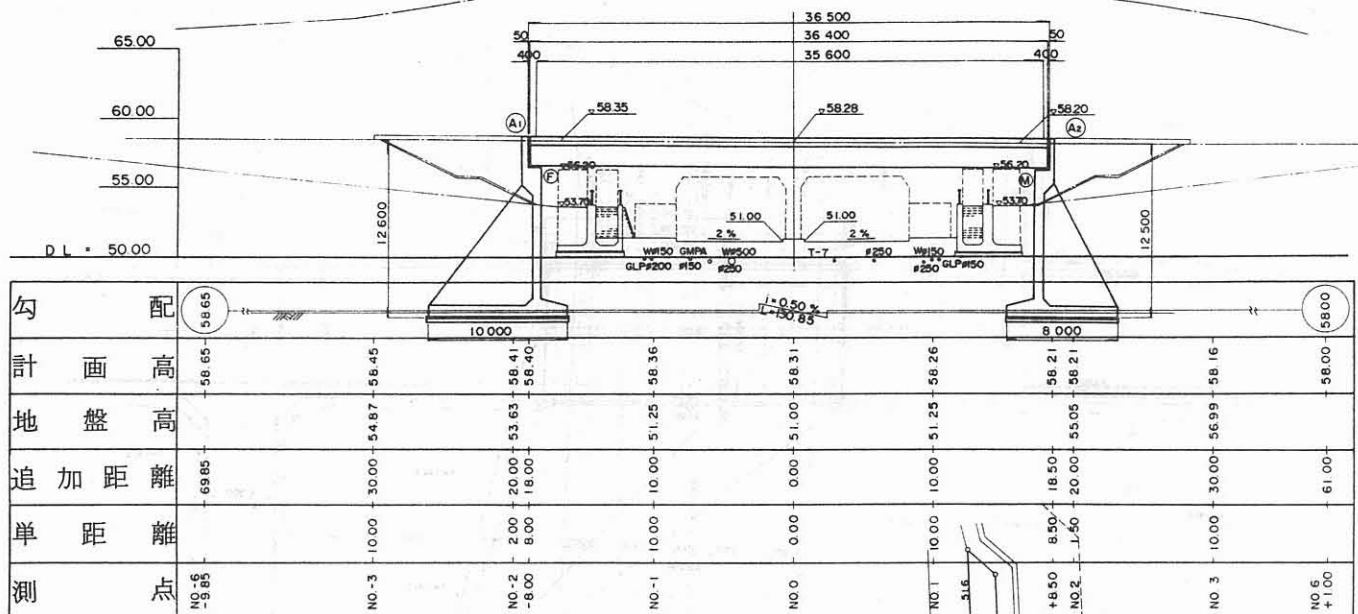


交差形態 ※ 緑道+道路/道路 (3・3・22)
 管理区分 b-1
 巾員 ※ 3.0m(緑道) 7.50m(道路)/22.0m
 橋梁タイプ フォーマル(緑道系・緑道結節点)
 (幹線道路系・ルート色)
 構造形式 PC単純ボックス桁
 橋長・巾員 36.5m・10.5m
 設計荷重 TL-20
 設計意図

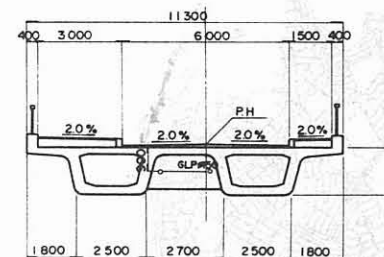
1. 緑道と街路が並行しており、前後の緑道と空間構成が著しく異なるので橋らしい橋とした。
 2. 斜路の桁下クリアに制限があるので、桁高を低くとれるボックス構造とした。
- ※ 歩道意図としては緑道であるが、橋梁部の行政上の取り扱いには歩専用用地である。



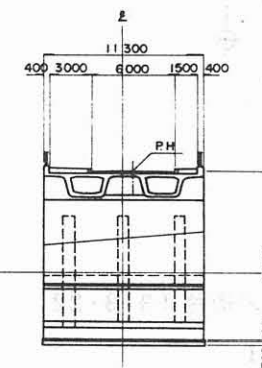
側面図縮尺 1:200



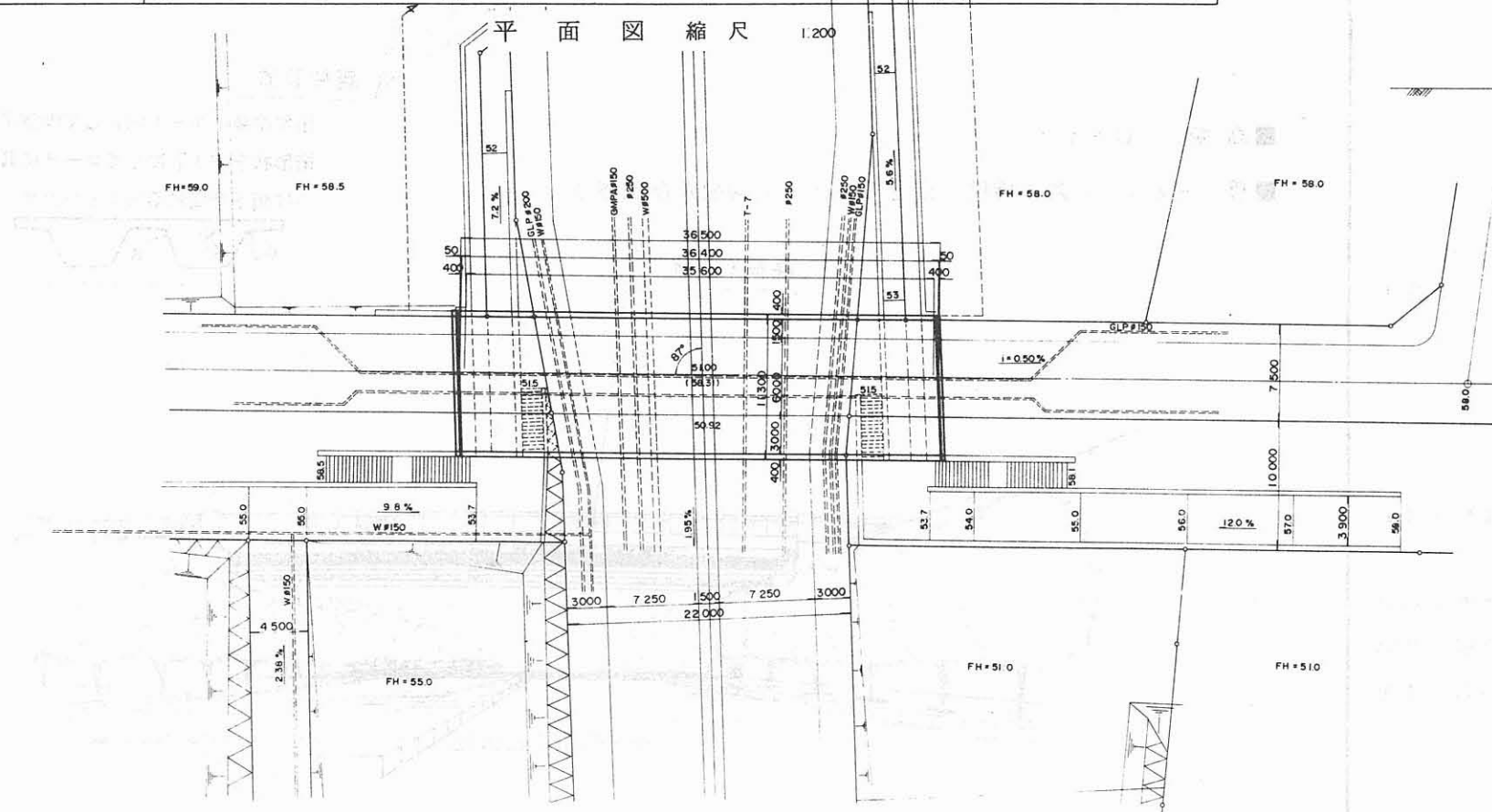
標準断面図縮尺 1:100



断面図縮尺 1:200



平面図縮尺 1:200



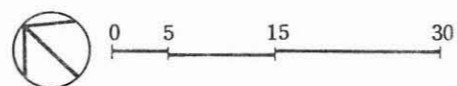
支 承	C-タイプ
伸縮装置	A, B-タイプ
踏掛板	無
計画添加物	GLPφ50

A-2

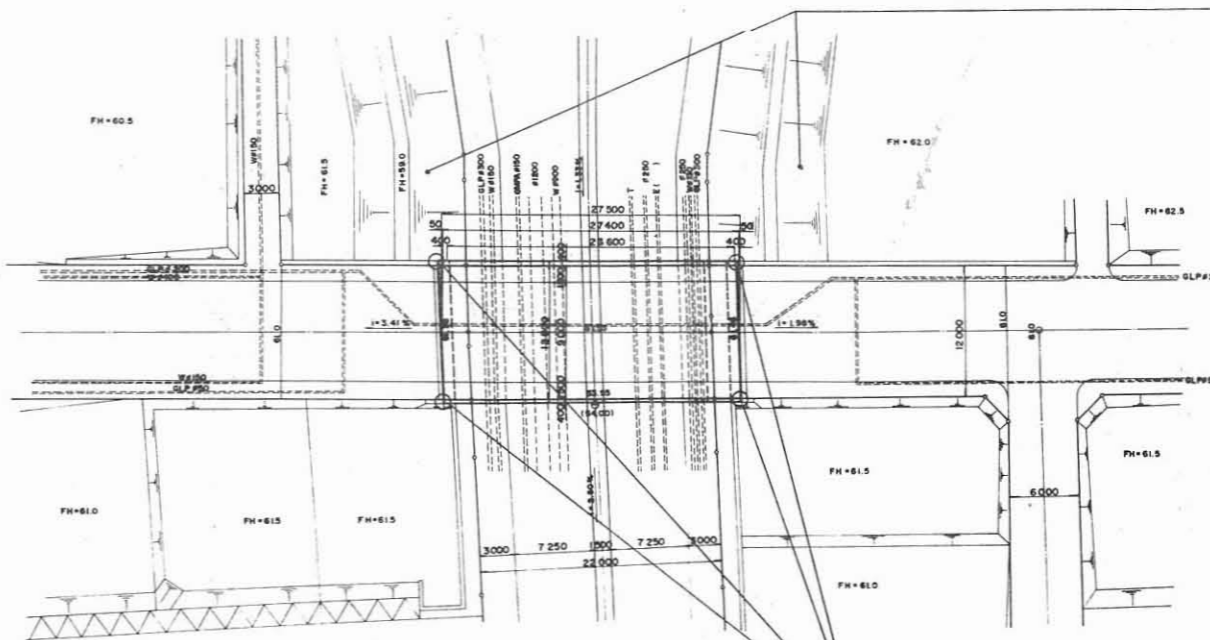


交差形態 道路/道路 (3・3・22)
 管理区分 b-1
 巾員 12.0m / 22.0m
 橋梁タイプ インターミディエート
 (幹線道路系・ルート色)
 構造形式 PC単純ボックス桁
 橋長・巾員 27.50m ・ 12.0m
 設計荷重 TL-20
 設計意図

1. C-11と近接しており、桁型式はC-11と同型式とした。
2. インターミディエートタイプではあるがセンター地区内の橋でありC-11と近接しているので、仕上げ等についてはセンターらしさを考慮する。



暫定法面であり建築時には変更される可能性あり

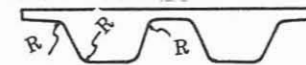


親柱設置

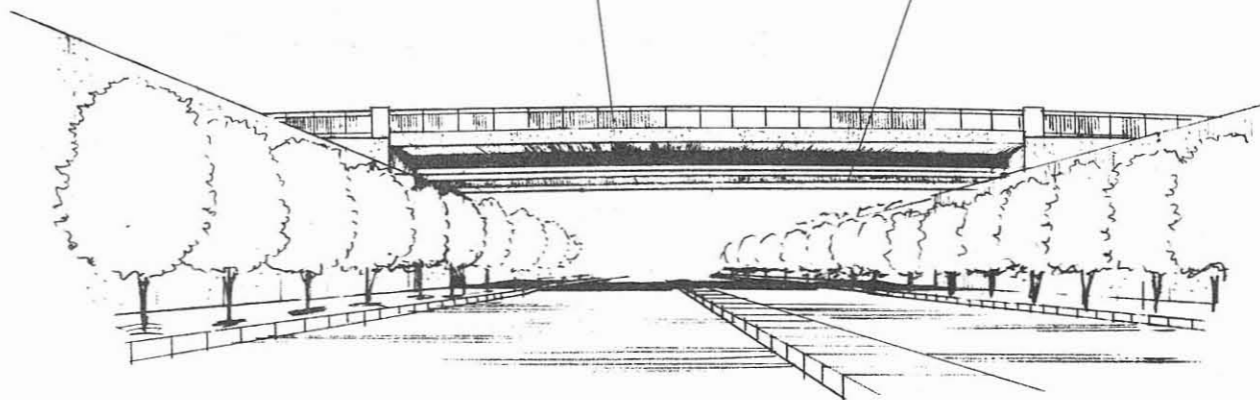
■高欄 - Cタイプ

■橋台まわり - 隣の擁壁と面をそろえる (勾配及び位置)

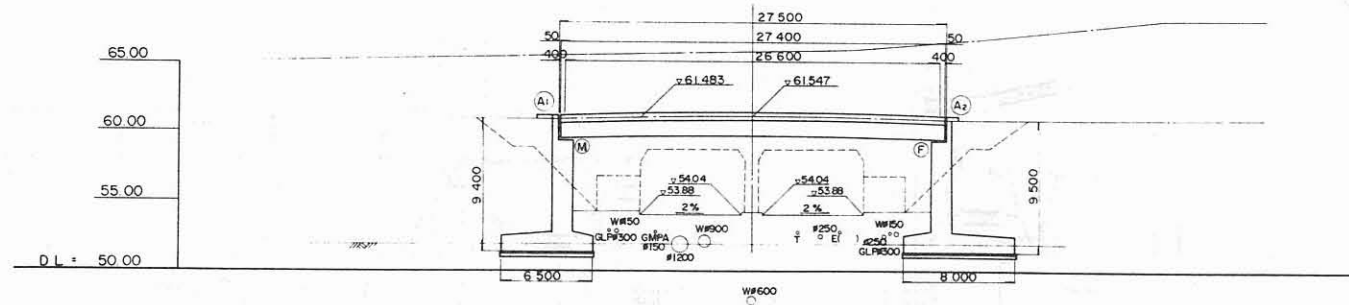
桁に塗装 (ルート色として赤茶系)
 桁形状をバチ形にしてコーナーにRを
 つけ桁下空間に柔らかみをだす



高欄Cタイプ

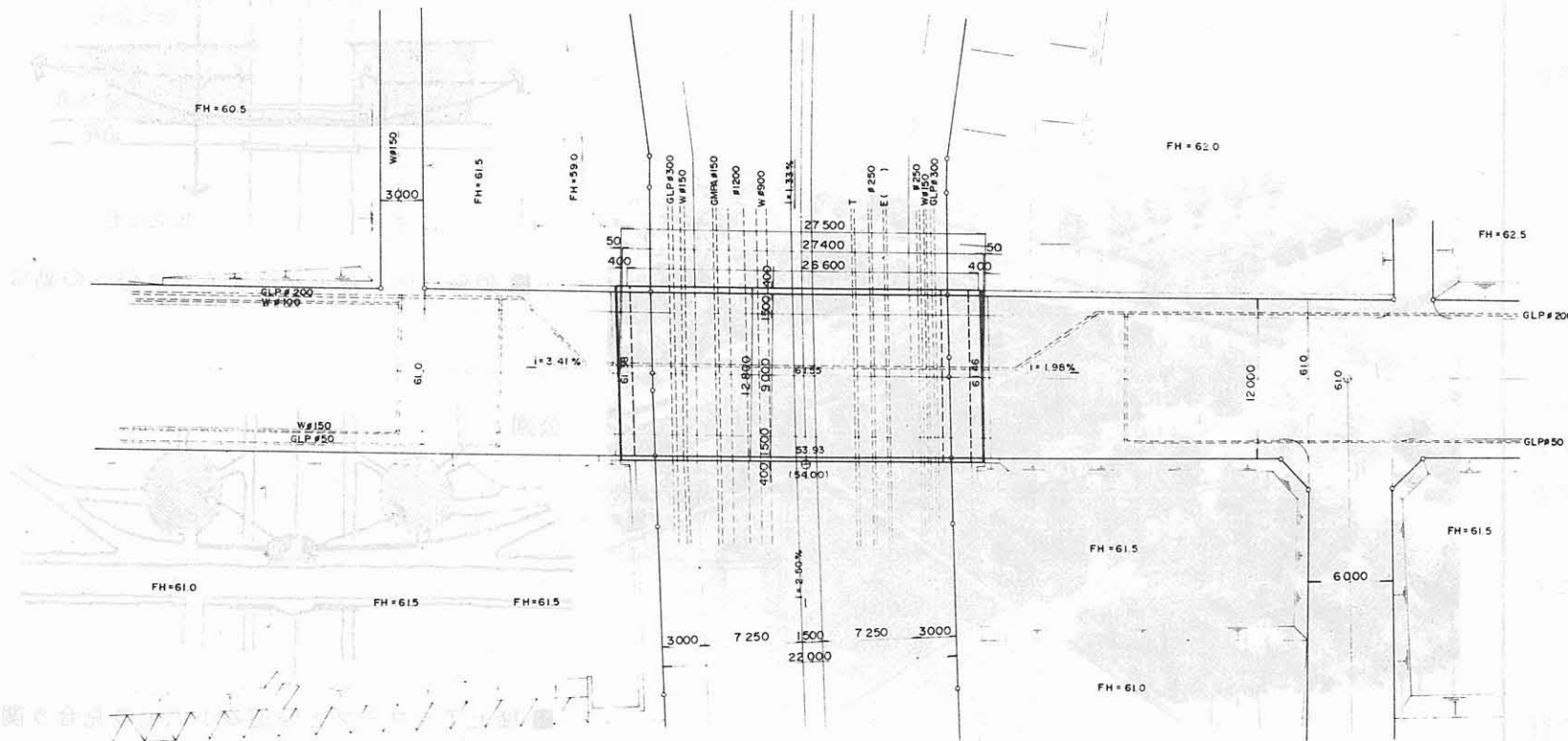


側面図縮尺 1:200

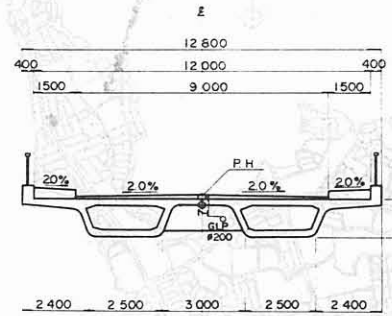


勾配		1:3.41%	1:23.416	V.C.L. 40.00m	1:1.98%	2:37.011	
計画高	61.000	61.118	61.226	61.384	61.454	61.505	61.000
地盤高	61.000	61.118	61.226	61.384	61.454	61.505	61.000
追加距離		26.816	20.000	13.750	10.000	10.000	37.011
単距離	3.416	3.400	6.250	3.750	6.600	3.750	7.011
測点	-6.816	-3.400	NO.2	-3.750	NO.1	NO.0	47.011

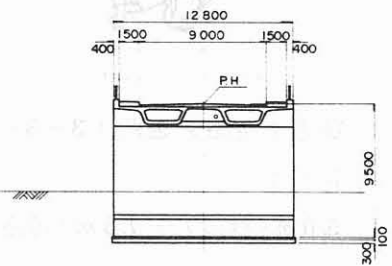
平面図縮尺 1:200



標準断面図縮尺 1:100

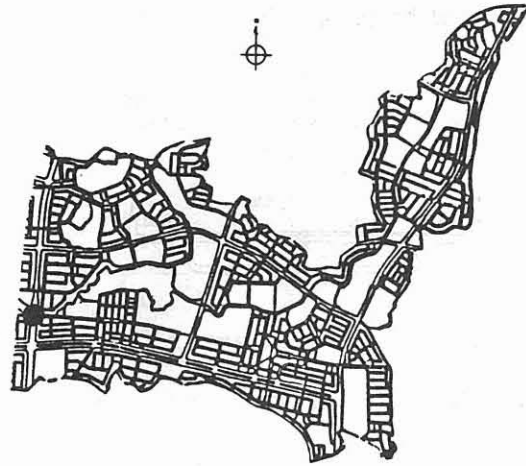


断面図縮尺 1:200



支 承	C-タイプ
伸縮装置	A, B-タイプ
踏掛板	無
計画添加物	GLP φ 200

A-4



交差形態 ※ 緑道+道路/道路 (3-3-39)
 管理区分 b-1
 巾員 5.0m (緑道) + 7.5m (道路) / 35.0

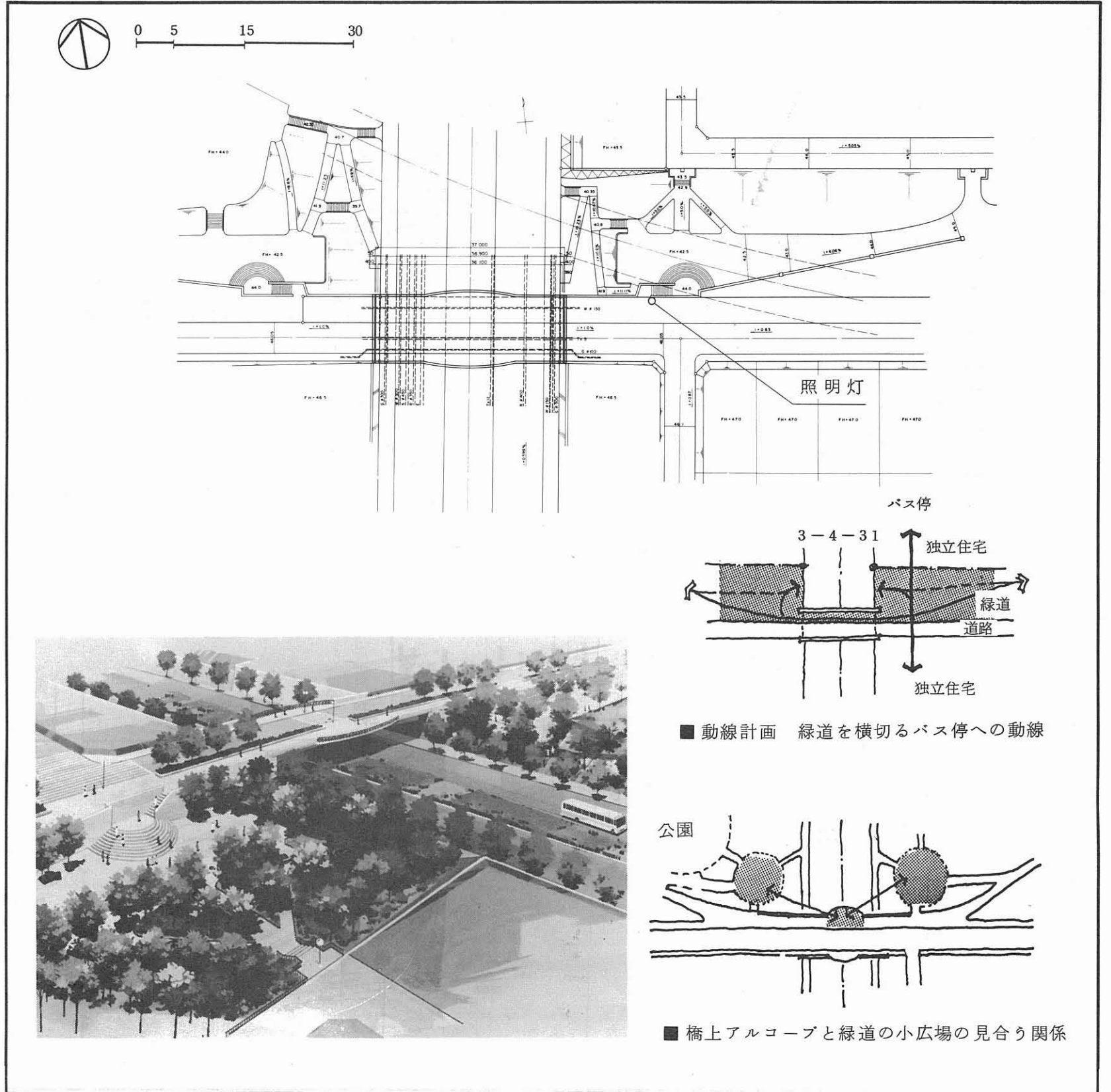
橋梁タイプ フォーマル (緑道結節点)
 (幹線道路系)

構造形式 PC単純T桁
 橋長・巾員 37.0m · 12.0m
 設計荷重 TL-20

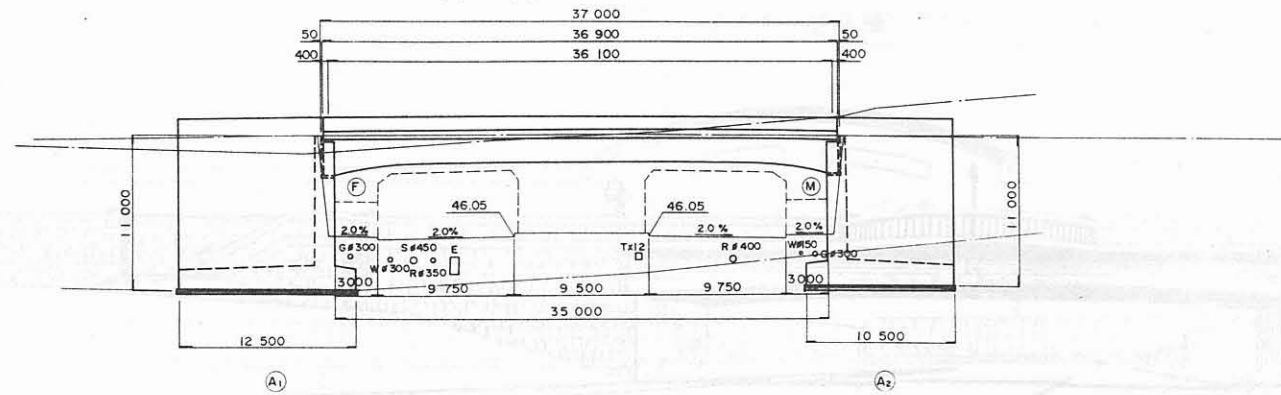
設計意図

1. 橋梁両側の緑道の分節を形成する橋であり、緑道としての空間イメージを橋梁部で分断することのないようにエレメントのデザインに配慮する。
2. タウンセンターへの眺望を考慮し、橋上にアルコーブを設ける。
3. 地区進入へのゲートとなる。

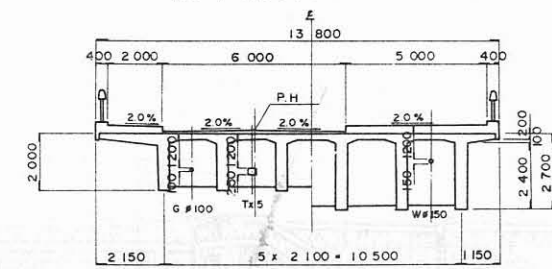
※ 計画意図としては緑道であるが、橋梁部の行政上の取扱いは歩専用用地である。



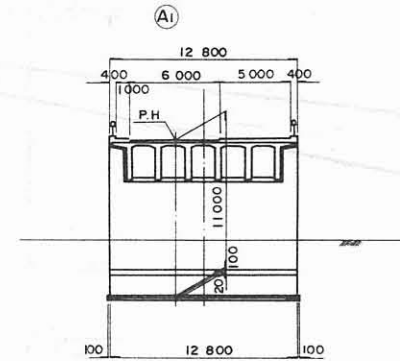
側面図縮尺 1:200



標準断面図縮尺 1:100



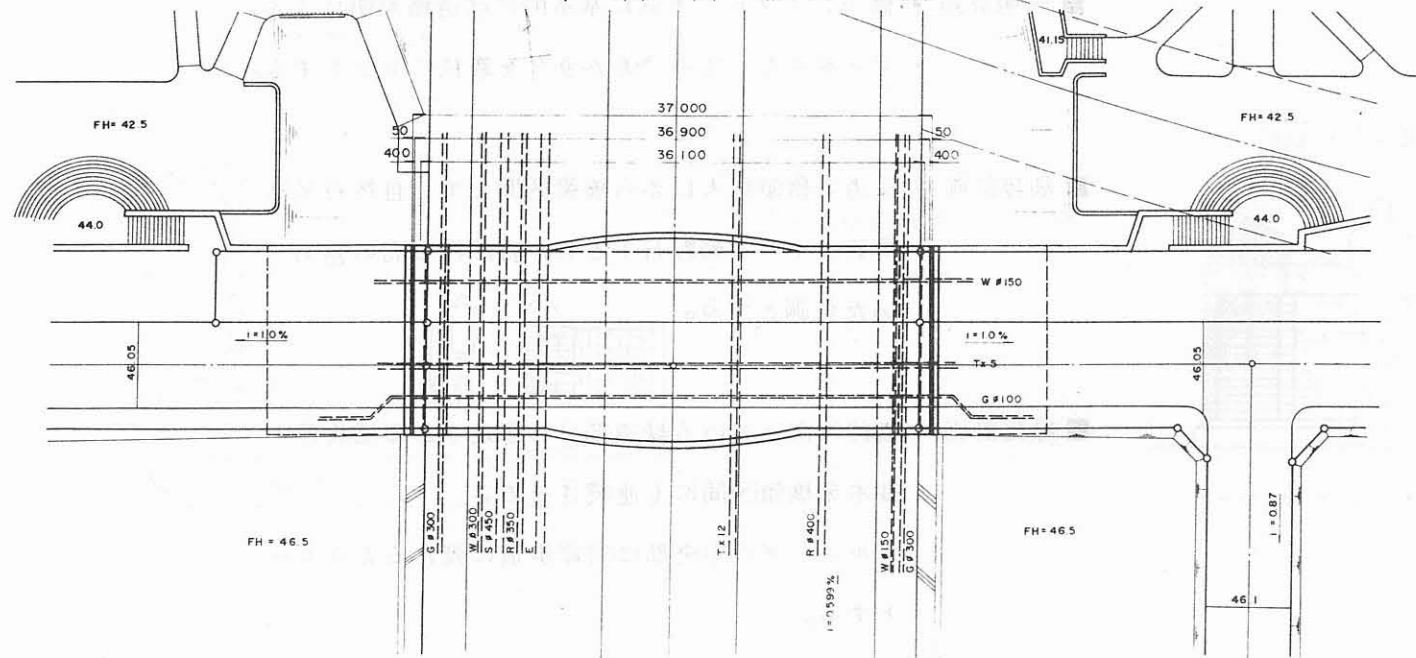
断面図縮尺 1:200



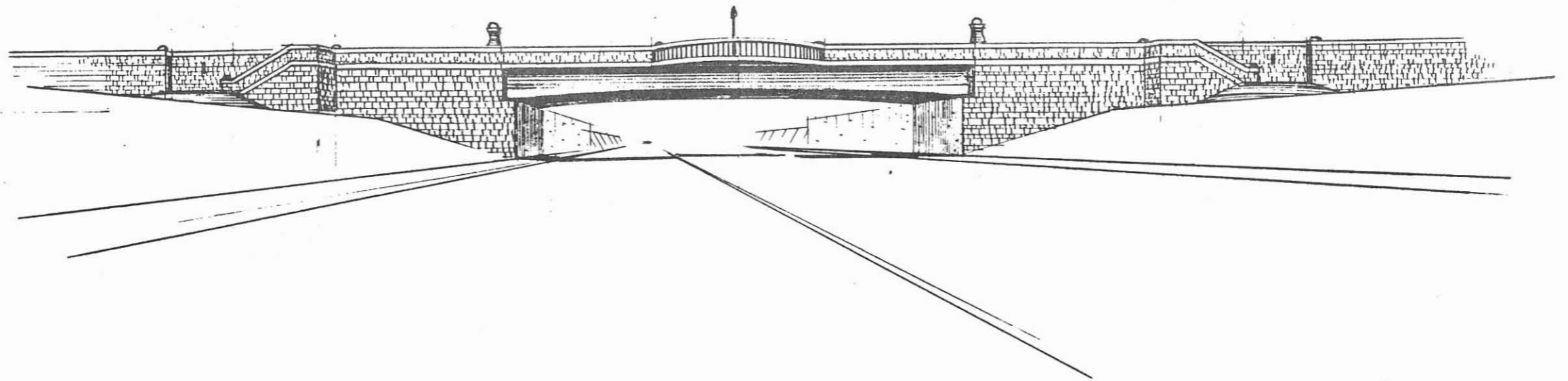
D.L. = 20.000

勾配	46.050	46.230	46.430	46.230	46.050
計画高	46.050	46.230	46.338	46.245	46.050
地盤高					
追加距離	38.000	20.000	0.000	18.500	38.000
単距離	0.000	18.000	18.500	18.500	18.000
測点	-18.000	-18.500	-18.500	-18.500	-18.000

平面図縮尺 1:200



支 承	A-タイプ
伸縮装置	A, B-タイプ
踏掛板	無
計画添加物	Gφ500, T×5, Wφ150



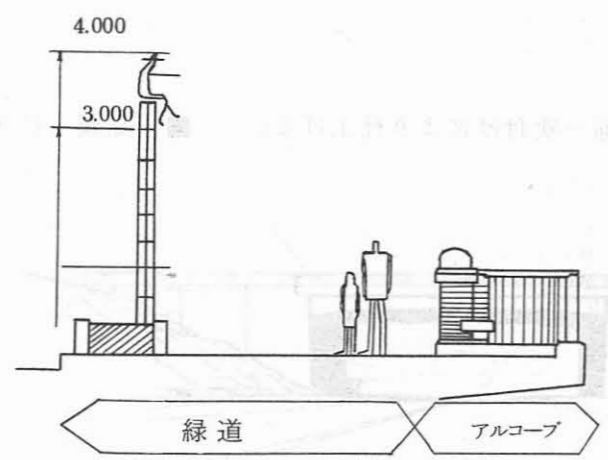
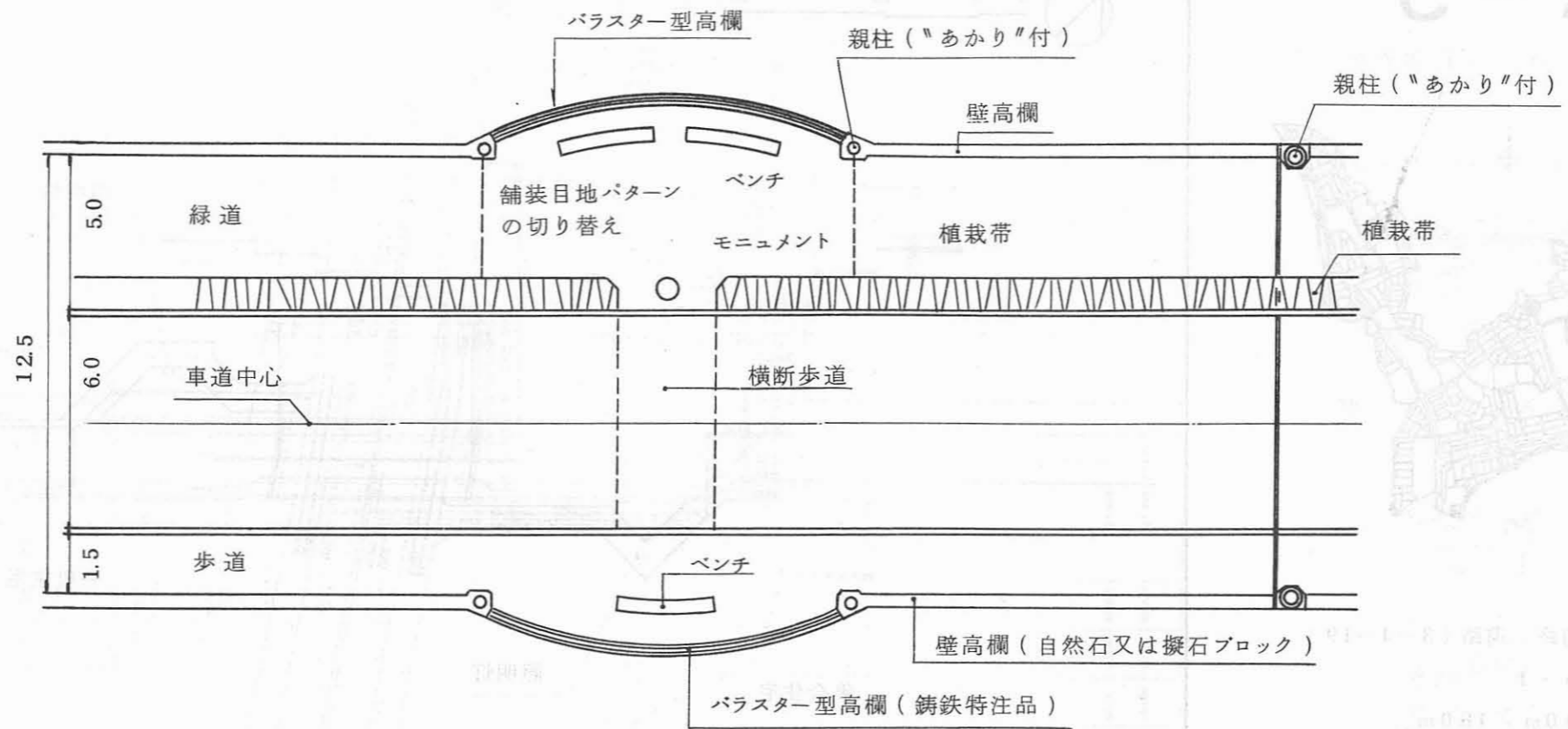
■ 仕上げ仕様 グレード設定 = H

橋台ウイング	自然石又は擬石貼り 橋台前面は R C 打放し
桁, 側下面	エポキシ系塗装
壁高欄 アプローチ手摺壁	自然石又は擬石貼り
アルコーブ高欄	鋳鉄特注品 縦型バラスト
舗装	自然石又は擬石タイル

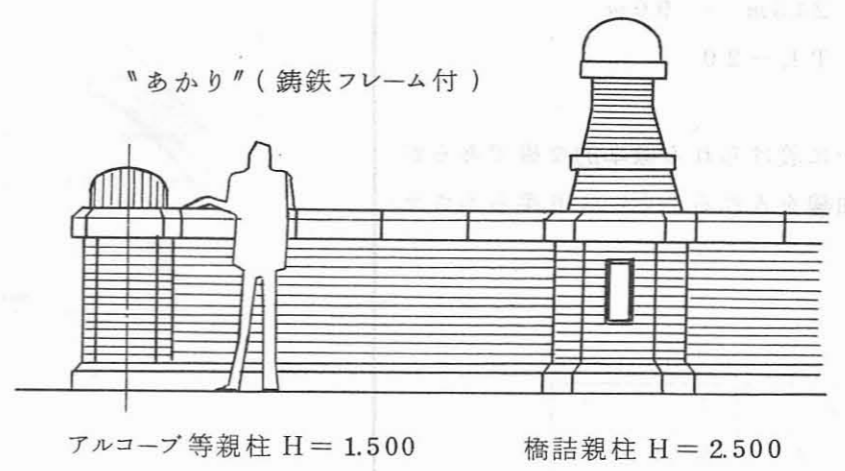
- 照明計画
- 橋上, アプローチ共に基本的には道路照明による。
 - シンボルとしての "あかり" を親柱にセットする。

- 舗装計画
- 緑道の橋領域入口から橋梁区間まで, 自然石又は擬石タイル (御影石) とし, 自然性の高い落ちついた色調とする。

- 緑化計画
- 道路に沿っている緑道部分に想定される植栽帯・並木を橋領域間にも連続させる。
 - アルコーブの中央部は対岸歩道に渡れるようカットする。



■ 植栽帯については、巾、高さ及び水抜きなどの構造について充分な検討を行うこと。



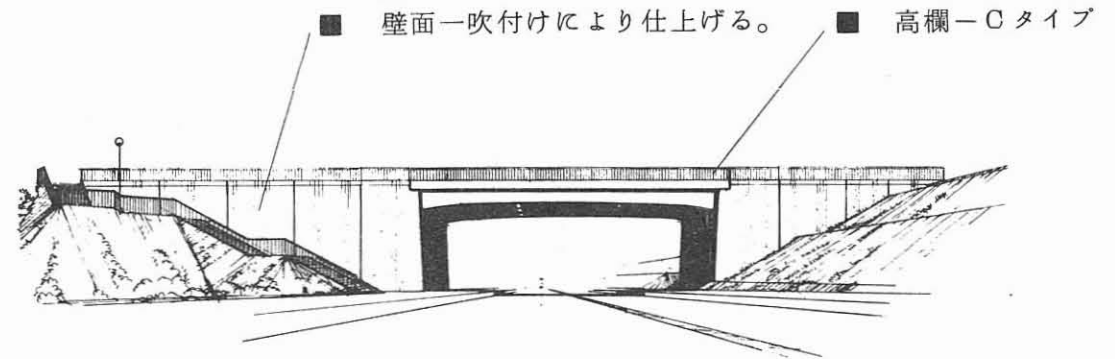
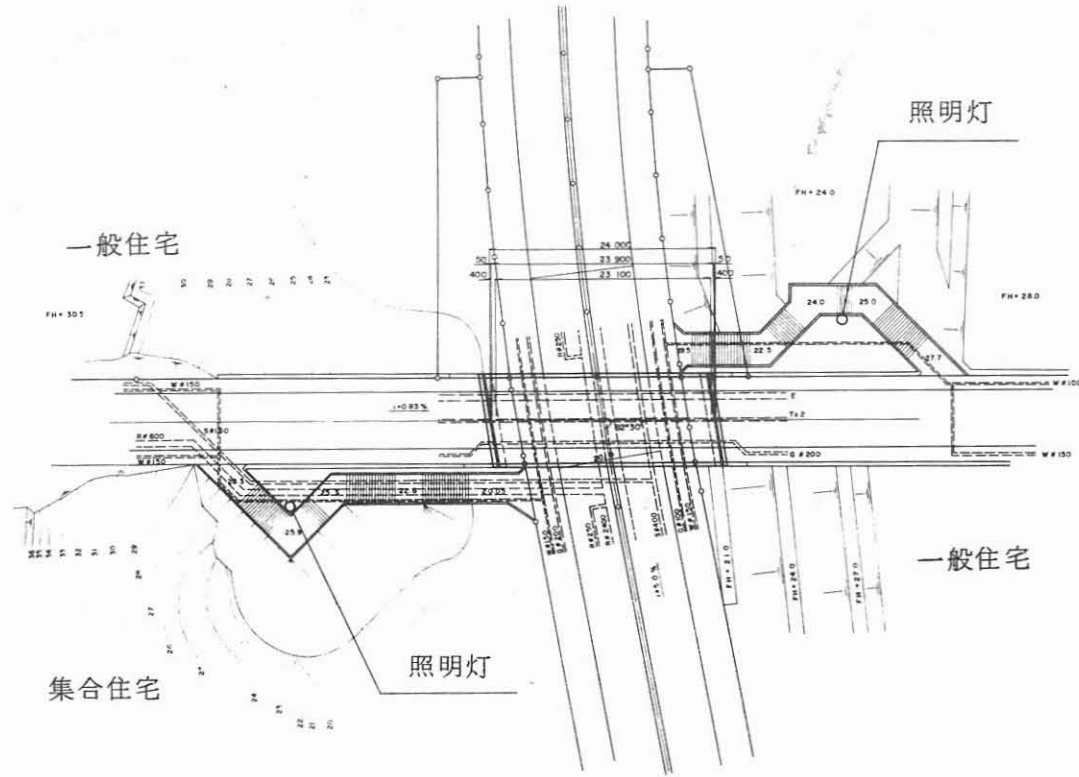
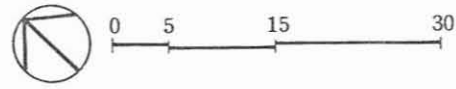
"あかり"
(乳白グローブ)

A-5

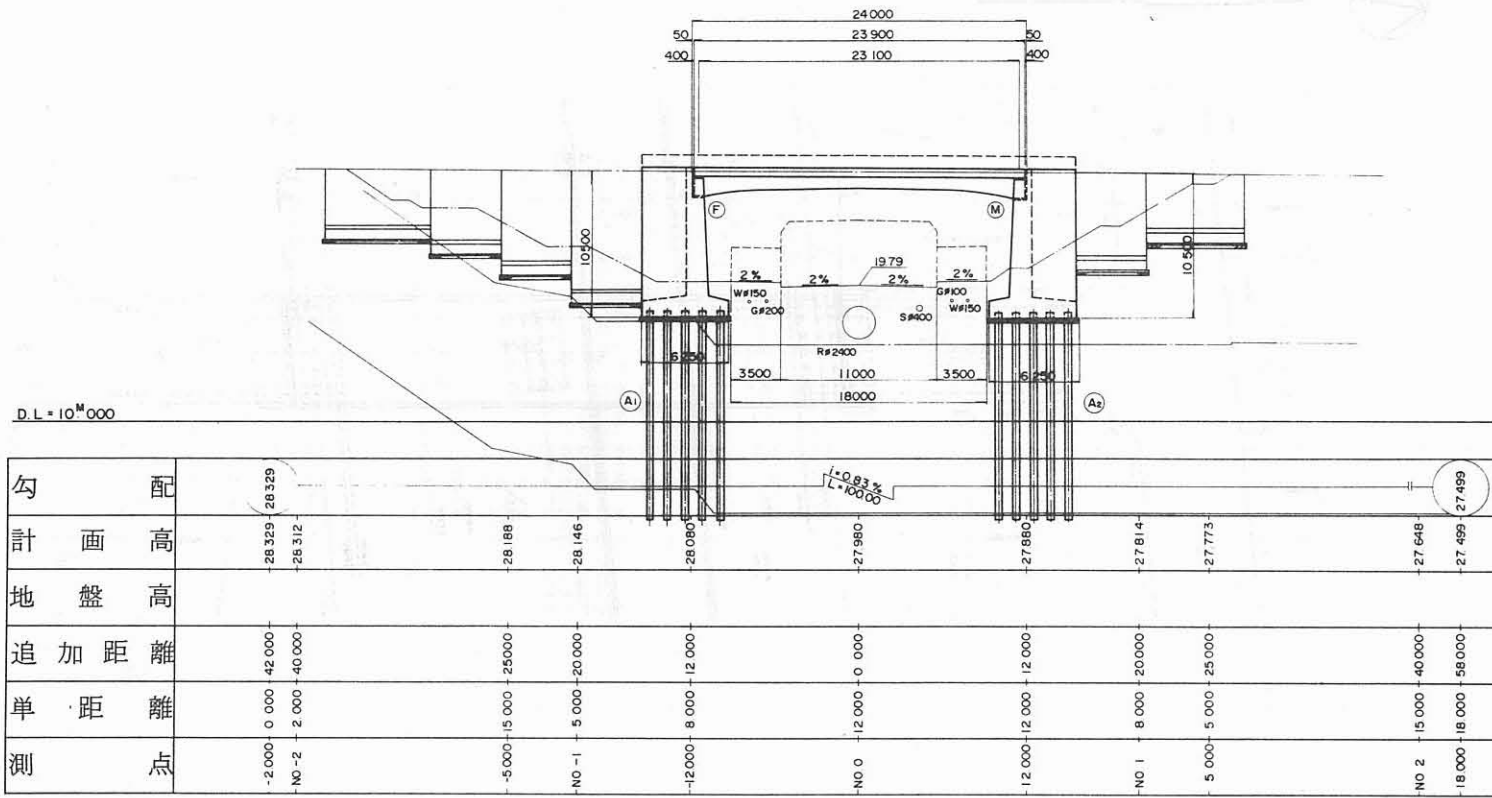


交差形態 道路/道路(3-4-19)
 管理区分 b-1
 巾員 9.0m / 18.0m
 橋梁タイプ インターミディエート(幹線系)
 構造形式 PC単純T桁
 橋長・巾員 24.5m · 9.0m
 設計荷重 TL-20
 設計意図

1. 幹線道路上に設けられる標準的な橋であるが主桁端部に曲線を入れることにより柔らかさを出す。

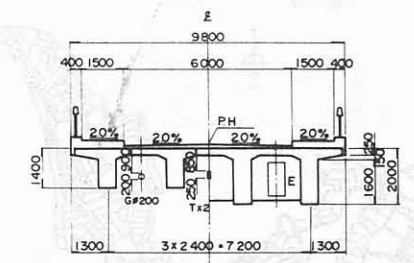


側面図縮尺 1:200

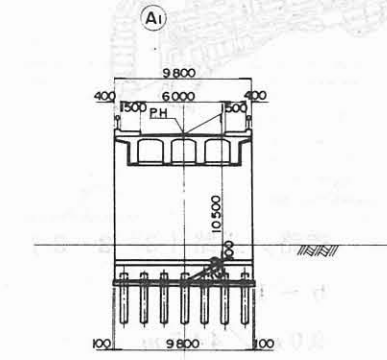


勾配											
計画高	-28 329	-28 312									-27 499
地盤高											
追加距離	42 000	40 000		25 000	20 000	12 000	0 000	12 000	20 000	25 000	40 000
単距離	0 000	2 000		5 000	8 000	12 000	12 000	12 000	8 000	5 000	15 000
測点	-2 000	NO-2		-5 000	NO-1	-12 000	NO 0	-12 000	NO 1	5 000	NO 2

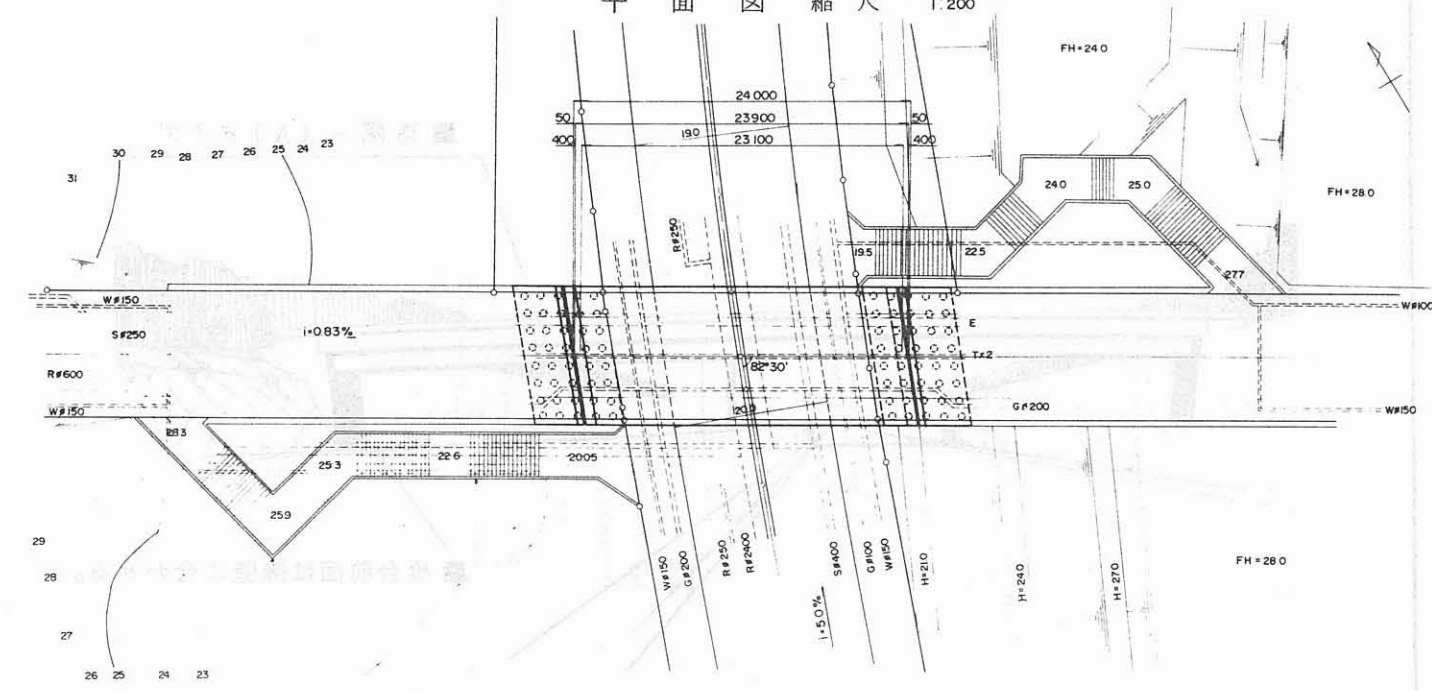
標準断面図縮尺 1:100



断面図縮尺 1:200

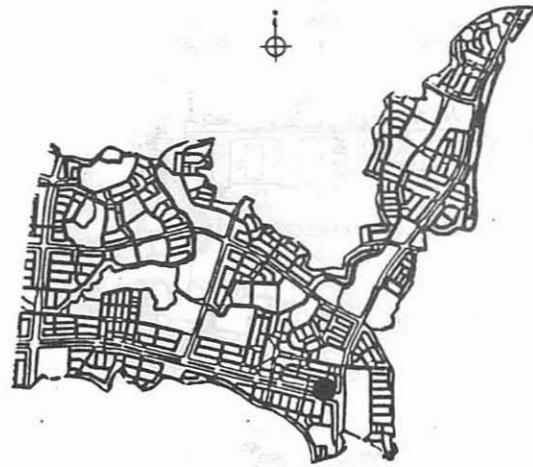


平面図縮尺 1:200



支 承	A-タイプ
伸縮装置	A, B-タイプ
踏掛板	無
計画添加物	Gφ200, T×2, E

A-6

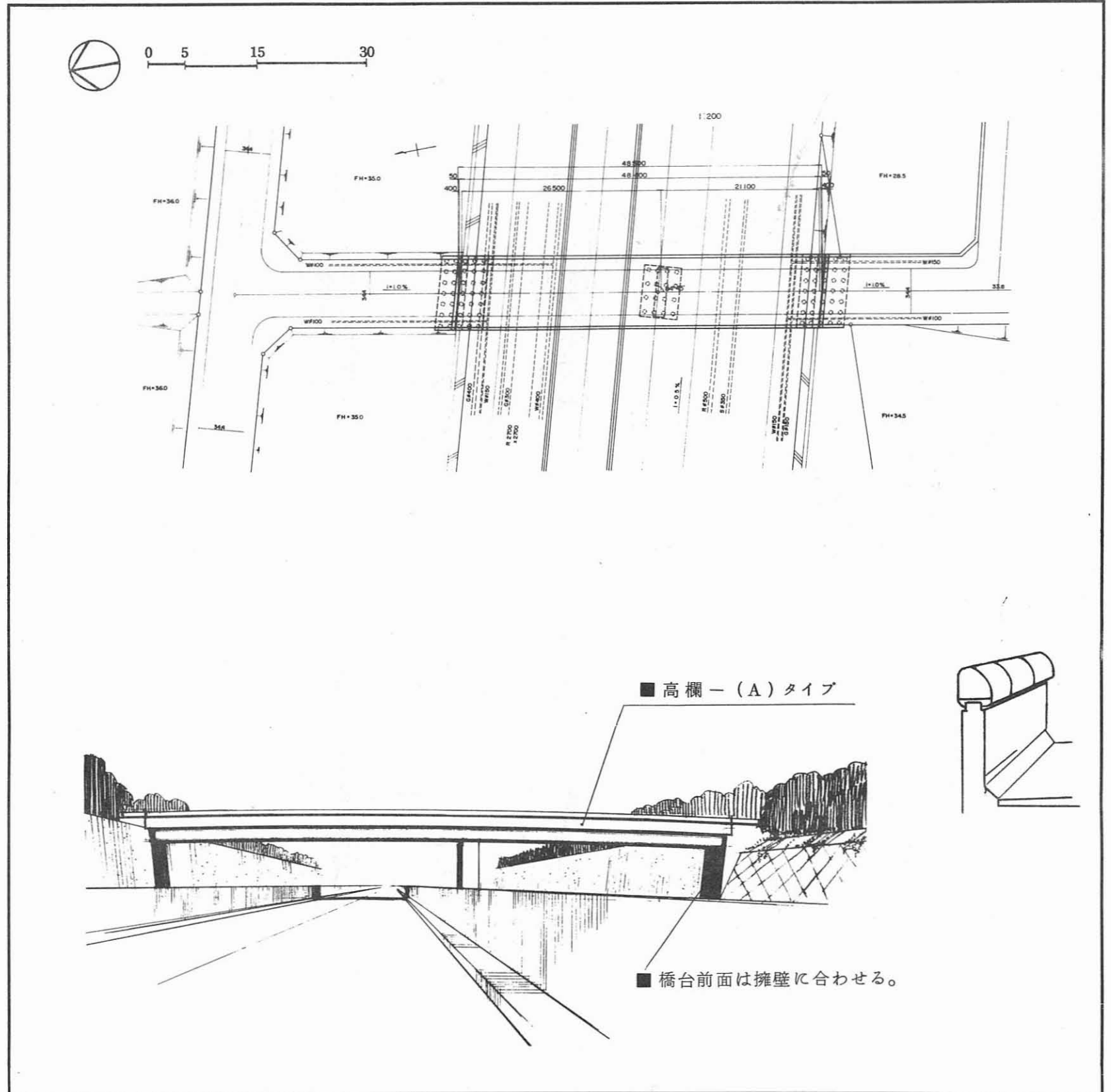


交差形態 道路／道路 (3-2-3)
 管理区分 b-1
 巾員 9.0m / 44.5m
 橋梁タイプ インターミディエート
 (幹線系・ルート色)

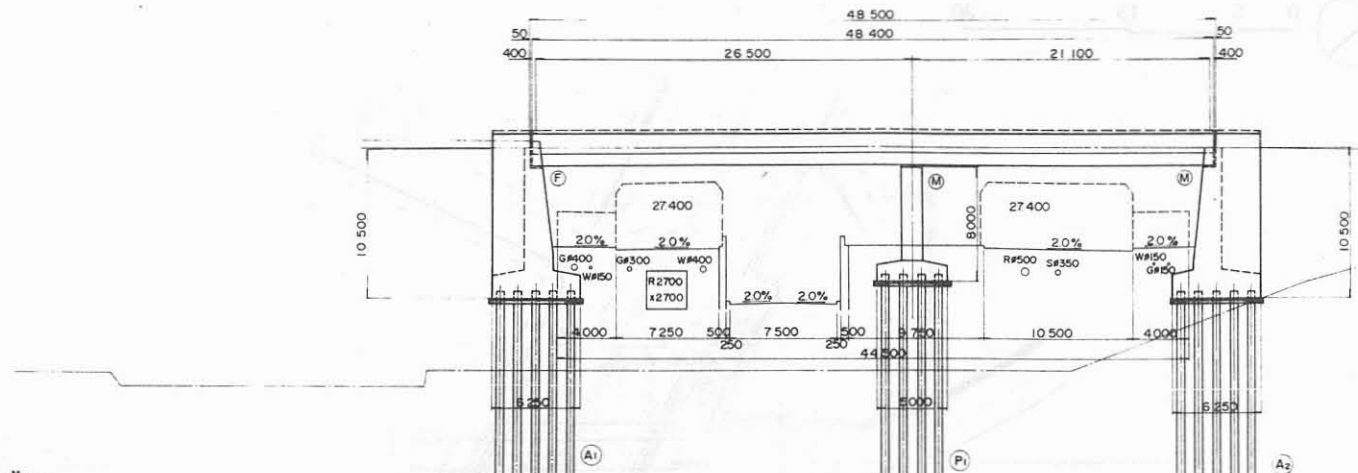
構造形式 PC 2径間連続中空床版
 橋長・巾員 48.5m・9.0m
 設計荷重 TL-20

設計意図

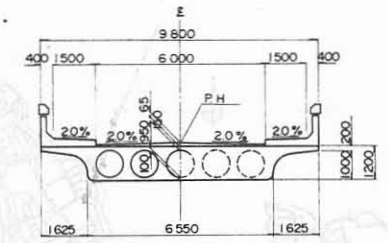
1. 幹線道路上に設けられる橋梁であるが、同一ルート上にある他の橋と統一したイメージとする。
2. 中央分離帯上に橋脚を設け2径間とする。



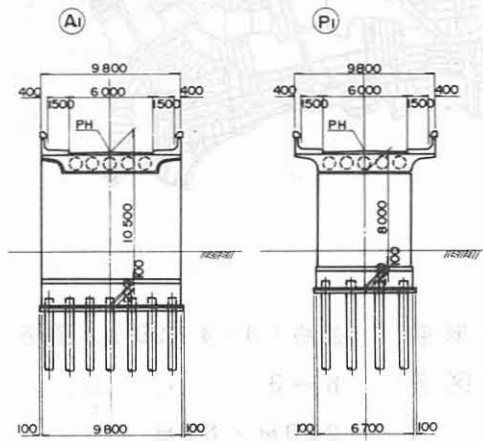
側面図縮尺 1/200



標準断面図縮尺 1/100



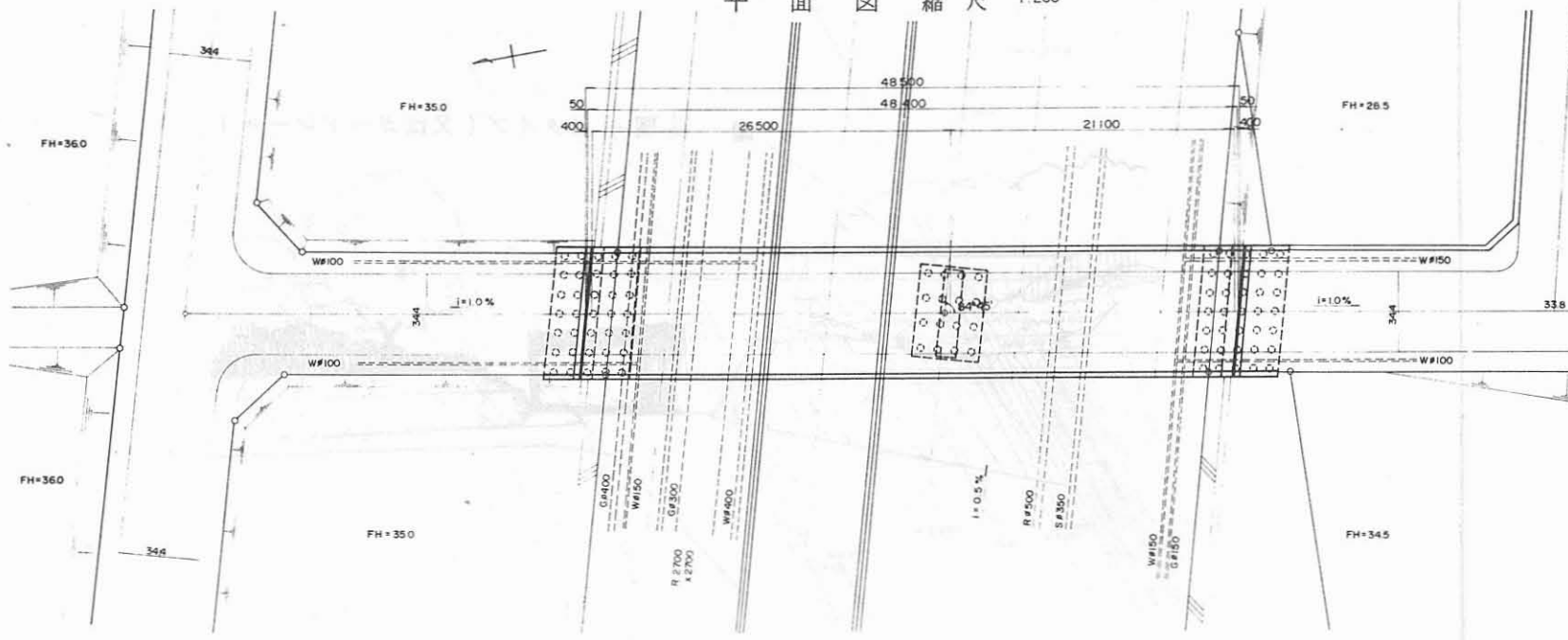
断面図縮尺 1/200



D.L. = 10'000

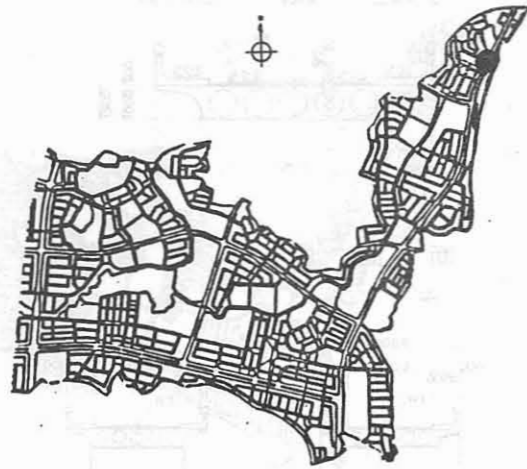
勾配	1:10% L=36,000					
計画高	34,400	34,518	34,574	34,639	34,760	34,826
地盤高						
追加距離	38,250	26,500	20,000	2,250	20,000	33,750
単距離	0,000	11,750	6,800	17,750	2,250	11,750
測点	-18,250	-6,500	NO.1	-2,250	NO.0	2,000

平面図縮尺 1/200



支 承	A-タイプ
伸縮装置	A, B-タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無

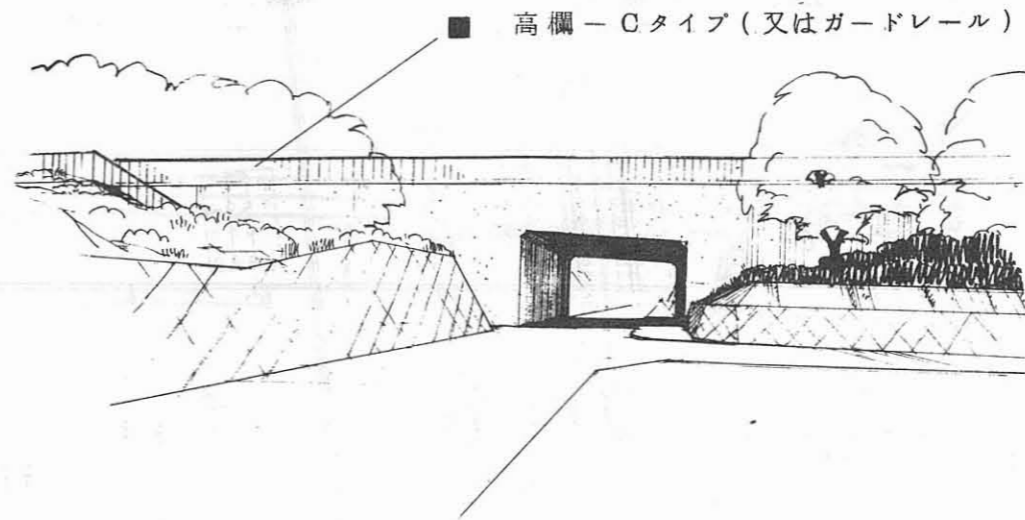
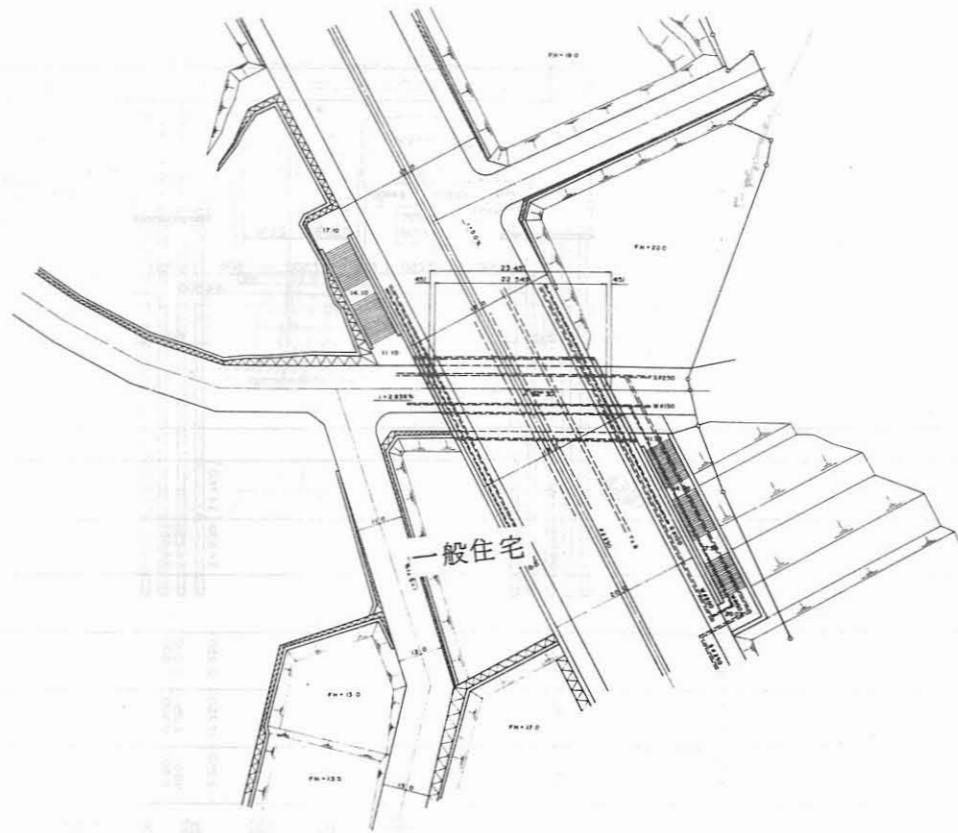
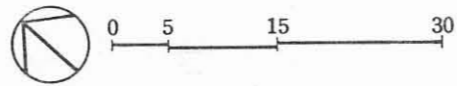
A-7



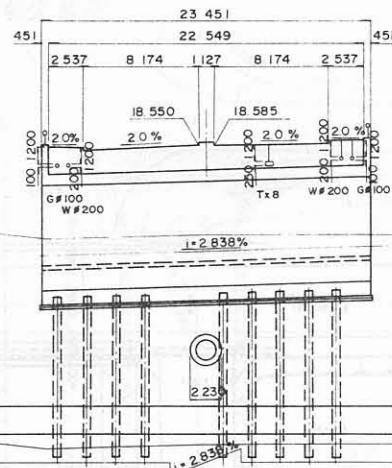
交差形態 道路(3-4-29)/道路
 管理区分 b-3
 巾員 20.0m / 8.5m
 橋梁タイプ インターミディエート
 (幹線系・ルート色)
 構造形式 カルバートボックス
 橋長・巾員 23.2m・8.5m
 設計荷重 TL-20
 設計意図

1. 標準的なカルバートボックスである。

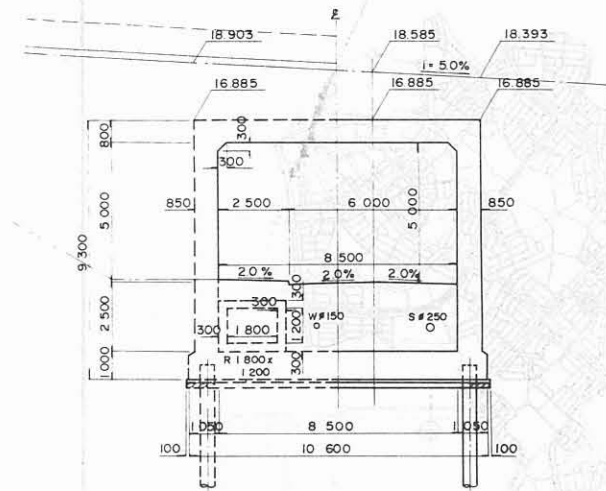
設計者	設計事務所
監理者	建設局
施工者	建設局



側面図縮尺 1:200



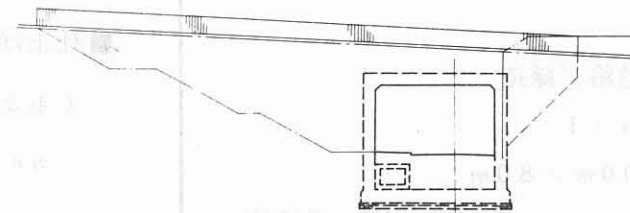
標準断面図縮尺 1:100



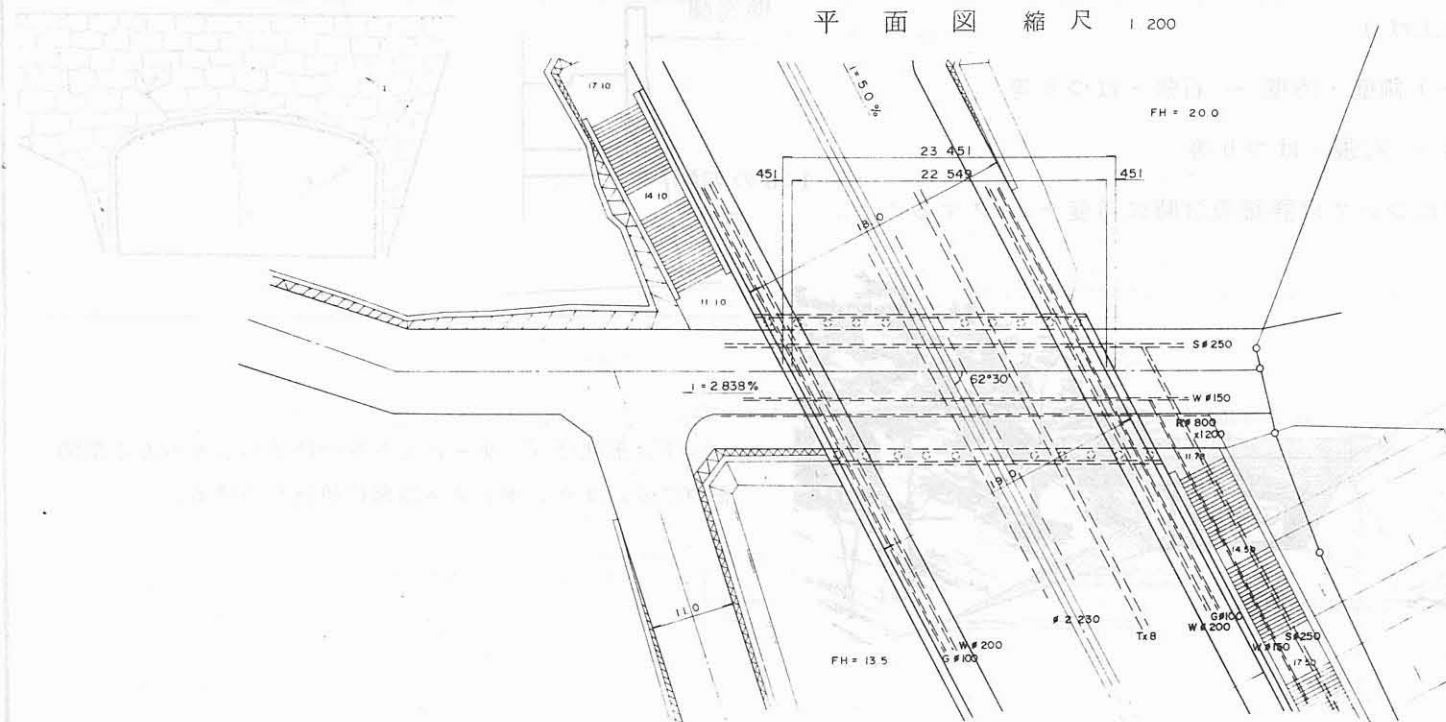
DL = 0^M000

勾配						
計画高	10 502 (10 502)	10 601	10 836	11 169	11 502	11 737 (11 808)
地盤高						
追加距離		0 000-23 500	8 250-11 750	0 000	11 750-11 750	8 250-20 000
単距離		3 500-20 000	8 250-11 750	11 750	11 750-11 750	2 500-22 500
測点	-3 500	NO -1	-11 750	NO 0	-11 750	NO 1 2 500

断面図縮尺 1:200



平面図縮尺 1:200



支 承	—
伸縮装置	—
踏掛板	有
計画添加物	R1800×1200, Wφ150, Sφ250

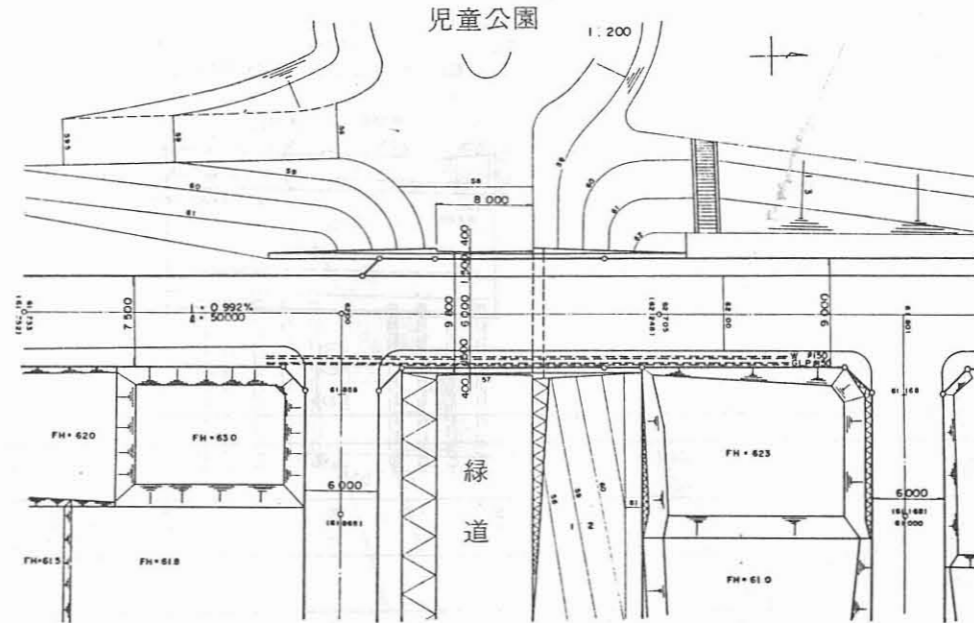
B-1



交差形態	道路/緑道
管理区分	b-1
巾員	9.0m / 8.0m
橋梁タイプ	インフォーマル (緑道系・近景域)
構造形式	ボックスカルバート
橋長・巾員	8.0m・9.0m
設計荷重	TL-20

設計意図

1. 緑道支線にあり、児童公園に近接している近景域の橋であり、緑道とのスムーズなつながりを持たした。
2. ボックスクラウン部のかぶりが少ないので、地下埋設物の設置等を考慮して頂版をボックス内縦断勾配に合わせた。



■ 高欄 - 壁高欄

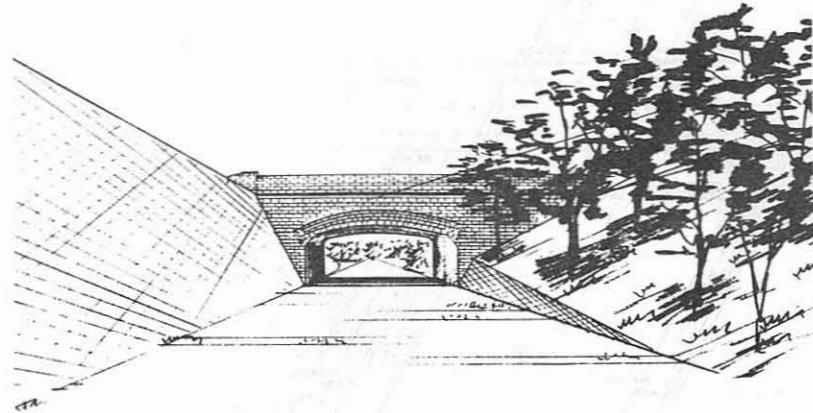
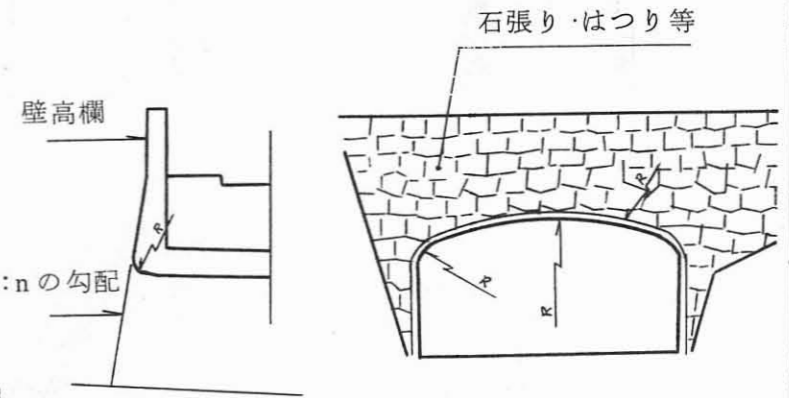
■ 仕上げ工 - H (緑道を視点に考えて)

(主な仕上げ)

カルバート側壁・内壁 - 石張・はつり等

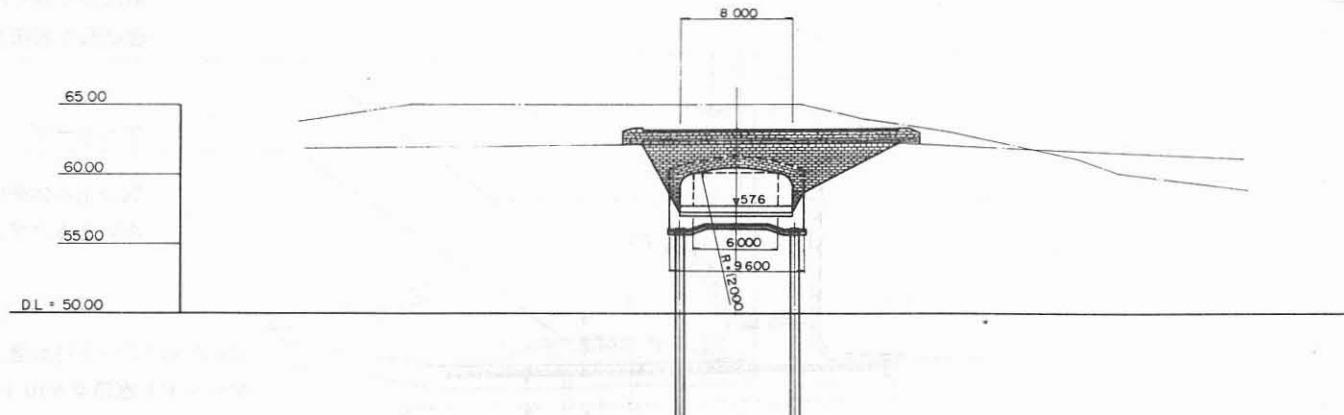
壁高欄 - 石張・はつり等

■ 建築限界については詳細設計時に再度チェックすること。



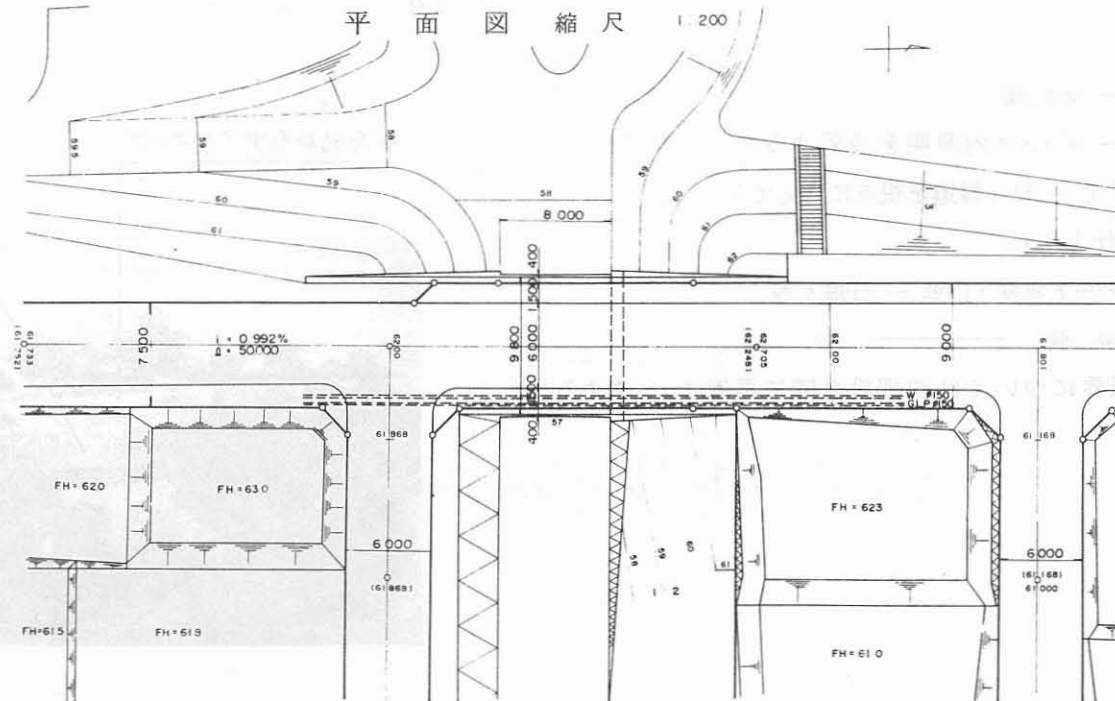
ボックス形状はコーナーに丸みをつけ柔らかみのある空間をつける。また、ボックス端部に傾斜をつける。

側面図縮尺 1:200

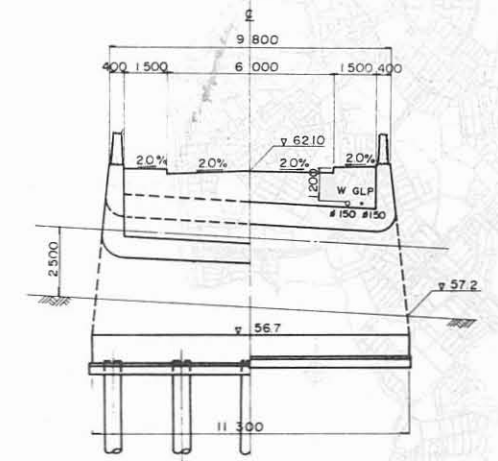


勾配	1:0.992%					1:4.738%				
計画高	61.929	62.028	62.127	62.226	62.325	61.878				
地盤高										
追加距離	20.00	10.00	0.00	10.00	2.20	20.00				
単距離	10.00	10.00	0.00	10.00	2.20	7.80				
測点	NO. 2	NO. 1	NO. 0	NO. 1	NO. 2	NO. 2				

平面図縮尺 1:200



標準断面図縮尺 1:100

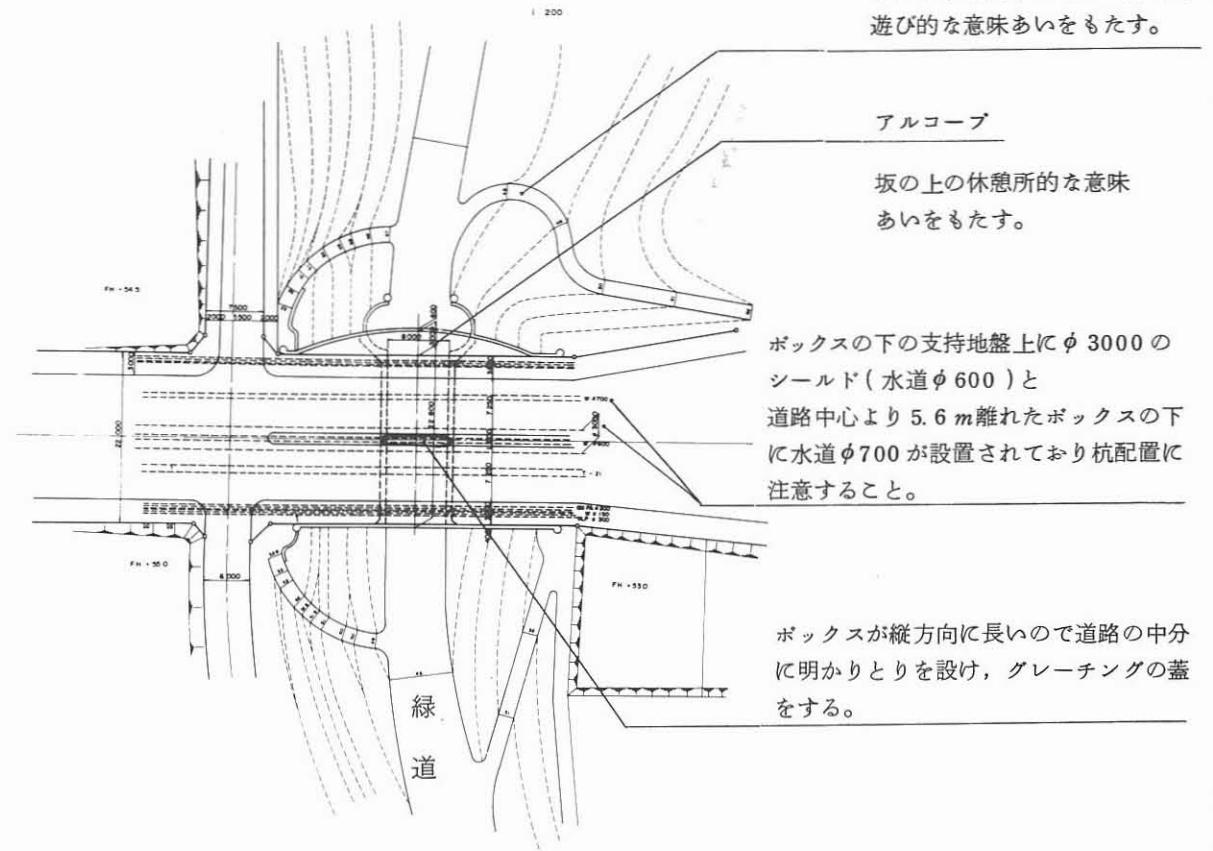


支 承	—
伸縮装置	—
踏掛板	無
計画添加物	Wφ150, GLPφ150

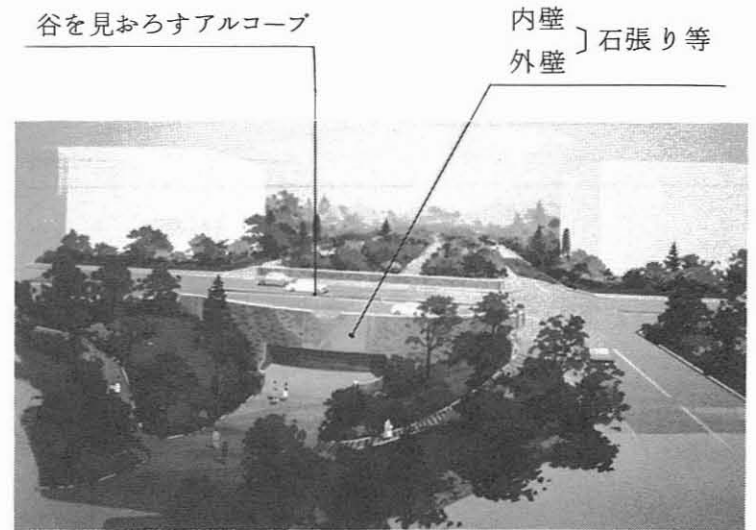
B-2



交差形態 道路(3-3-22) / 緑道
 管理区分 b-1
 巾員 22.0m / 8.0m
 橋梁タイプ フォーマル(緑道系・緑道結節点)
 構造形式 ボックスカルバート
 橋長・巾員 8.0m・22.0m
 設計荷重 TL-20
 設計意図
 1. 坂の頂点の位置にあるのでよく目立つ橋とした。



- 高欄 - 壁高欄
- 照明 - ボックス内照明を設置する。
- 仕上げ工 - H(緑道を視点に考えて)
(主な仕上げ)
カルバート側壁・内壁 - 石張り等
壁高欄 - " "
- 建築限界については詳細設計時に再度チェックすること。



つではなく
もたす。

意味

3000の

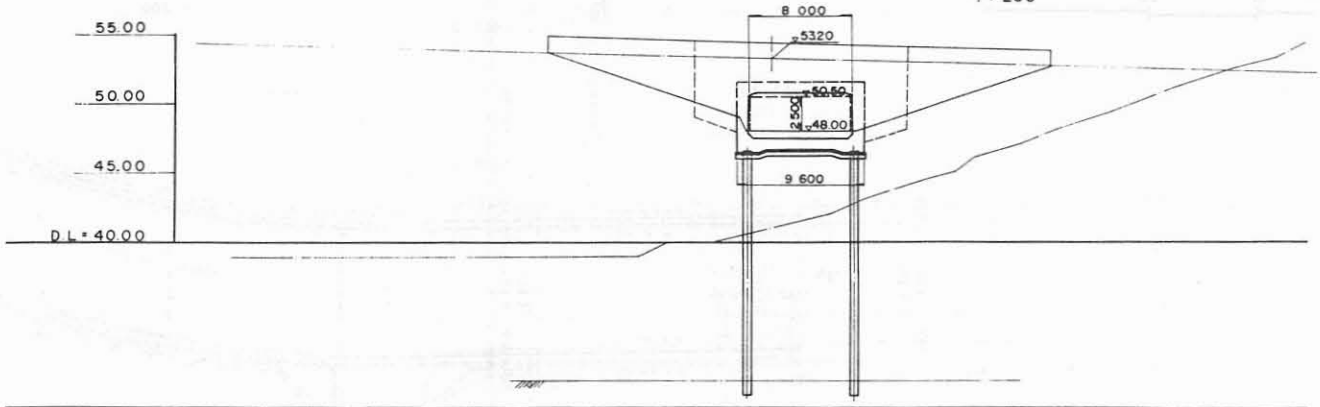
クスの下
杭配置に

道路の中分
チングの蓋

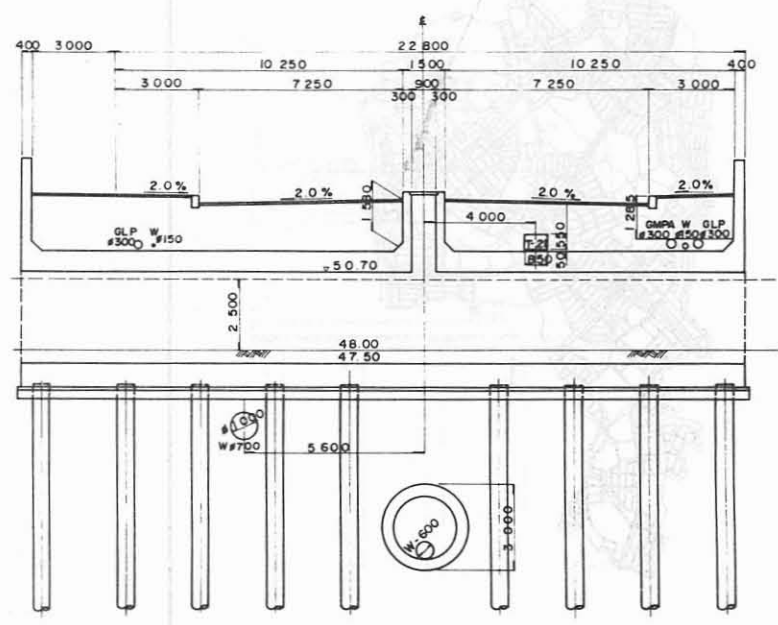
り等



側面図縮尺 1:200

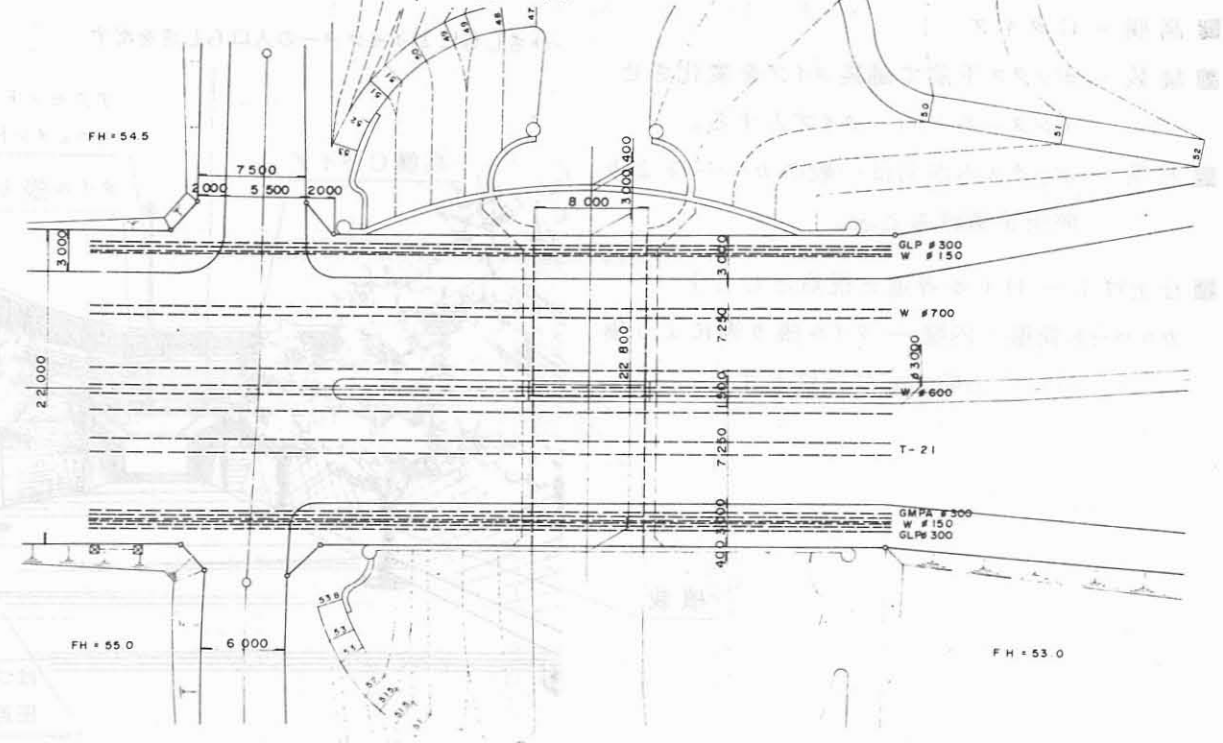


標準断面図縮尺 1:100



勾配	1:2.62%						
計画高	54.006	53.744	53.482	53.220	52.958	52.696	52.434
地盤高							
追加距離	30.00	20.00	10.00	0.00	10.00	20.00	30.00
単距離	10.00	4.50	10.00	0.00	10.00	4.50	10.00
測点	NO.3	NO.2	NO.1	NO.0	NO.1	NO.2	NO.3

平面図縮尺 1:200



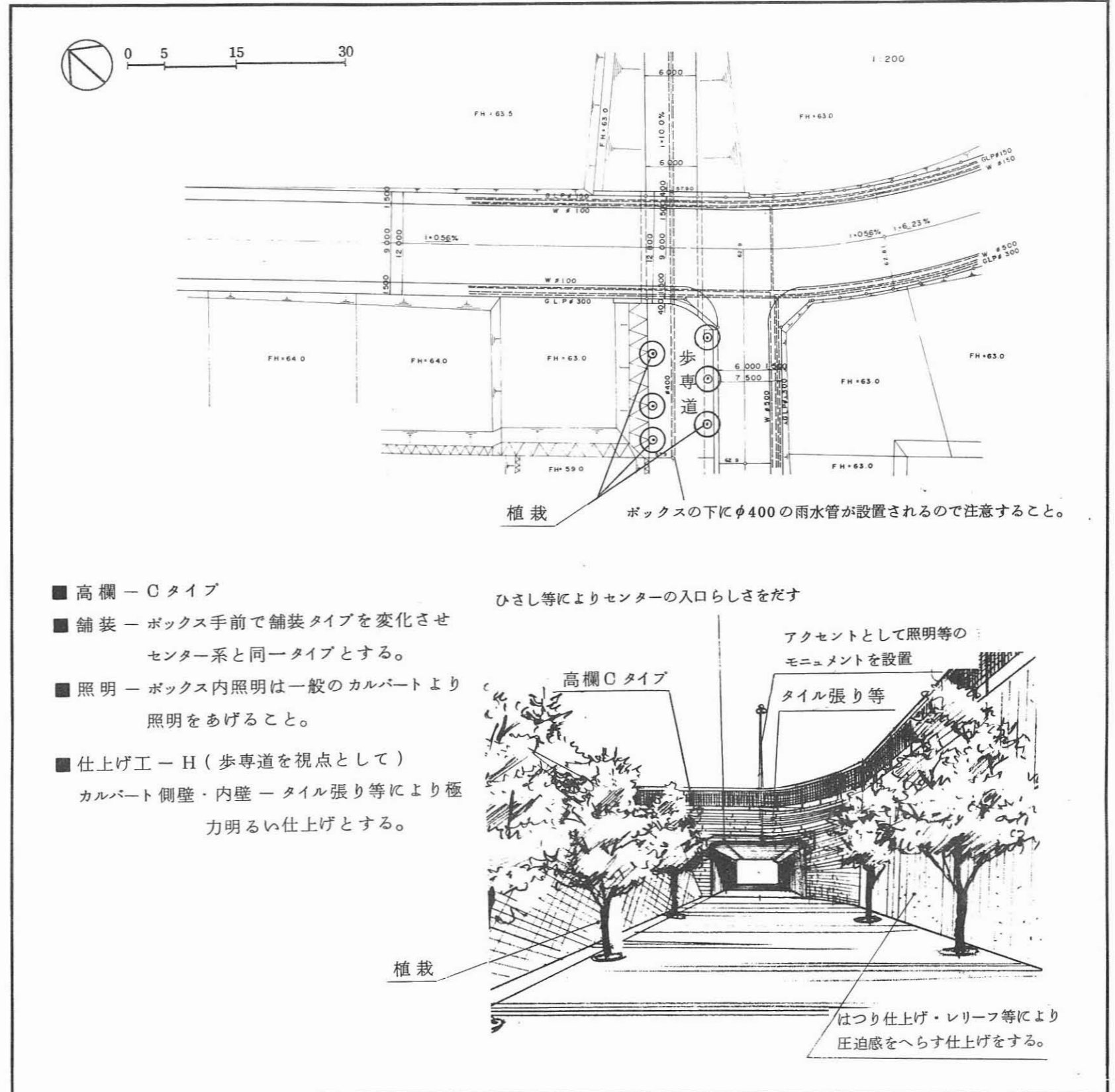
支 承	—
伸縮装置	—
踏掛板	有
計画添加物	W φ150, GLP φ300 T-21, GMPA φ300

B-3

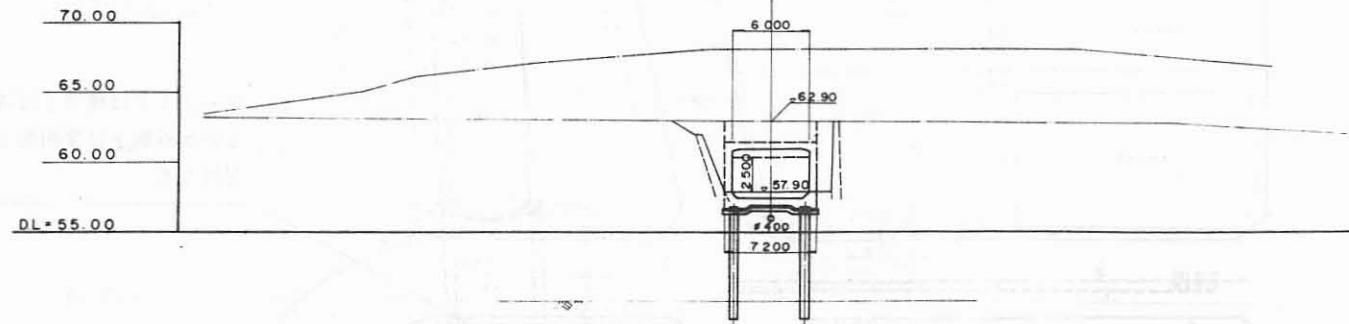


交差形態	道路/歩専道
管理区分	b-3
巾員	12.0m / 6.0m
橋梁タイプ	フォーマル(センター系)
構造形式	ボックスカルバート
橋長・巾員	6.0m・12.0m
設計荷重	TL-20
設計意図	

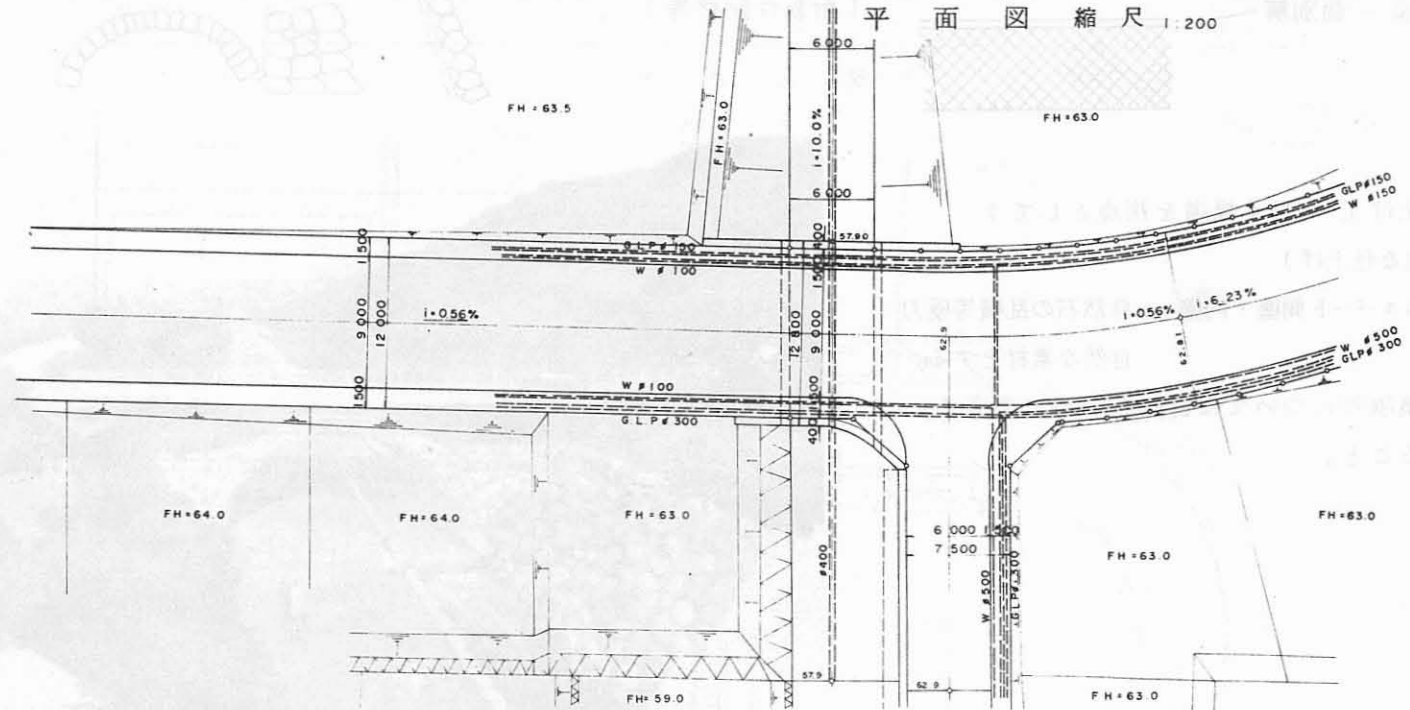
1. 地区センターの入口の橋であり、センターに入るゲート的な橋とした。



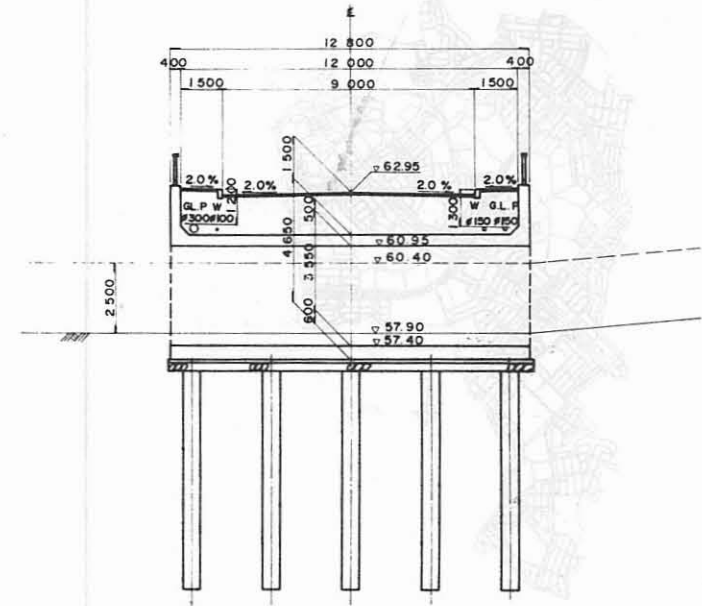
側面図 縮尺 1:200



平面図 縮尺 1:200



標準断面図 縮尺 1:100



支 承	—
伸縮装置	—
踏掛板	無
計画添加物	Wφ100, φ150 GLPφ150, φ300

B-4



交差形態	道路／緑道
管理区分	b-1
巾員	6.0m / 6.0m
橋梁タイプ	インフォーマル(緑道系・近景域・歴史文化景域)
構造形式	アーチカルバート
橋長・巾員	6.0m・6.0m
設計荷重	TL-20
設計意図	

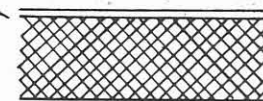
1. 総合公園に近接しており緑道からよく見える近景域の橋。緑道とのスムーズなつながりをもたした。
2. 歴史文化景域内の橋であるのでスケールを小さく、かつやわらかなアーチとした。



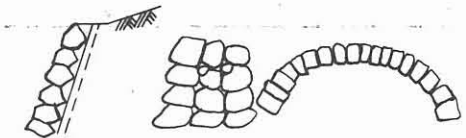
0 5 15 30



■ 高欄 - 個別解



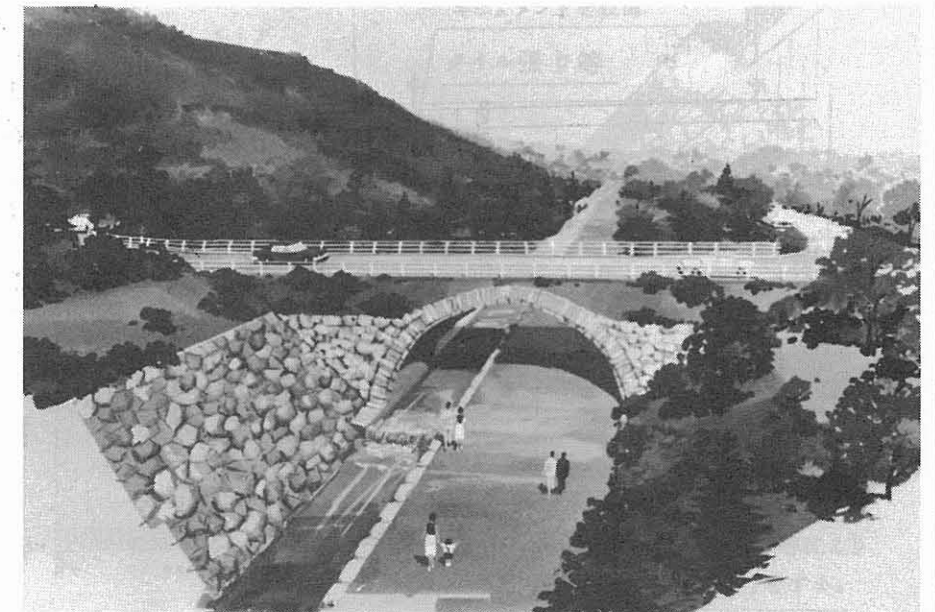
(耐候性鋼材等)



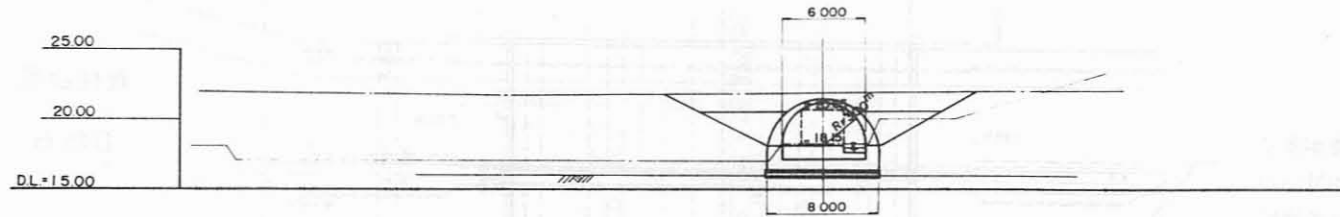
■ 仕上げ工 - H (緑道を視点として) (主な仕上げ)

カルバート側壁・内壁 - 自然石の乱壁等極力自然な素材とする。

■ 建築限界については詳細設計時に再度チェックすること。

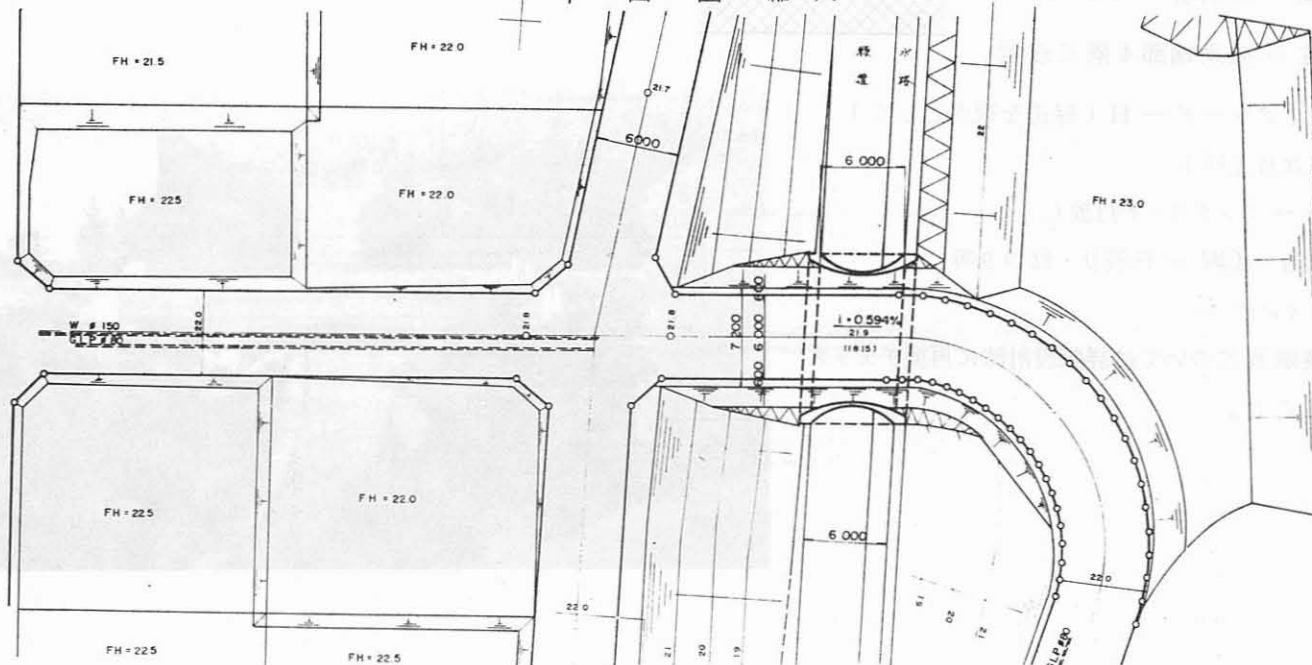


側面図縮尺 1:200

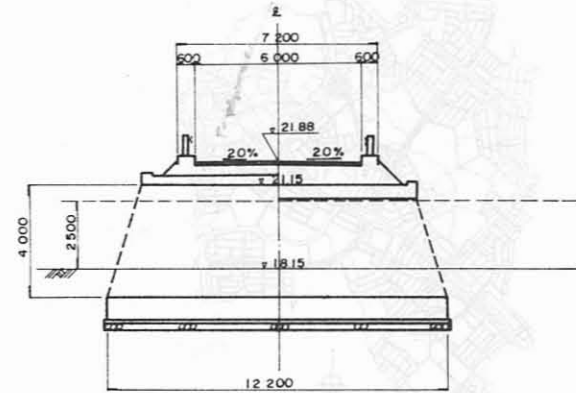


勾配	1=0.88%		LEVEL 2=10.300		1=0.594%		2=33.700		22.00	
計画高	21.85	21.80	21.80	21.80	21.80	21.82	21.88	21.94	22.00	22.00
地盤高	21.85	21.80	21.80	21.80	21.80	21.33	18.15	21.94	22.00	22.00
追加距離	30.00	24.00	20.00	13.70	10.00	0.00	10.00	20.00	20.00	20.00
単距離	6.00	4.00	6.30	1.85	10.00	0.00	5.35	10.00	10.00	10.00
測点	NO. 3	-4.00	NO. 2	3.70	NO. 1	NO. 0	NO. 1	NO. 2		

平面図縮尺 1:200



標準断面図縮尺 1:100



支 承	—
伸縮装置	—
踏掛板	無
計画添加物	無

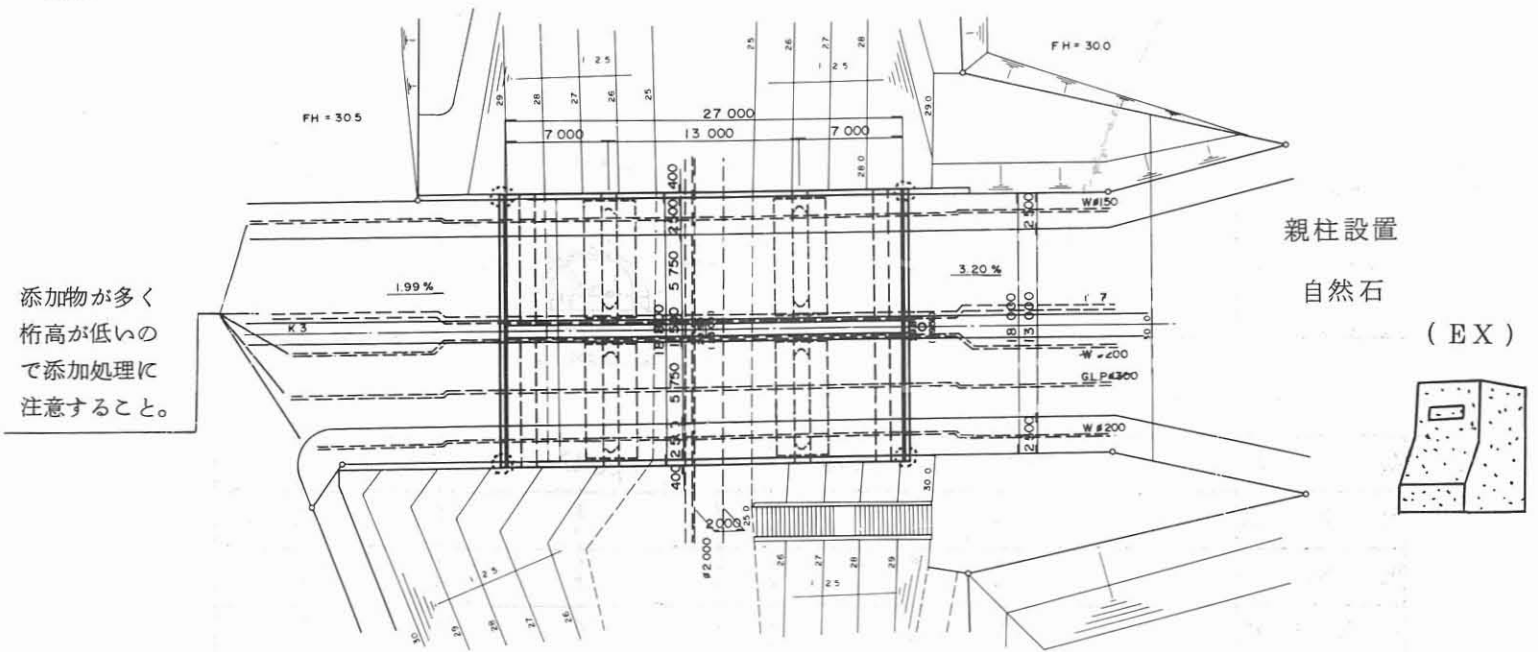
B-5



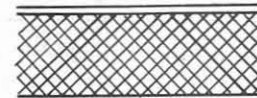
交差形態 道路(3・4・36) / 緑道
 管理区分 b-1
 巾員 18.0m / 7.0m
 橋梁タイプ インフォーマル
 (緑道系・歴史文化景域)

構造形式 RC3径間連続T桁
 橋長・巾員 27.0m・18.0m
 設計荷重 TL-20
 設計意図

1. 歴史文化景域内の橋であるので、周囲の調和をはかるように目立たない、落ちついた感じの橋とした。
2. 橋長と桁高の関係で1径間の場合には、桁下空間が偏平な感じがするので3径間の変断面のRC桁とした。
3. 添加物が相当あるのでT桁とし、添加物が側面からみえない構造とした。



■ 高欄 - 個別解

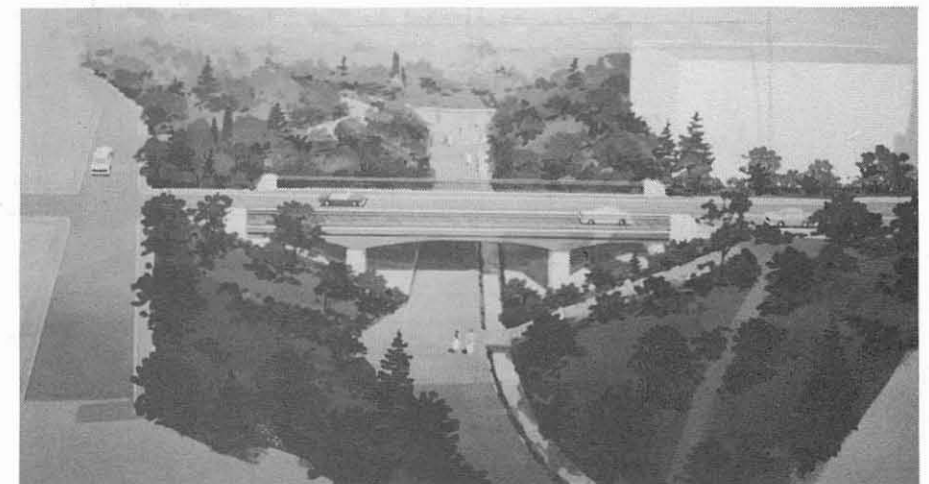


■ 親柱 - 橋梁端部4隅に設置

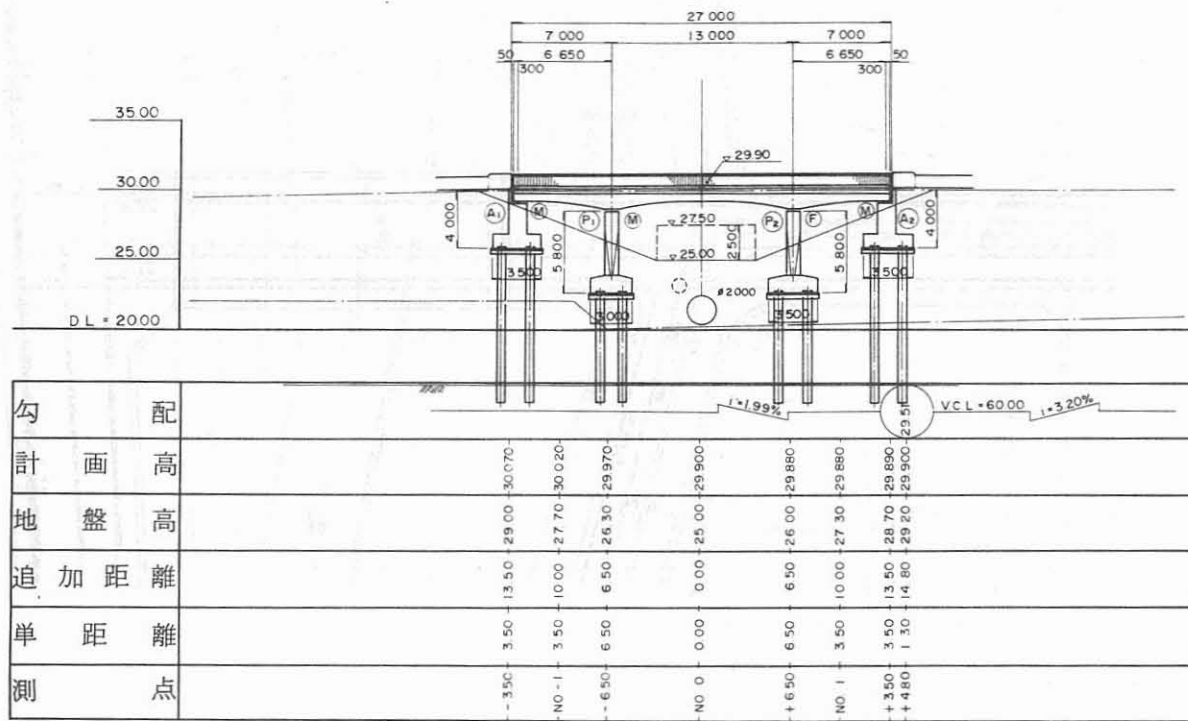
■ 仕上げグレード - H (緑道を視点として)
(主な仕上げ)

桁 - コンクリート打放し
 橋台・橋脚 - 石張り・はつり等
 ウィング - "

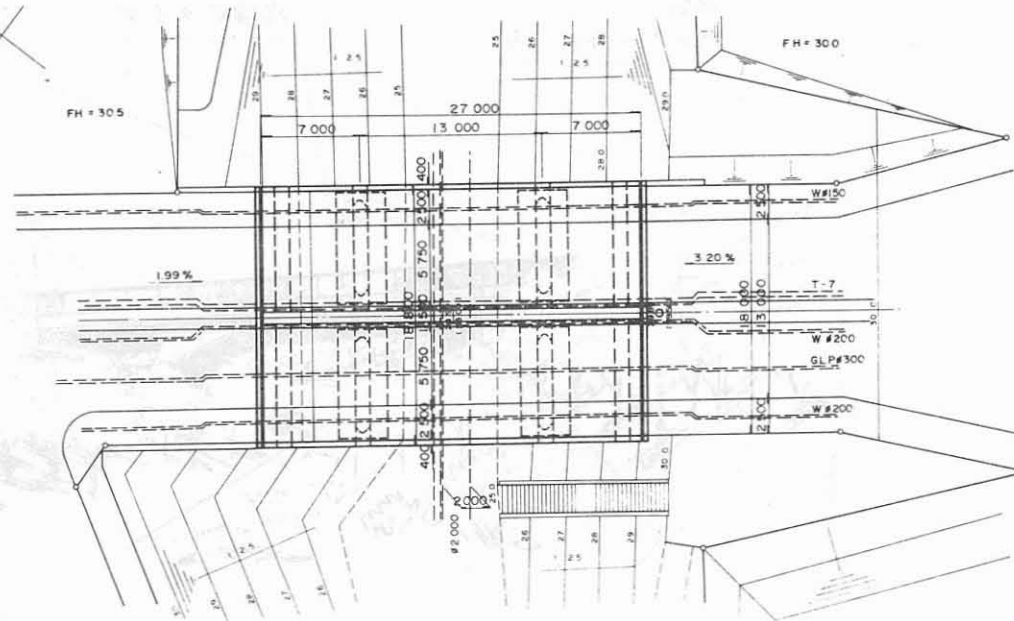
■ 建築限界については詳細設計時に再度チェックすること。



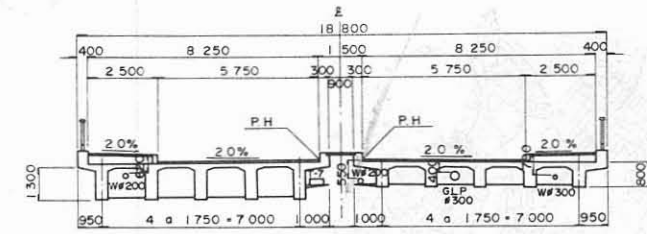
側面図縮尺 S=1/200



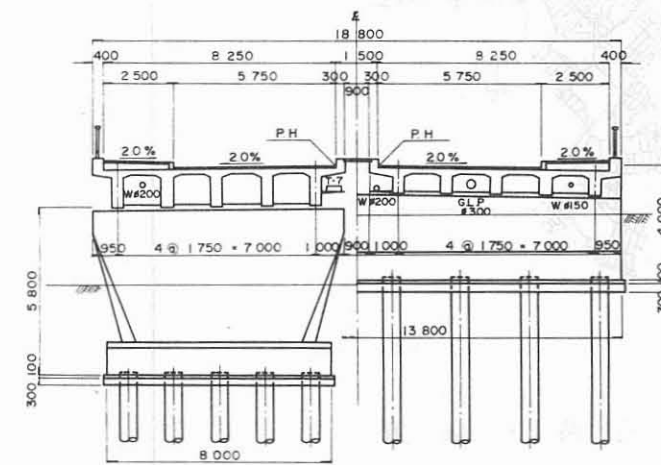
平面図縮尺 S=1/200



標準断面図縮尺 S=1/100



断面図縮尺 S=1/100

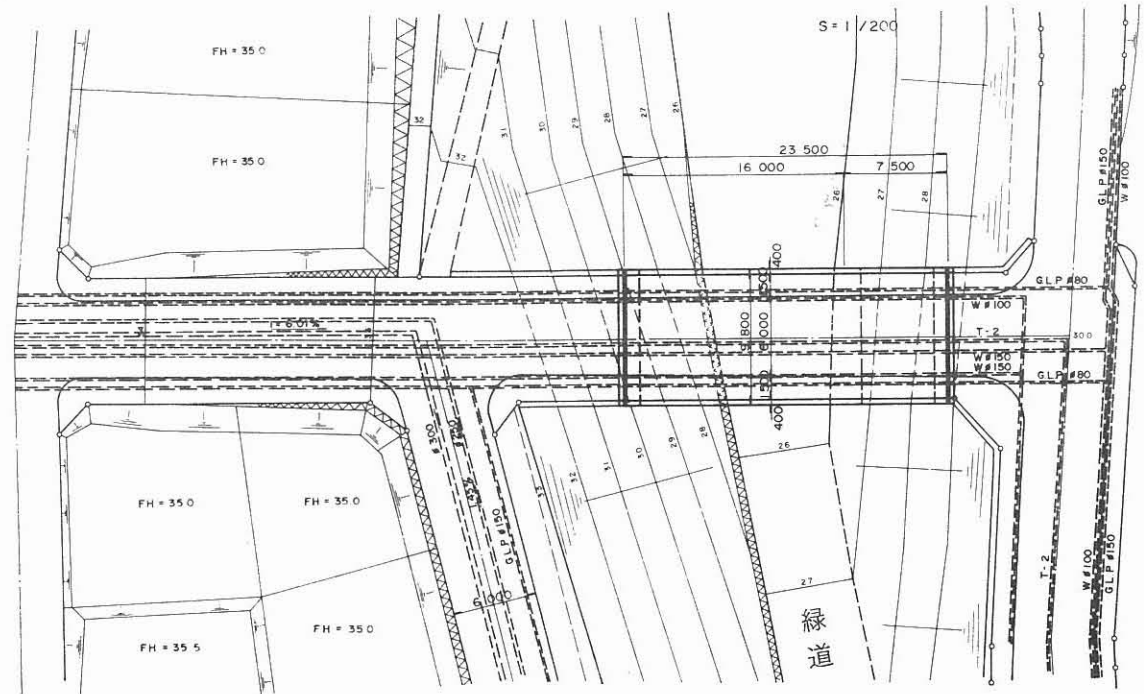


支 承	A, B-タイプ
伸縮装置	A, B-タイプ
踏掛板	有
計画添加物	Wφ150, φ200, φ300 GLP, φ300, T-7

B-6



0 5 15 30



交差形態	道路 / 緑道
管理区分	b-1
巾員	9.0m / 7.0m
橋梁タイプ	インターミディエート
構造形式	RC異形T桁ラーメン橋
橋長・巾員	23.50m・9.0m
設計荷重	TL-20
設計意図	

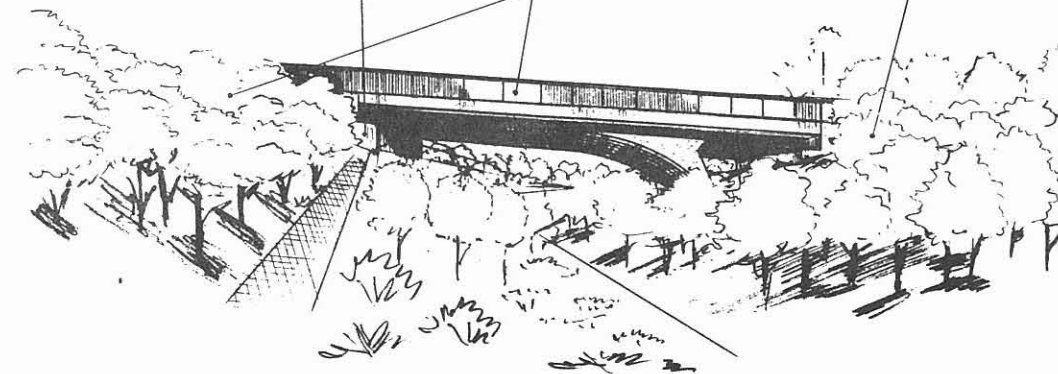
1. 緑道からタウンセンターへの入口なのでゲート的な意味あいをもつ橋とした。
2. 上部の道路縦断が強い片勾配であるので不安定感をへらすために変形2径間とした。
3. 添加物が相当あるのでT桁とし、添加物が側面から見えない構造とした。

■ 高欄 - Cタイプ

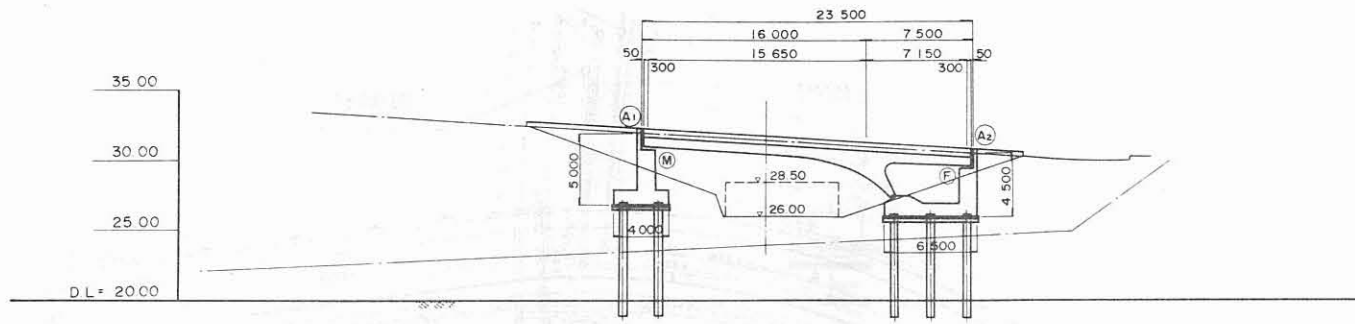
橋台
コンクリートはつり

高欄Cタイプ

極力植栽で
橋台附近を隠す

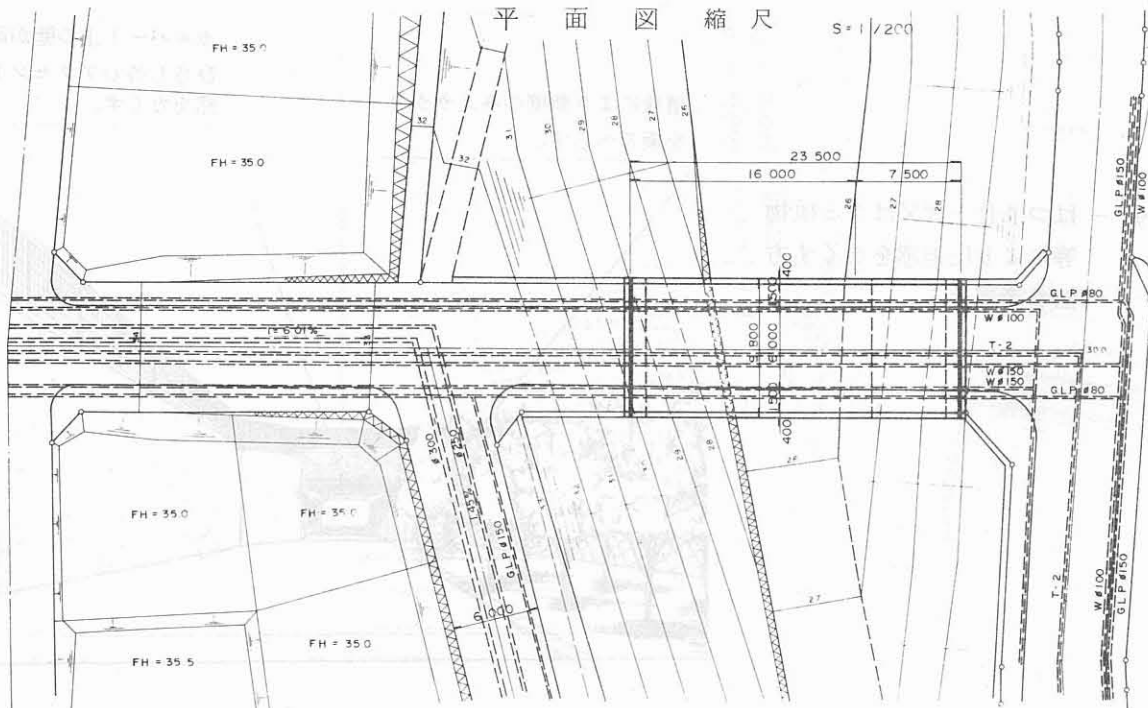


側面図縮尺 S=1/200

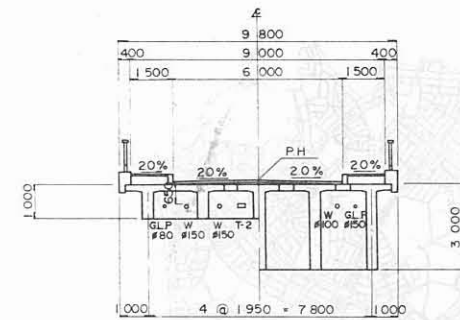


勾配	1=6.01% L=84.80								
計画高		33.180	32.580	31.980	31.380	30.780	30.180	30.000	30.000
地盤高		33.18	32.58	29.91	26.00	27.50	30.18	30.00	30.00
追加距離		30.00	20.00	10.00	0.00	10.00	20.00	23.00	30.00
単距離		0.00	0.00	1.00	0.00	10.00	5.50	3.00	3.00
測点		NO-3	NO-2	NO-1	NO-0	NO-1	NO-2	NO-2	NO-2

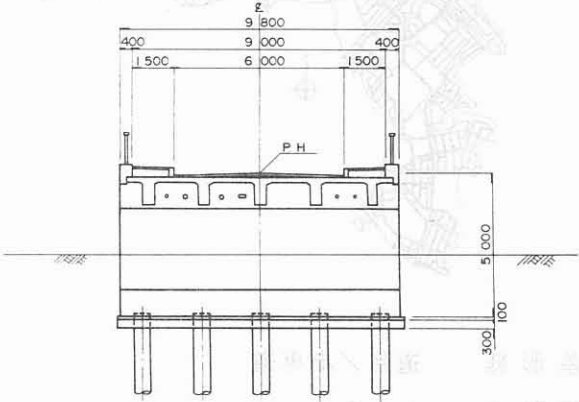
平面図縮尺 S=1/200



標準断面図縮尺 S=1/100



断面図縮尺 S=1/100



支 承	A, B-タイプ
伸縮装置	A, B-タイプ
踏掛板	無
計画添加物	Wφ100, φ150, T2 GLP, φ80, φ150

B-7



交差形態 道路/歩専道
 管理区分 b-3
 巾員 9.0m / 4.50m
 橋梁タイプ インターミディエート
 構造形式 ボックスカルバート
 橋長・巾員 4.50m ・ 9.0m
 設計荷重 TL-20
 設計意図

1. 経済性・施工性をはかった。
2. 下水管を下へおろすため、階段部が広くなりカルバートの開口部が結果的に小さくなっている。

汚水φ250, 雨φ300を階段部を利用しておろすこと。

照明灯

植栽

ボックスの下に雨水管φ350が設置されるので注意

■ 高欄 — ボックス
階段
斜路 — Cタイプ

■ 仕上げ工 (主な仕上げ)

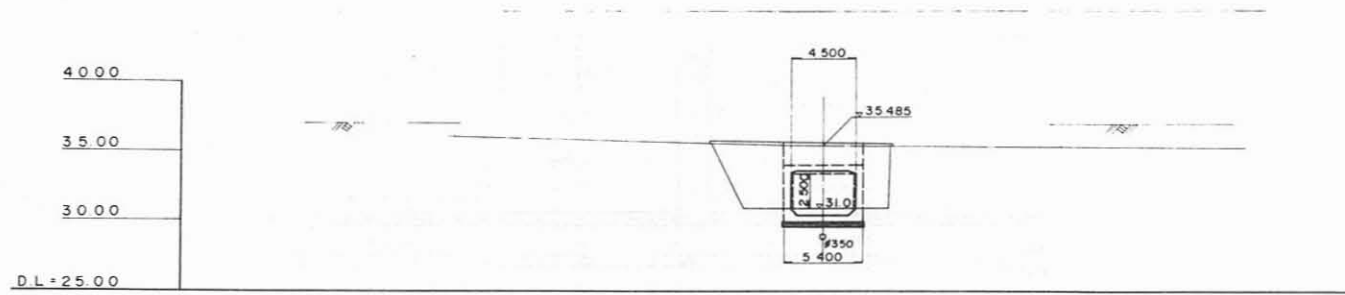
カルバート側壁・内壁 — はつり仕上げ又はつる植物等により圧迫感をなくす方法を考慮する。

高欄Cタイプ

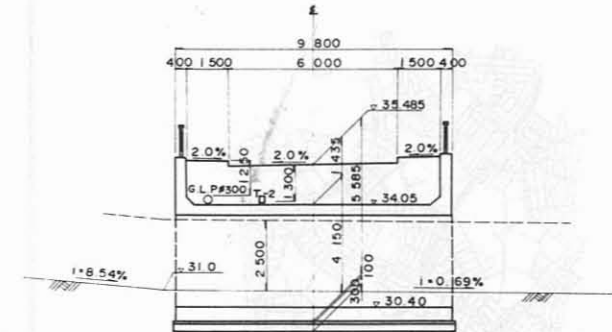
植栽により側壁のみえがかりを極力へらす。

カルバート上の壁が高くなるのでひさし等のアクセントをつけ圧迫感をなくす。

側面図縮尺 1:200

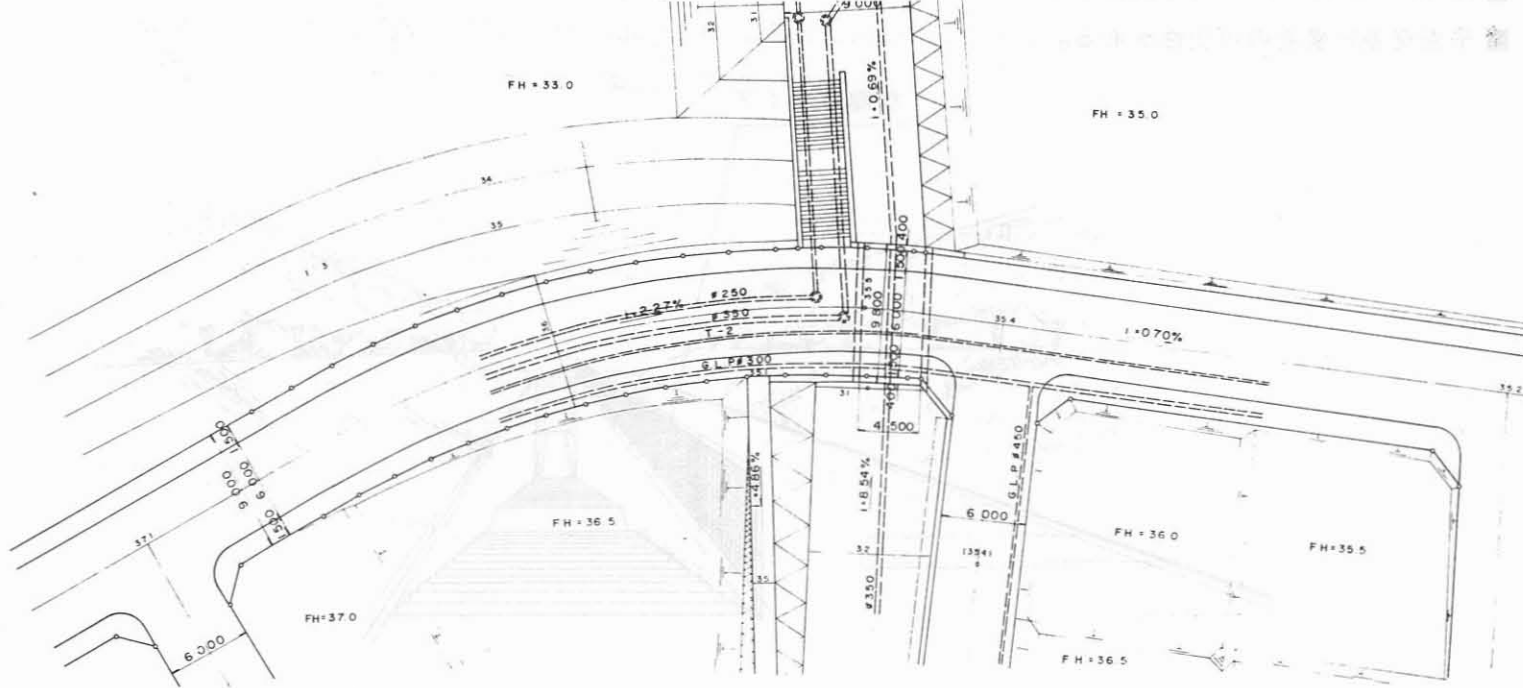


標準断面図縮尺 1:100



勾配	1.2.27%		35.90	1.0.70%	
計画高	NO. 2	10.00	20.00	36.00	35.99
地盤高	NO. 1	6.05	10.00	35.77	35.77
追加距離	3.95	3.95	3.95	33.00	33.63
単距離	NO. 0	0.00	31.00	35.54	35.54
測点	+1.75	1.75	31.00	35.50	35.50
	+3.95	2.20	3.95	33.0	35.48
	NO. 1	6.05	10.00	35.44	35.44
	NO. 2	10.00	20.00	35.37	35.37

平面図縮尺 1:200



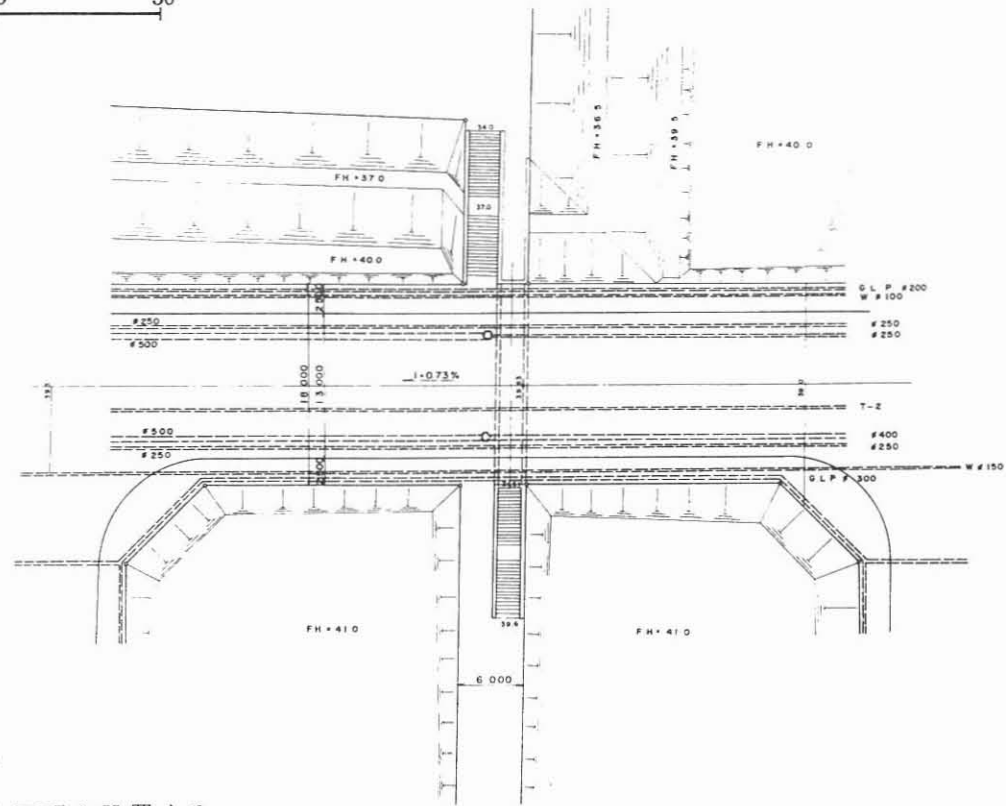
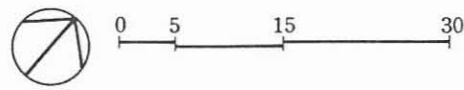
支 承	—
伸縮装置	—
踏掛板	無
計画添加物	GLP φ 300, T-2

B-8



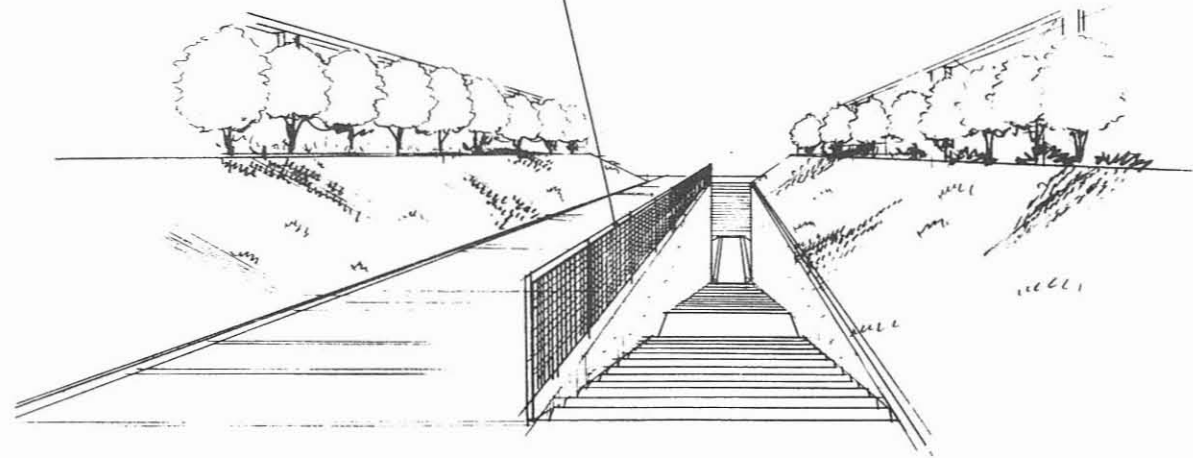
交差形態	道路/歩専道
管理区分	b-3
巾員	18.0m / 2.0m
橋梁タイプ	フォーマル(センター系)
構造形式	ボックスカルバート
橋長・巾員	2.0m・18.0m
設計荷重	TL-20
設計意図	

1. タウンセンター入口のボックスであるが、用地に制限があるので一般的なボックスとなった。

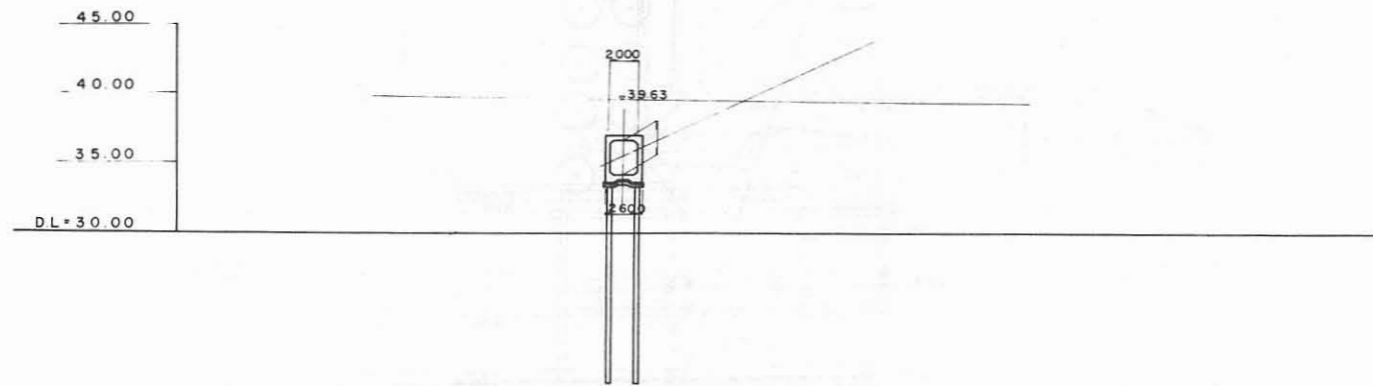


- 高欄 - Cタイプ
- 照明 - ボックス内照明を設置する。
- 平面交差に変更の可能性がある。

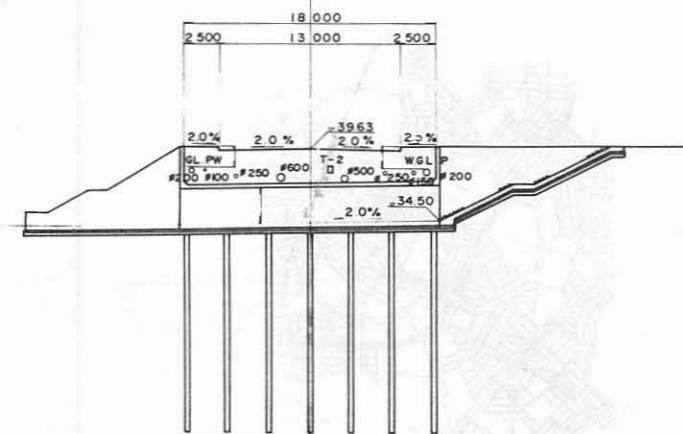
高欄Cタイプ



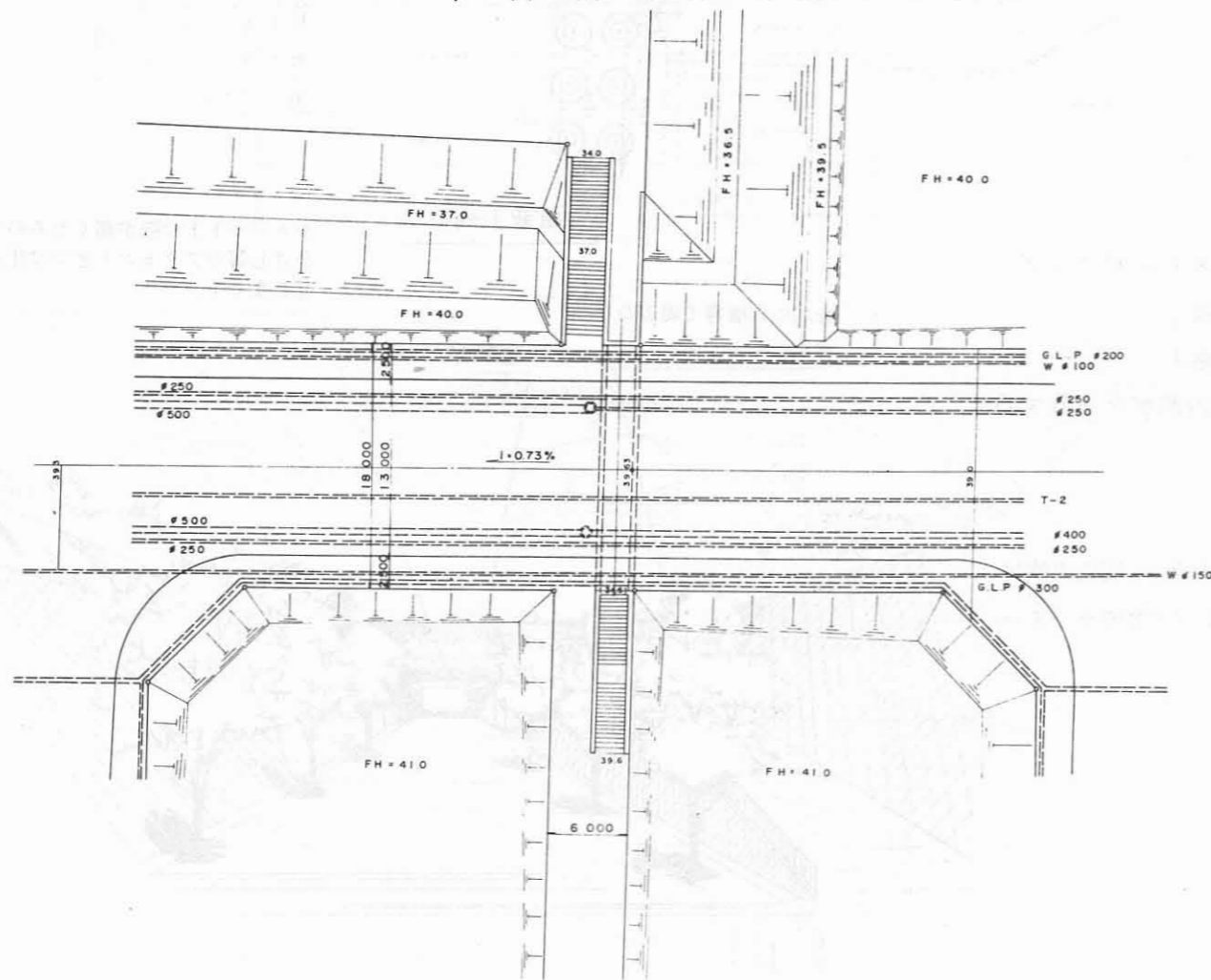
側面図 縮尺 1:200



標準断面図 縮尺 1:200



平面図 縮尺 1:200



支 承	—
伸縮装置	—
踏掛板	無
計画添加物	Wφ100, φ150, GLP, φ200, φ300 T-2, 雨φ250, φ400, φ500, φ600, φ250

B-9

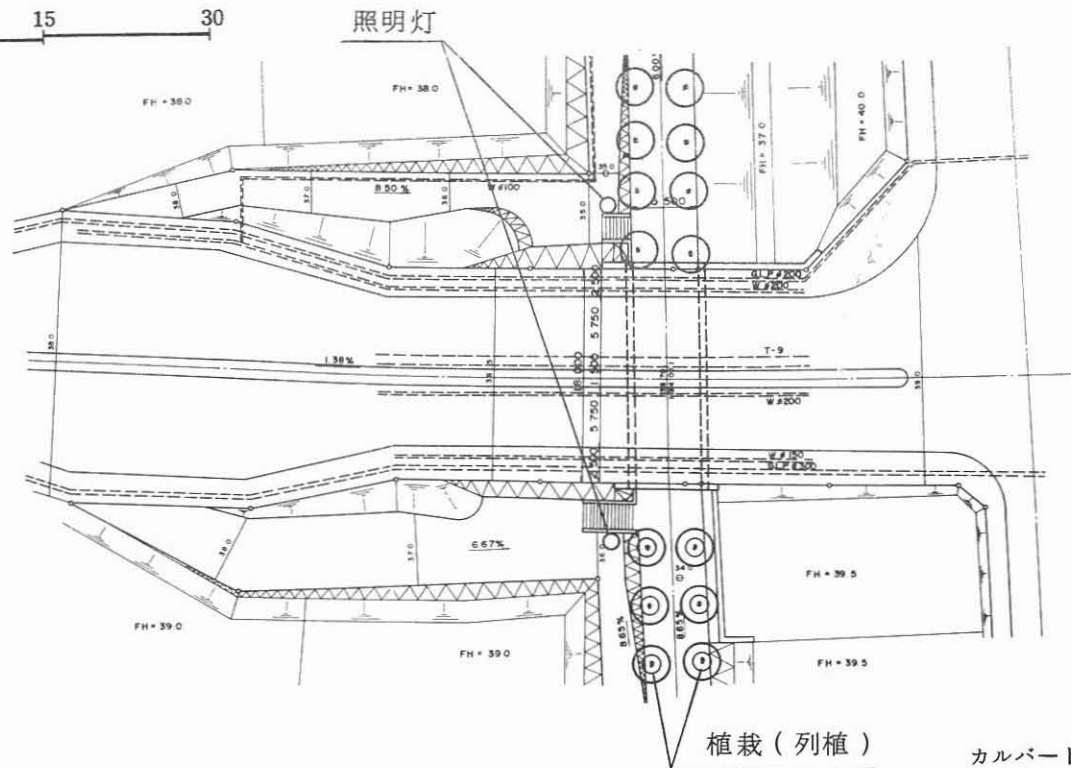


交差形態 道路(3・4・36) / 歩専道
 管理区分 b-3
 巾員 18.0m / 5.50m
 橋梁タイプ インターミディエート
 構造形式 ボックスカルバート
 橋長・巾員 5.50m・18.0m
 設計荷重 TL-20
 設計意図

1. 経済性・施工性をはかった。
2. 長いカルバートではあるが交差点に近いため
明かりとりは設置できなかった。
3. 圧迫感をへらすため、巾員は用地の許すかぎり
広くとった。



0 5 15 30



■ 高欄 — (ボックス) — Cタイプ
階 段
斜 路

■ 照明 — ボックス内照明を設置する。

■ 仕上げ工
(主な仕上げ)

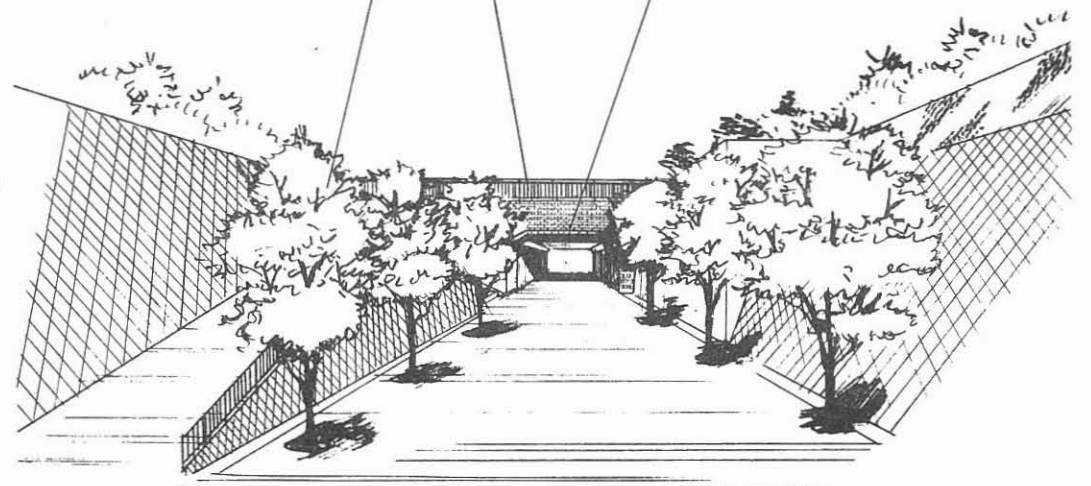
ボックス側壁・内壁 — 明色の吹付
タイル等で内面を明るくする。

植栽(列植)

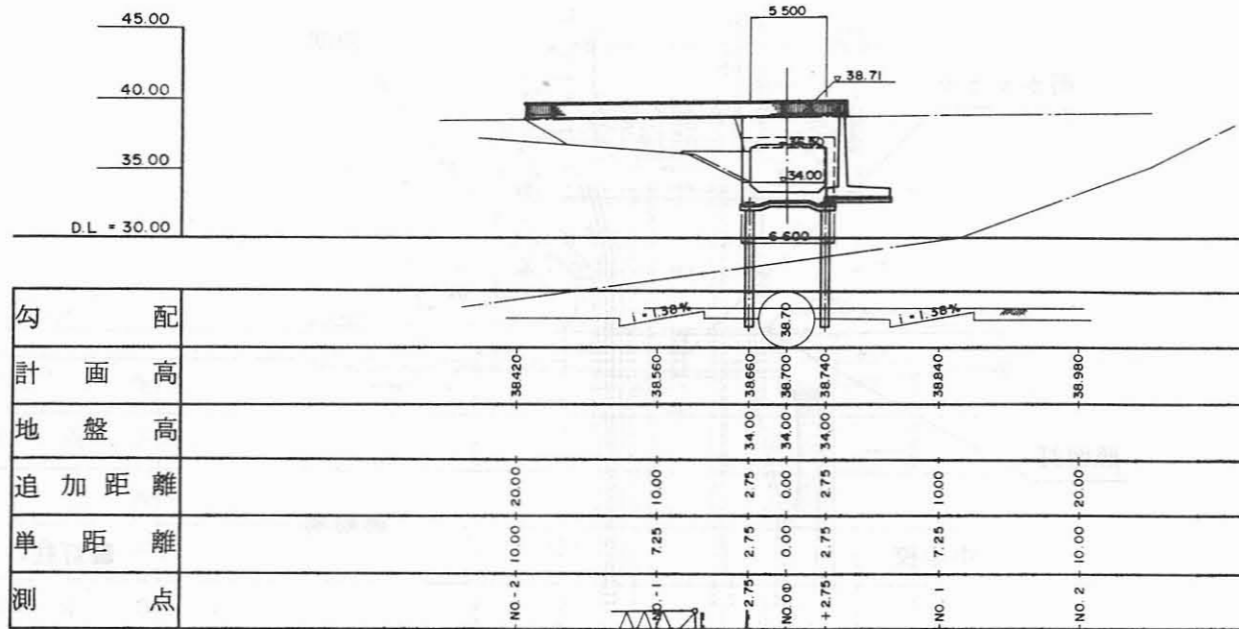
カルバート上の壁が高くなるので
ひさし等のアクセントをつけ圧迫
感をなくす。

喬木の列植等で周辺の
構造物をかくす。

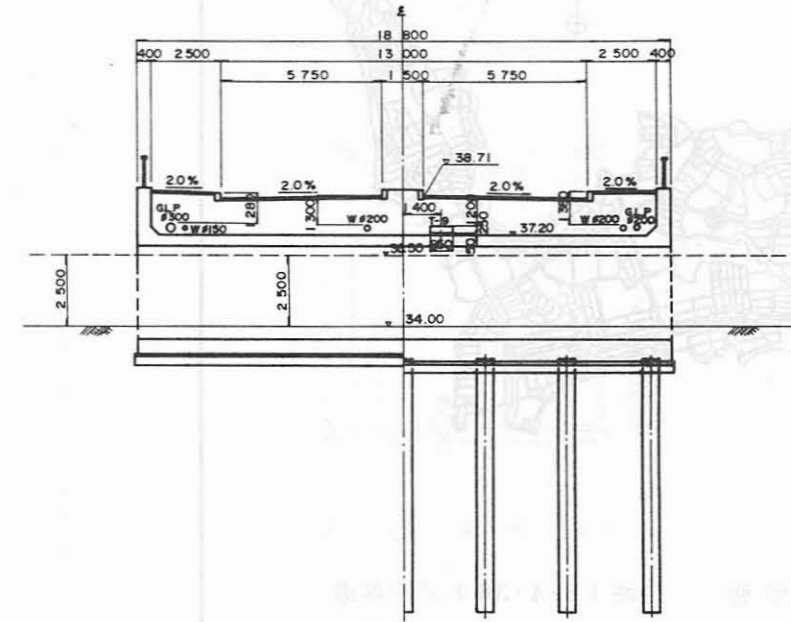
高欄Cタイプ



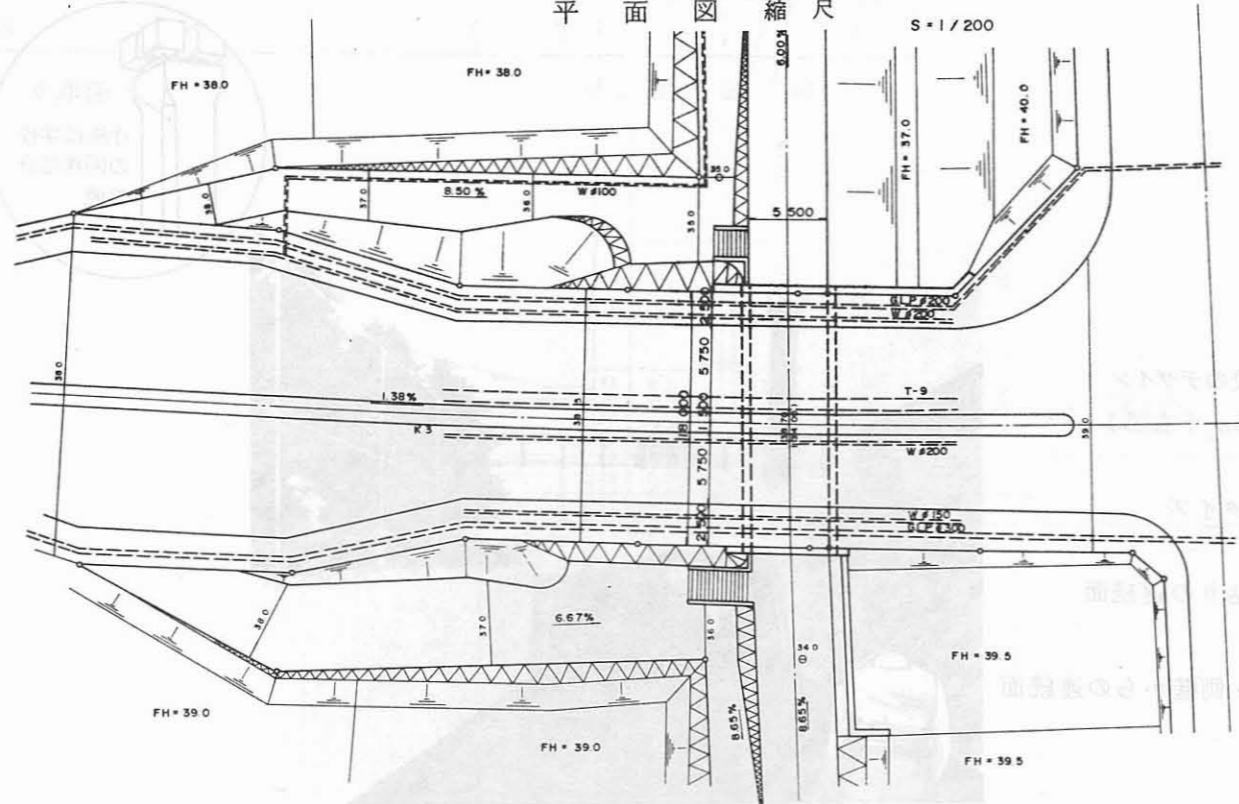
側面図縮尺 S=1/200



標準断面図縮尺 S=1/100



平面図縮尺 S=1/200



支 承	—
伸縮装置	—
踏掛板	有
計画添加物	Wφ150, φ200, T-9 GLPφ200, φ300

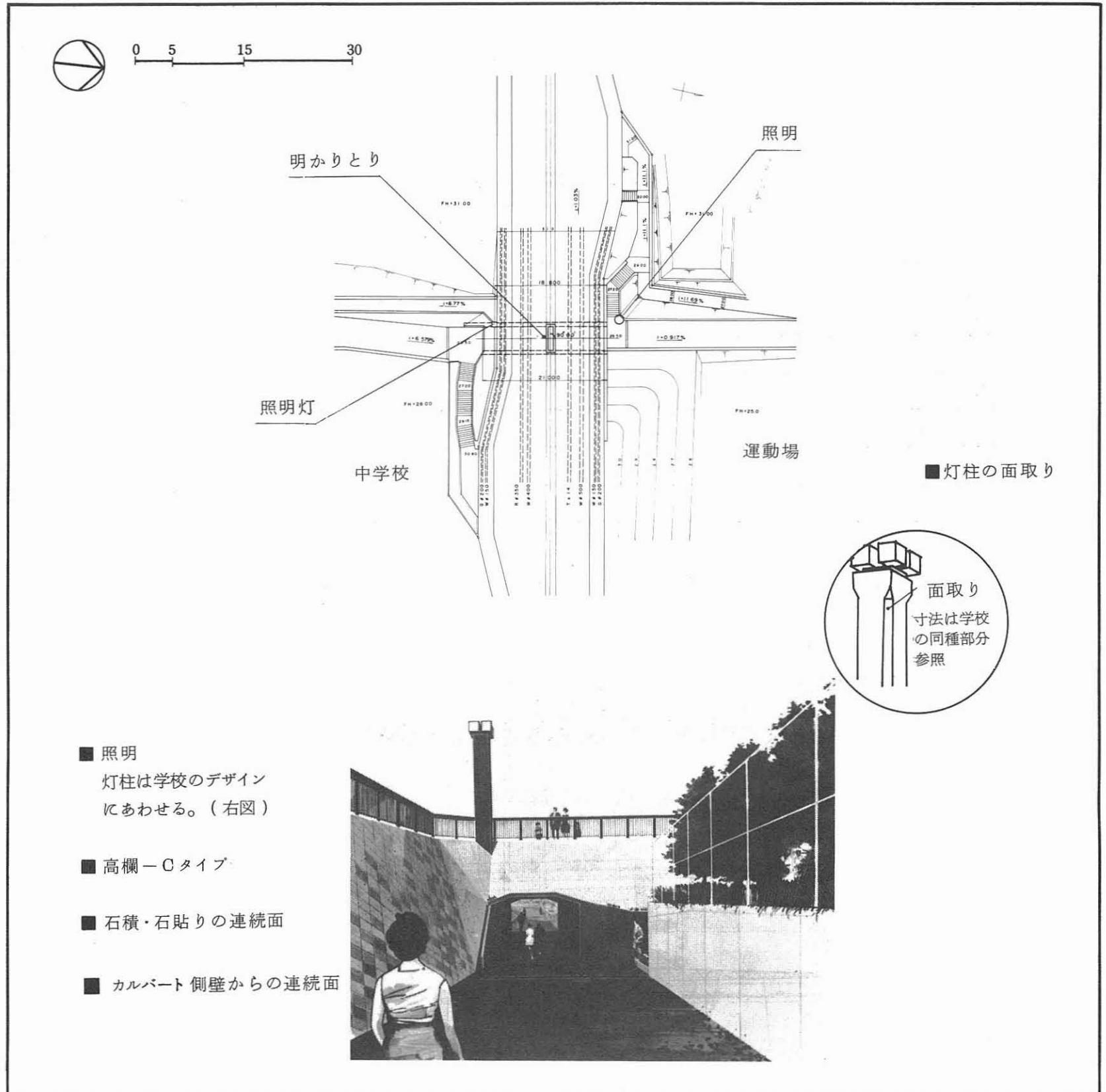
B-10



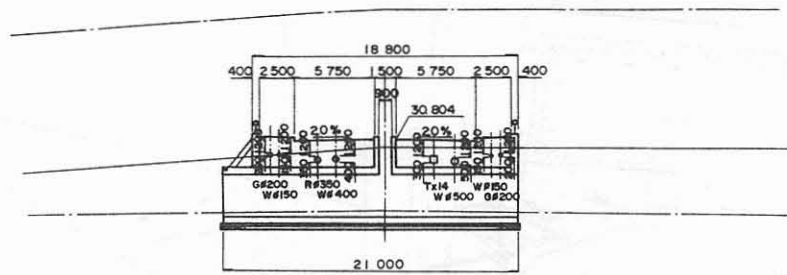
交差形態 道路(3・4・36) / 歩専道
 管理区分 b-3
 巾員 18.0m / 9.0m
 橋梁タイプ インターミディエート(幹線系)
 構造形式 カルバートボックス
 橋長・巾員 21.0m・4.0m
 設計荷重 TL-20

設計意図

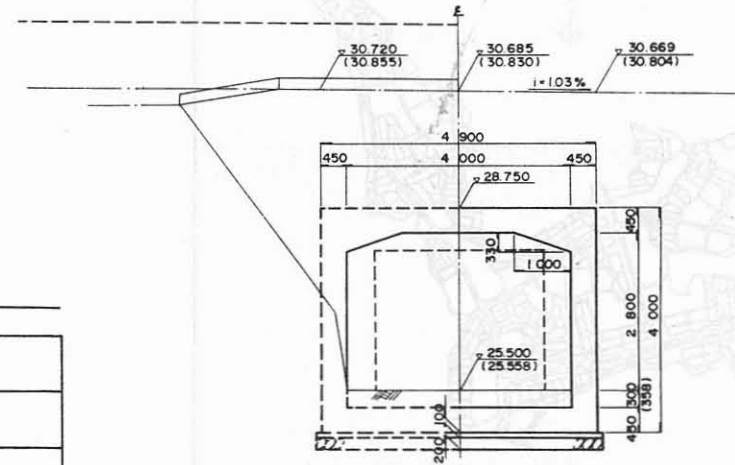
1. 中学校は既に完成しており、本橋に面す擁壁を含め、形態・色の統一を図るなど、かなりグレードの高い仕上りが施されているので、本橋の仕上げもハイグレード(仕上げグレード-H)とする。
2. 街路の中央分離帯部に明かり取りを設ける。



側面図縮尺 1:200



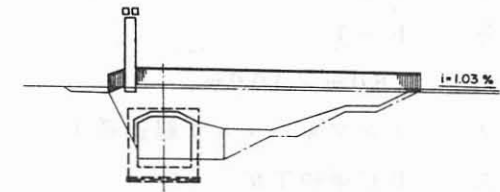
標準断面図縮尺 1:50



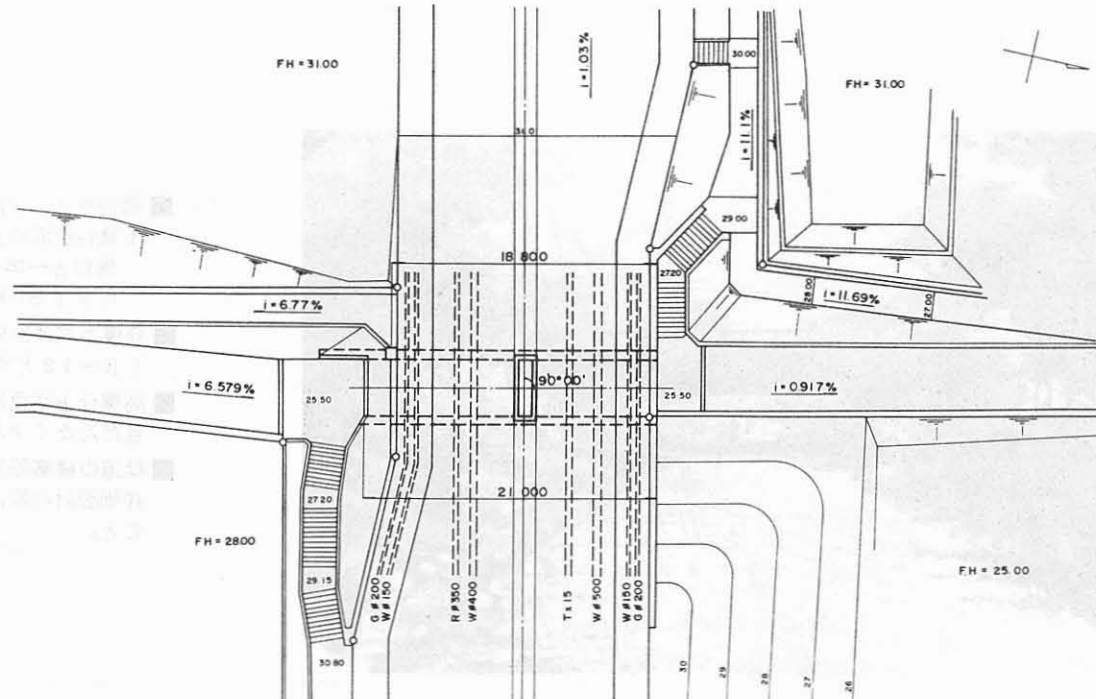
D.L. = 15^M000

勾配					
計画高	-25.500	-25.500	-25.558	-25.500	-25.500
地盤高					
追加距離	17.500	11.500	0.000	9.500	13.500
単距離	0.000	6.000	11.500	9.500	4.000
測点	-17.500	-11.500	NC.0	9.500	-13.500

断面図縮尺 1:200



平面図縮尺 1:200



支 承	—
伸縮装置	—
踏掛板	有
計画添加物	無

B-11

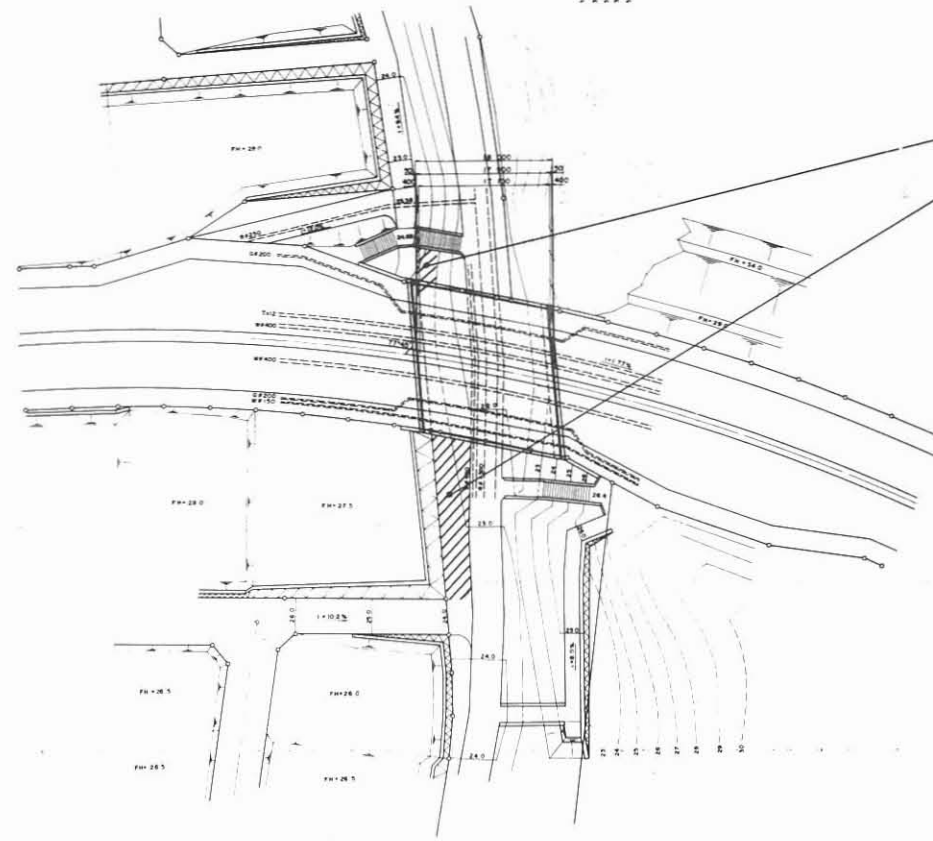


交差形態 道路(3-4-36)/緑道
 管理区分 b-1
 巾員 18.0m / 10.0m
 橋梁タイプ インフォーマル(緑道系)
 構造形式 PC単純T桁
 橋長・巾員 18.0m・18.0m
 設計荷重 TL-20
 設計意図

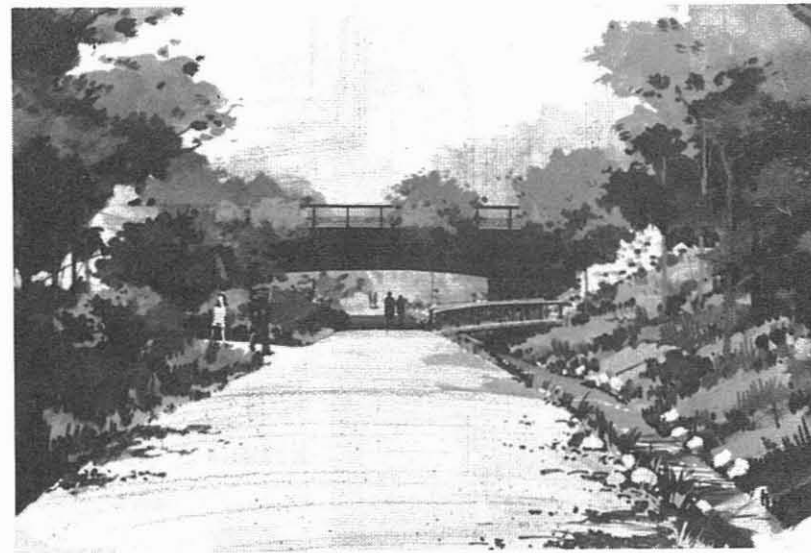
1. 緑道上に設けられる近景域の橋(緑道からの視野が比較的せまい)である。
2. 主桁下側に曲線を入れることにより柔らかさを出す。
3. 添加物があるため、桁型式とする。
4. 桁下の土面と橋台を自然石で仕上げ緑道景観にとけこませる。



0 5 15 30

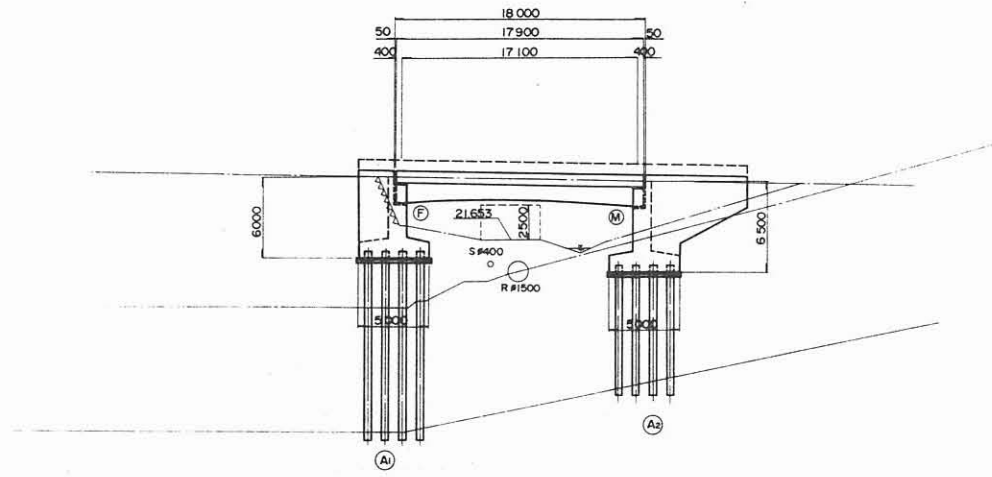


■ 植栽による修景
 (擁壁および橋台前面をかくす)

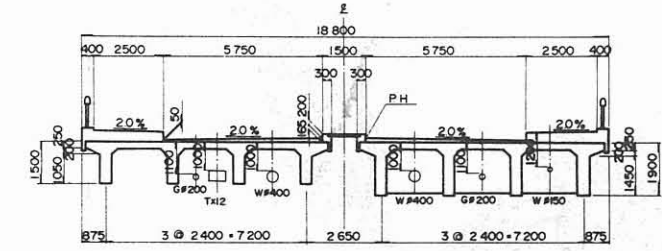


- 橋台ウイングは石貼り仕上げ(橋台前面の見えを小さくし、橋台と一体の石貼りの仕上げをする。)
- 高欄型式は面格子とする。(B-12と同じ)
- 高欄仕上げ色は暗色とし、目立たなくする(exコグ茶)
- 緑道の建築限界については、詳細設計の際、チェックすること。

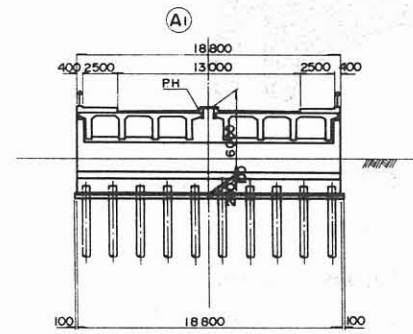
側面図縮尺 1:200



標準断面図縮尺 1:100



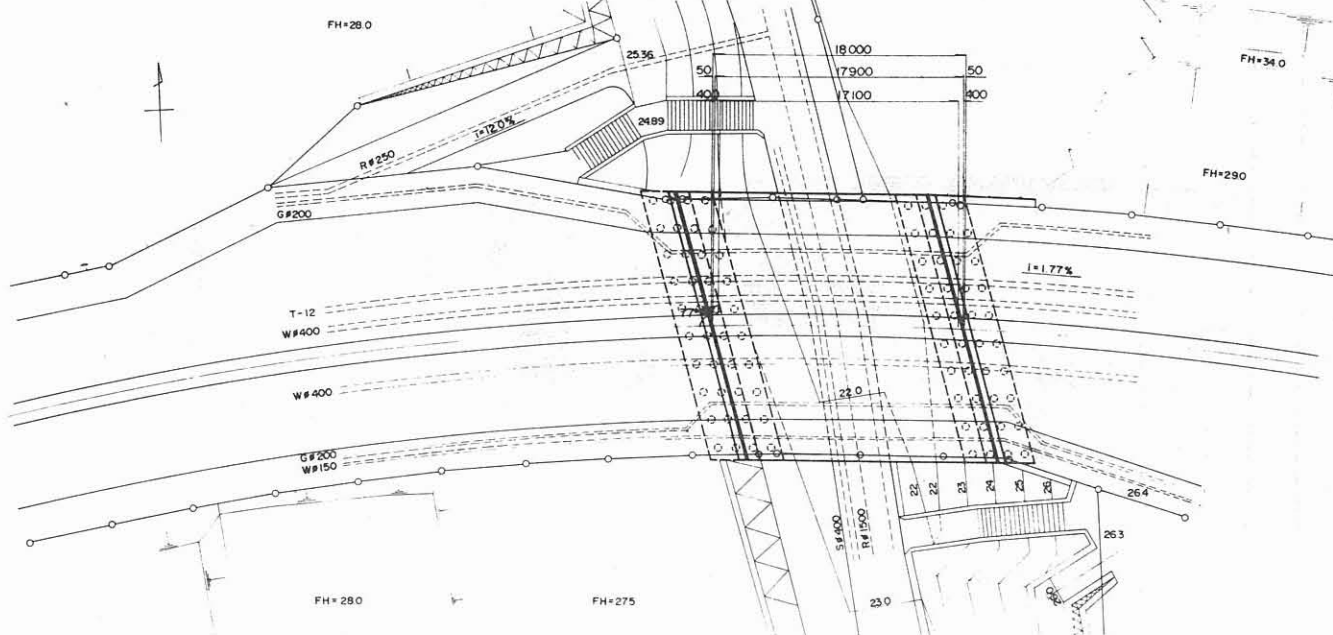
断面図縮尺 1:200



DL = 5^m000

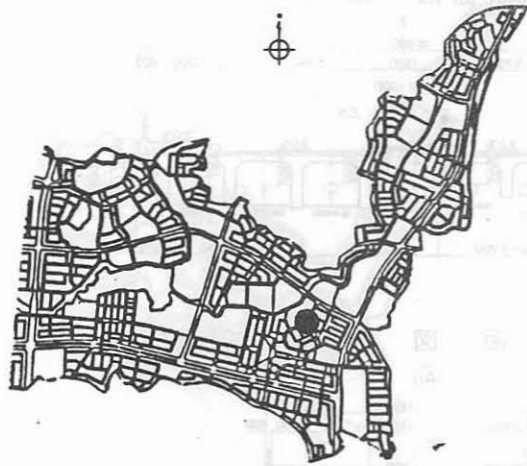
勾配							
計画高	28 149 - 28 149	27 175	27 016	26 957	26 997	26 503	23 016 - 23 016
地盤高							
追加距離	73 000	20 000	9 000	0 000	9 000	20 000	217 000
単距離	0 000	20 000	11 000	9 000	9 000	11 000	17 000
測点	NO.3 -13 000	NO.2 -20 000	NO.1 -9 000	NO.0 -9 000	NO.0 -9 000	NO.1 -11 000	NO.10 -17 000

平面図縮尺 1:200



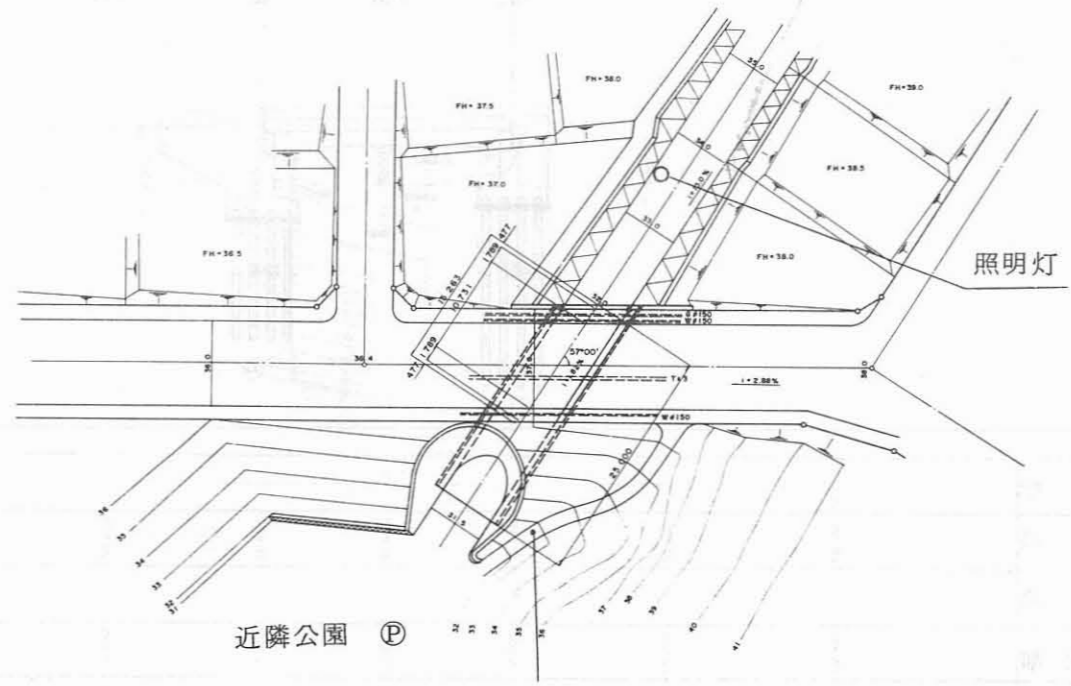
支 承	A-タイプ
伸縮装置	A, B-タイプ
踏掛板	有
計画添加物	Gφ200×2, T×12, Wφ400×2, Wφ150

B-13

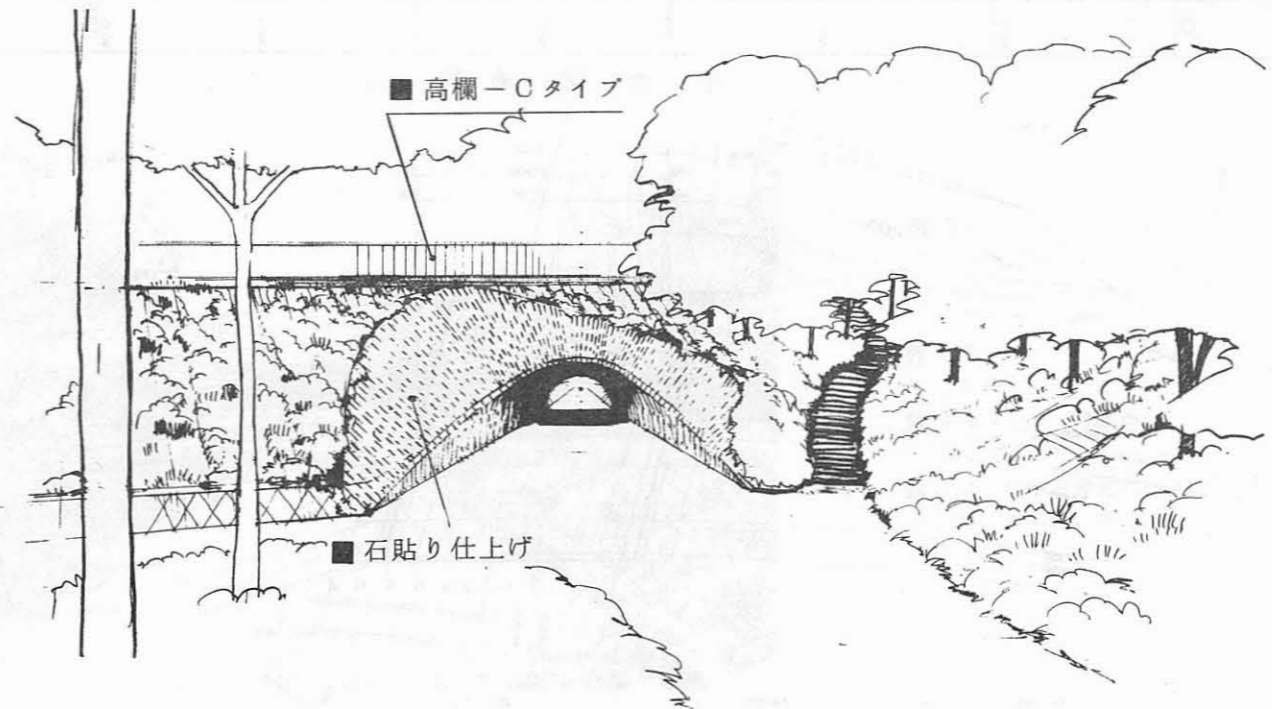


交差形態 道路/歩専道(公園)
 管理区分 b-3
 巾員 12.0m / 6.0m
 橋梁タイプ インフォーマル(緑道系)
 構造形式 アーチカルバート
 橋長・巾員 25.0m・6.5m(有効3.0m)
 設計荷重 TL-20
 設計意図

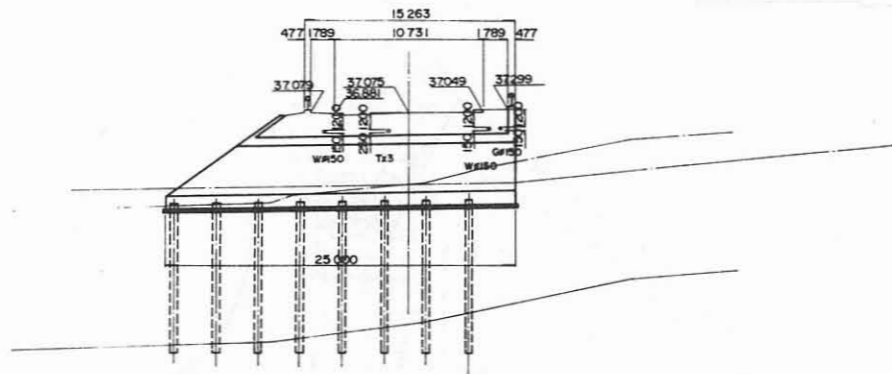
1. 近隣公園に隣接する近景域の橋(カルバートボックス)であり、インフォーマルな形式を求めするために、カルバートの形、および出入口は曲線を採用する。
2. 出入口付近は石貼り等により仕上げる。



■ 階段、自然石による景観にとけこむデザイン



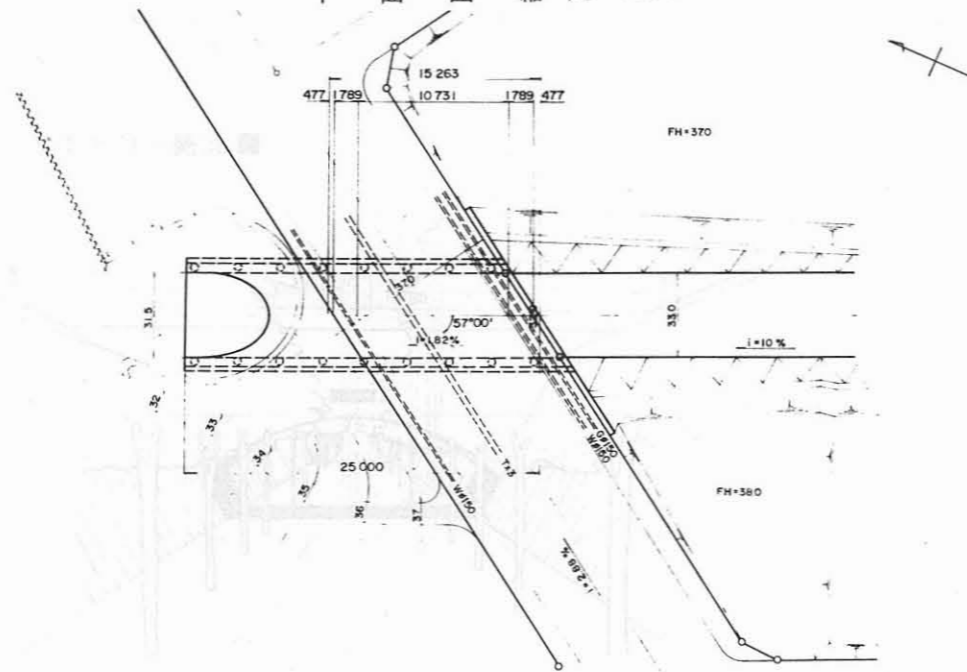
側面図縮尺 1:200



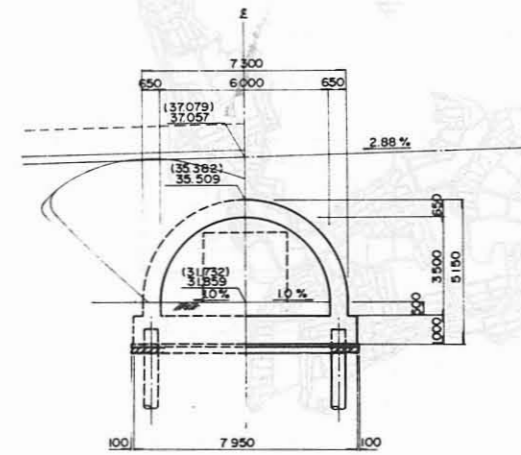
DL=15'000

勾配			
計画高		31 500 - 31 541	32 000 - 32 000
地盤高			
追加距離		19 800 - 17 500	0 000 - 7 700
単距離		0 000 - 2 300	19 800 - 7 700
測点		-19 800 - -17 500	1 000 - 7 700

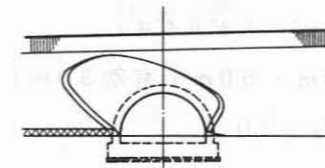
平面図縮尺 1:200



標準断面図縮尺 1:100



断面図縮尺 1:200



支 承	—
伸縮装置	—
踏掛板	無
計画添加物	無

B-14

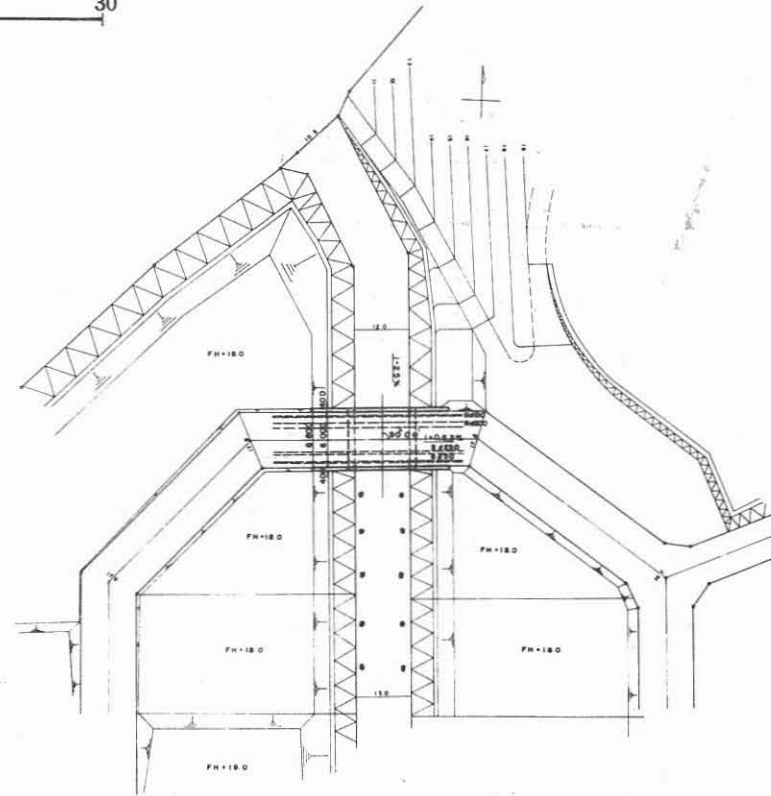


交差形態	道路／歩専道
管理区分	b-3
巾員	6.0m / 6.0m
橋梁タイプ	インターミディエート
構造形式	カルバートボックス
橋長・巾員	6.8m・6.0m (有効 3.0m)
設計荷重	TL-20
設計意図	

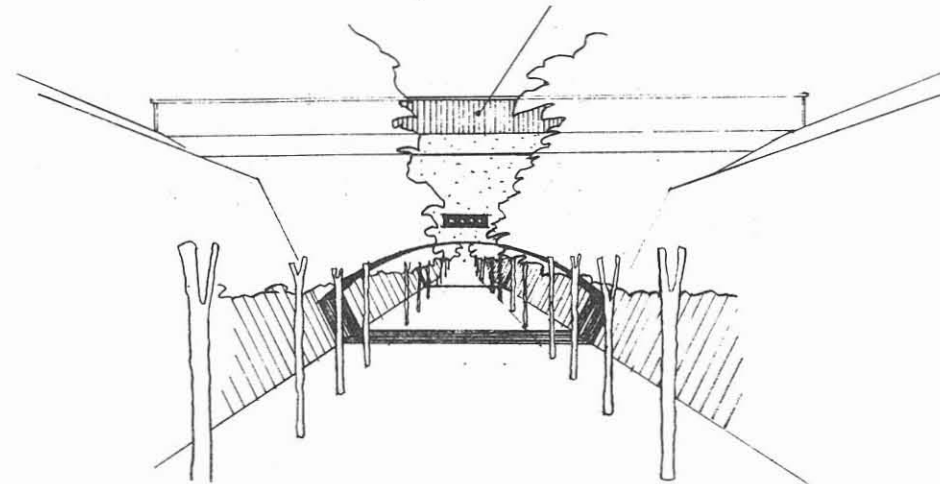
1. 同一ルート上に隣接してB-15があるので統一したイメージとする。
2. アーチ形の曲線を入れることにより柔らかさを出す。
3. 下水管が入るためにボックスカルバート型式とする。



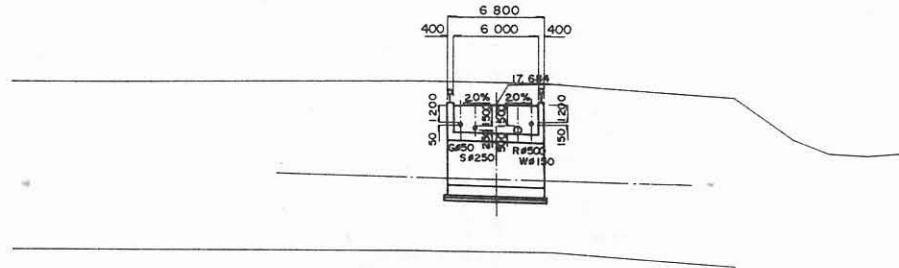
0 5 15 30



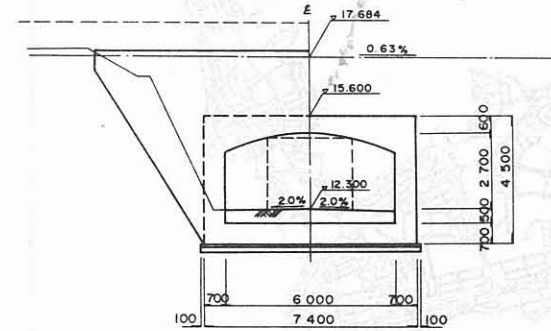
■ 高欄-Cタイプ



側面図縮尺 1:200



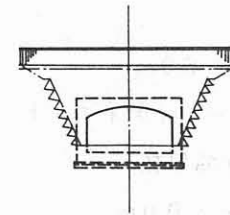
標準断面図縮尺 1:100



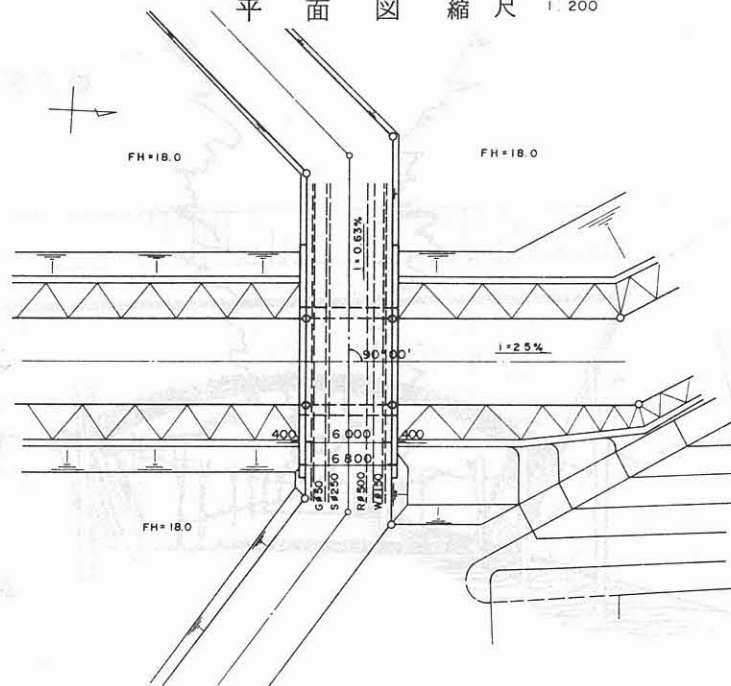
D.L. = 0.000

勾配					
計画高	14.075	12.385	12.300	12.215	12.075
地盤高					
追加距離	71,000	3,400	0,000	3,400	9,000
単距離	0,000	16,000	3,400	3,400	5,600
測点	NO. 3 11,000	NO. 4 27,000	NO. 0 34,000	34,000	9,000

断面図縮尺 1:200



平面図縮尺 1:200



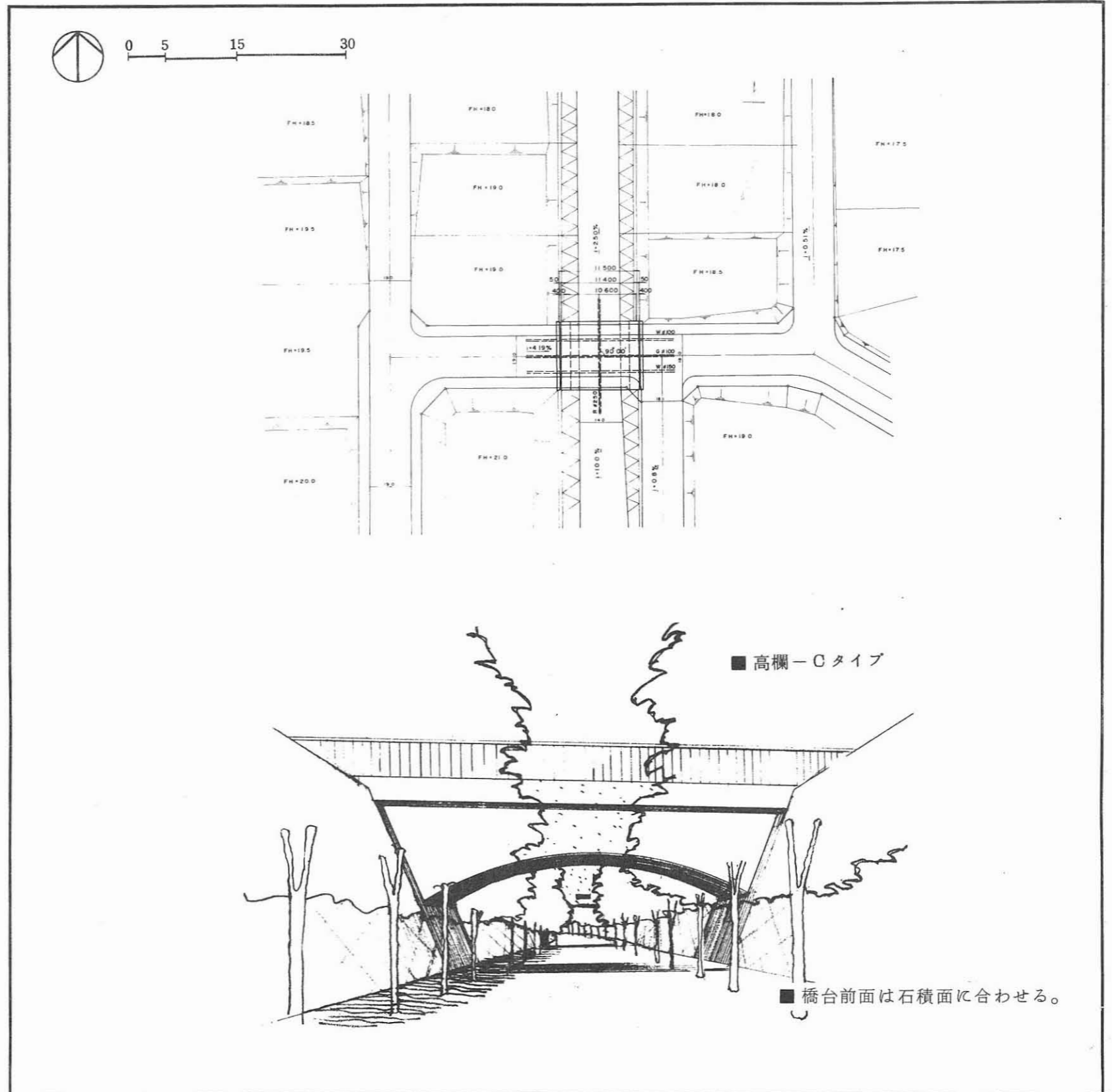
支 承	—
伸縮装置	—
踏掛板	無
計画添加物	無

B-15

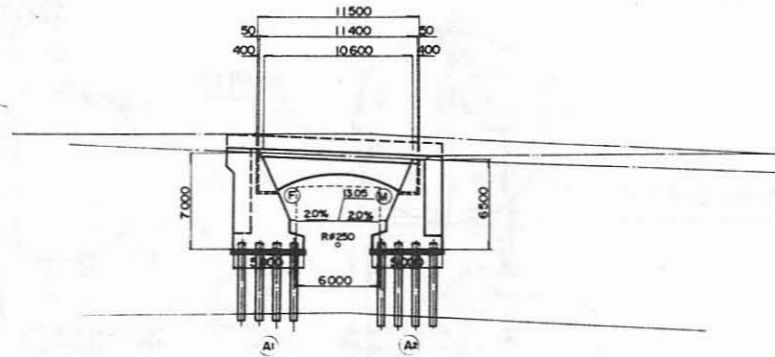


交差形態 道路／歩専道
 管理区分 b-1
 巾員 9.0m / 6.0m
 橋梁タイプ インターミディエート
 構造形式 RC単純T桁
 橋長・巾員 11.5m・9.0m
 設計荷重 TL-20
 設計意図

1. 同一ルート上に隣接してB-14があるので統一したイメージとする。
2. アーチ形の曲線を入れることにより柔らかさを出す。
3. 添加物があるため、桁型式とする。



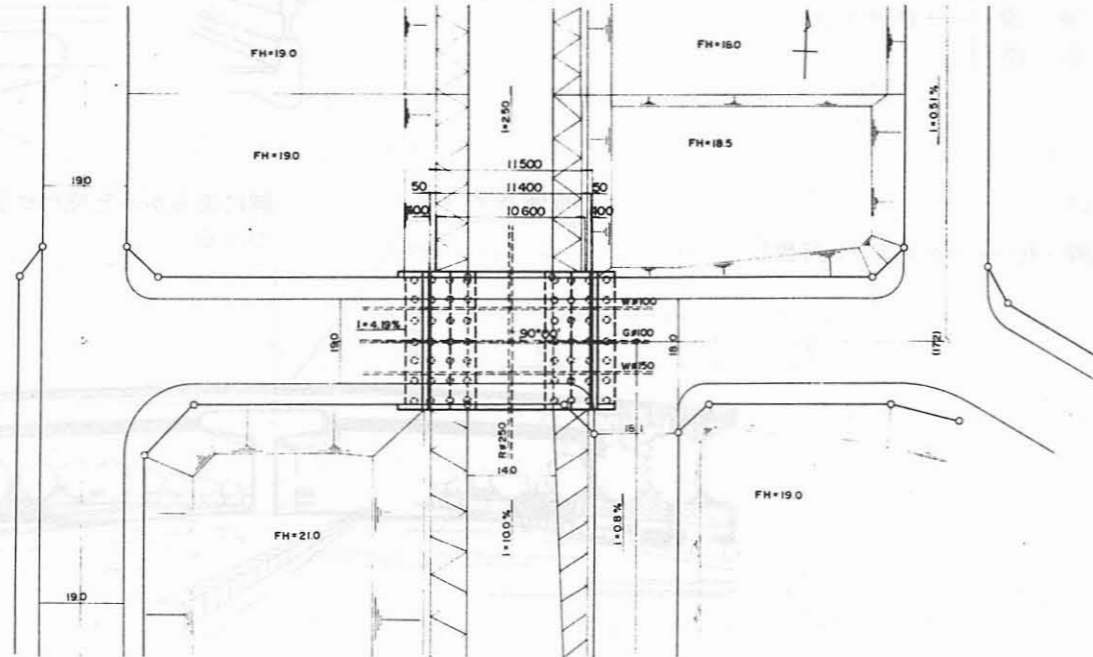
側面図縮尺 1:200



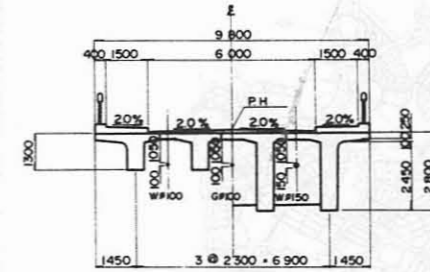
DL=0.000

勾配	1:4.19% L=43.000			
計画高	19.000	18.498	17.659	17.200
地盤高				
追加距離	12.000	0.000	20.000	30.900
単距離	0.000	12.000	20.000	10.900
測点	-12.000	NO 0	NO 1	-10.900

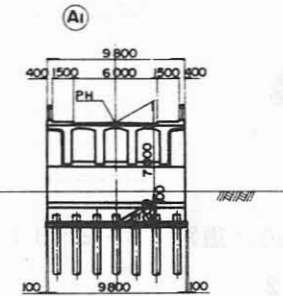
平面図縮尺 1:200



標準断面図縮尺 1:100



断面図縮尺 1:200



支 承	A-タイプ
伸縮装置	A, B-タイプ
踏掛板	無
計画添加物	Wφ100, Gφ100, Wφ150

C-1

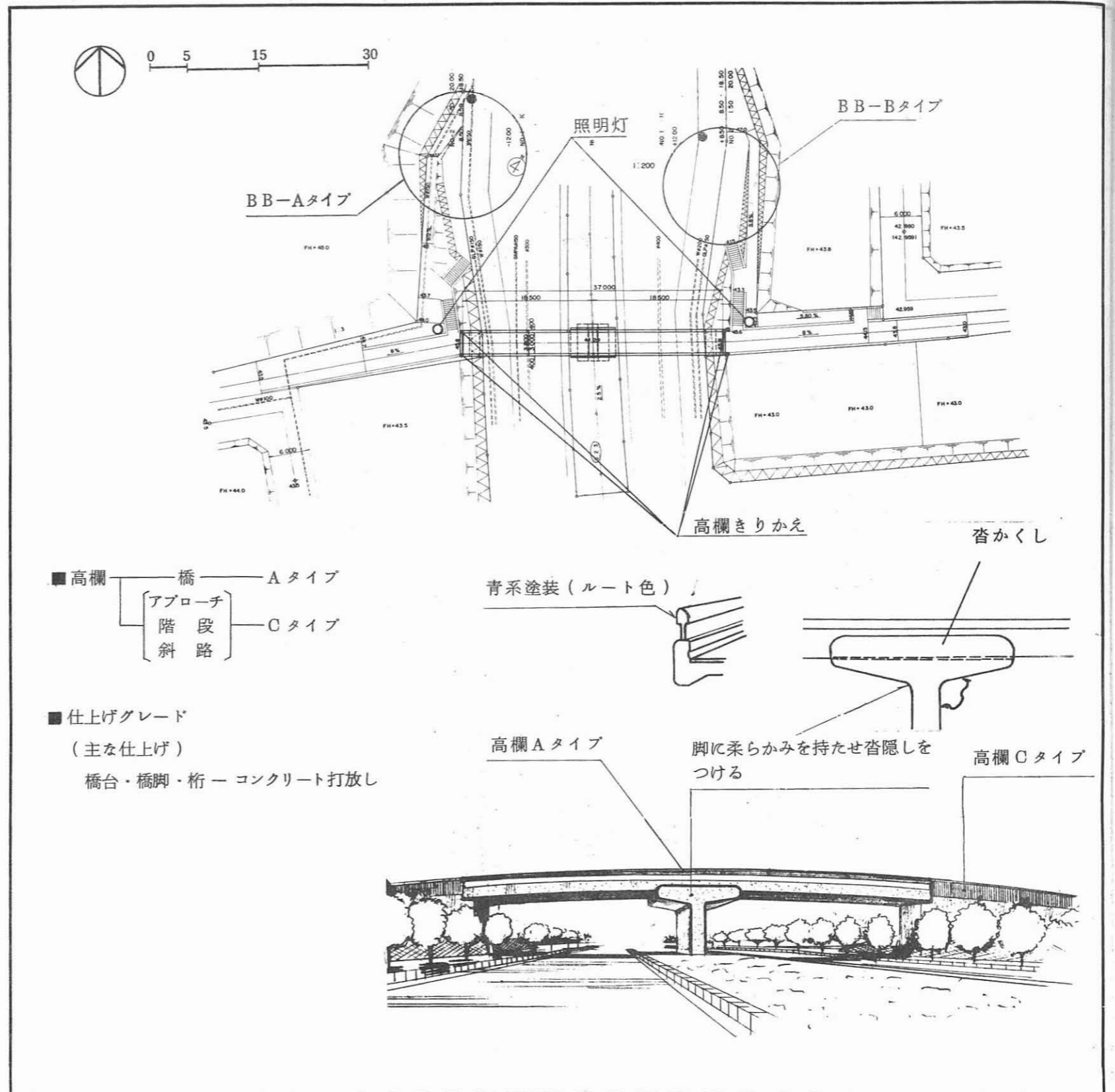


交差形態 歩専道/道路 (3・2・3)
 管理区分 b-2
 巾員 3.0m / 33.0m
 橋梁タイプ インターミディエート
 (幹線道路系・ルート色)

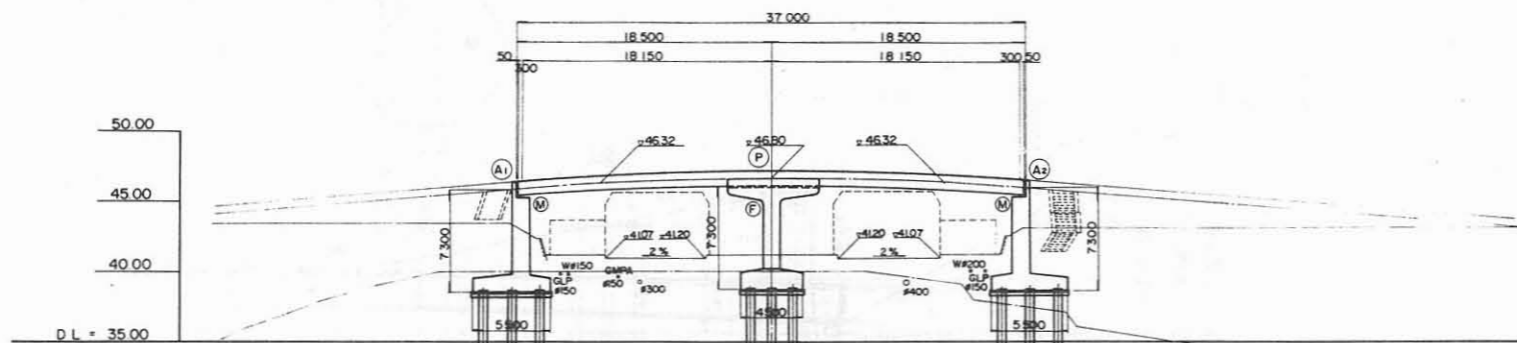
構造形式 PC 2 径間連続下路桁
 橋長・巾員 37.0m・3.0m
 設計荷重 $W = 350 \text{ Kg/m}^2$

設計意図

1. 都計道 3・2・3 にかかる橋として統一性をもたした。
2. 縦断勾配を 8% 以内におさえるために下路橋とした。

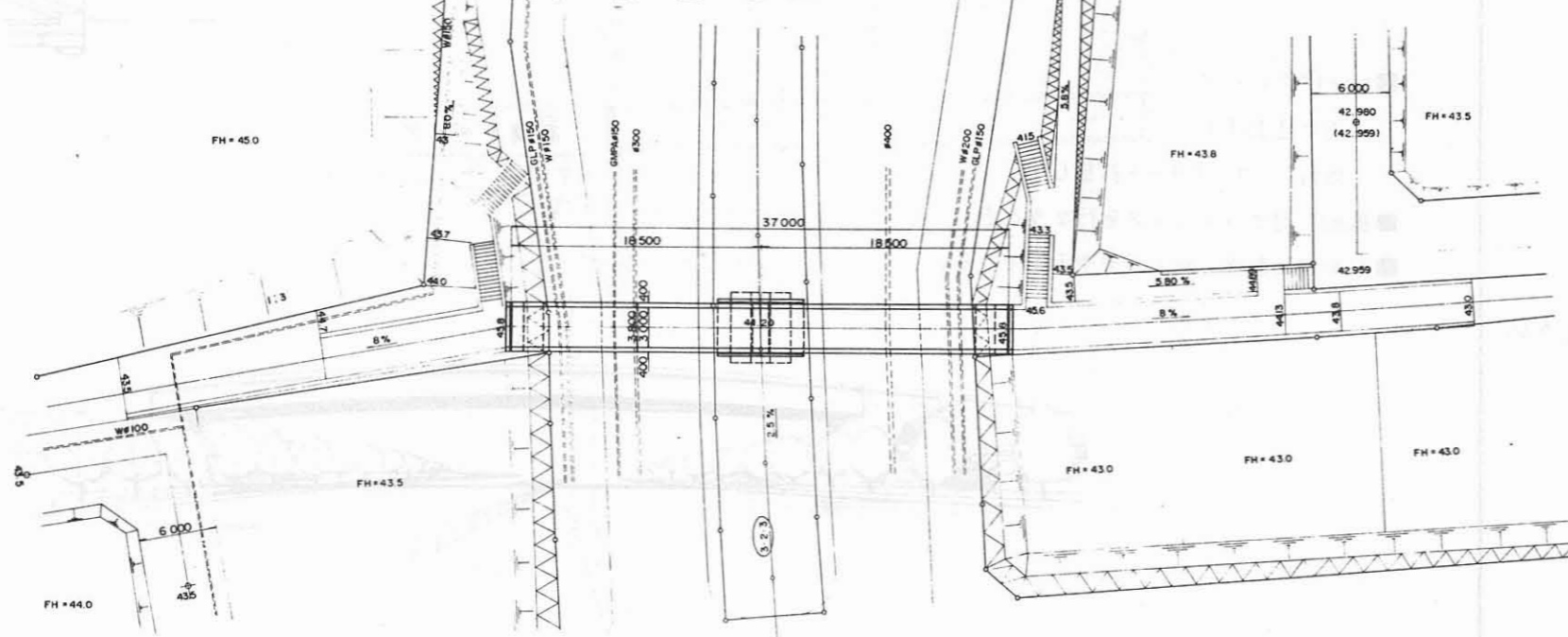


側面図縮尺 1:200

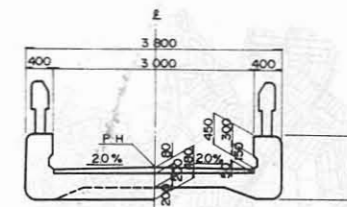


勾配	1-8.00%		V.C.L. = 24.00m		1-8.00%	
計画高	44.88	45.88	46.47	46.47	44.88	44.88
地盤高	45.00	45.40	40.95	40.95	43.00	43.00
追加距離	30.00	20.00	10.00	10.00	30.00	50.00
単距離	10.00	8.50	0.00	1.50	10.00	10.00
測点	NO.3	NO.2	NO.1	NO.0	NO.1	NO.5

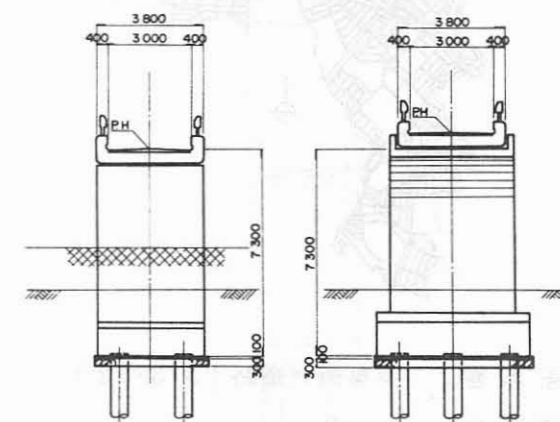
平面図縮尺 1:200



標準断面図縮尺 1:40



断面図縮尺 1:100



支 承	A-タイプ
伸縮装置	A-タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無

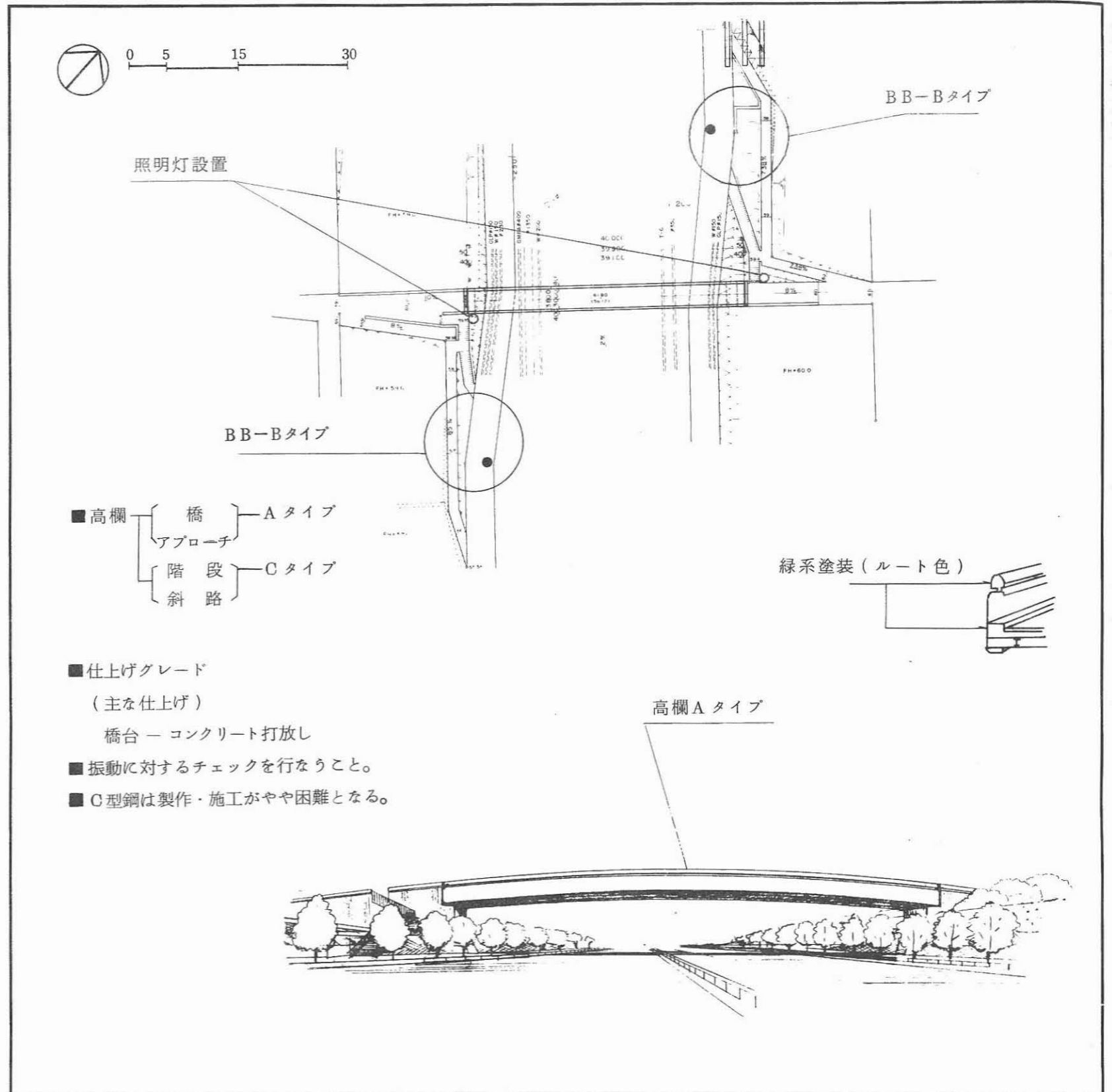
C-4



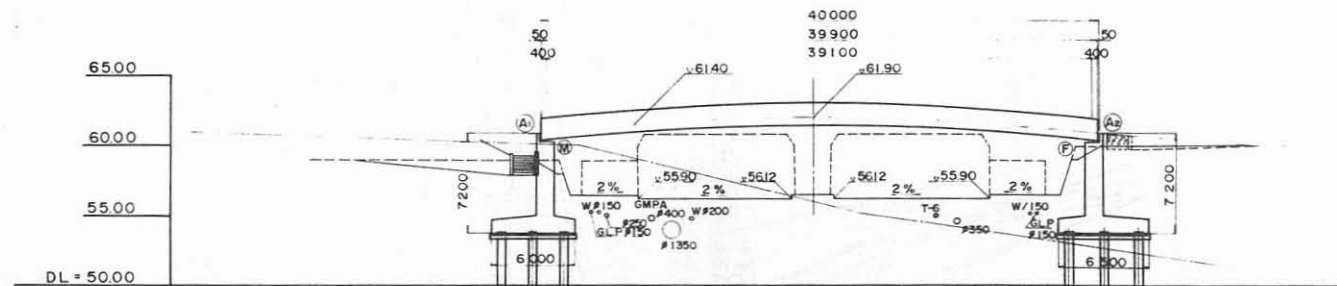
交差形態 歩専道/道路(3・3・32)
 管理区分 b-2
 巾員 3.0m / 32.0m
 橋梁タイプ インターミディエート
 (幹線道路系・ルート色)

構造形式 鋼単純C桁橋
 橋長・巾員 40.0m・3.0m
 設計荷重 $W = 350 \text{ Kg/m}^2$
 設計意図

1. 経済性をはかり、美観上フランジが見えないC型鋼を使用した。

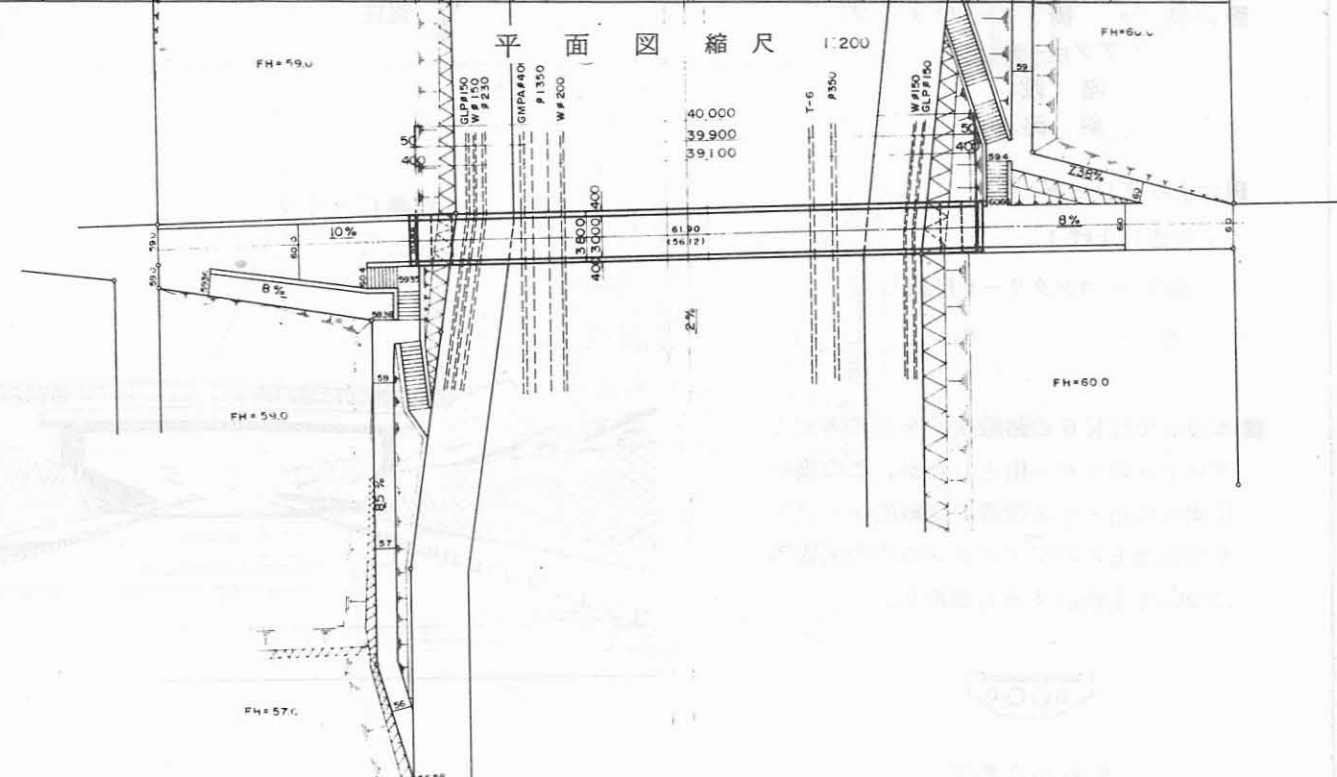


側面図縮尺 1:200

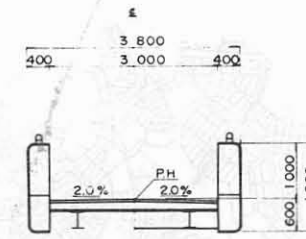


勾配	1.100%		1.800% (V.C.L.+25.0)		8.00%	
計画高	59.790		61.580		61.580	
地盤高	60.840 (60.840)		61.580		61.580	
追加距離	30.00		10.00		30.00	
単距離	10.00		0.00		9.55	
測点	NO. 3		NO. 1		NO. 2	

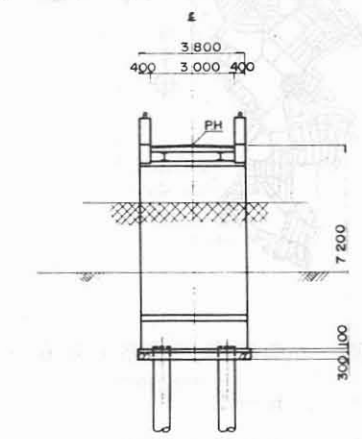
平面図縮尺 1:200



標準断面図縮尺 1:50



断面図縮尺 1:100



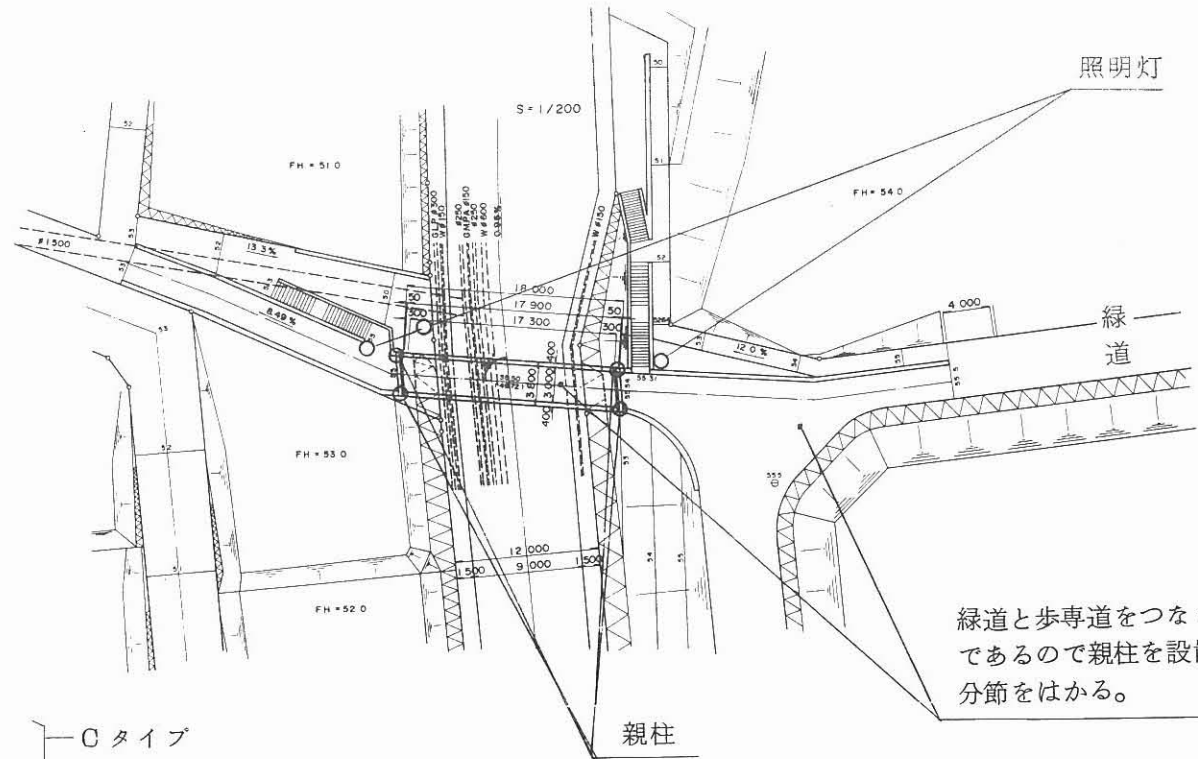
支 承	Eタイプ
伸縮装置	Aタイプ
踏掛板	無
計画添加物	無

C-5



交差形態 歩専用/道路 (K6)
 管理区分 b-2
 巾員 3.0m / 12.0m
 橋梁タイプ インターミディエート
 構造形式 PC単純ホロー桁
 橋長・巾員 18.0m・3.0m
 設計荷重 $W = 350 \text{ Kg/m}^2$
 設計意図

1. K6にかかる橋として統一性をもたした。
2. 経済性をはかった。



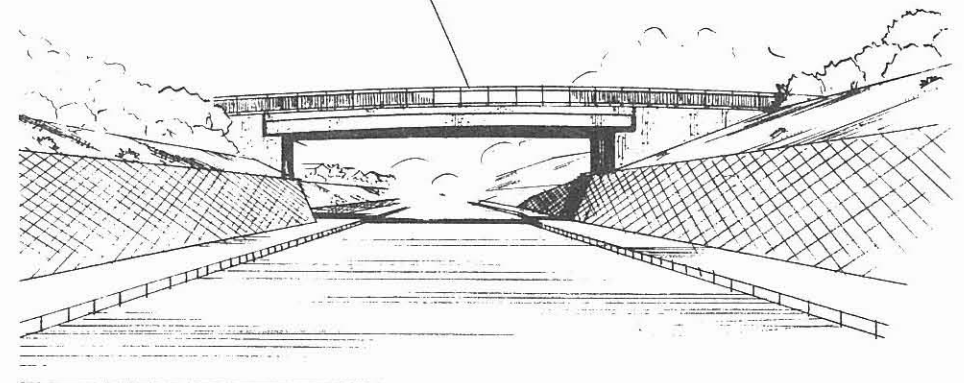
緑道と歩専用をつなぐ橋であるので親柱を設置し分節をはかる。

■高欄 — 橋 — Cタイプ
 — アプローチ
 — 階段
 — 斜路

■仕上げグレード
 (主な仕上げ)
 橋台 — コンクリート打放し
 桁 — "

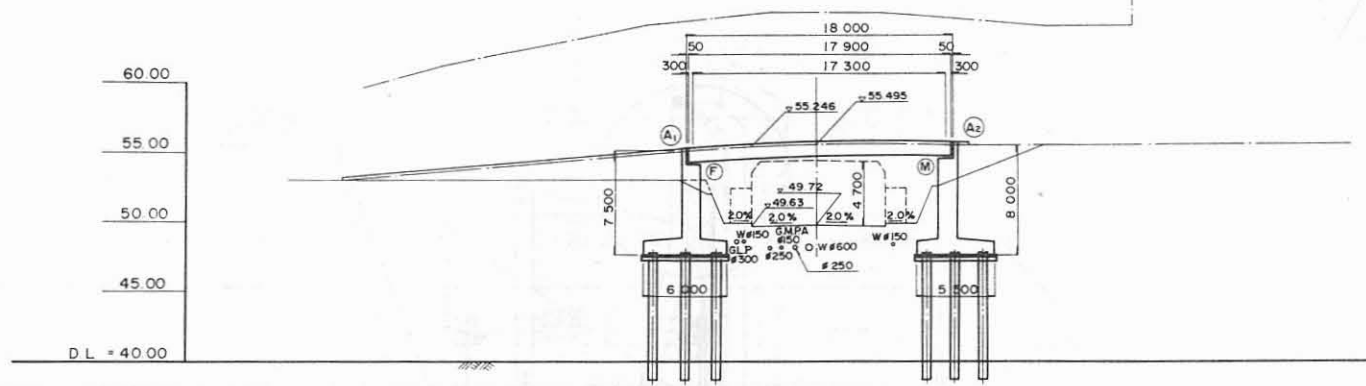
■本設計ではK6の路線統一を主に考えてプレテンのホロー桁としたが、この橋の片側は緑道・中学校等の比較的オープンな空間であるのでポステンの中空床版等についても検討する必要あり。

高欄Cタイプ

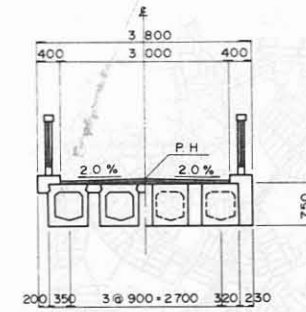


柔らかな断面

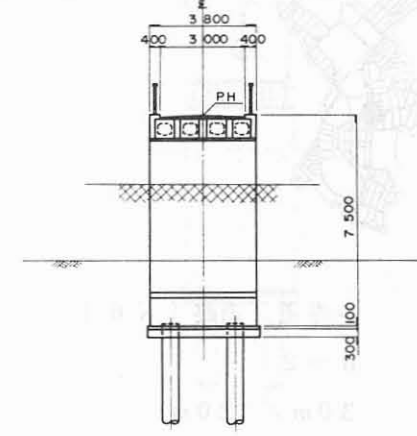
側面図縮尺 S=1/200



標準断面図縮尺 S=1/50

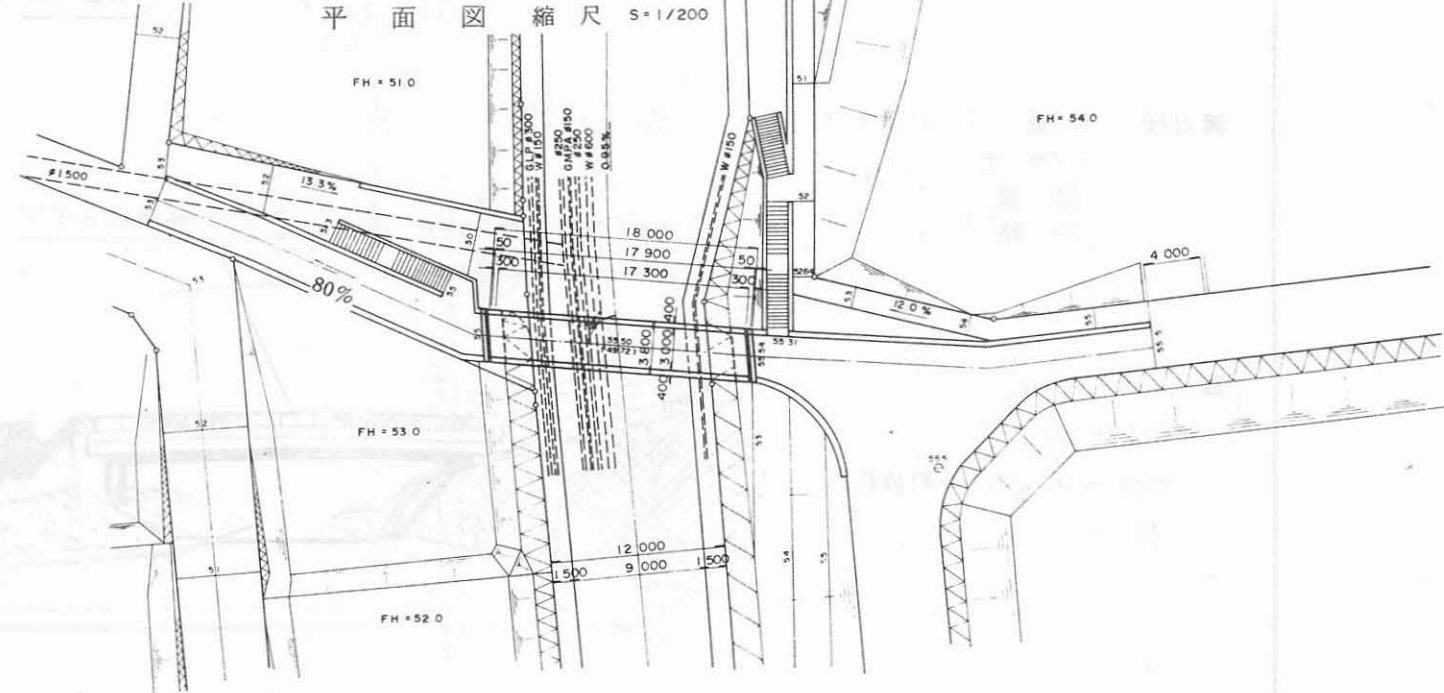


断面図縮尺 S=1/100



勾配	53.00	L=8.00% L=34.00		V.C.L=18.00	55.72	L=2.00% L=11.00		55.50	LEVEL	55.00
計画高	53.000	53.424	54.120	54.920	55.000	55.495	55.540	55.373	55.500	55.500
地盤高	53.00	53.00	53.00	53.00	53.00	49.72	53.37	53.37	55.500	55.500
追加距離	4.00	34.00	20.00	10.00	9.00	0.00	9.00	10.00	30.00	33.00
単距離	4.00	10.00	10.00	1.00	9.00	0.00	7.00	1.00	10.00	3.00
測点	-4.00	NO-3	NO-2	NO-1	NO-1	NO-0	NO-1	NO-1	NO-2	NO-3

平面図縮尺 S=1/200



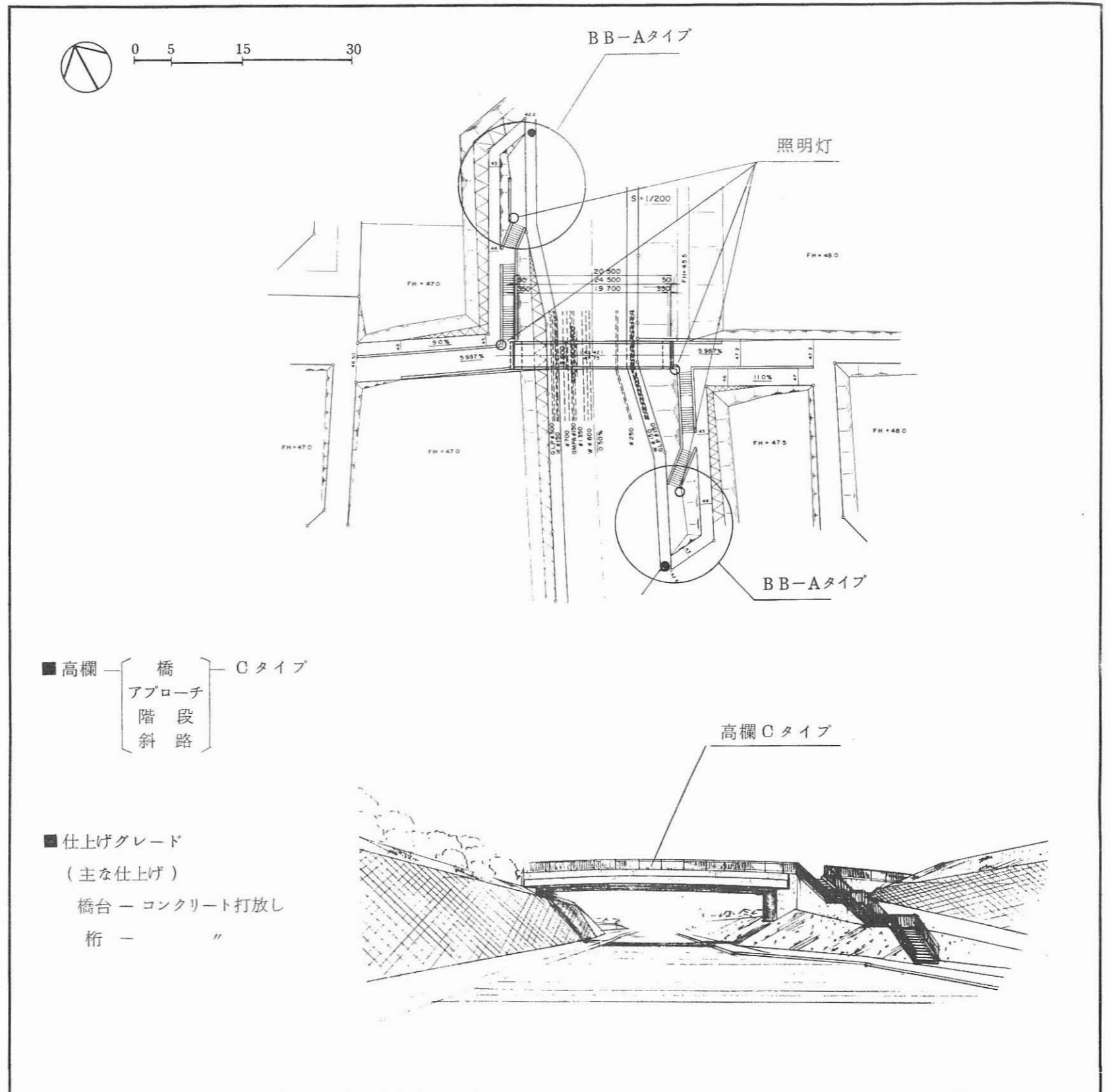
支 承	A-タイプ
伸縮装置	A-タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無

C-6

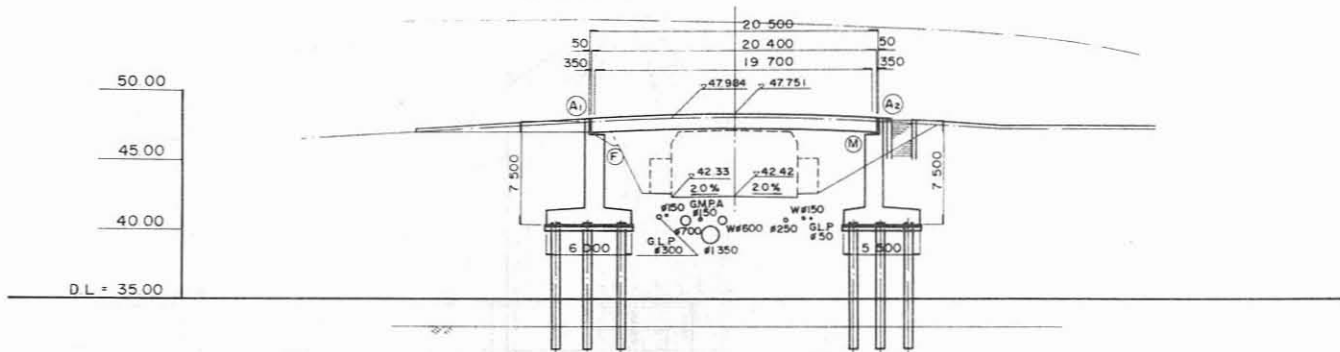


交差形態 歩専道/道路 (K6)
 管理区分 b-2
 巾員 3.0m / 12.0m
 橋梁タイプ インターミディエート
 構造形式 PC単純ホロー桁
 橋長・巾員 20.50m・3.0m
 設計荷重 $W = 350 \text{ Kg/m}$
 設計意図

1. K6にかかる橋として統一性をもたした。
2. 経済性をはかった。

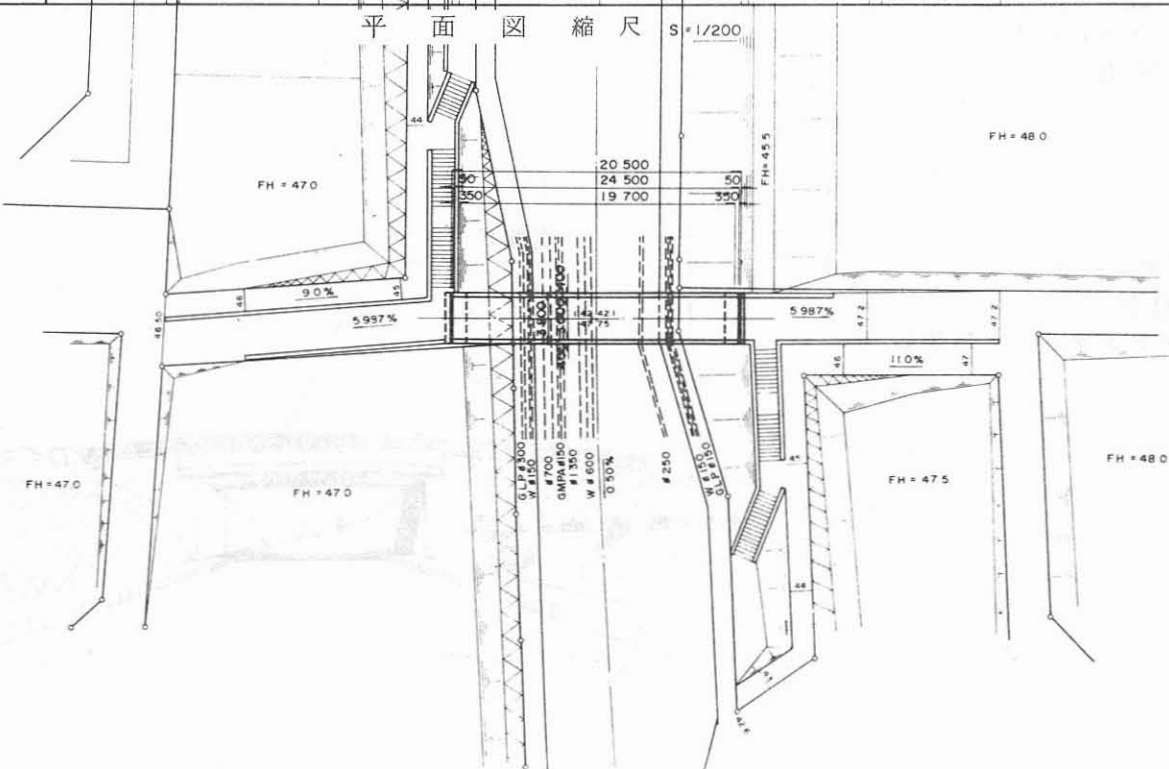


側面図縮尺 S=1/200

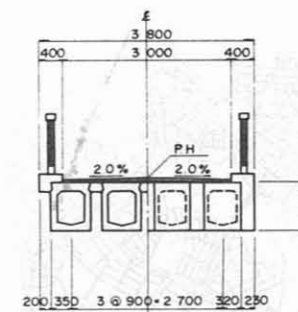


勾配	1:5.987% L=30.90		V.C.L.=20.50		1:5.987% L=19.21		LEVEL
計画高	46.500	46.554	47.153	47.736	47.751	47.751	47.200
地盤高			47.00	47.00	47.00	47.00	47.200
追加距離	30.90	30.00	20.00	2.25	0.00	10.25	28.50
単距離	0.90	16.00	9.75	2.25	0.00	10.25	8.50
測点	-0.90	NO-3	NO-2	NO-1	NO 0	NO 1	+850

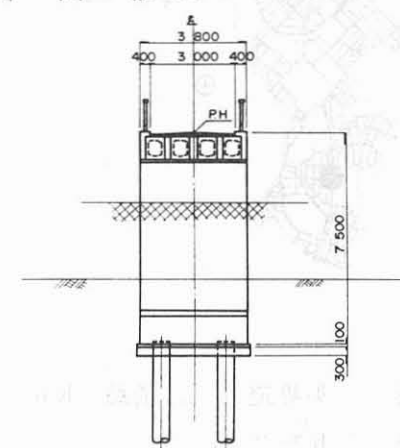
平面図縮尺 S=1/200



標準断面図縮尺 S=1/50



断面図縮尺 S=1/100



支 承	A-タイプ
伸縮装置	A-タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無

C-7



交差形態 歩専道 / 道路 (K6)
 管理区分 b-2
 巾員 3.0 m / 12.0 m
 橋梁タイプ インターミディエート

構造形式 PC単純ホロー桁
 橋長・巾員 14.0 m・3.0 m
 設計荷重 $W = 350 \text{ Kg/m}^2$

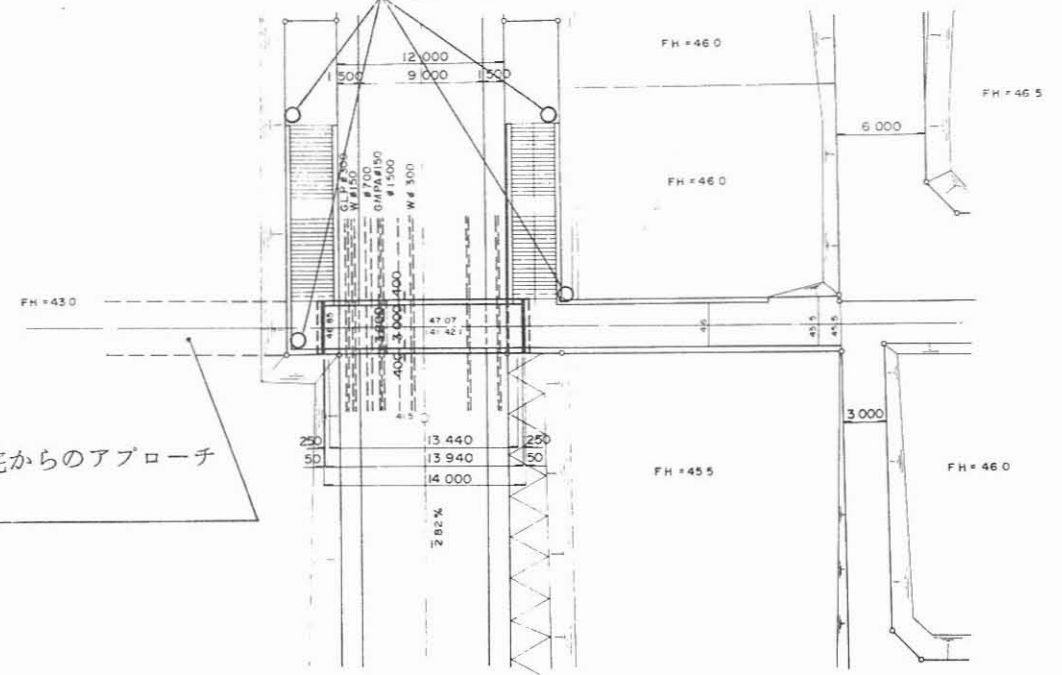
設計意図

1. K6にかかる橋として統一性をもたした。
2. 経済性をもたした。



0 5 15 30

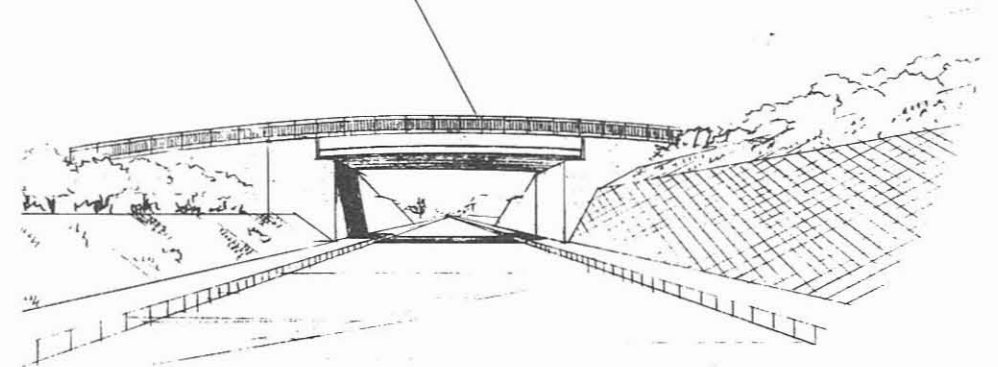
照明灯



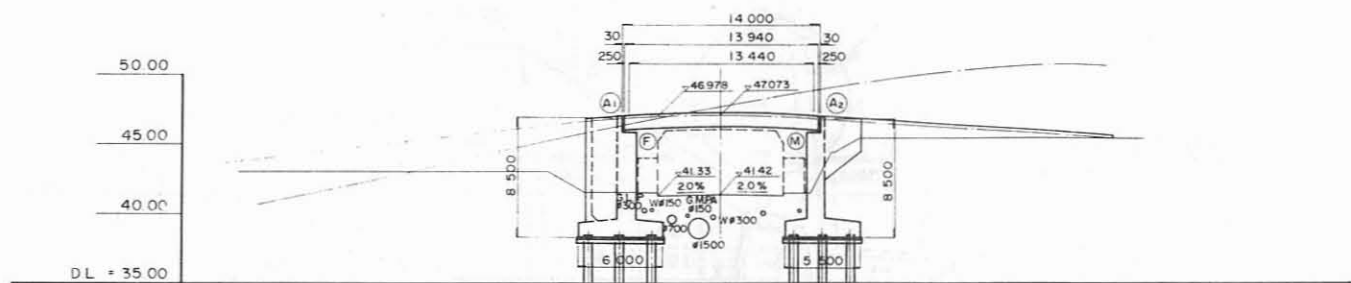
■高欄 — 橋
 — アプローチ
 — 階段 } Cタイプ

■仕上げグレード
 (主な仕上げ)
 橋台 — コンクリート打放し
 桁 — "

高欄Cタイプ

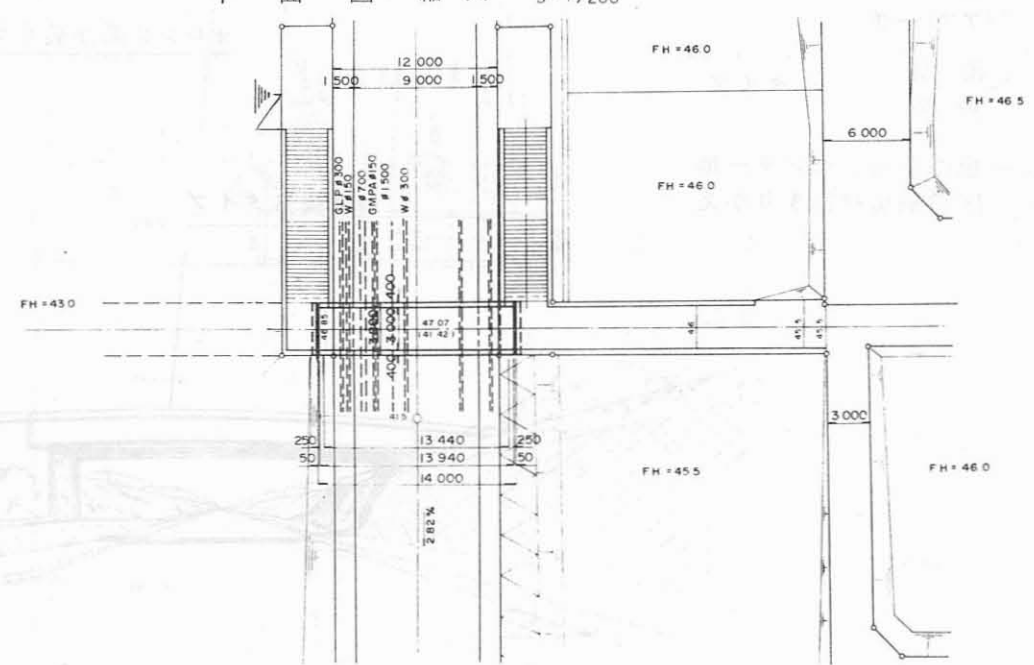


側面図縮尺 S=1/200

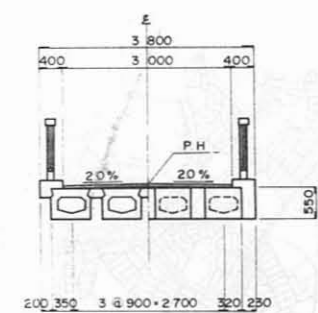


勾配								
計画高								
地盤高								
追加距離								
単距離								
測点								

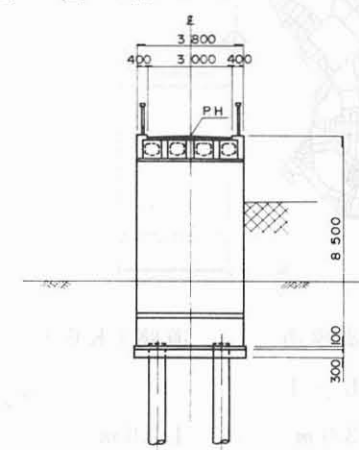
平面図縮尺 S=1/200



標準断面図縮尺 S=1/50



断面図縮尺 S=1/100



支 承	A - タイプ
伸縮装置	A - タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無

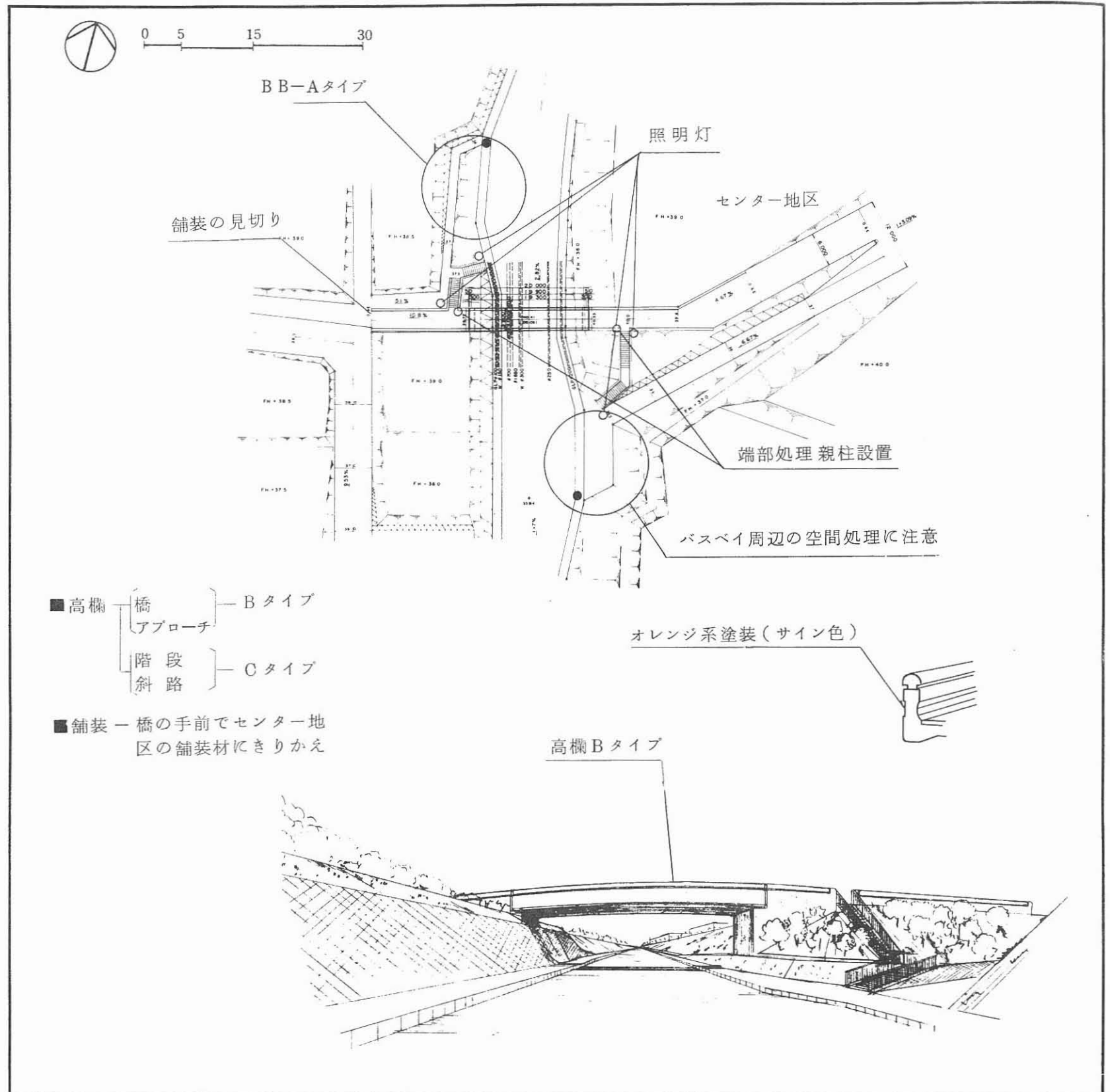
C-8



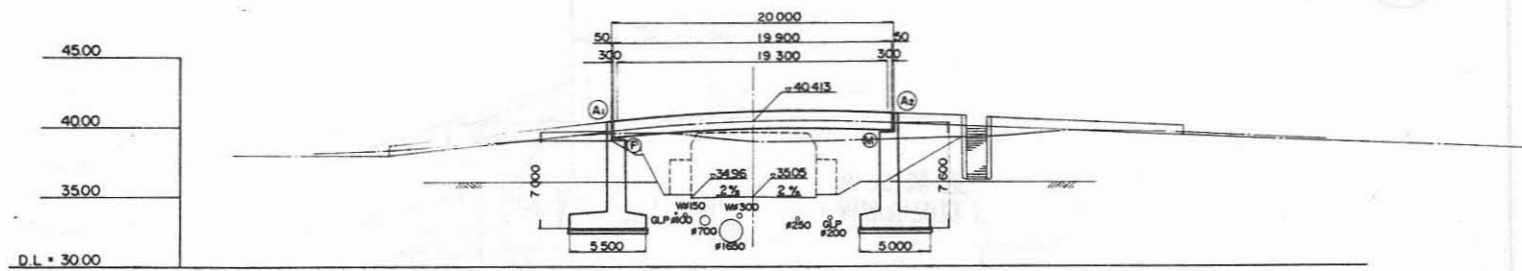
交差形態 歩専道 / 道路 (K6)
 管理区分 b-1
 巾員 3.0m / 12.0m
 橋梁タイプ フォーマル (センター系)
 (幹線道路系・サイン系)

構造形式 PC単純下路
 橋長・巾員 20.0m ・ 3.0m
 設計荷重 TL-14
 設計意図

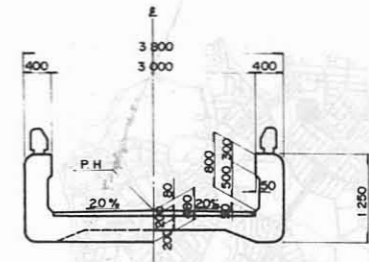
1. 縦断勾配がきついため、下路橋とした
2. K6の中で一橋だけ下路橋なのでサイン橋となる。



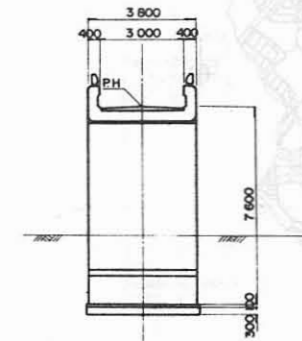
側面図縮尺 1:200



標準断面図縮尺 1:40

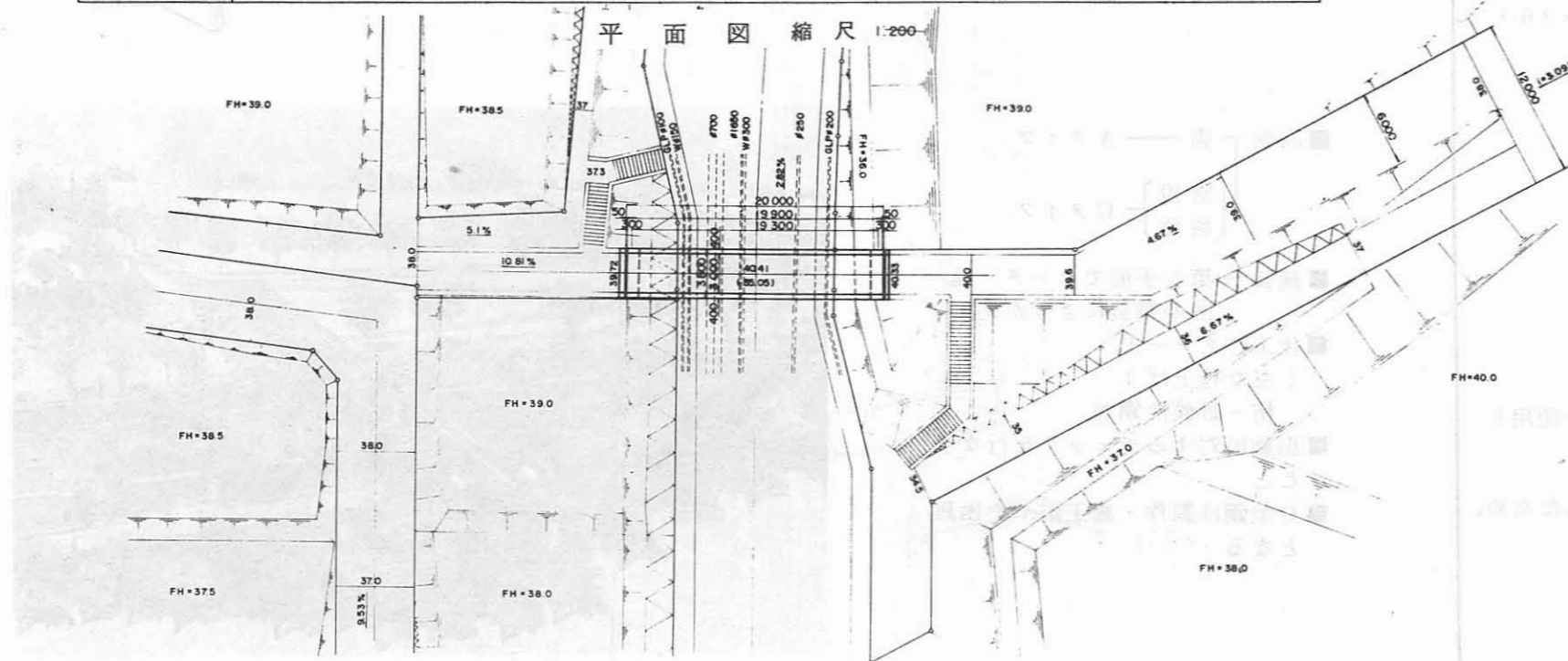


断面図縮尺 1:100



勾配	38.00		1-10.8%		2-25.69%		V.C.L.=20.00m		1-4.67%		2-60.00%		38.00
計画高	38.000	38.638	39.719	40.413	40.333	39.867	39.400						
地盤高				35.05									
追加距離	25.90	20.00	10.00	0.00	10.00	20.00	30.000						
単距離	5.90	10.00	10.00	0.00	10.00	10.00	10.00						
測点	-5.90	NO. 2	NO. 1	NO. 0	NO. 1	NO. 2	NO. 3						

平面図縮尺 1:200



支 承	A - タイプ
伸縮装置	A - タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無

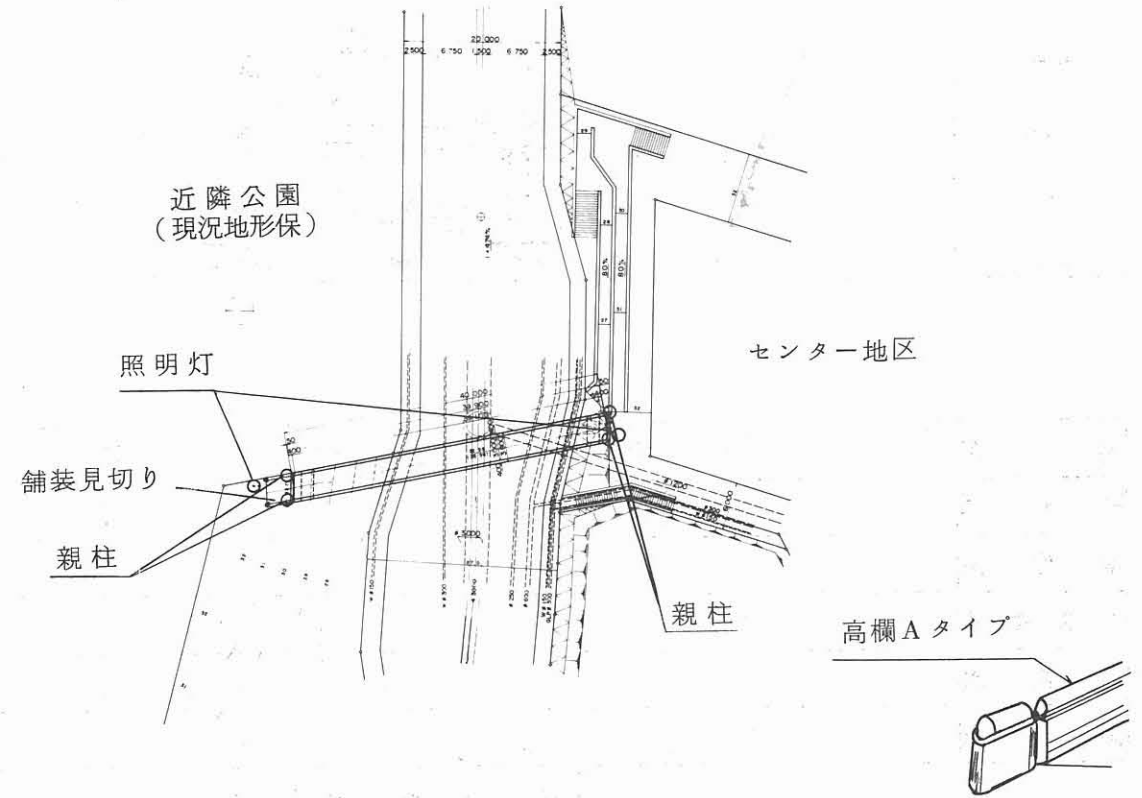
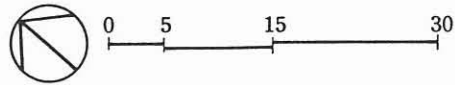
C-9



交差形態 歩専道 / 道路(3・4・36)
 管理区分 b-2
 巾員 3.0 m / 20.0 m
 橋梁タイプ フォーマル(センター系)

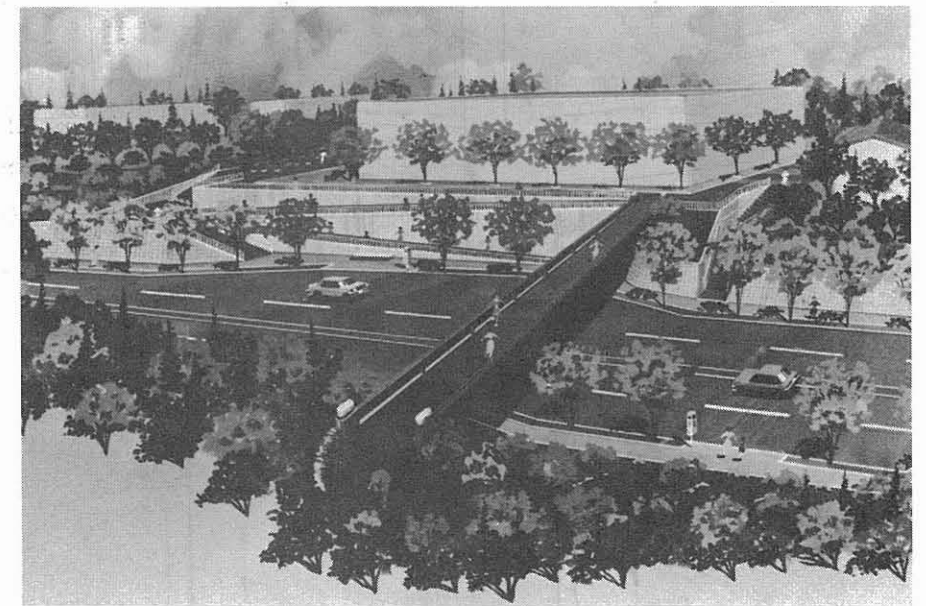
構造形式 鋼単純C型桁
 橋長・巾員 40.0 m・3.0 m
 設計荷重 $W = 350 \text{ Kg/m}^2$
 設計意図

1. 美観上、フランジがみえないC型鋼を使用した。
2. 現況地形を生かすために橋長を長くしたため、鋼橋となった

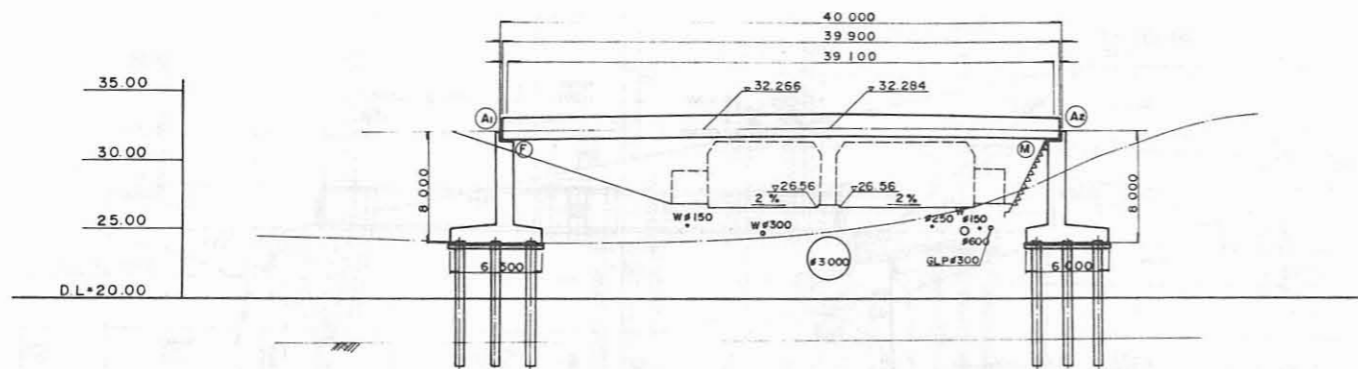


■高欄 橋 — Aタイプ
 └─ [階段] — Cタイプ
 └─ [斜路]

- 舗装 — 橋の手前でセンター地区の舗装にきりかえ
- 仕上げグレード (主な仕上げ) 桁—耐候性鋼等
- 振動に対するチェックを行なうこと
- C型鋼は製作・施工がやや困難となる

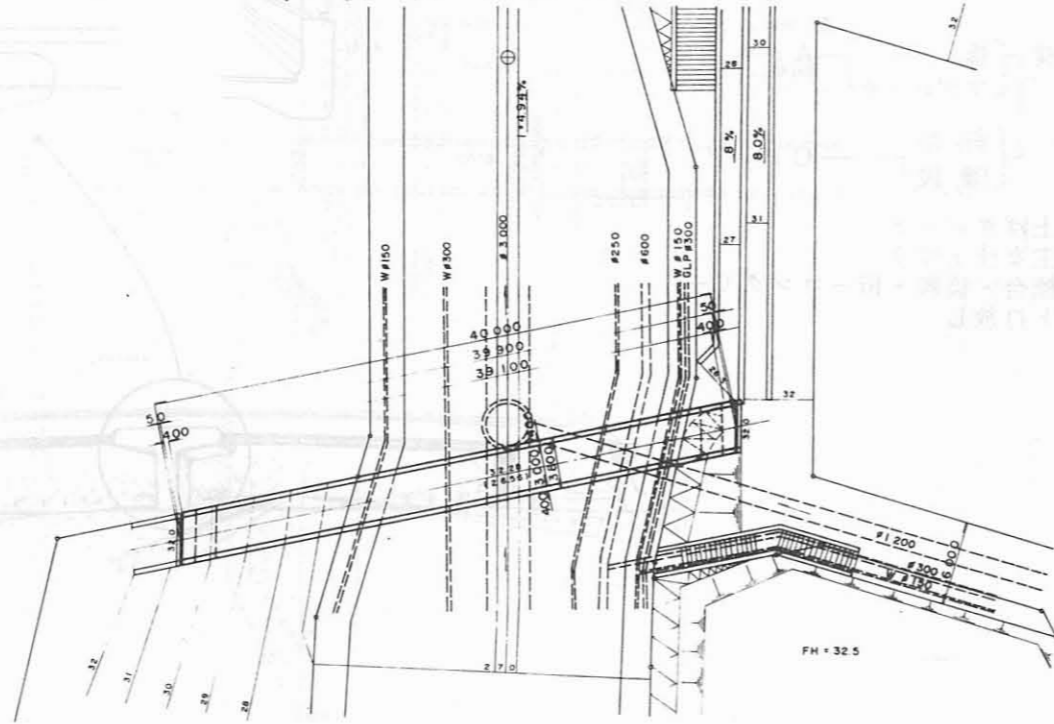


側面図縮尺 1:200

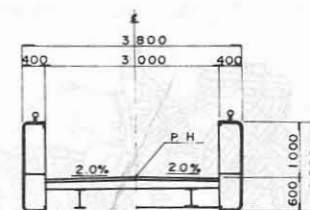


勾配	LEVEL									
計画高		32.000	32.074	32.148	32.252	32.284	32.102	32.000	32.000	
地盤高	32.00	32.00	32.00	32.00	32.00	32.00	32.00	32.00	32.00	32.00
追加距離	3.0	2.5	2.0	1.6	1.0	0.0	1.0	1.6	2.0	3.0
単距離	6.5	3.5	3.5	6.5	10.0	0.0	10.0	6.5	3.5	6.5
測点	NO.3	-3.5	NO.2	-6.5	NO.1	NO.0	NO.1	+6.5	NO.2	

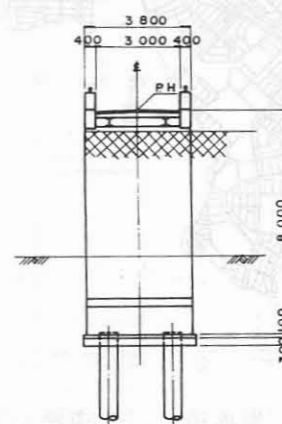
平面図縮尺 1:200



標準断面図縮尺 1:50



断面図縮尺 1:100



支 承	E - タイプ
伸縮装置	A - タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無

C-10

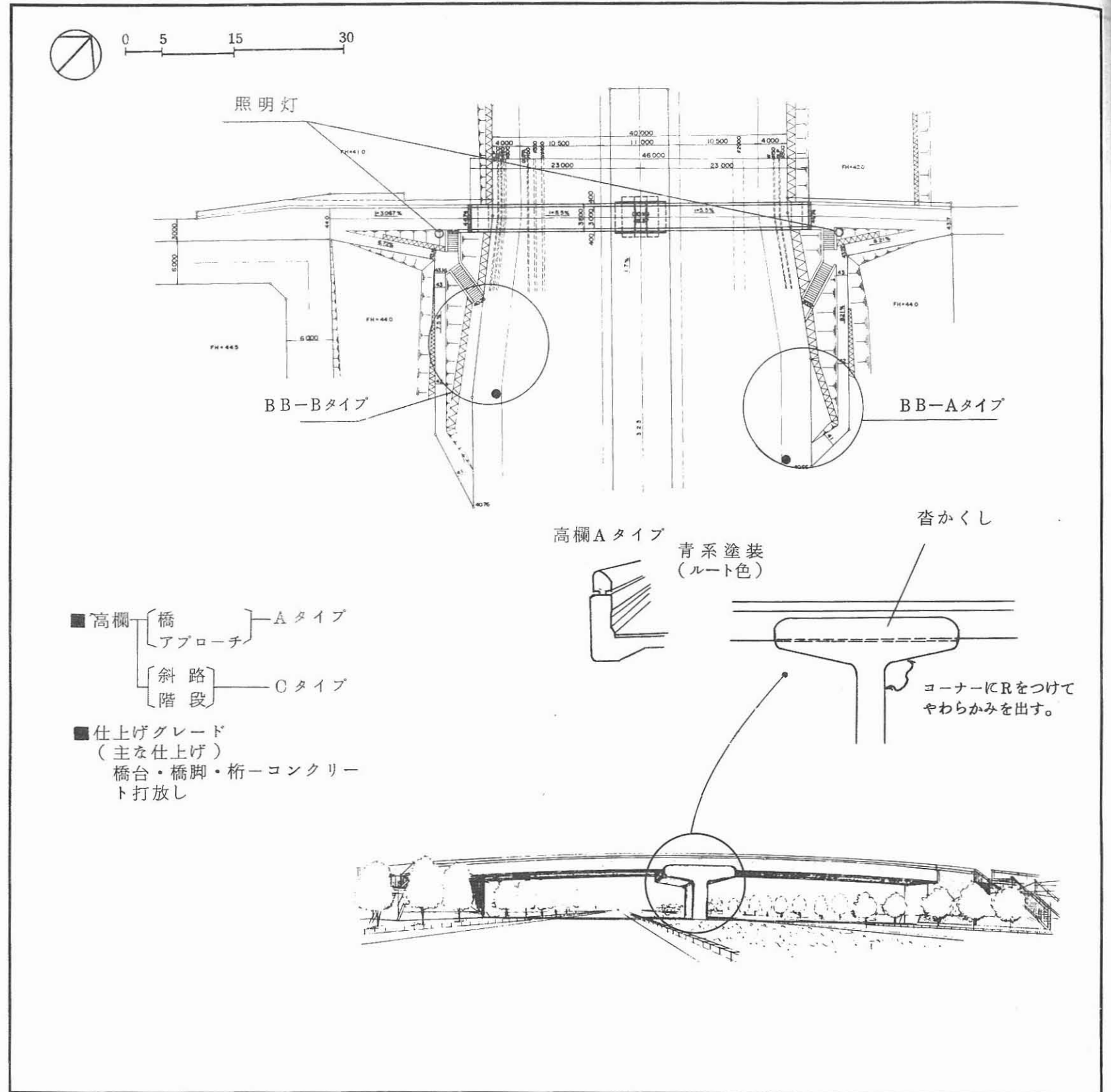


交差形態 歩専道 / 道路 (3・2・3)
 管理区分 b-2
 巾員 3.0 m / 4.0 m
 橋梁タイプ インターメディアート (幹線道路系・ルート色)

構造形式 PC 2 径間連続下路
 橋長・巾員 46.0 m・3.0 m
 設計荷重 $W = 350 \text{ Kg/m}^2$

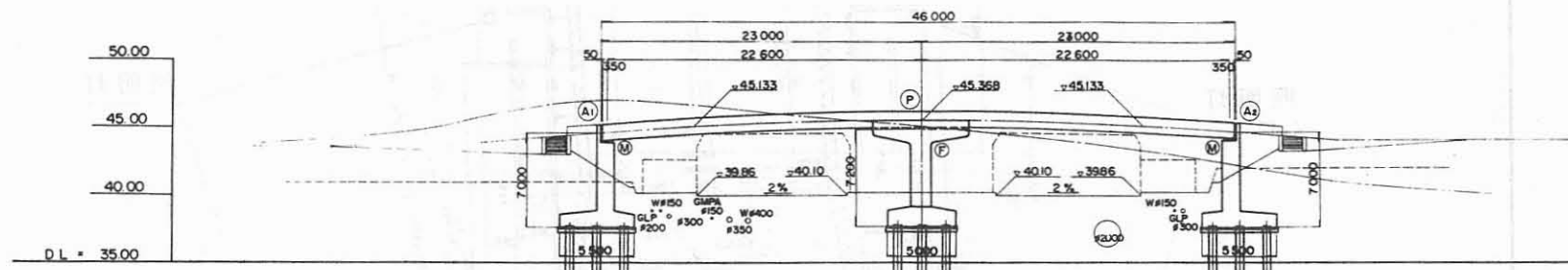
設計意図

1. 都計道 3・2・3 にかかる橋として、統一性をもたした。
2. 縦断勾配を 8% 以内におさえるために下路橋とした。



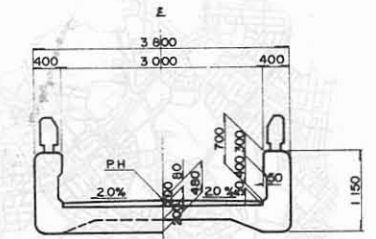
- 高欄
 - 橋
 - アプローチ
 - 斜路
 - 階段
 Aタイプ
 Cタイプ
- 仕上げグレード
 (主な仕上げ)
 橋台・橋脚・桁-コンクリート打放し

側面図縮尺 1:200

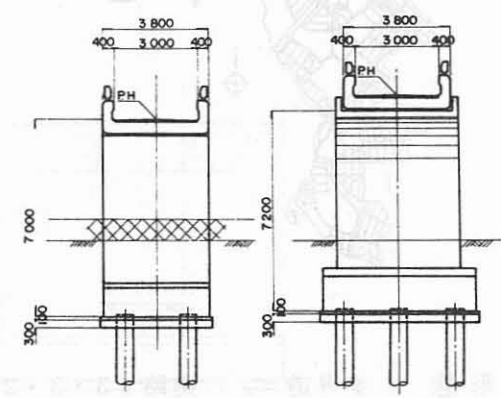


勾配		1:3.067% 1:15.000		1:5.5% 1:25.500		1:5.5% 1:418.18		
計画高	44.00	44.02	44.462	44.523	44.737	44.889	45.248	45.248
地盤高	43.38	43.38	41.00	41.00	40.10	40.10	39.95	45.248
追加距離	40.00	40.00	30.00	28.00	25.50	23.00	20.00	40.10
単距離	0.50	10.00	4.50	2.50	2.50	3.00	10.00	10.00
測点	-0.56 NO.4		NO.3	-8.00	-8.500	-3.00	NO.2	NO.1

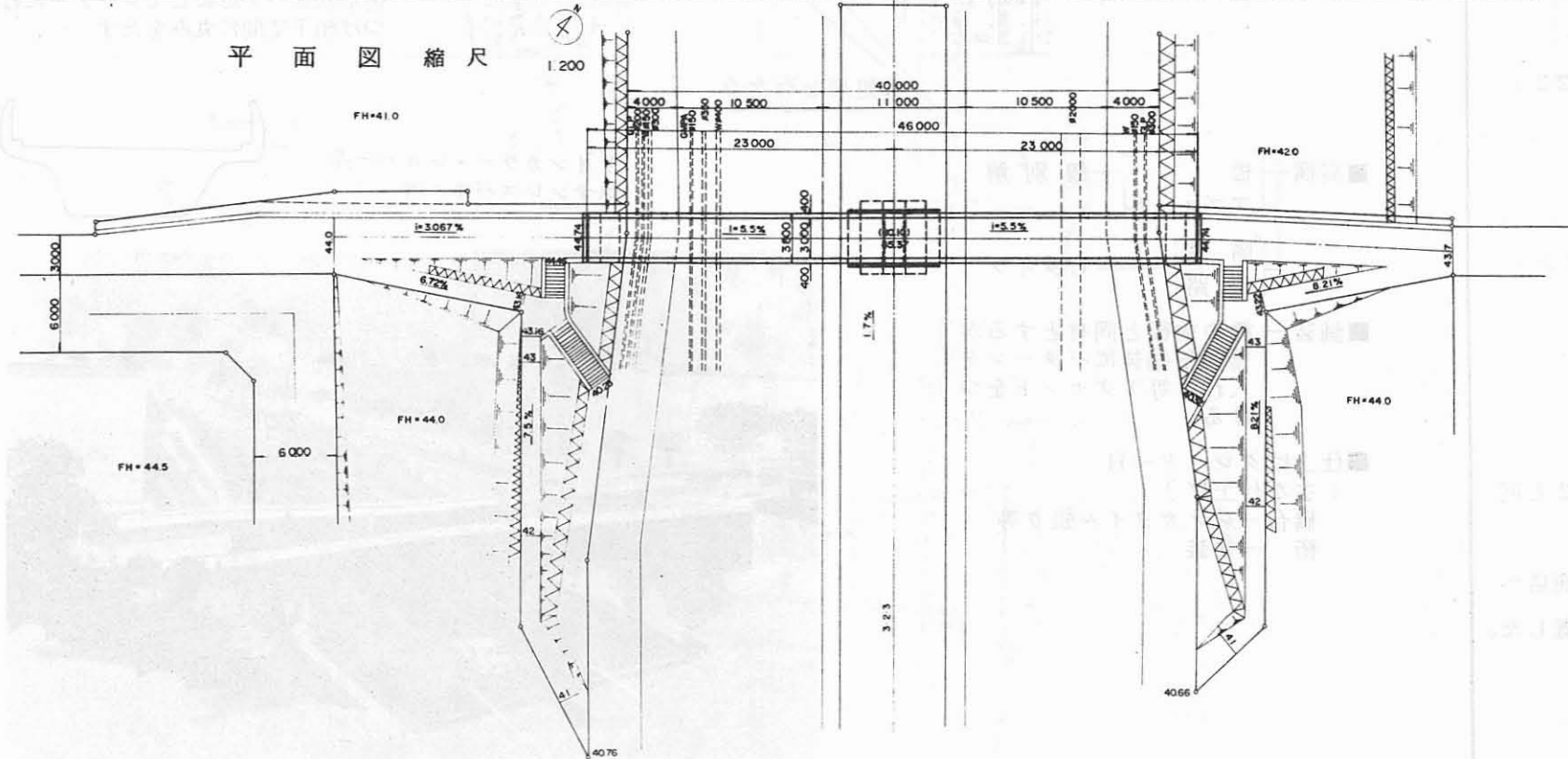
標準断面図縮尺 1:40



断面図縮尺 1:100

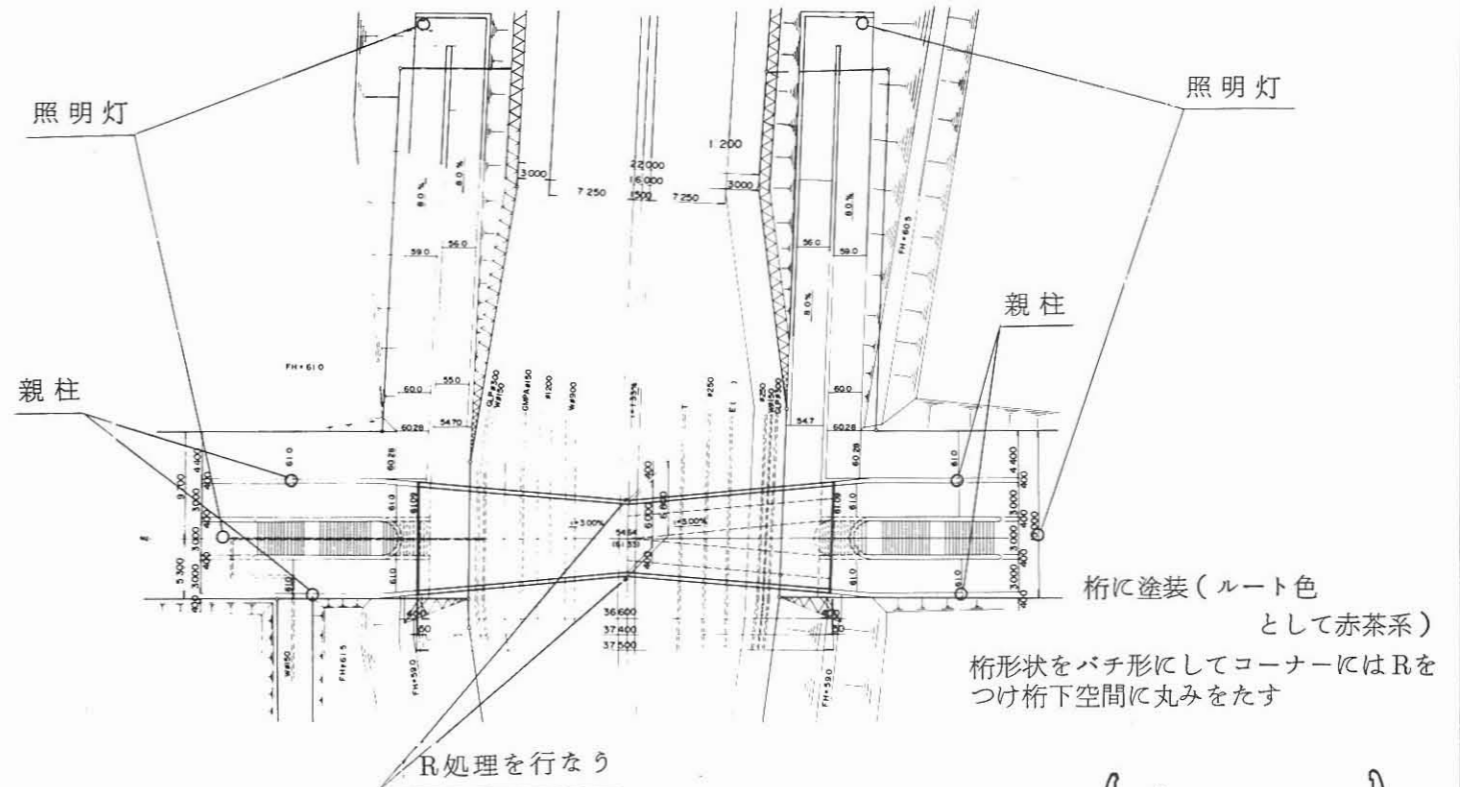
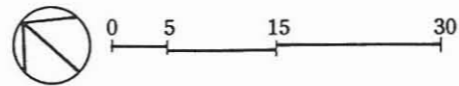


平面図縮尺 1:200



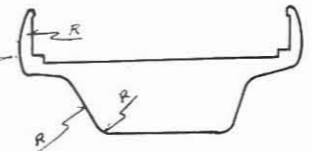
支 承	A - タイプ
伸縮装置	A - タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無

C-11



桁に塗装(ルート色として赤茶系)
桁形状をバチ形にしてコーナーにはRをつけ桁下空間に丸みをたす

サインカラー・シルバー系
ステンレスパネル等



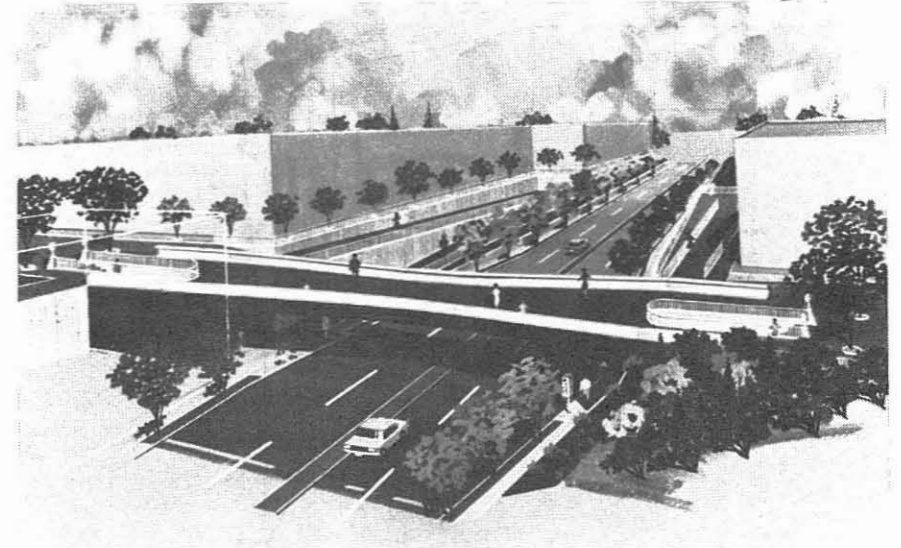
交差形態 歩専道 / 道路(3・3・22)
管理区分 b-1
巾員 6.0m / 22.0m
橋梁タイプ フォーマル(センター系)
(幹線道路系・サイン)
構造形式 PC単純ボックス桁
橋長・巾員 37.50m・6.0m
設計荷重 TL-14

■高欄 [橋] 個別解
[アプローチ]
[階段] Cタイプ
[斜路]

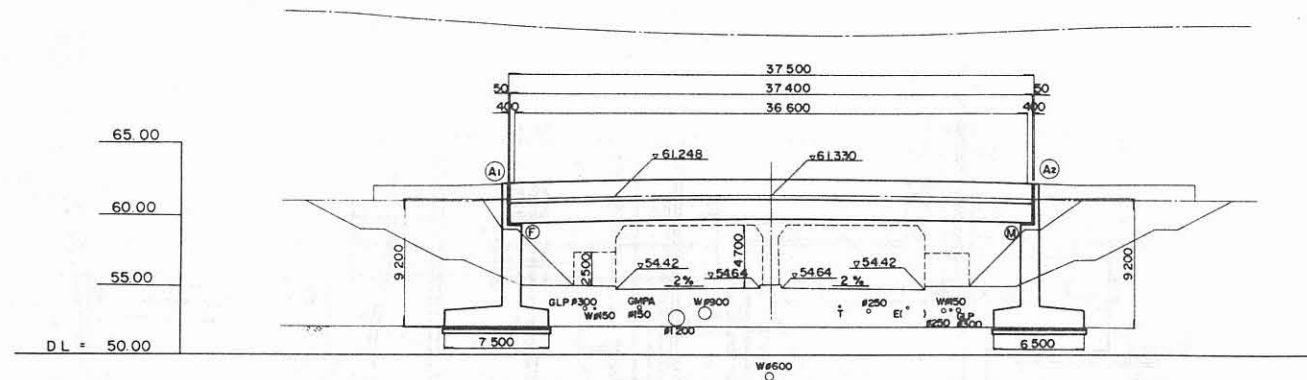
■舗装 一橋の前後と同材とするが橋梁部舗装にパターンを入れる等アクセントをつける

■仕上げグレード-H
(主な仕上げ)
橋台-レンガタイル張り等
桁-塗装

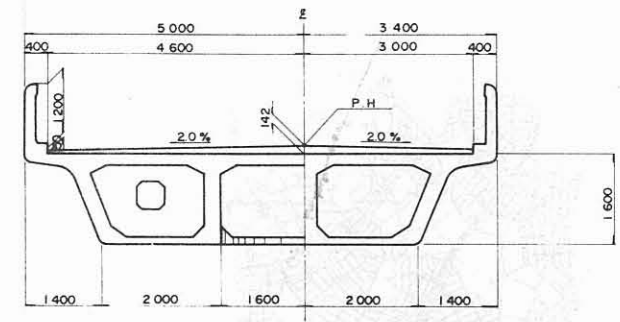
- 設計意図
1. A-2と近接しており、桁型式をA-2と同一型式とした。
 2. センターの商業施設を結ぶ橋であり、商店への出入りを考慮し、橋の中央は階段を配置した。



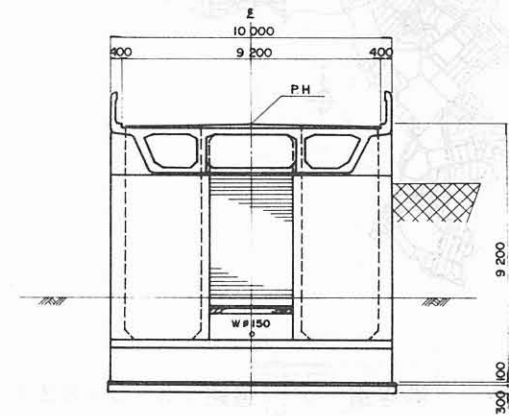
側面図縮尺 1:200



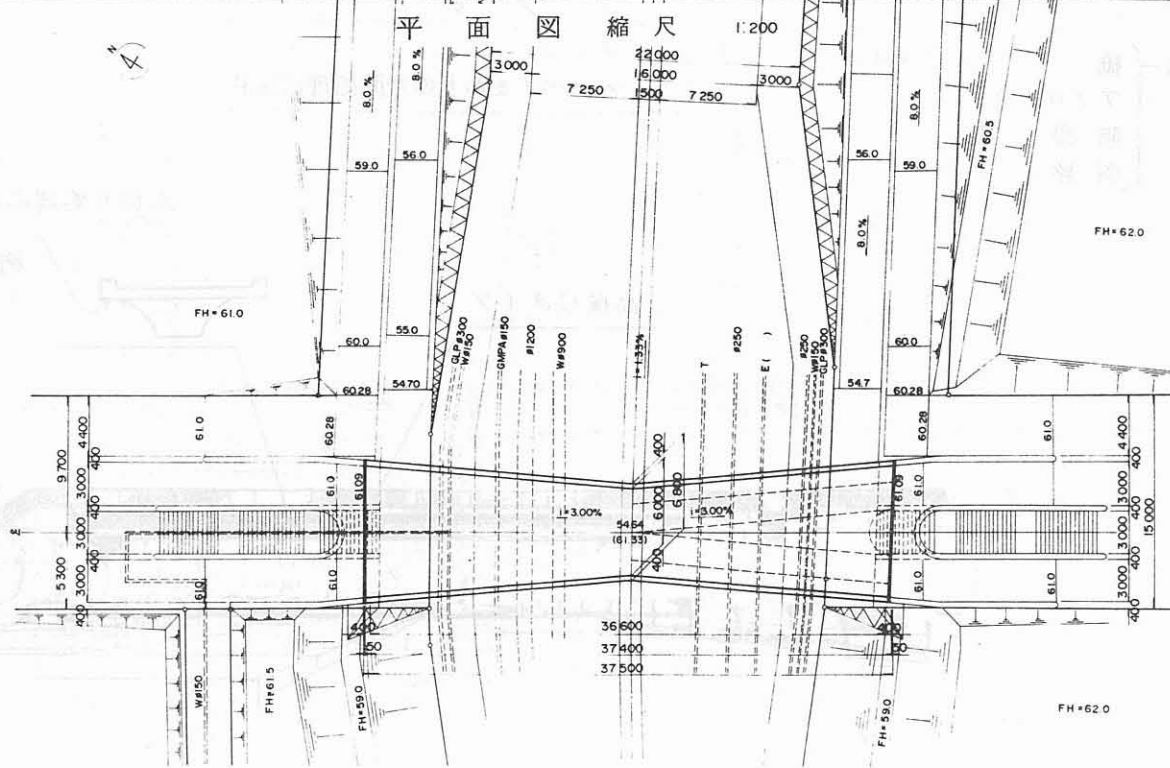
標準断面図縮尺 1:50



断面図縮尺 1:100



勾配	LEVEL (61.000)		LEVEL (61.000)		LEVEL (61.000)	
計画高	61.000	61.037	61.330	61.262	61.177	61.093
地盤高	57.21	61.093	54.64	54.64	55.27	61.057
追加距離	22.00	20.00	10.00	10.00	13.00	18.75
単距離	2.00	1.25	0.00	0.00	5.00	3.75
測点	-2.00	8.75	5.00	10.00	10.00	18.75



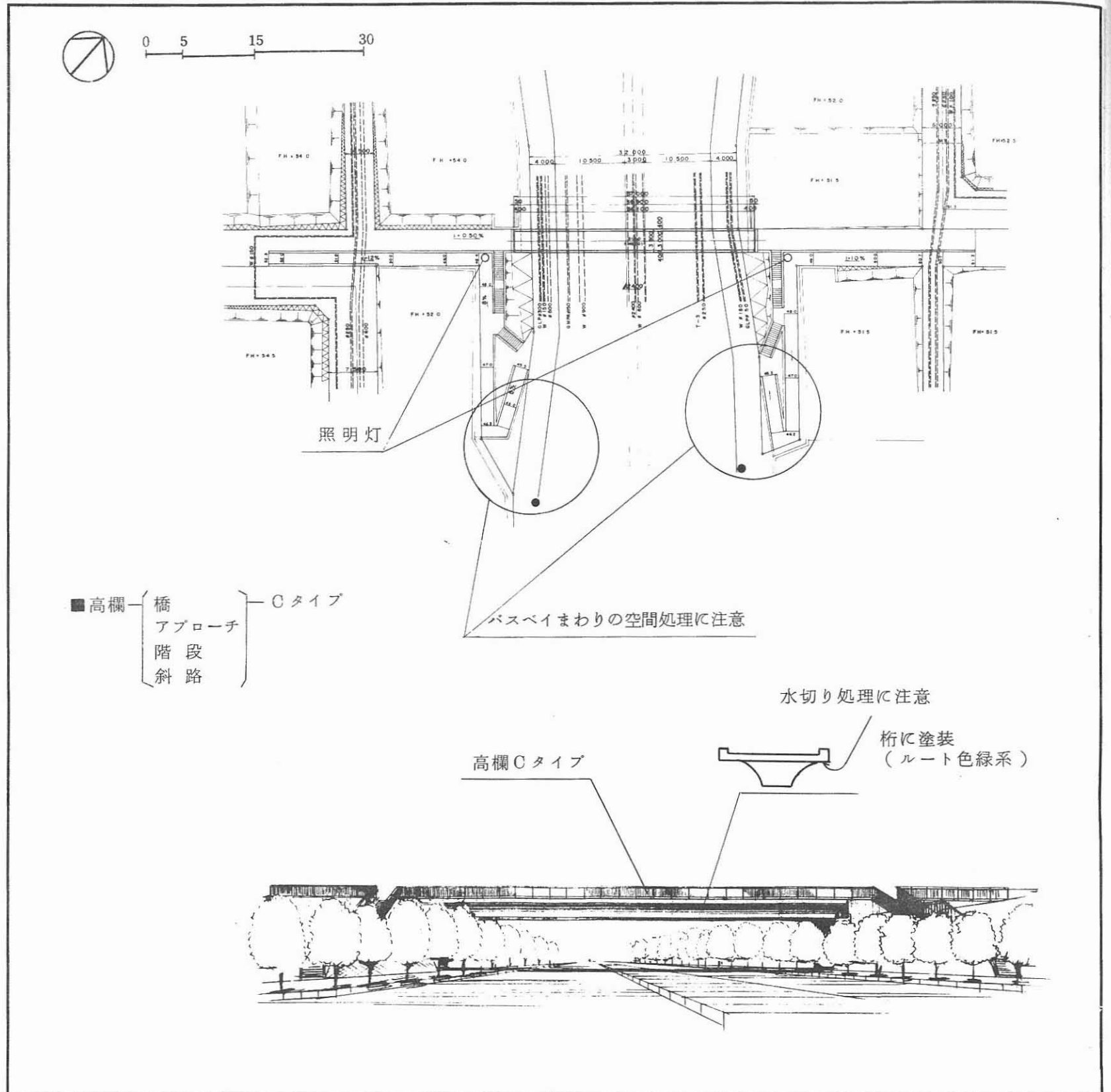
支 承	C - タイプ
伸縮装置	A - タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無

C-12

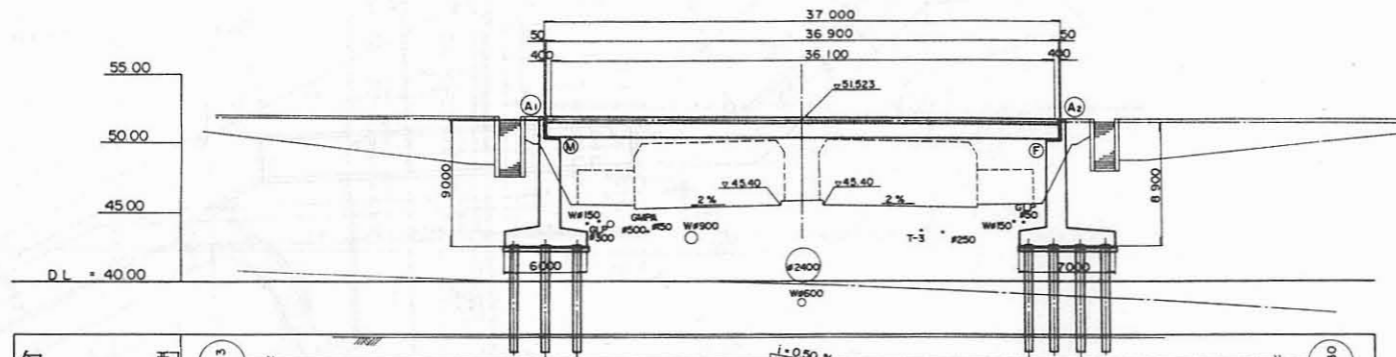


交差形態 歩専道 / 道路 (3・3・32)
 管理区分 b-2
 巾員 3.0 m / 32.0 m
 橋梁タイプ インターメディアート (幹線道
 路系・ルート色)
 構造形式 鋼単純ボックス桁
 橋長・巾員 37.0 m・3.0 m
 設計荷重 TL-14
 設計意図

1. 3・3・32の統一性をもつために鋼橋とした。
2. 桁下空間に余裕があるので上路橋とした。

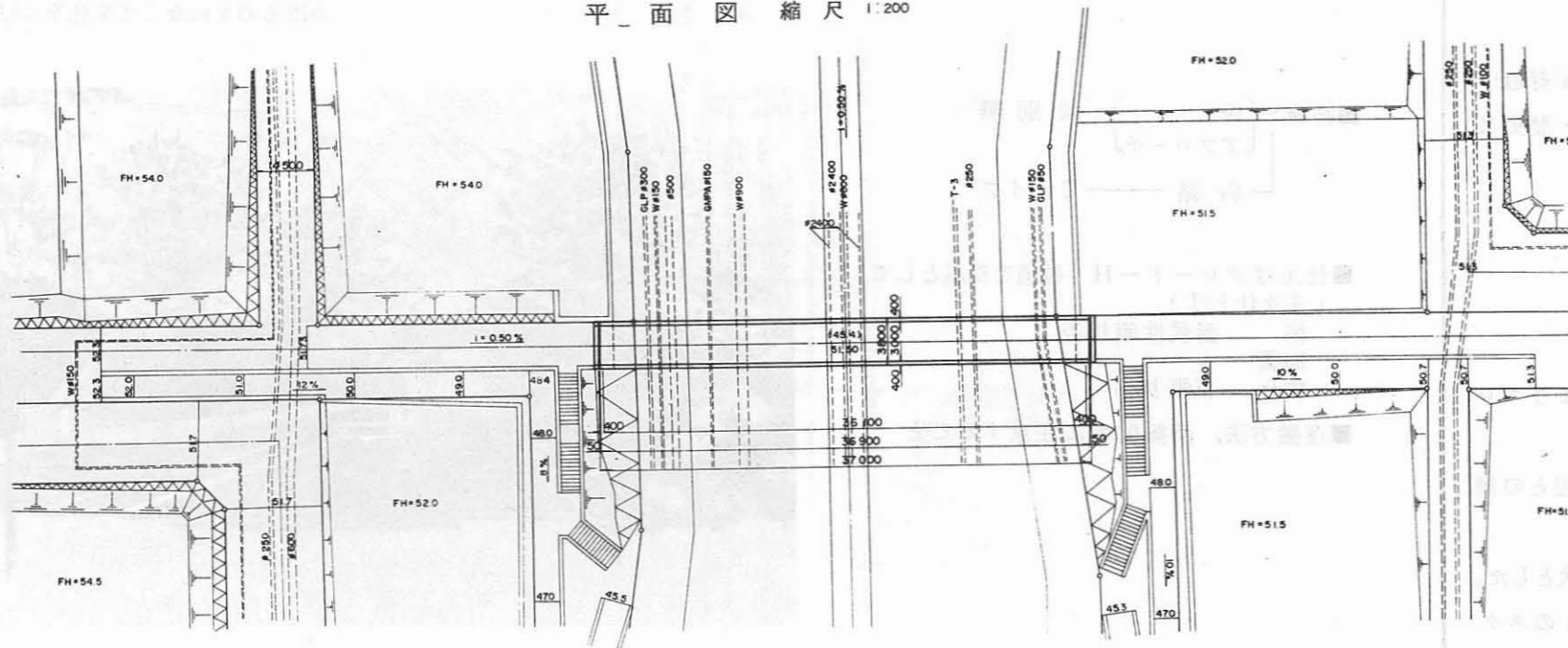


側面図縮尺 1:200

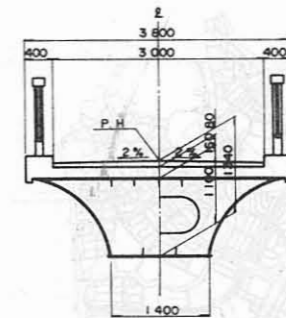


勾配	1:0.50%		1:0.50%		1:0.50%		1:0.50%		1:0.50%		1:0.50%	
計画高	51.730	51.673	51.623	51.615	51.573	51.523	51.473	51.430	51.423	51.373	51.300	51.300
地盤高	48.40	47.30	45.40	45.40	45.40	45.40	45.40	47.03	48.10	49.10	44.50	44.50
追加距離	41.50	30.00	20.00	18.50	10.00	0.00	10.00	18.50	20.00	30.00	44.50	44.50
単距離		10.00	1.50	8.50	10.00	0.00	10.00	8.50	1.50	10.00	30.00	44.50
測点	NO.15	NO.3	NO.2	NO.1	NO.0	NO.1	NO.2	NO.3	NO.4			

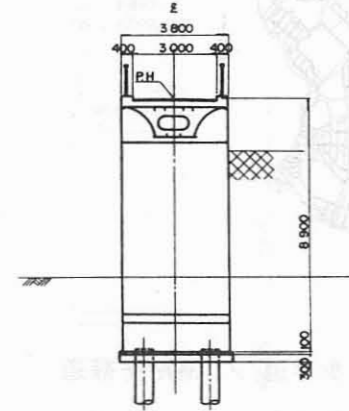
平面図縮尺 1:200



標準断面図縮尺 1:40



断面図縮尺 1:100



支 承	E - タイプ
伸縮装置	A - タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無

C-14

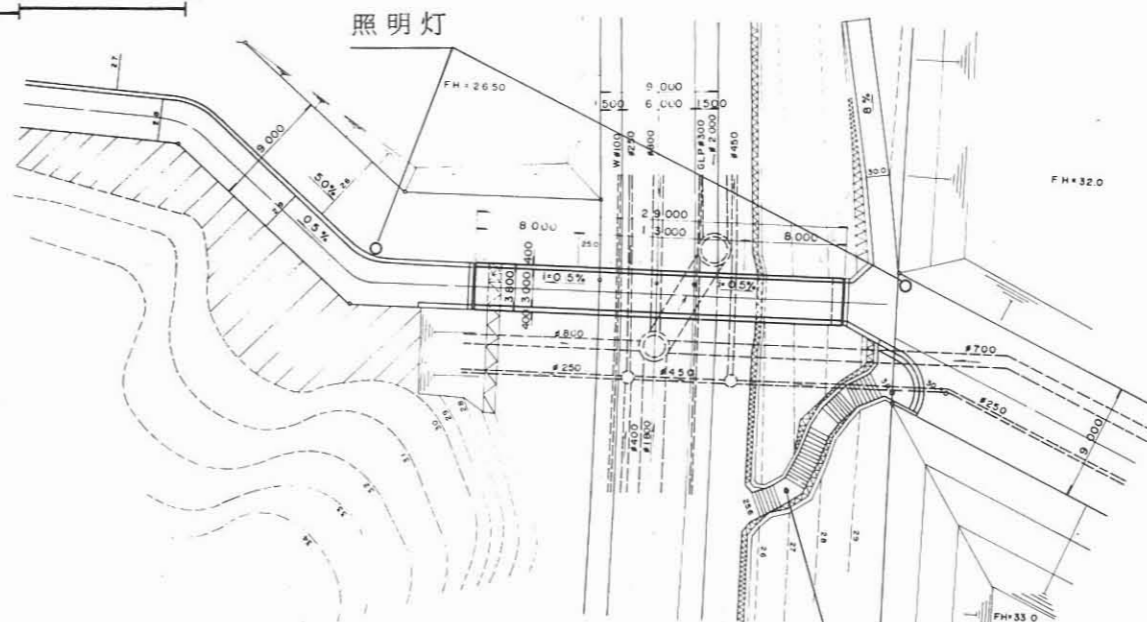


交差形態 歩専道 / 道路+緑道
 管理区分 b-1
 巾員 3.0m / 7.0m(道路), 1.5m(緑道)
 橋梁タイプ インフォーマル(緑道系・歴史文化景域)
 構造形式 鋼ラーメン鉸桁
 橋長・巾員 29.0m・3.0m
 設計荷重 TL-14
 設計意図

1. 主桁は木々の間を横切り目立たないようスレンダーな断面形状としている。
2. 歴史文化景域内の橋であるので、周辺との調和(木、緑)をはかった。
3. 橋脚は、まわりの木々にとけこむような形状とした。
4. 3径間として各メンバー(橋梁全体)のスケール感を小さくした。



0 5 15 30

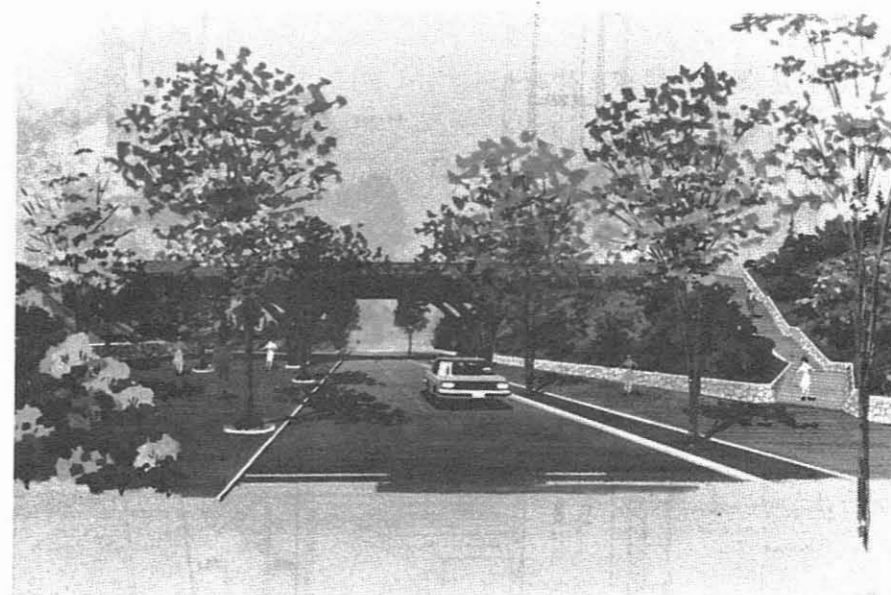


緑道の中にある階段なので一直線にのぼるのではなくて変化をつける

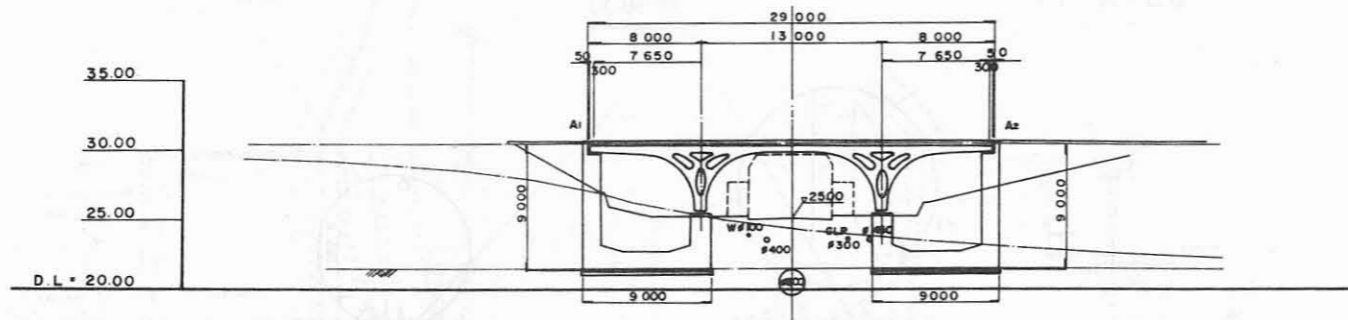
■高欄 { 橋 / アプローチ } 個別解
 { 斜路 } Cタイプ

■仕上げグレード-H(緑道を視点として)
 (主な仕上げ)
 桁 耐候性鋼材等
 高欄 " "
 橋台 石張り等

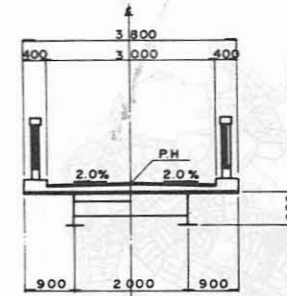
■運搬方法, 添接位置に注意すること



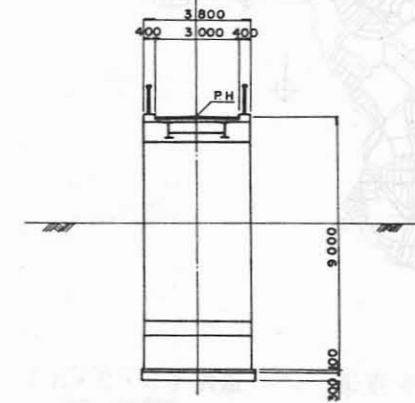
側面図 縮尺 1:200



標準断面図 縮尺 1:50

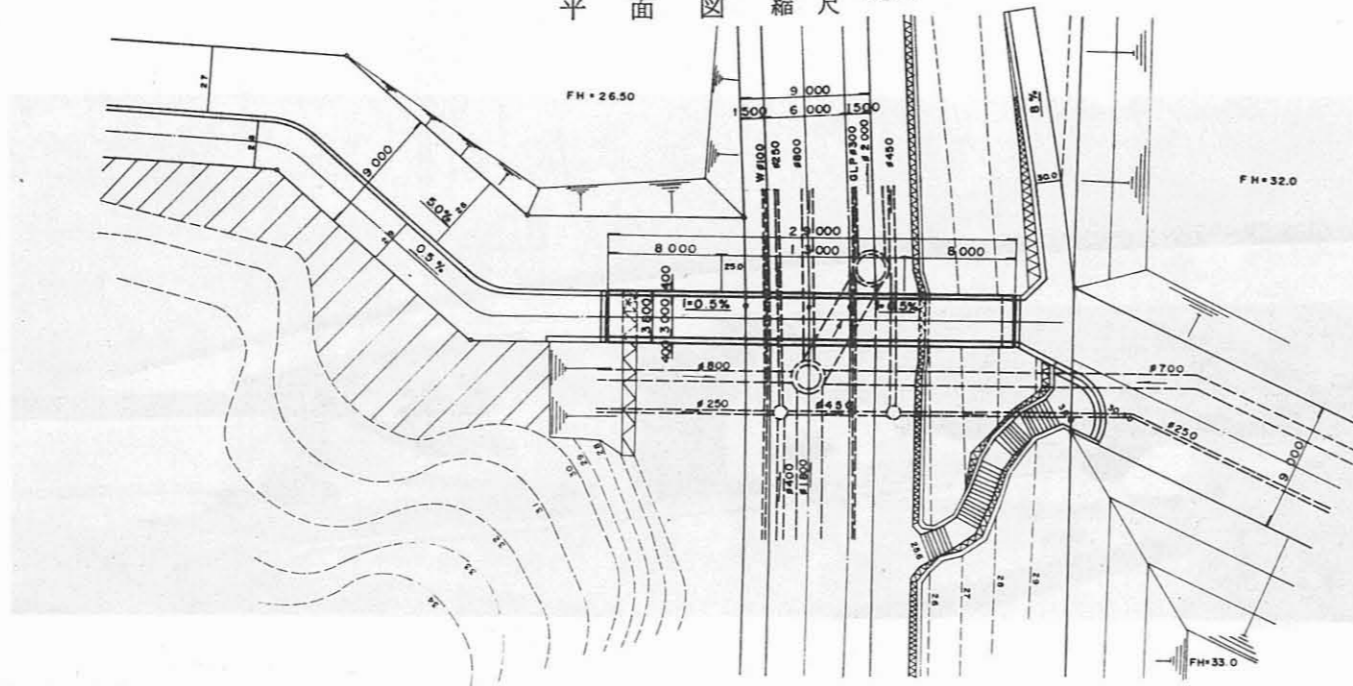


断面図 縮尺 1:100



勾配	i = 0.50%										
計画高	30.39	30.44	30.47	30.49	30.50	30.50	30.49	30.47	30.44	30.39	
地盤高		26.65	26.65	26.00	25.00	25.00	26.00	26.00	26.65		
追加距離	30.00	20.00	14.50	10.00	6.50	0.00	10.00	14.50	20.00	30.00	
単距離	10.00	5.50	4.50	3.50	6.50	6.50	3.50	4.50	5.50	10.00	
測点	NO. 3	NO. 2	-4.50	NO. 1	-6.50	NO. 0	+6.50	NO. 1	+4.50	NO. 2	NO. 3

平面図 縮尺 1:200



支 承	E, F-タイプ
伸縮装置	A-タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無

C-15

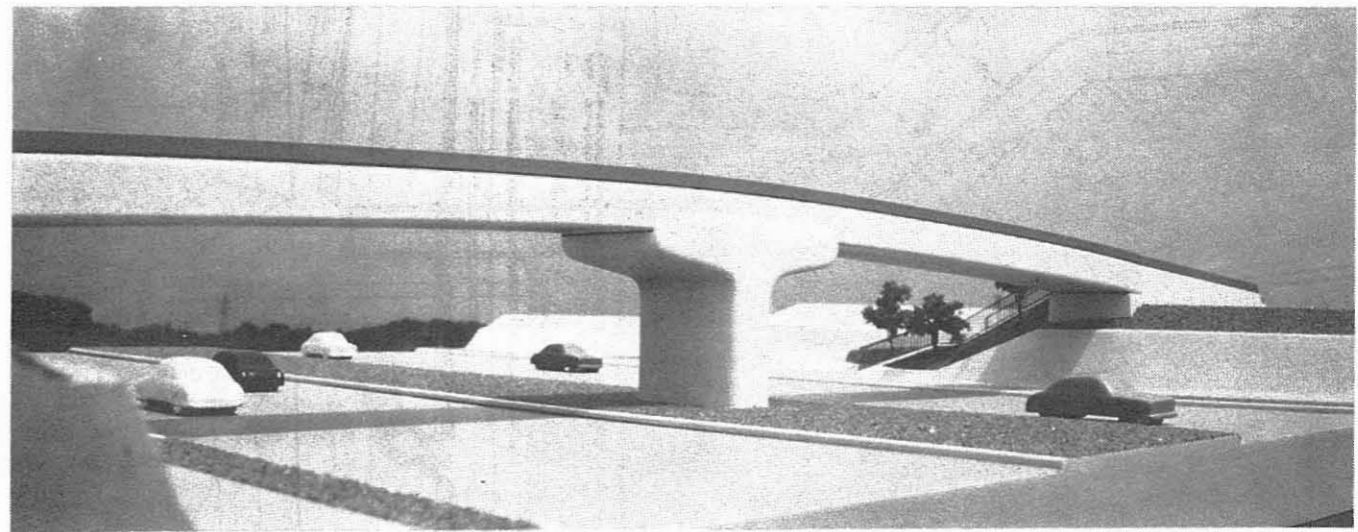
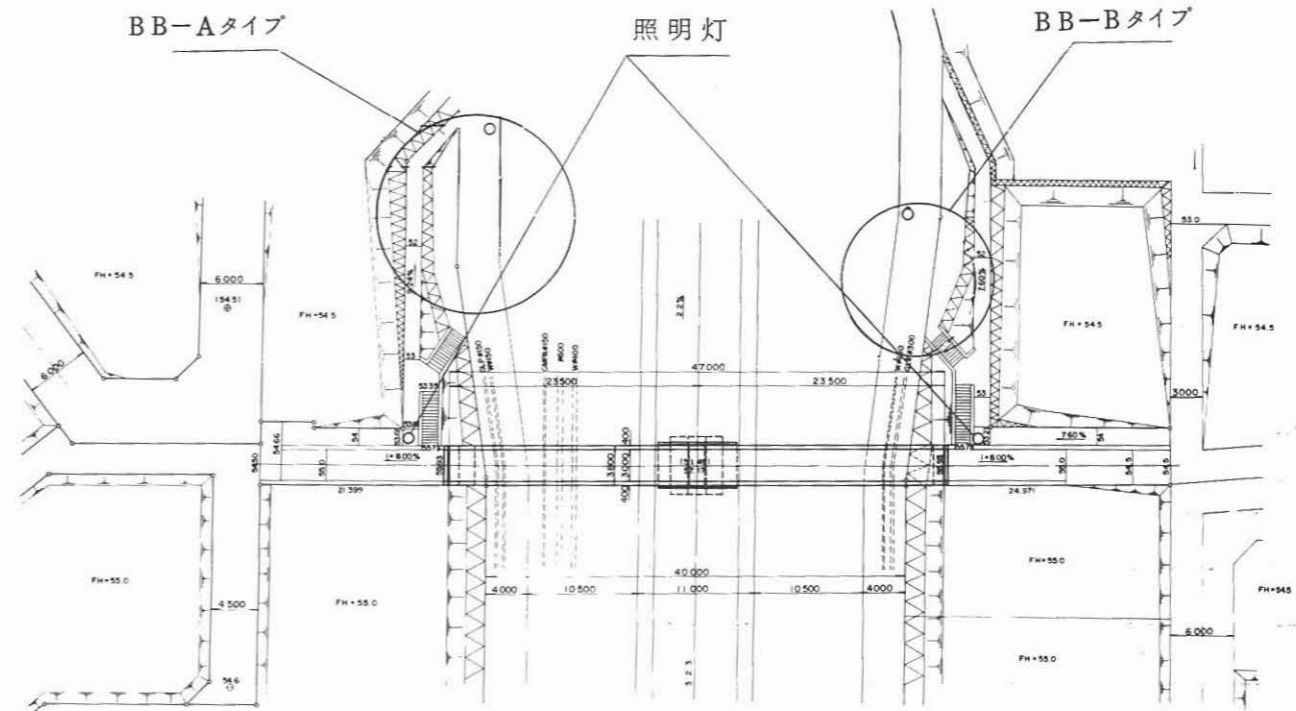


交差形態 歩専道 / 道路 (3・2・3)
 管理区分 b-2
 巾員 3.0 m / 40.0 m
 橋梁タイプ インターミディエート (幹線道路・ルート色)
 構造形式 PC 2 径間連続下路
 橋長・巾員 47.0 m ・ 3.0 m
 設計荷重 $W = 350 \text{ Kg/m}^2$
 設計意図

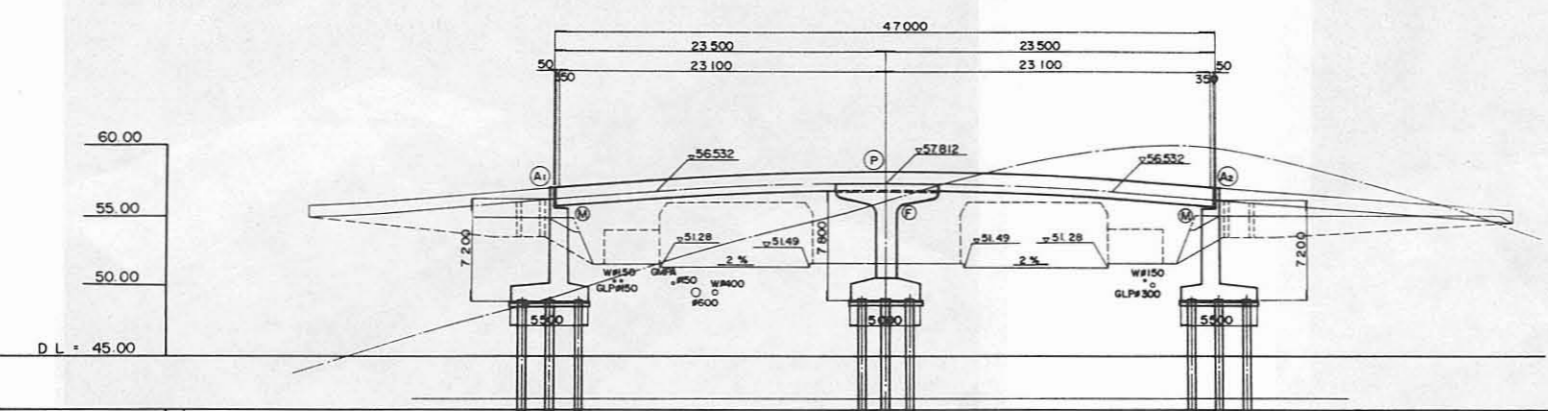
1. 都計道 3・2・3 にかかる橋として統一性をもたした。
2. 縦断勾配を 8% 以内におさえるために下路橋とした。



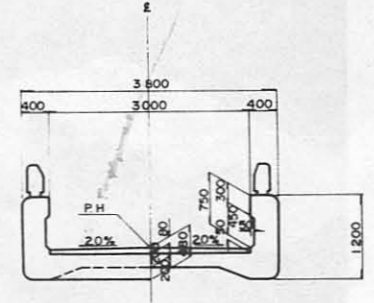
0 5 15 30



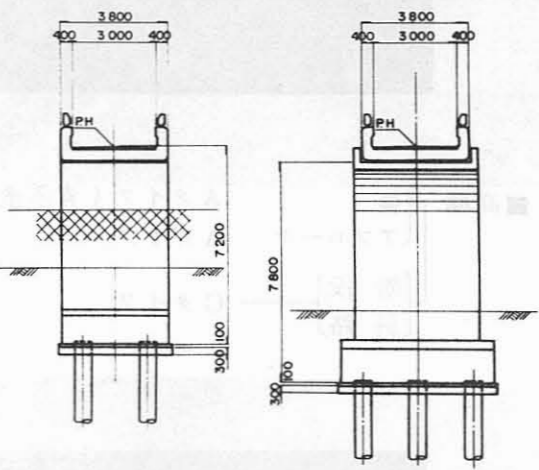
側面図縮尺 1:200



標準断面図縮尺 1:40

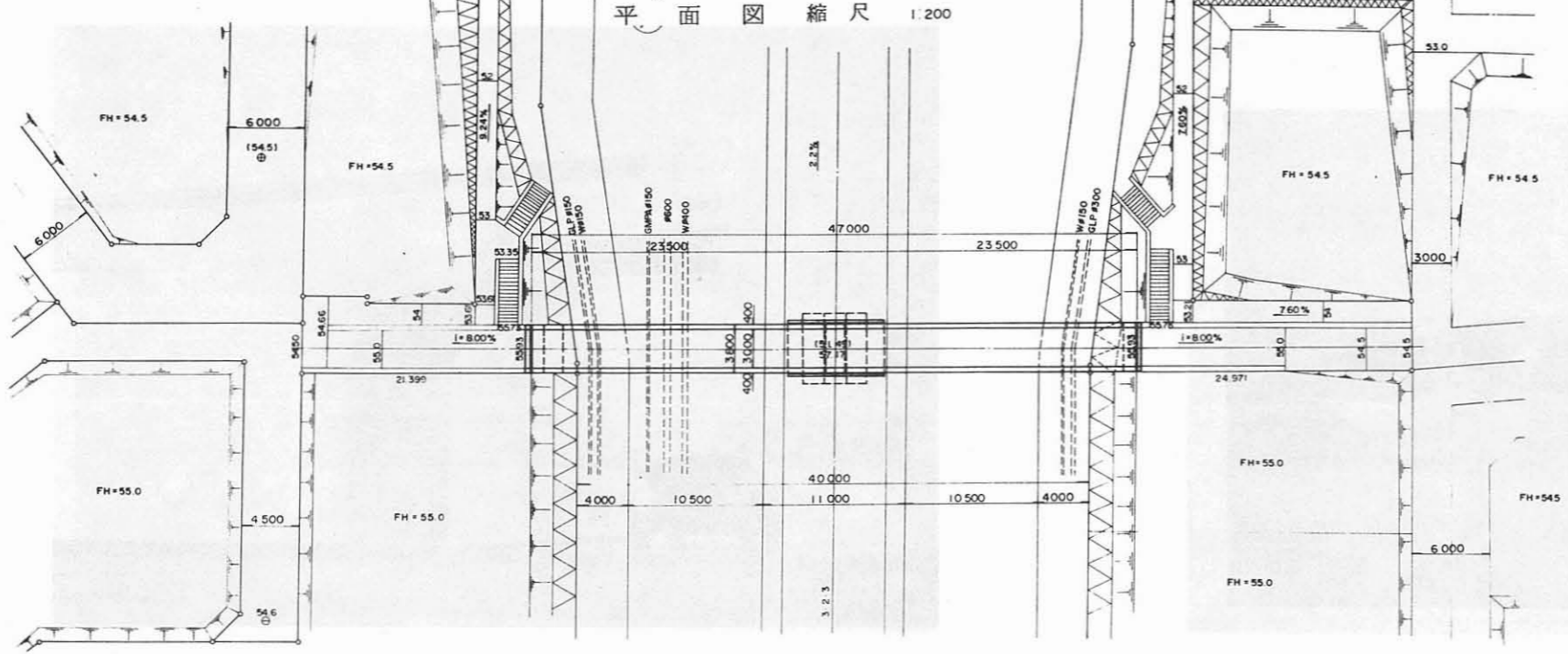


断面図縮尺 1:100



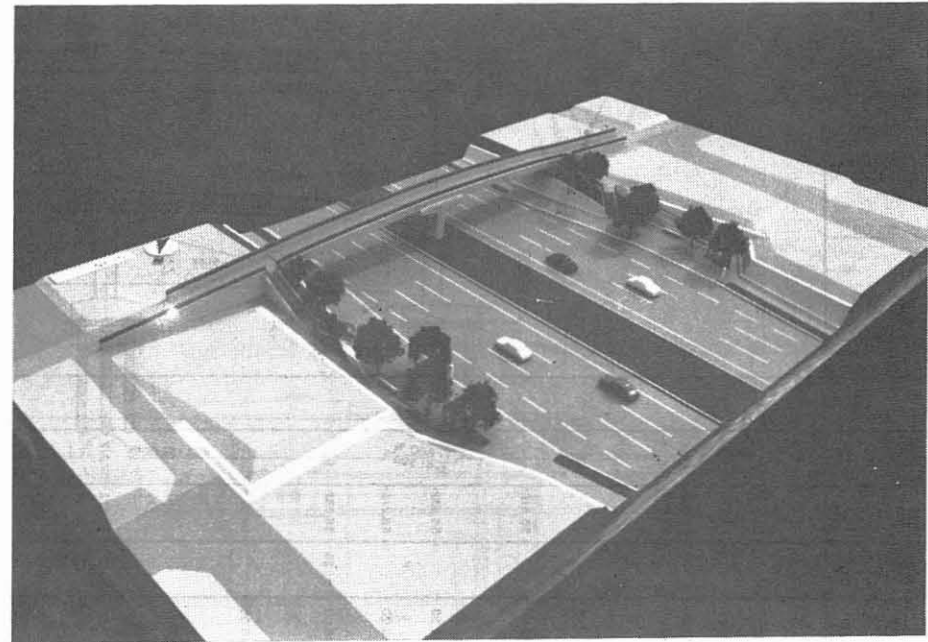
勾配	54.500	54.612	55.412	55.932	56.212	56.532	56.922	57.812	56.922	56.532	56.212	55.932	55.412	54.612	54.500
計画高	54.900	54.612	55.412	55.932	56.212	56.532	56.922	57.812	56.922	56.532	56.212	55.932	55.412	54.612	54.500
地盤高															
追加距離	1.399	4.1399	30.00	23.50	20.00	16.00	10.00	0.00	10.00	16.00	20.00	30.00	40.00	41.40	
単距離			6.50	3.50	4.00	6.00	10.00	0.00	10.00	6.00	4.00	6.50	10.00	1.40	
測点	NO-5	NO-4	NO-3	NO-2	NO-1	NO-1	NO-1	NO 0	NO 1	NO 2	NO 3	NO 4	NO 4	NO 4	NO 4

平面図縮尺 1:200

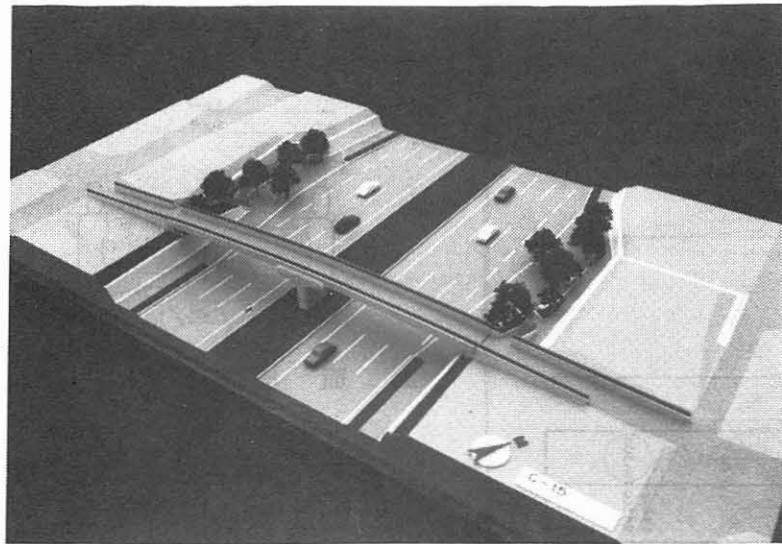
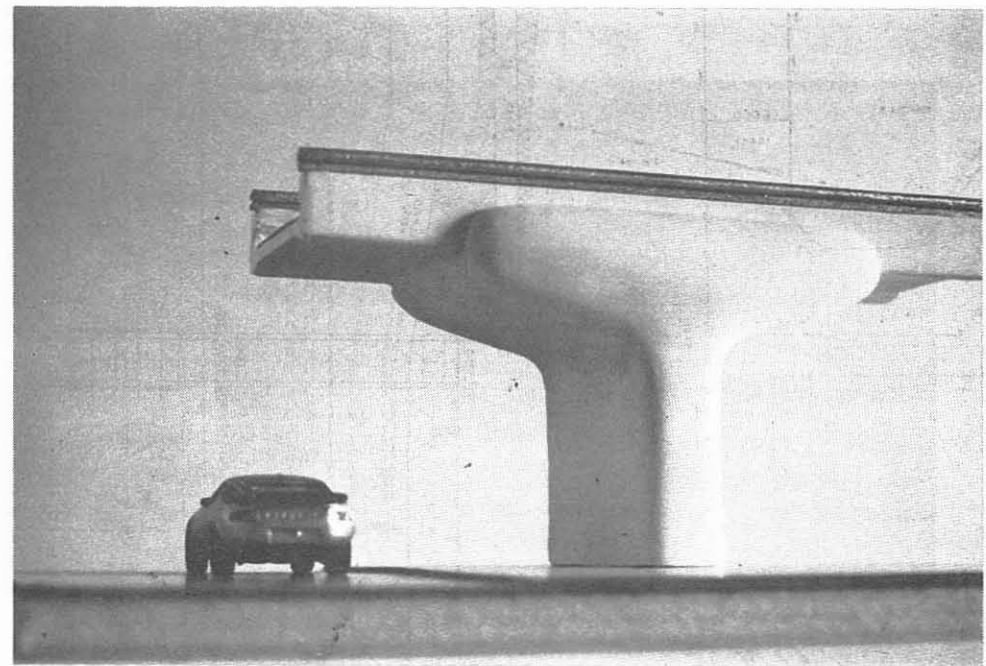


支 承	A - タイプ
伸縮装置	A - タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無

■ 舗装・橋の前後と同材

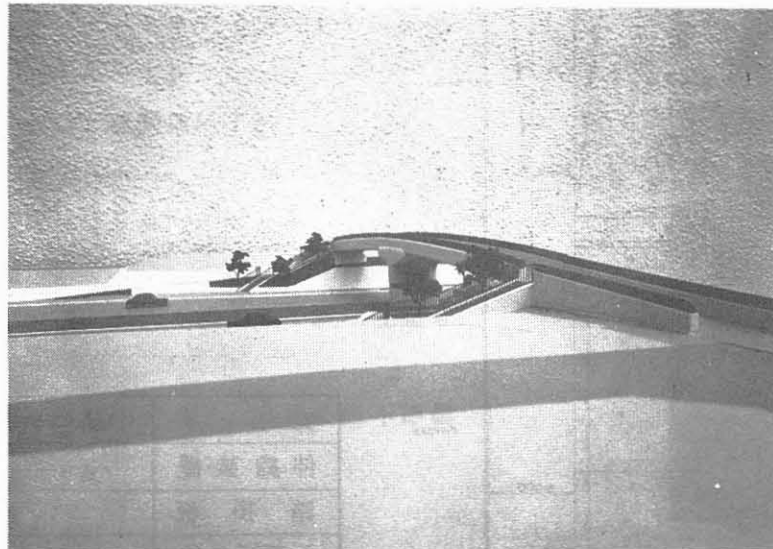
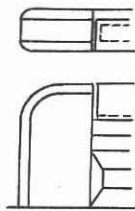


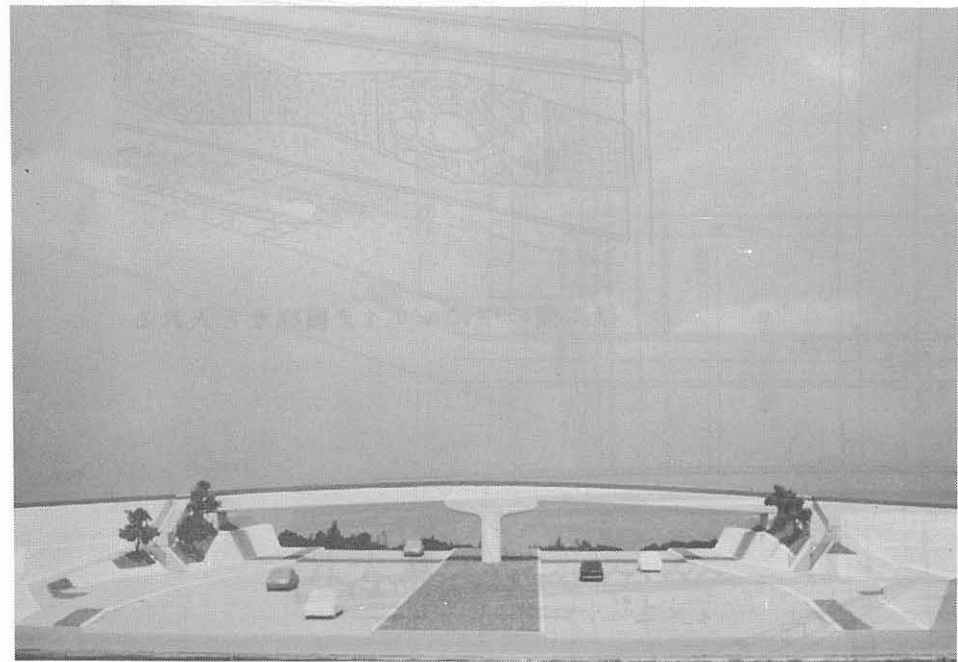
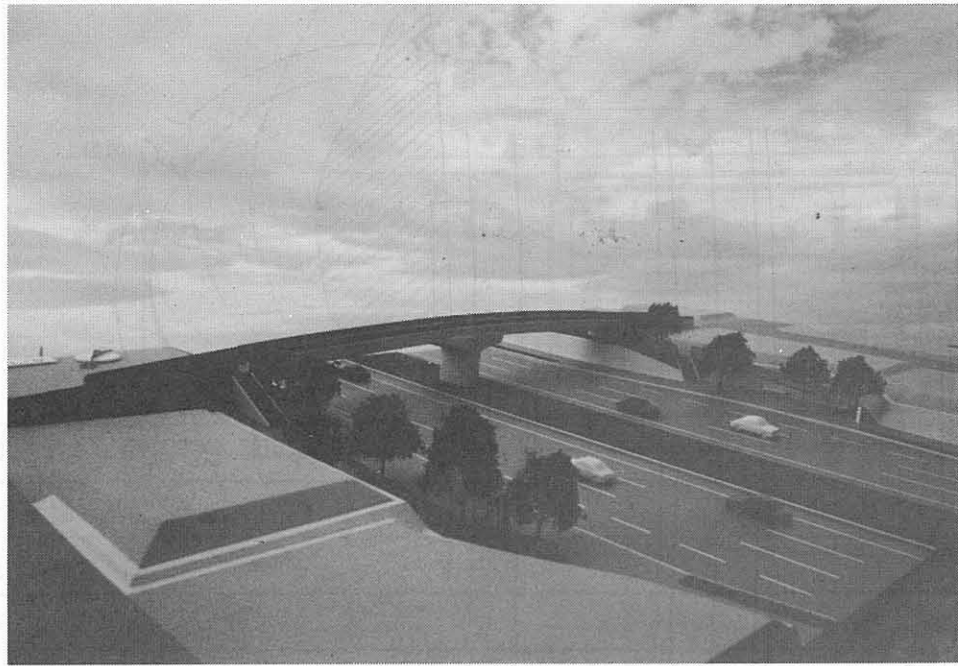
■ 沓かくしを有し、やわらかみをぞした橋脚



■ 高欄

- 橋 Aタイプ (青系塗装・ルート色)
- アプローチ Aタイプ
- 階段 Cタイプ
- 斜路 Cタイプ





C-16



交差形態 歩専道 / 道路 (3・2・3)
 管理区分 b-2
 巾員 3.0 m / 40.0 m
 橋梁タイプ フォーマル (センター系)
 (幹線道路系・ルート色)

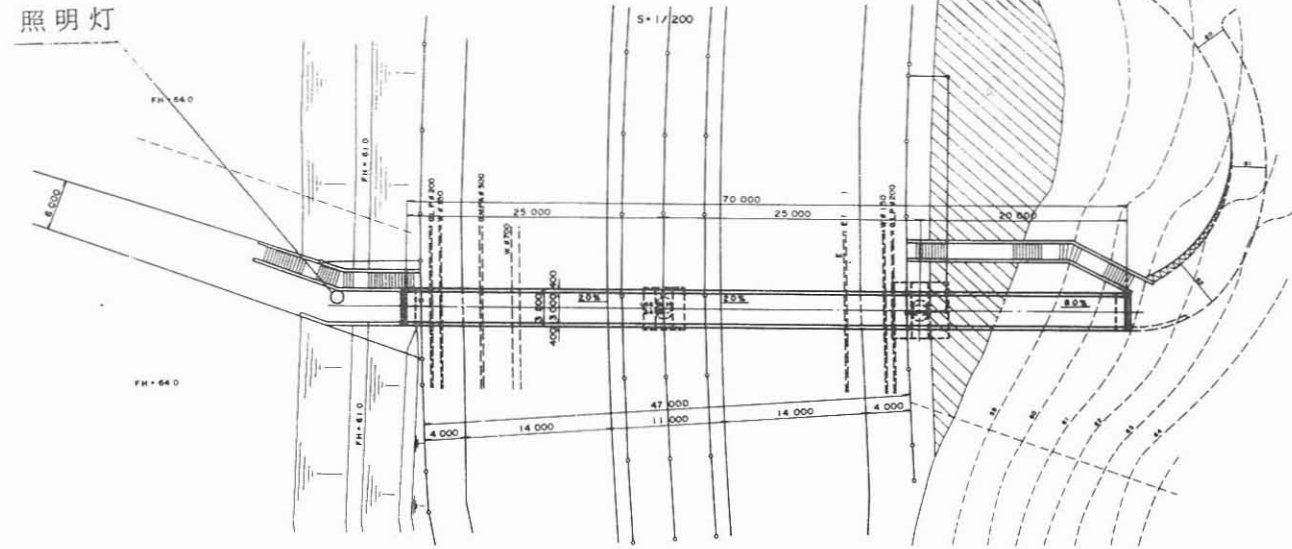
構造形式 PC 3 径間連続中空床版
 橋長・巾員 70.0 m・3.0 m
 設計荷重 $W = 350 \text{ Kg/m}^2$

設計意図

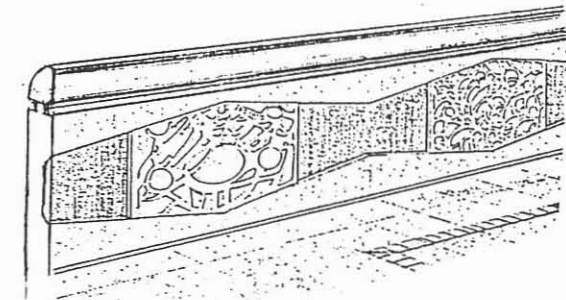
1. 道路3・2・3にかかる橋であるが地区センターの入口であるので、この橋だけ、他橋(3・2・3上にかかる)と別形式とした。
2. 公園側の現橋地形になじますため橋長を長くし3径間とした。



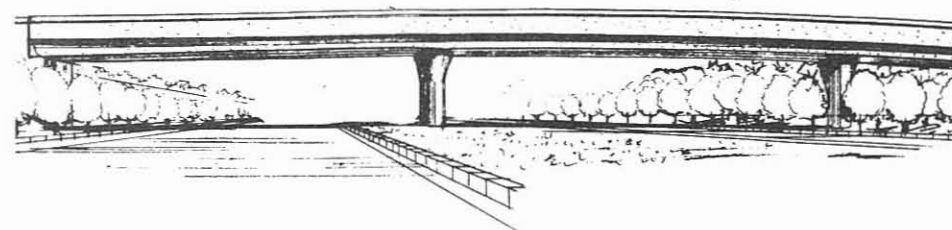
照明灯



■高欄 { 橋 ——— Aタイプ (青系塗装・ルート色)
 { アプローチ — Aタイプ
 { [階段] ——— Cタイプ

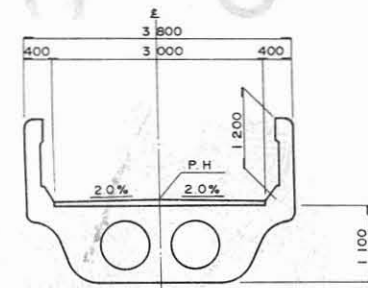
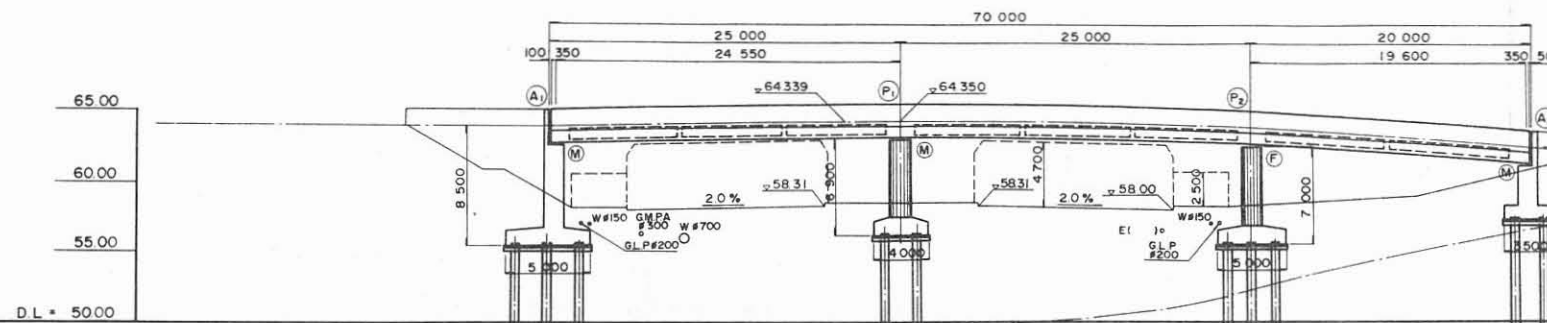


壁高欄の中にモザイク模様など入れる

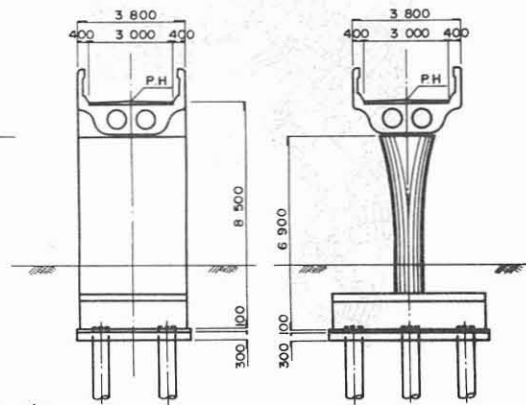


側面図縮尺 S=1/200

標準断面図縮尺 S=1/40

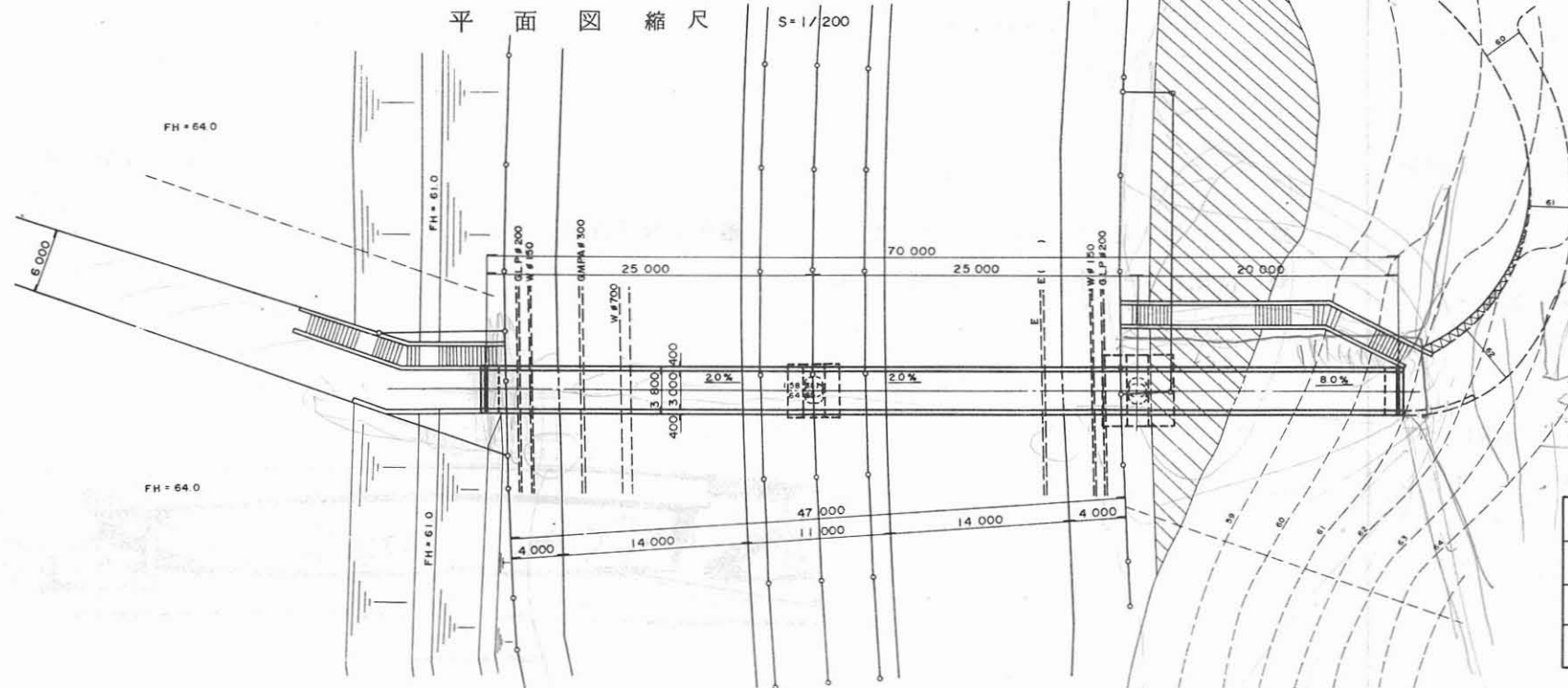


断面図縮尺 S=1/100



勾配	計画高	地盤高	追加距離	単距離	測点
LEVEL	64.000	64.000	40.00	9.00	NO. 4
	64.000	61.000	30.00	5.00	NO. 3
	64.000	58.310	25.00	5.00	-5.00
	64.100	58.310	20.00	10.00	NO. 2
	64.283	58.060	10.00	10.00	NO. 1
	64.350	58.310	0.00	0.00	NO. 0
	64.283	58.060	10.00	10.00	NO. 1
	64.063	58.310	20.00	10.00	NO. 2
	63.800	58.563	25.00	5.00	NO. 3
	62.800	62.800	40.00	10.00	NO. 4
	62.400	62.400	45.00	5.00	NO. 5

平面図縮尺 S=1/200



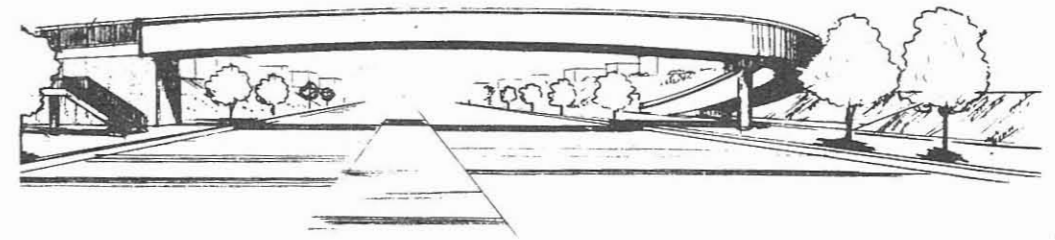
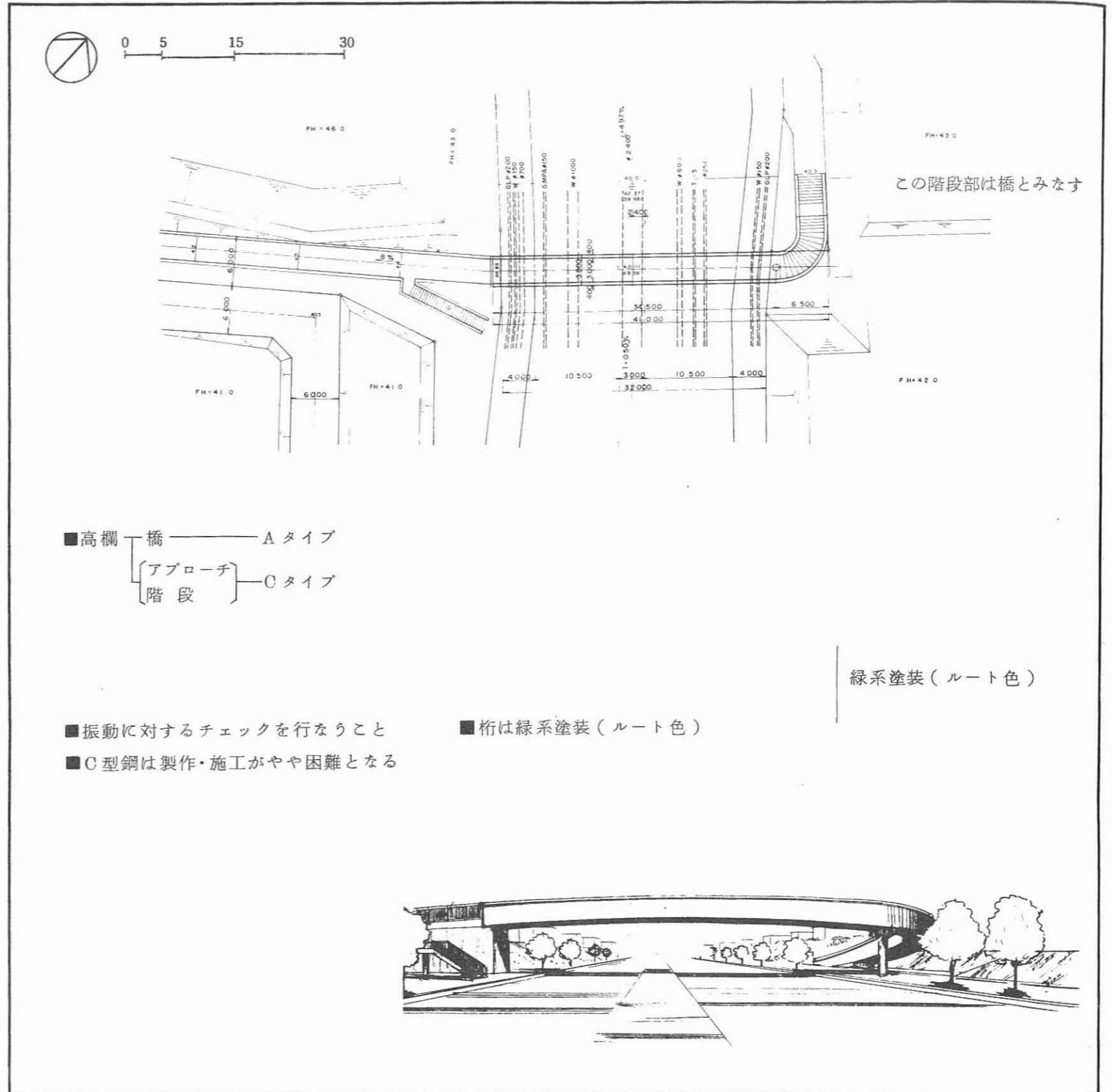
支 承	A-タイプ
伸縮装置	A-タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無

C-17

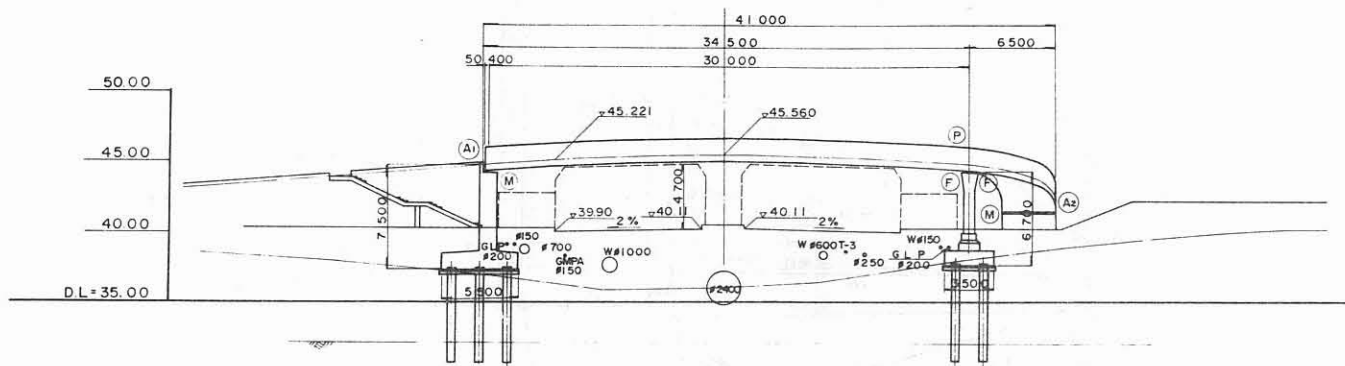


交差形態 歩専道 / 道路 (3・3・32)
 管理区分 b-2
 巾員 3.0 m / 32.0 m
 橋梁タイプ インターミディエート (幹線道路系・ルート色)
 構造形式 鋼単純C型桁
 橋長・巾員 34.5 m + 6.50 m・3.0 m
 設計荷重 TL-14
 設計意図

1. 幹線上にかかる橋であり、中央分離帯にピアを設けず視界を広くとり主桁は階段と一体としている。
2. 階段側のピアは円形で極力、細くし、主桁が階段に変わる曲線を強調している。

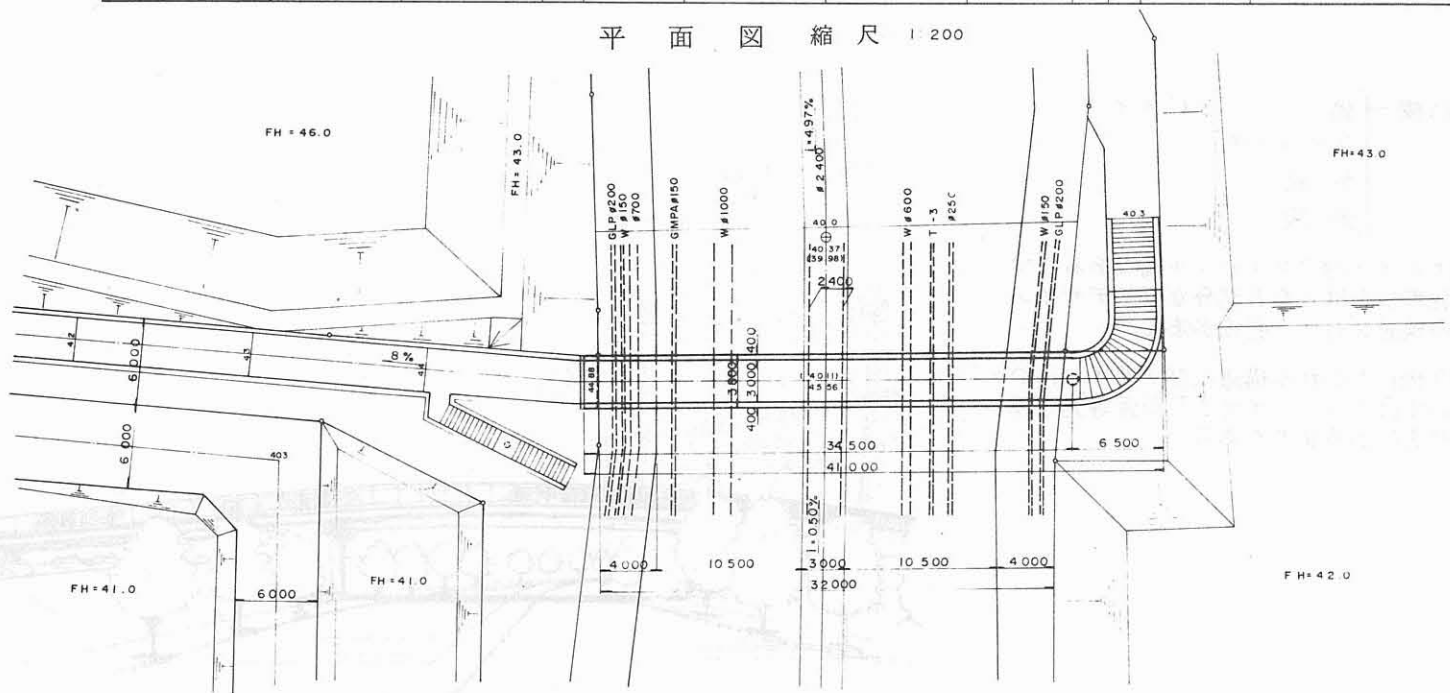


側面図 縮尺 1:200

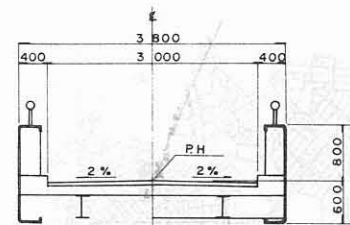


勾配	1.80%		V.C.L. 34.70		46.24		1.80%		44.840	
計画高	43.840		44.640		44.880		44.325		44.840	
地盤高	40.36		40.36		40.36		40.11		40.36	
追加距離	30.00		20.00		17.00		10.00		30.00	
単距離	10.00		3.00		7.00		10.00		10.00	
測点	NO-3		NO-2		-7.00		NO-1		NO.0	

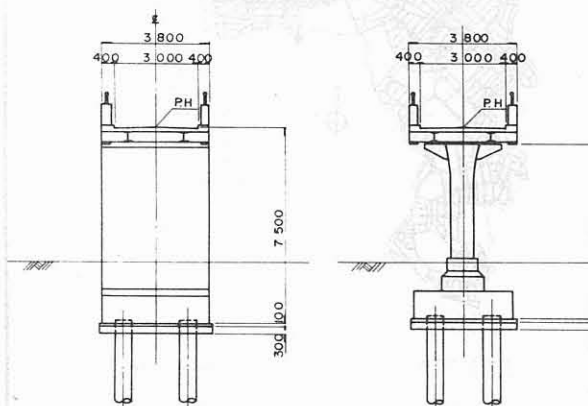
平面図 縮尺 1:200



標準断面図 縮尺 1:40



断面図 縮尺 1:100



支 承	E - タイプ
伸縮装置	A - タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無

C-18



交差形態 歩専道 / 道路
 管理区分 b-2
 巾員 3.0 m / 18.0 m
 橋梁タイプ フォーマル(センター系)

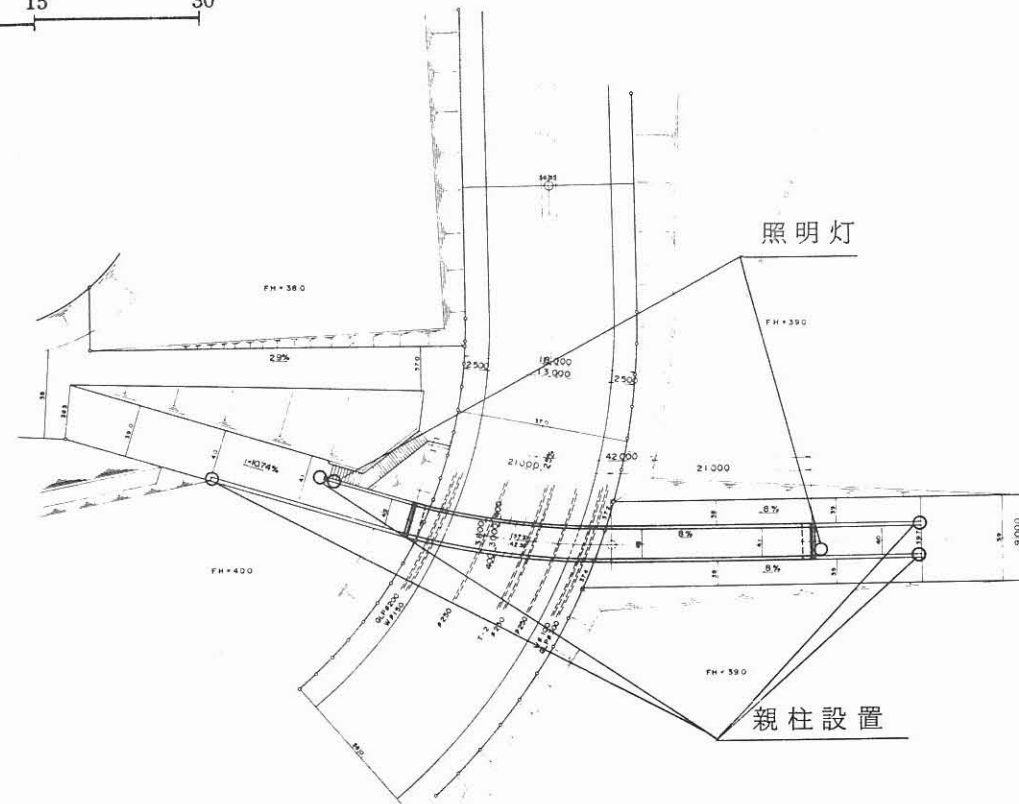
構造形式 鋼2径間連続钣桁
 橋長・巾員 42.0 m ・ 3.0 m
 設計荷重 $W = 350 \text{ Kg/m}^2$

設計意図

1. 道路の建築限界とアプローチの勾配を考慮して、極力構造高を低くできる構造とした。
2. 平面線形がカーブしているので製作上の配慮から工形桁としている。

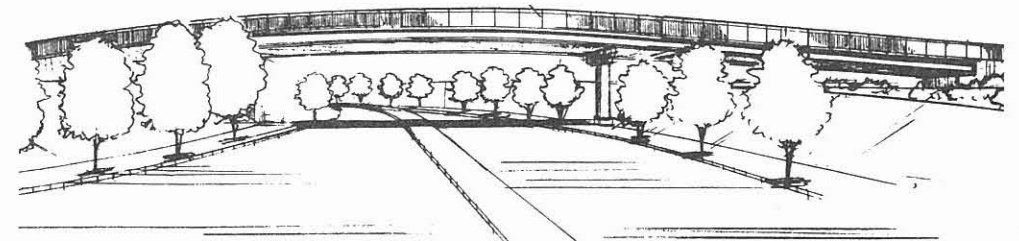


0 5 15 30

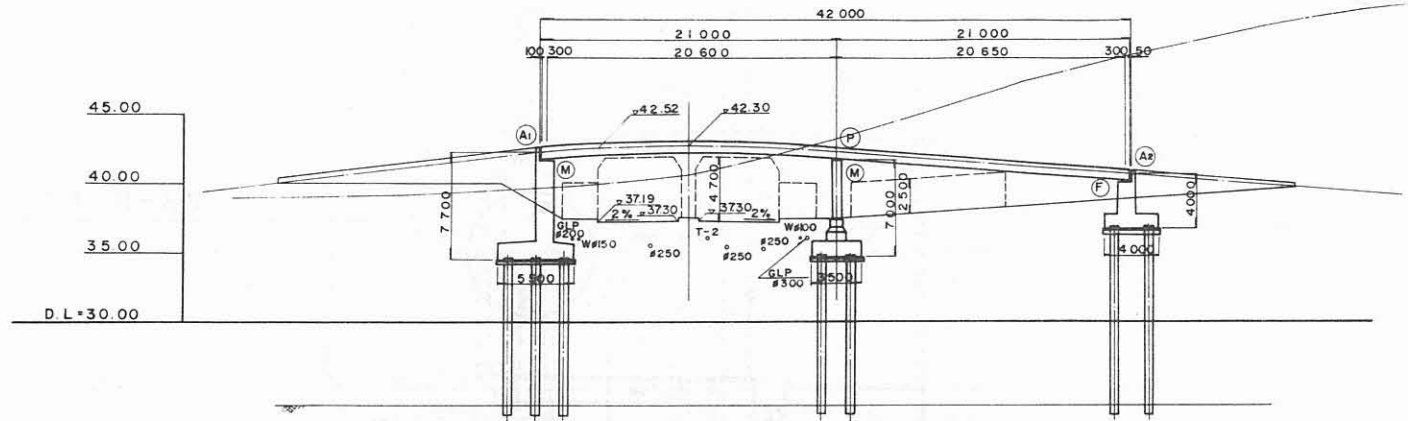


■高欄 { 橋
 アプローチ
 斜路
 階段 } Cタイプ

- センター内のフォーマル橋であるので化粧板をはるなど十分な詳細デザインの検討を行なり必要がある
- 今後行なわれる構造及びデザインについてはセンターデザイン計画等充分調整をはかる必要がある

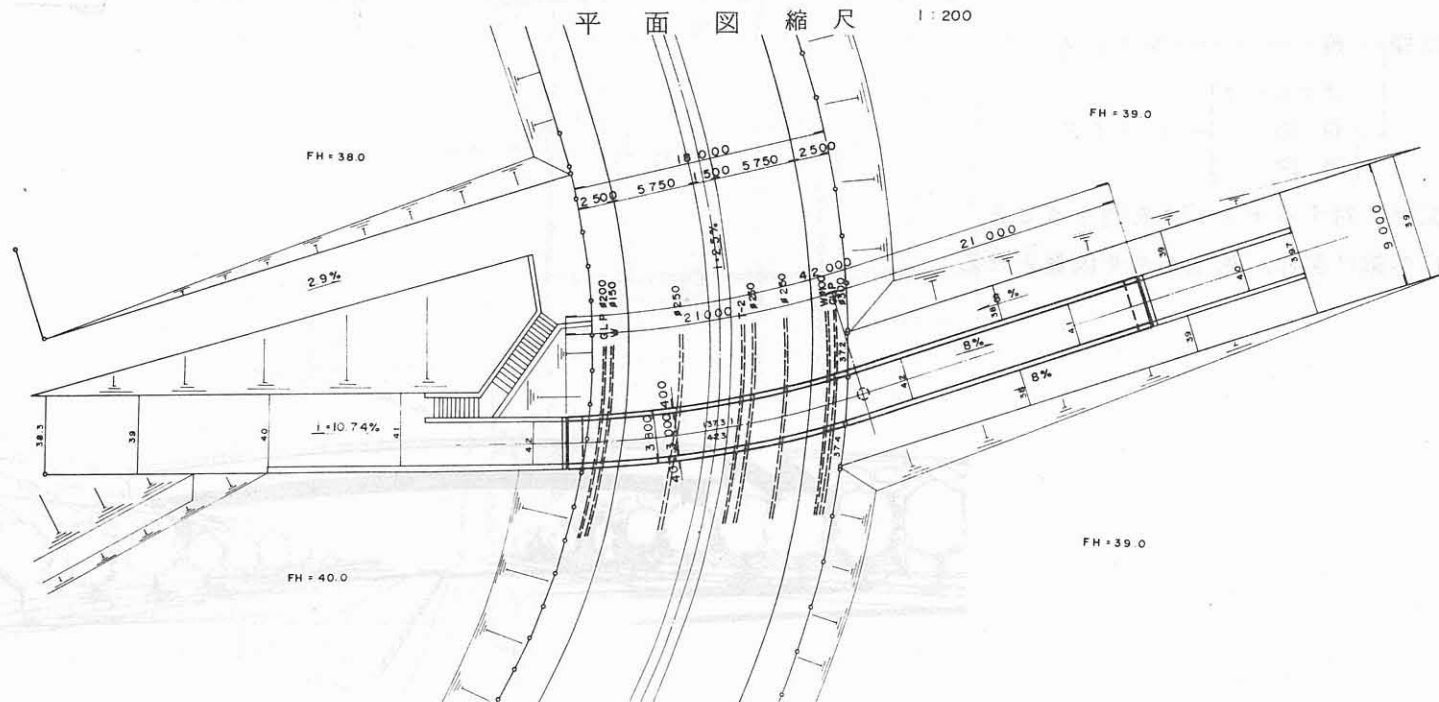


側面図縮尺 1:200

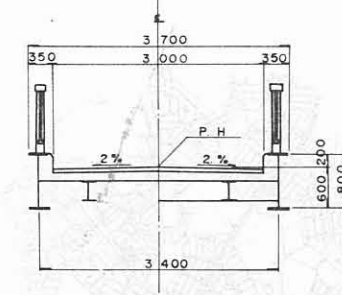


勾配	38.30		42.26	43.10		39.00
計画高	40.17	41.24	42.26	42.30	41.50	40.70
地盤高			42.40	42.30	42.40	40.58
追加距離	10.00	20.00	10.00	0.00	20.00	30.00
単距離	10.00	9.50	0.50	0.00	9.50	10.00
測点	NO. 3	NO. 2	NO. 1	NO. 0	NO. 2	NO. 3

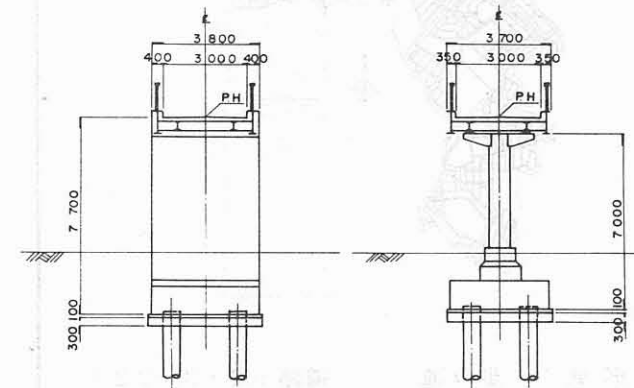
平面図縮尺 1:200



標準断面図縮尺 1:40



断面図縮尺 1:100



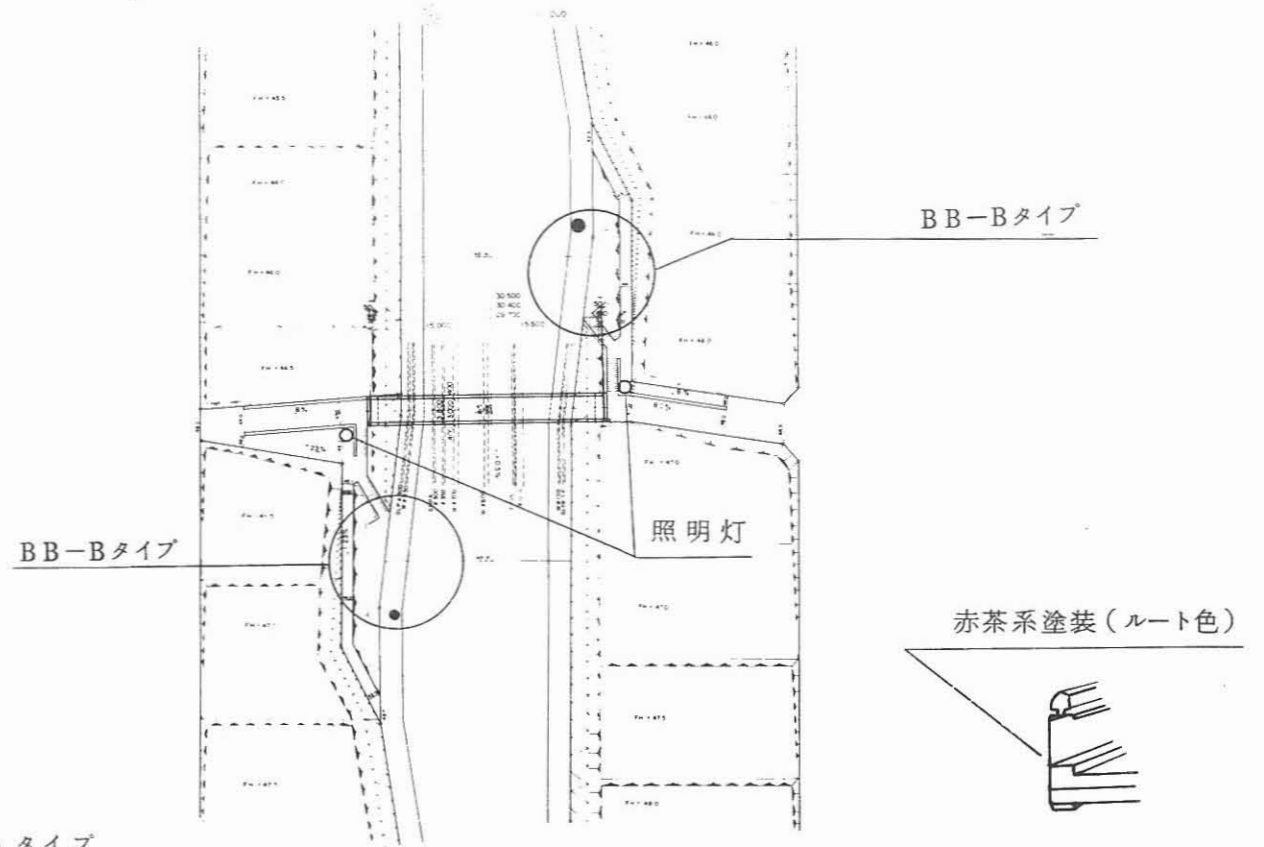
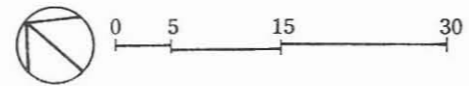
支 承	E - タイプ
伸縮装置	A - タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無

C-19



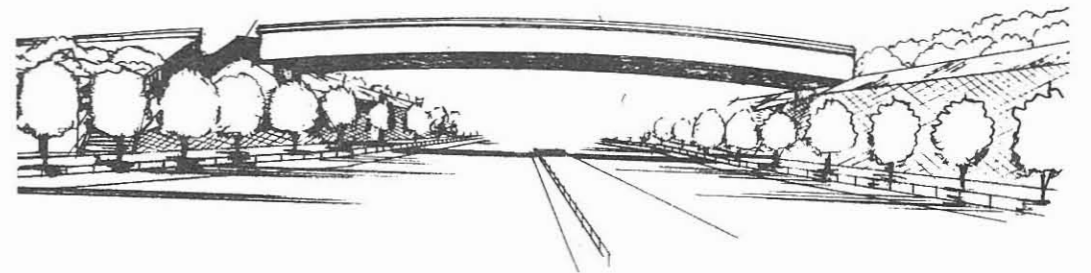
交差形態 歩専道 / 道路 (3・3・22)
 管理区分 b-2
 巾員 3.0 m / 22.0 m
 橋梁タイプ インターミディエート (幹線道路系・ルート色)
 構造形式 鋼単純C型桁
 橋長・巾員 30.5 m ・ 3.0 m
 設計荷重 $W = 350 \text{ Kg/m}^2$
 設計意図

1. 道路の建築限界とアプローチ勾配から構造高が低くできるC型桁とした。

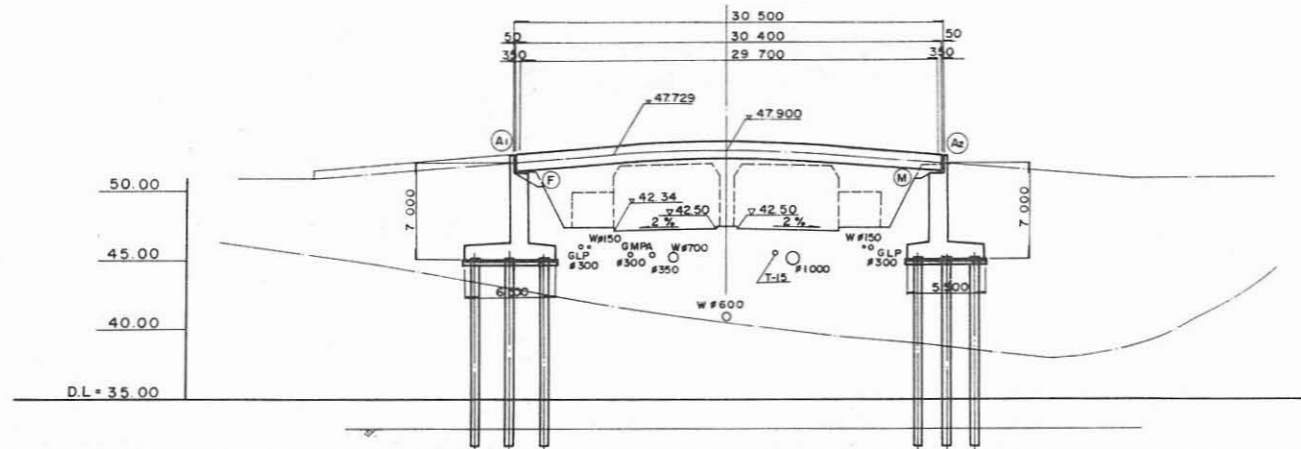


■高欄 橋 — Aタイプ
 [アプローチ
 斜路
 階段] — Cタイプ

■振動に対するチェックを行なうこと
 ■C型鋼は製作, 施工がやや困難となる

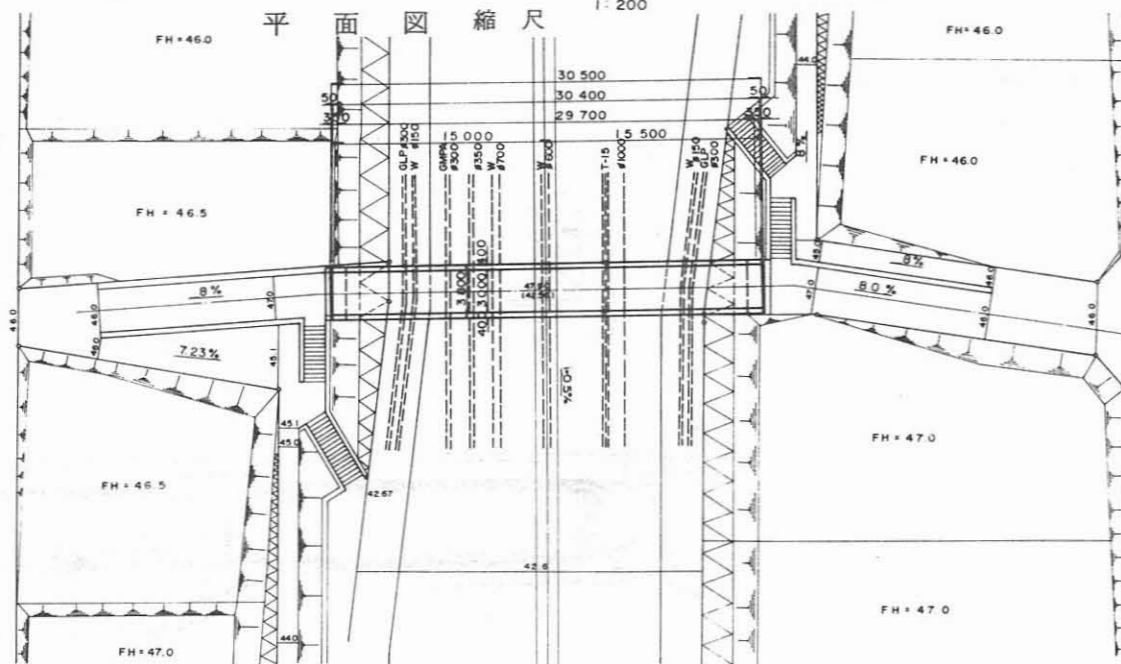


側面図縮尺 1:200

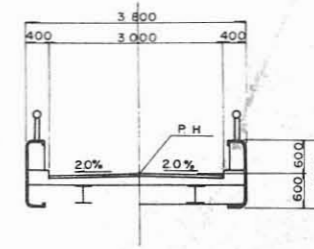


勾配	46.00	46.00	1.8%		VCL:3000	48.50	1.8%		46.00	46.00
計画高	-46.000	-46.100	-46.900	-47.300	-47.633	-47.900	-47.633	-47.300	-46.100	-46.000
地盤高										
追加距離		3.125	20.00	15.00	10.00	0.00	10.00	15.50	3.000	3.125
単距離	1.25	10.00	5.00	5.00	2.00	0.00	5.00	5.00	1.25	
測点	-1.25	NO-3	NO-2	-5.00	NO-1	NO-0	NO-1	+5.00	NO-3	-1.25

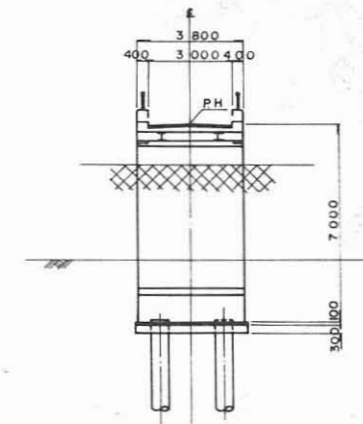
平面図縮尺 1:200



標準断面図縮尺 1:50



断面図縮尺 1:100



支 承	E-タイプ
伸縮装置	A-タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無

C-20



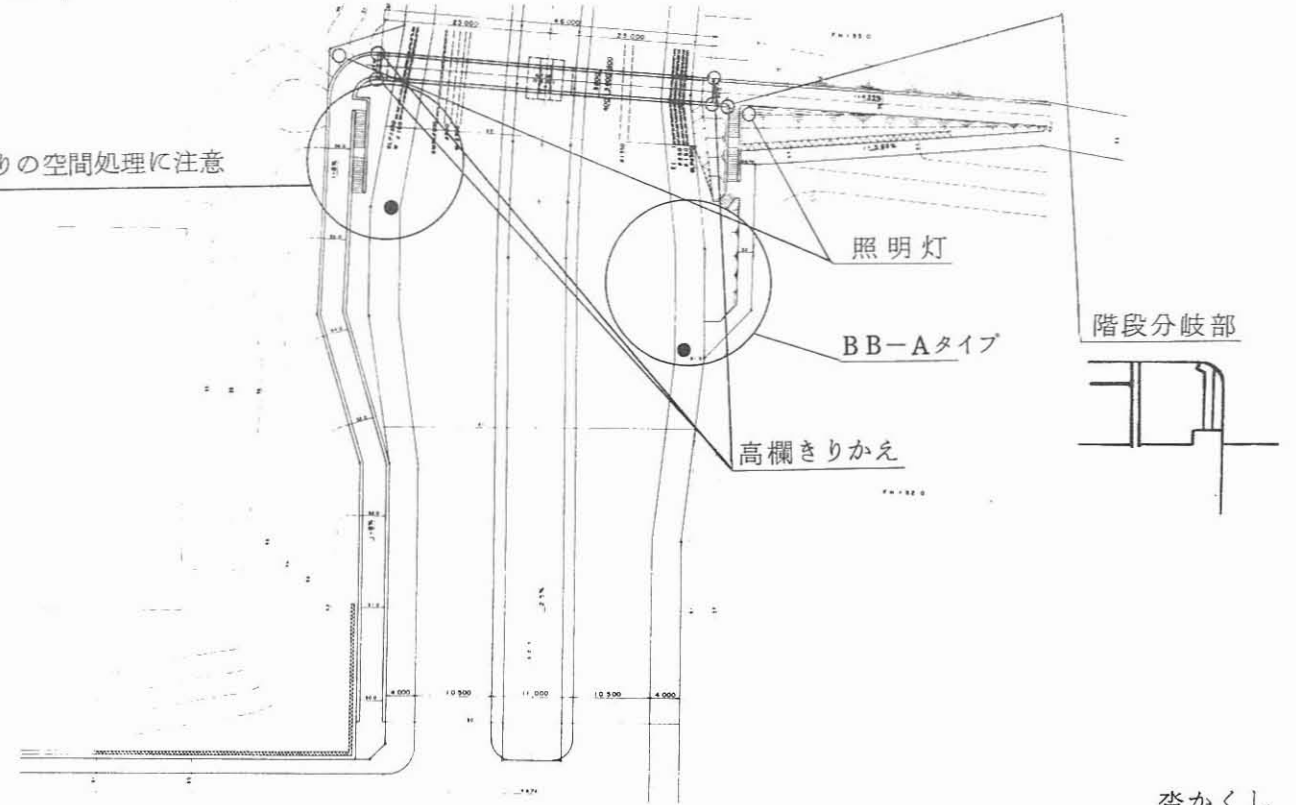
交差形態 歩専道 / 道路(3・2・3)
 管理区分 b-2
 巾員 3.0 m / 4.0 m
 橋梁タイプ インターミディエート(幹線道路系・ルート色)
 構造形式 PC2径間連続下路
 橋長・巾員 46.0 m ・ 3.0 m
 設計荷重 $W = 350 \text{ Kg/m}^2$
 設計意図

1. 都道計3・2・3にかかる橋として統一性をもたした。
2. 縦断勾配を8%以下におさえるために下路橋とした。



0 5 15 30

バスベイまわりの空間処理に注意

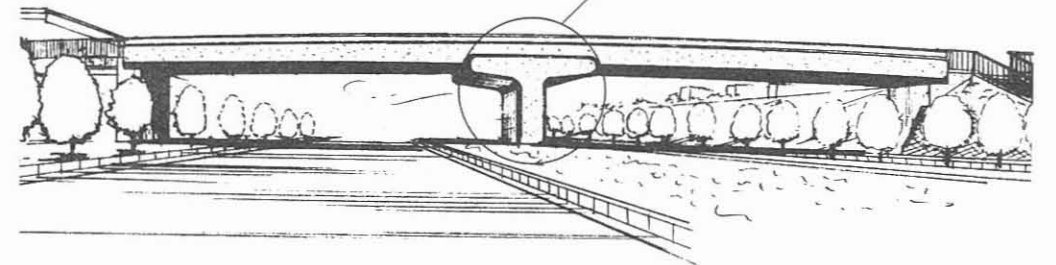
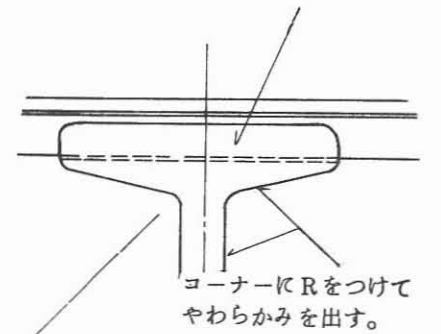


■高欄 橋 Aタイプ
 { アプローチ } Cタイプ
 { 斜路 }
 { 階段 }

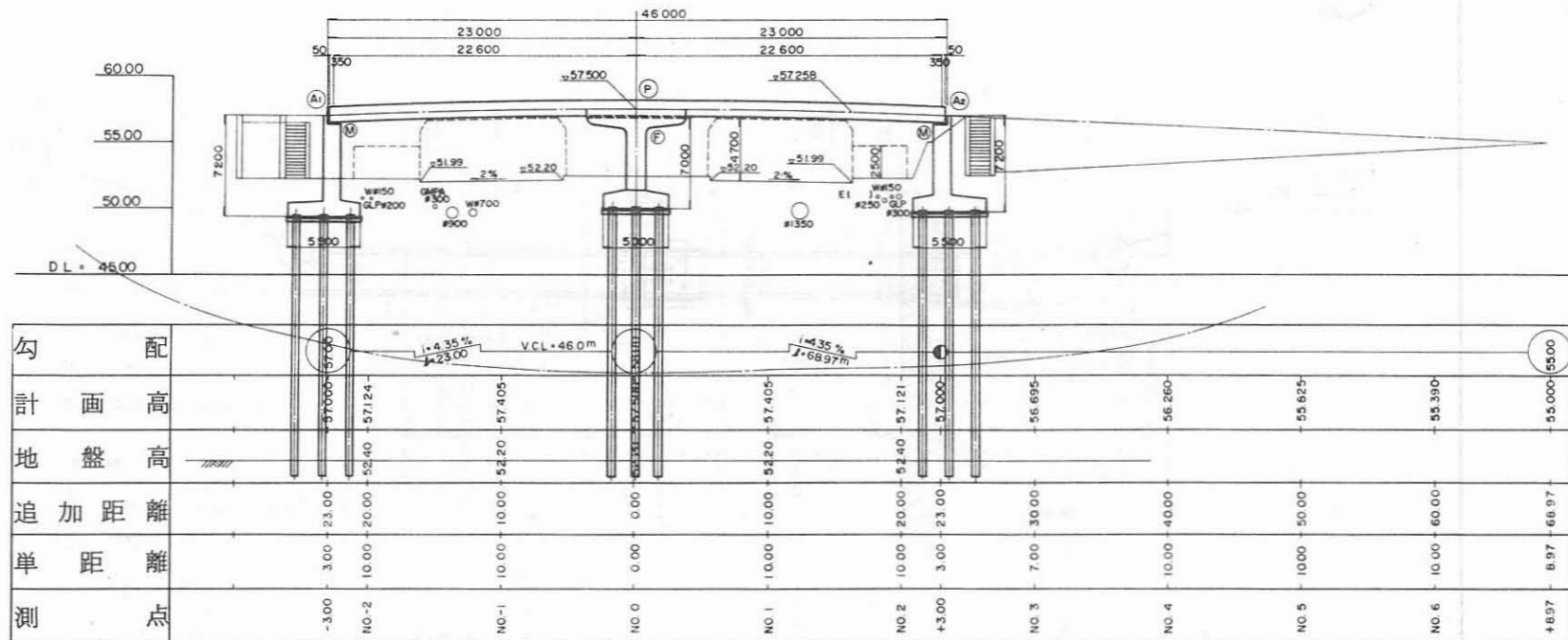
高欄Aタイプ(青系塗装ルート色)



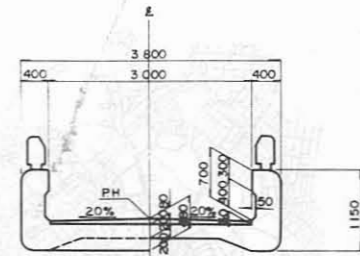
沓かくし



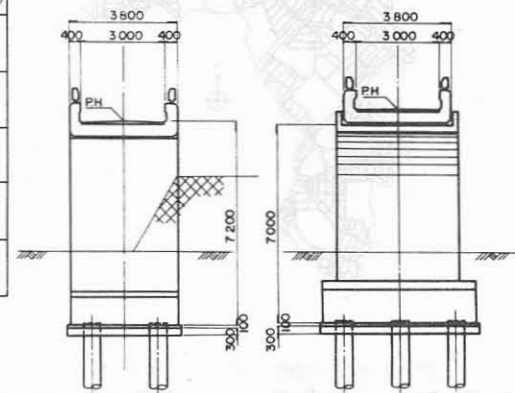
側面図縮尺 1:200



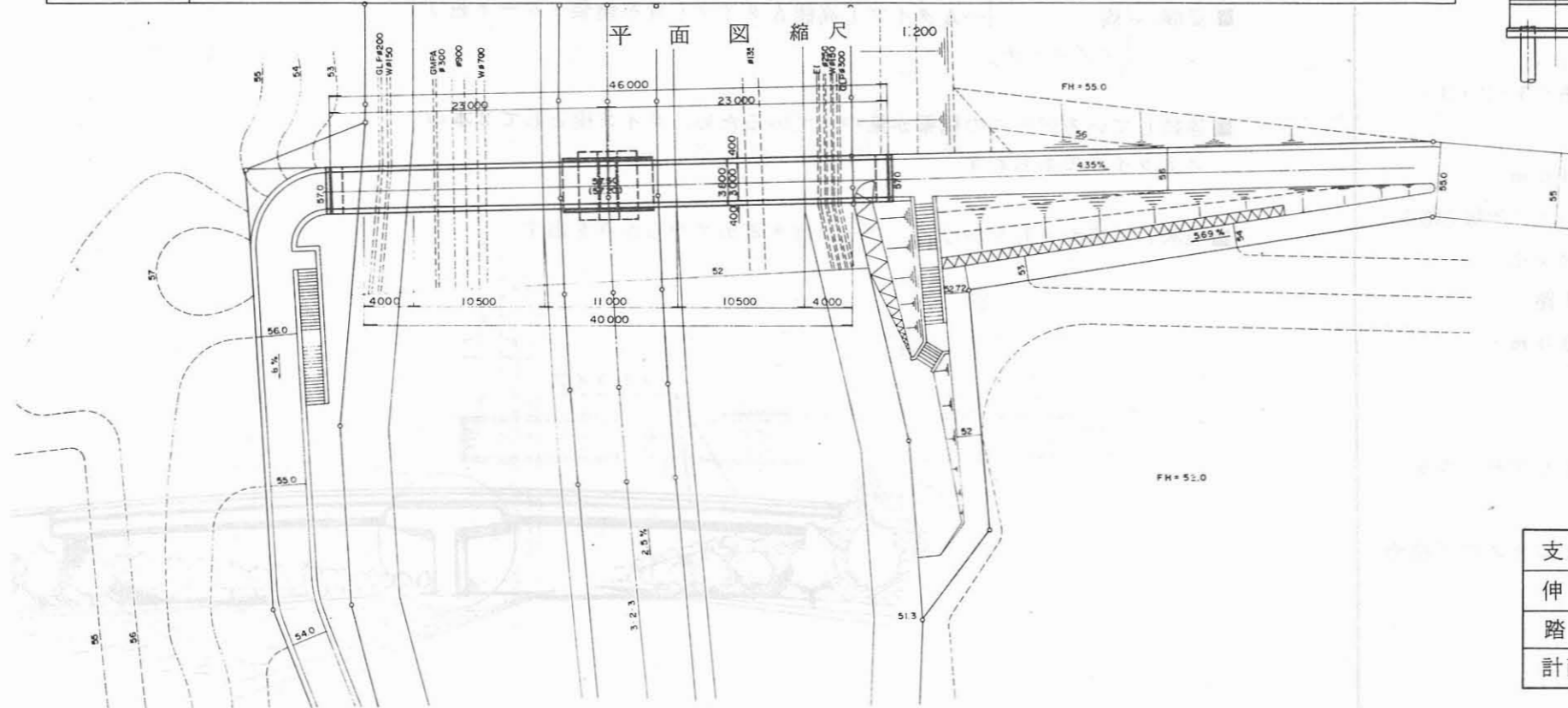
標準断面図縮尺 1:40



断面図縮尺 1:100



平面図縮尺 1:200



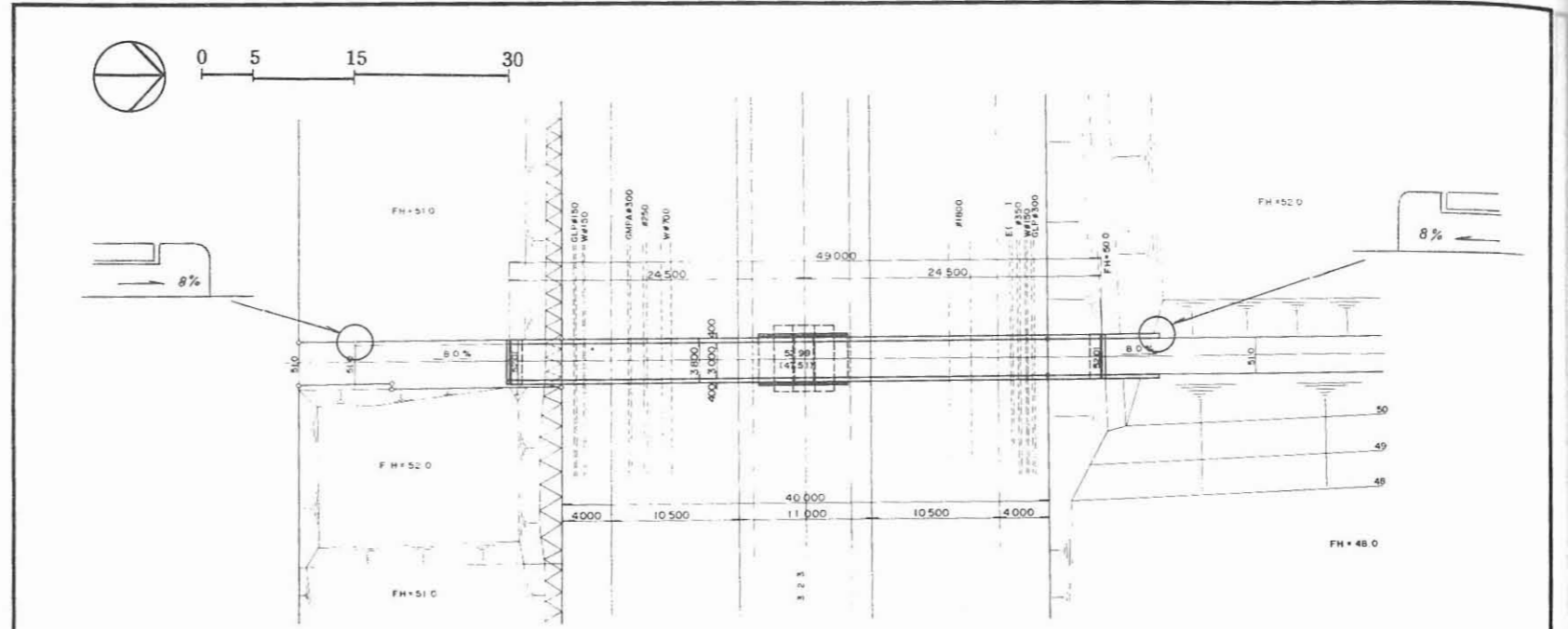
支 承	A - タイプ
伸縮装置	A - タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無

C-21



交差形態 歩専道 / 道路(3・2・3)
 管理区分 b-1
 巾員 3.0 m / 40.0 m
 橋梁タイプ インターメディアート(幹線道路系・ルート色) (サイン系)
 構造形式 PC2径間連続下路
 橋長・巾員 49.0 m ・ 3.0 m
 設計荷重 TL-14
 設計意図

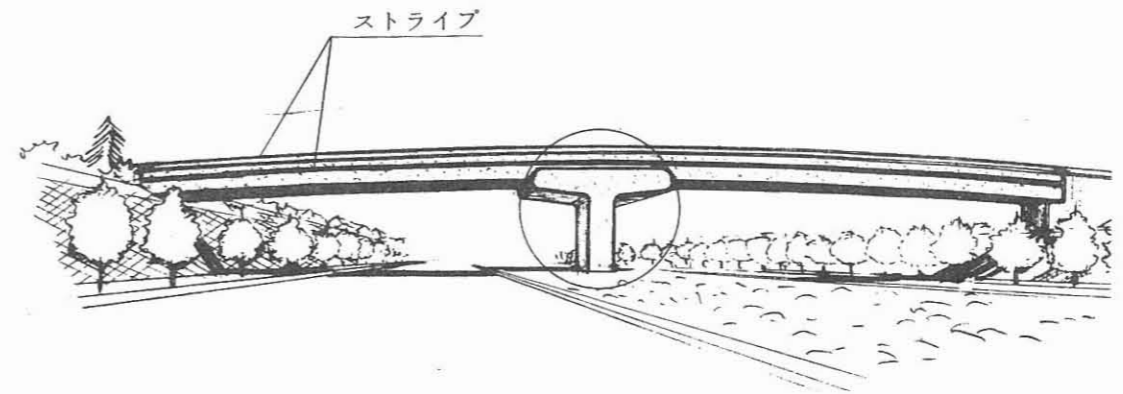
1. 都計道3・2・3にかかる橋として統一性をもたした。
2. 縦断勾配を8%以内におさえるために下路橋とした。



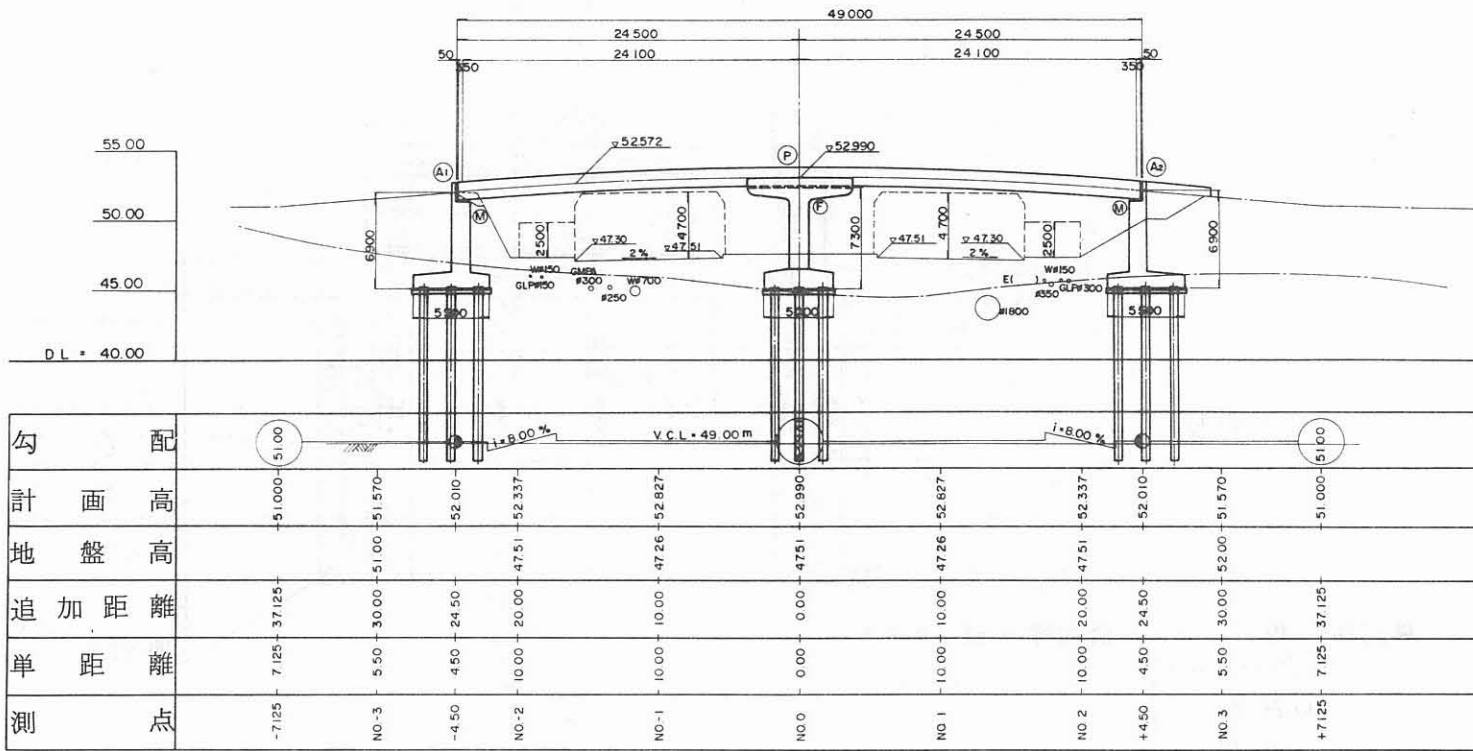
■ 高欄—橋—Aタイプ〔高欄Aタイプ(青系塗装・ルート色)〕
 アプローチ

■ 連続している同型式の橋梁が集中しているため、サイン橋として2本のストライプであらわす

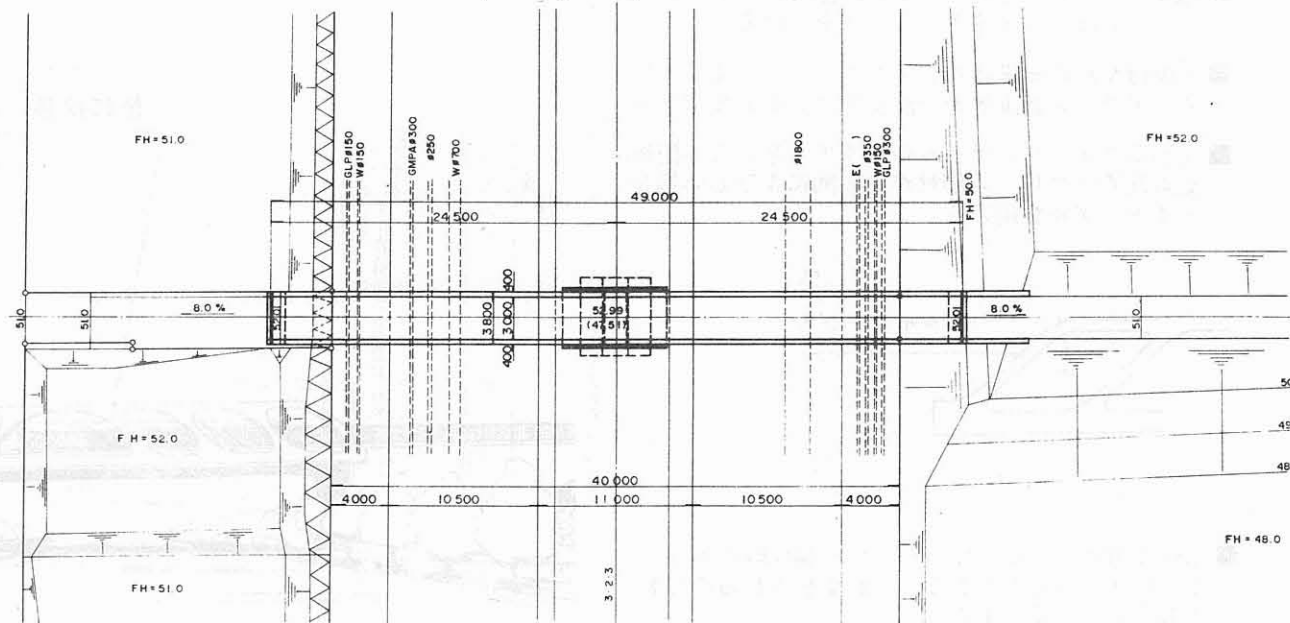
■ 橋脚には沓かくしをつける。コーナはまるめてやかみを出す



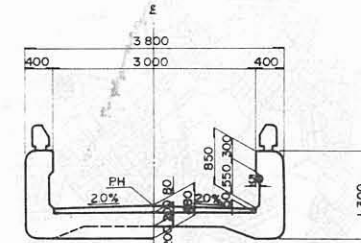
側面図縮尺 1:200



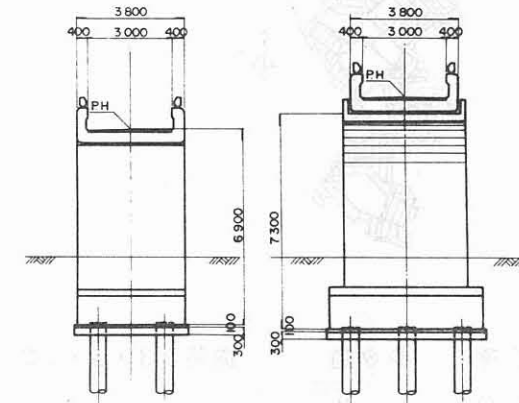
平面図縮尺 1:200



標準断面図縮尺 1:40



断面図縮尺 1:100



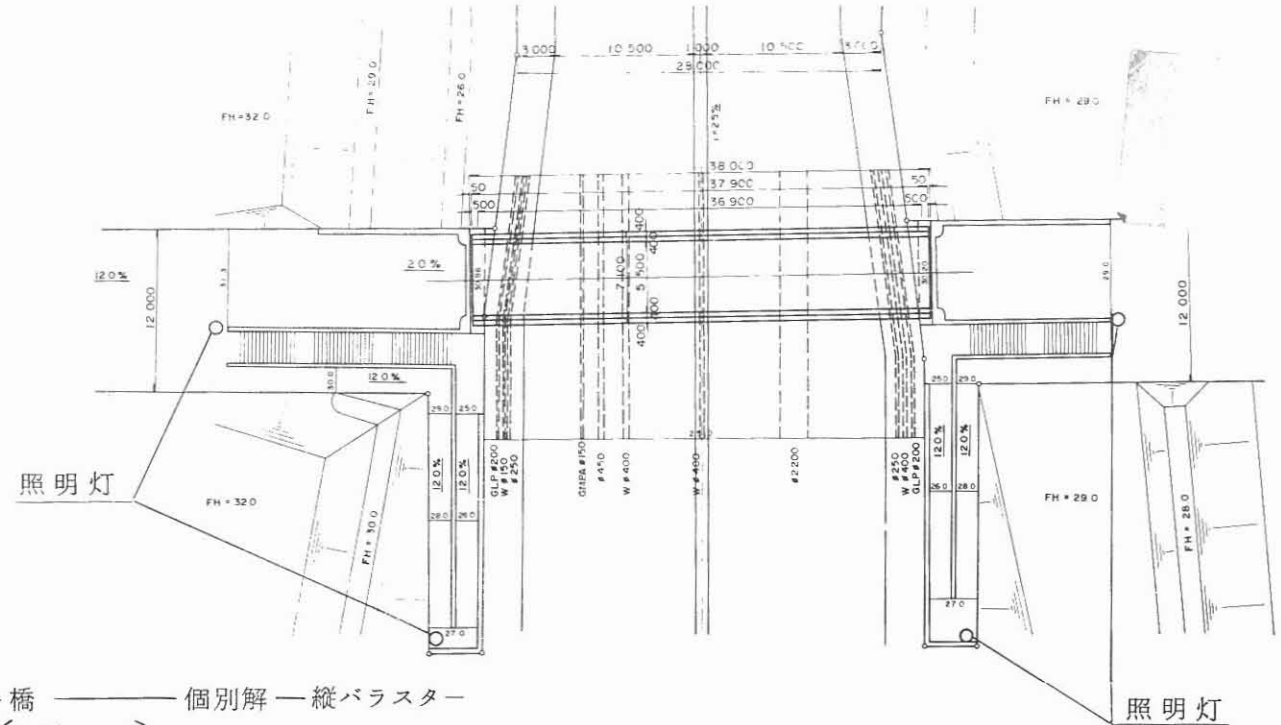
支 承	A - タイプ
伸縮装置	A - タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無

C-25



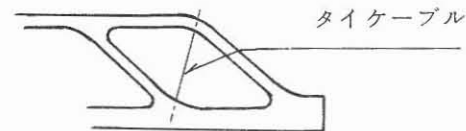
交差形態 歩専道 / 道路 (3・3・22)
 管理区分 b-2
 巾員 5.50 m / 28.0 m
 橋梁タイプ インターメディアート (幹線道路系・ルート色)
 構造形式 鋼単純トラス桁
 橋長・巾員 38.0 m ・ 5.50 m
 設計荷重 TL-14
 設計意図

1. センター内の橋であり、桁構造に丸味をもたせ、形の特異性を強調している。



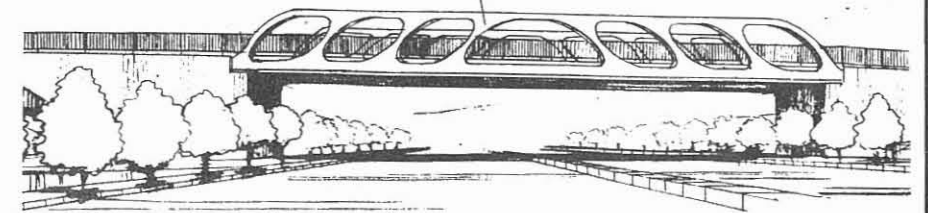
■ 高欄 橋 個別解 縦バラスト
 { アプローチ
 斜路
 階段 }

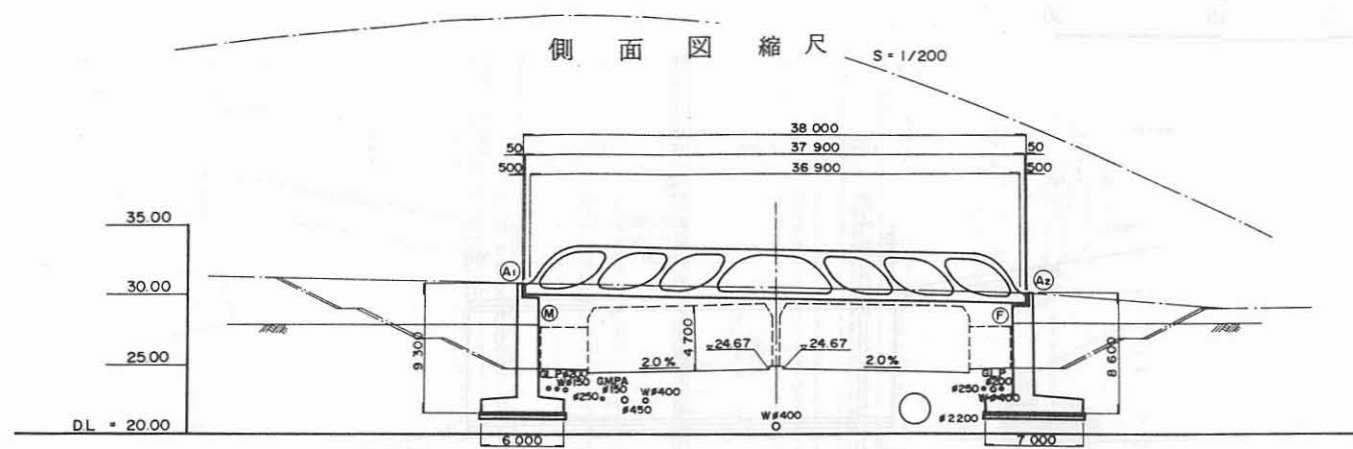
- 舗装—橋の前後と同一とするが舗装にパターン化をほどこす等アクセントをつける
- 今後行なわれる構造及びデザインについてはセンターデザイン計画等充分調整をはかる必要がある
- 変形のフィーレンデルのようでもあるこの桁は、支点近くのフレーム部材が応力的にきびしい場合タイケーブルを用いる



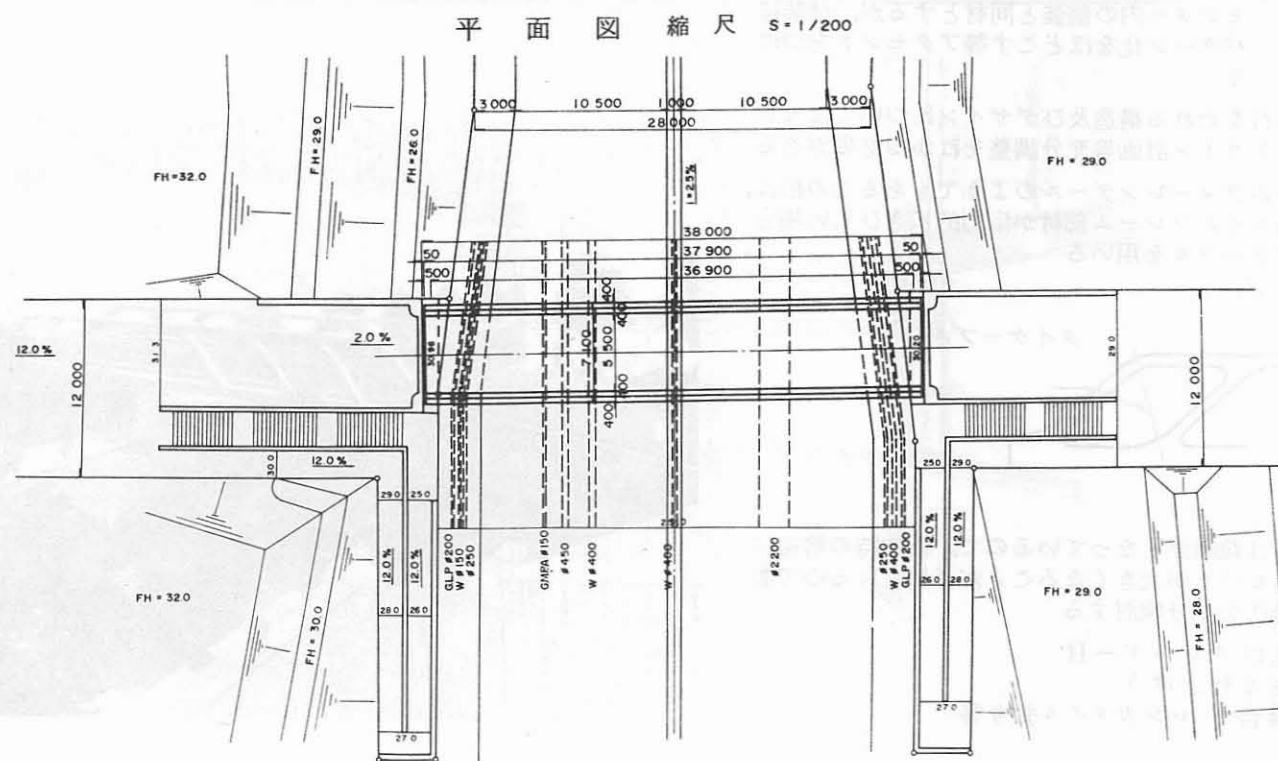
■ 部材は箱断面となっているので、製作時の溶接によるヒズミが大きくなることが予想されるので製作方法を十分検討する

桁に塗装 (ルート色として赤茶系)

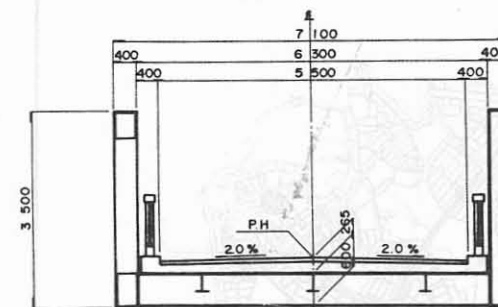




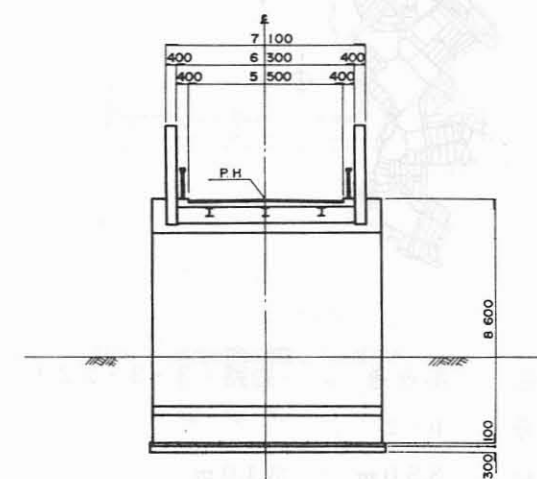
勾配	1.200% L=61.20		1.800% L=15.00					
計画高	30970	30960	30770	30370	30200	30080	29280	29000
地盤高	3050	2600	2467	2467	2467	2671	2900	2900
追加距離	3000	2000	1000	000	1000	1850	3000	3350
単距離	1000	050	1000	000	1000	850	1000	350
測点	NO.3	NO.2	NO.1	NO.0	NO.1	NO.2	NO.3	+350



標準断面図 縮尺 S=1/50



断面図 縮尺 S=1/100



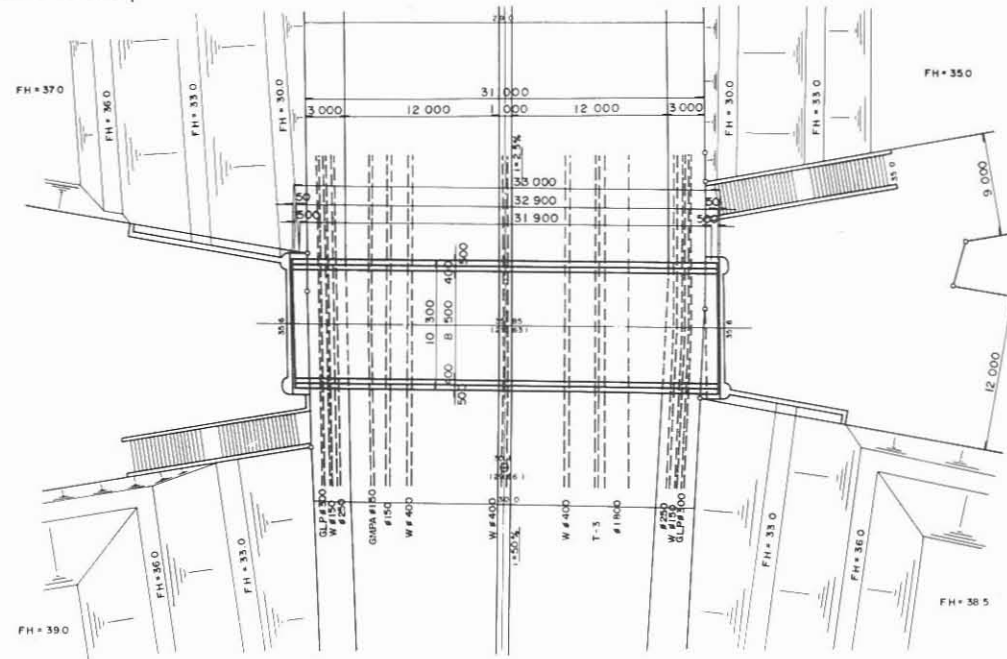
支 承	C - タイプ
伸縮装置	A - タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無

C-31



交差形態 歩専道 / 道路 (3・3・22)
 管理区分 b-2
 巾員 8.50m / 3.10m
 橋梁タイプ フォーマル(センター系)
 (幹線道路系・サイン系)
 構造形式 鋼単純トラス桁
 橋長・巾員 33.0m ・ 8.50m
 設計荷重 TL-14
 設計意図

1. センター内の橋であり、桁構造に丸みをもたせ、形の特異性を強調している。

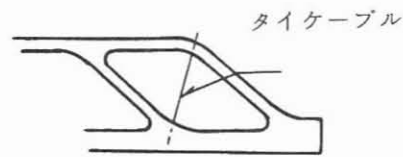


■ 高欄 — 橋 — 個別解 — 縦バラスト
 [アプローチ] ["] 壁高欄

■ 舗装 — センター内の舗装と同材とするが、舗装にバタパターン化をほどこす等アクセントをつける

■ 今後行なわれる構造及びデザインについてはセンターデザイン計画等充分調整をはかる必要がある

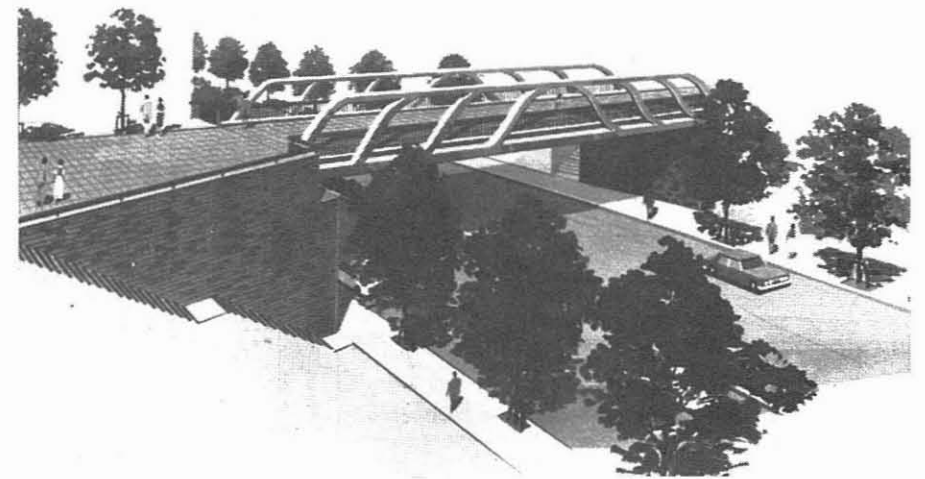
■ 変形のフィレンデルのようでもあるこの桁は、支点近くのフレーム部材が応力的にきびしい場合タイケーブルを用いる



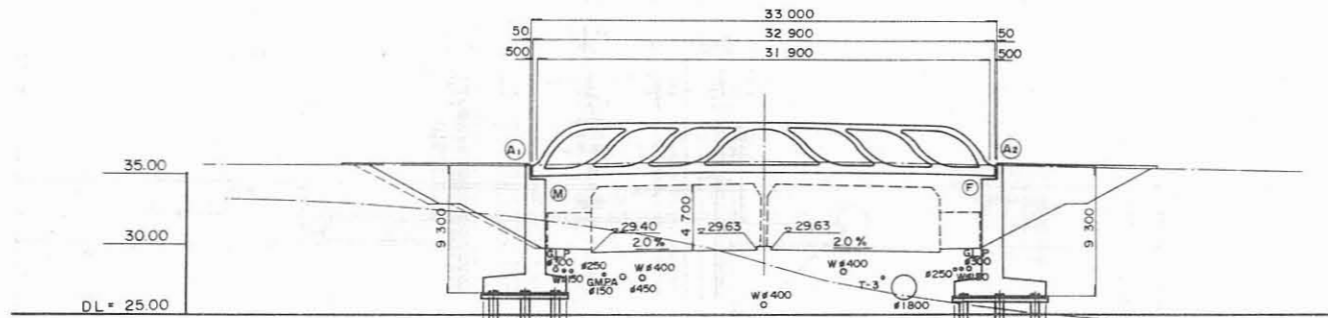
■ 部材は箱断面となっているので、製作時の溶接によるヒツミが大きくなるのが予想されるので製作方法を十分検討する

■ 仕上げグレードーH
 (主な仕上げ)
 橋台 — レンガタイル張り等

■ サイン橋として特異性をだすために
 桁はシルバー系
 高欄は赤茶系を塗装(ルート色)

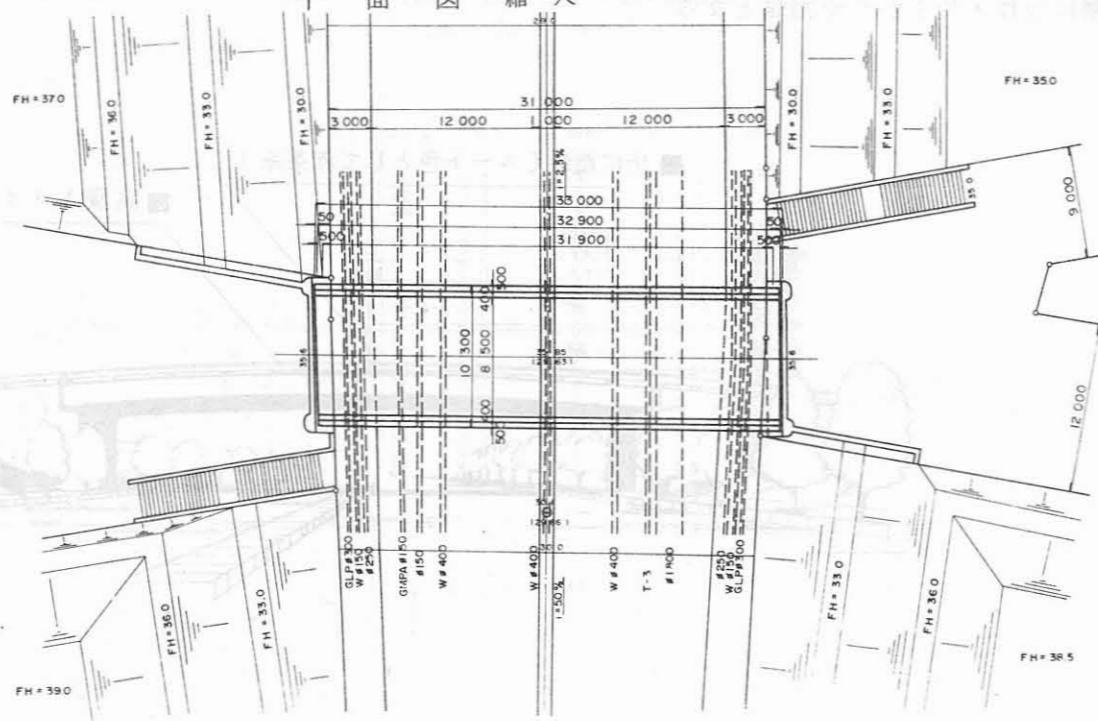


側面図縮尺 S=1/200

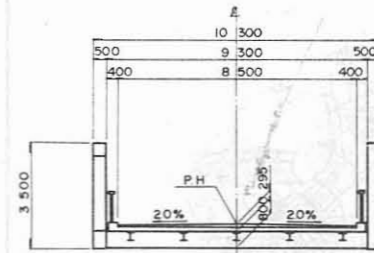


勾配	3.00% L=16.50							
計画高	-NO.3	-NO.2	-NO.1	-NO.0	-NO.1	+NO.2	+NO.3	
地盤高	35.600	35.600	35.600	35.757	35.848	35.600	35.600	
追加距離	3000	2000	1650	1000	000	1650	3000	
単距離	1000	1000	650	1000	000	1000	1000	
測点	-NO.3	-NO.2	-NO.1	-NO.0	-NO.1	+NO.2	+NO.3	

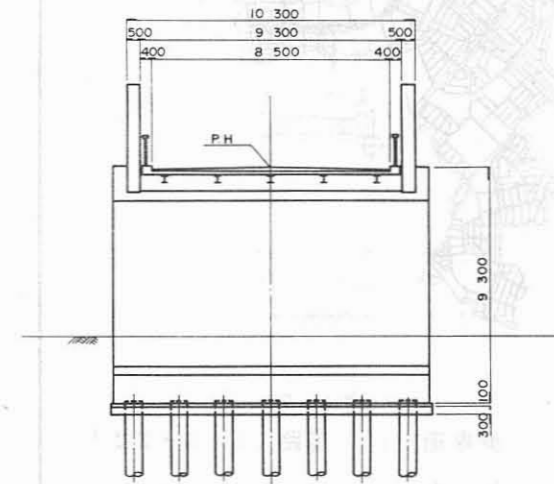
平面図縮尺 S=1/200



標準断面図縮尺 S=1/100

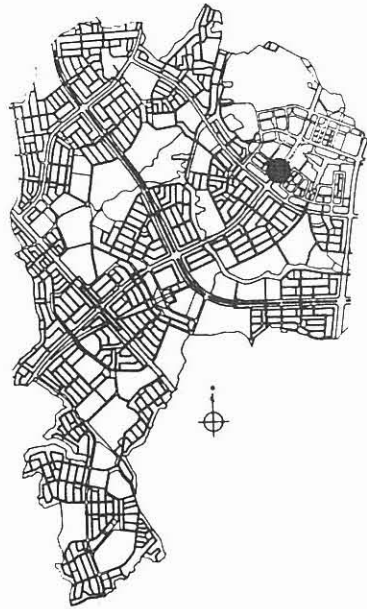


断面図縮尺 S=1/100



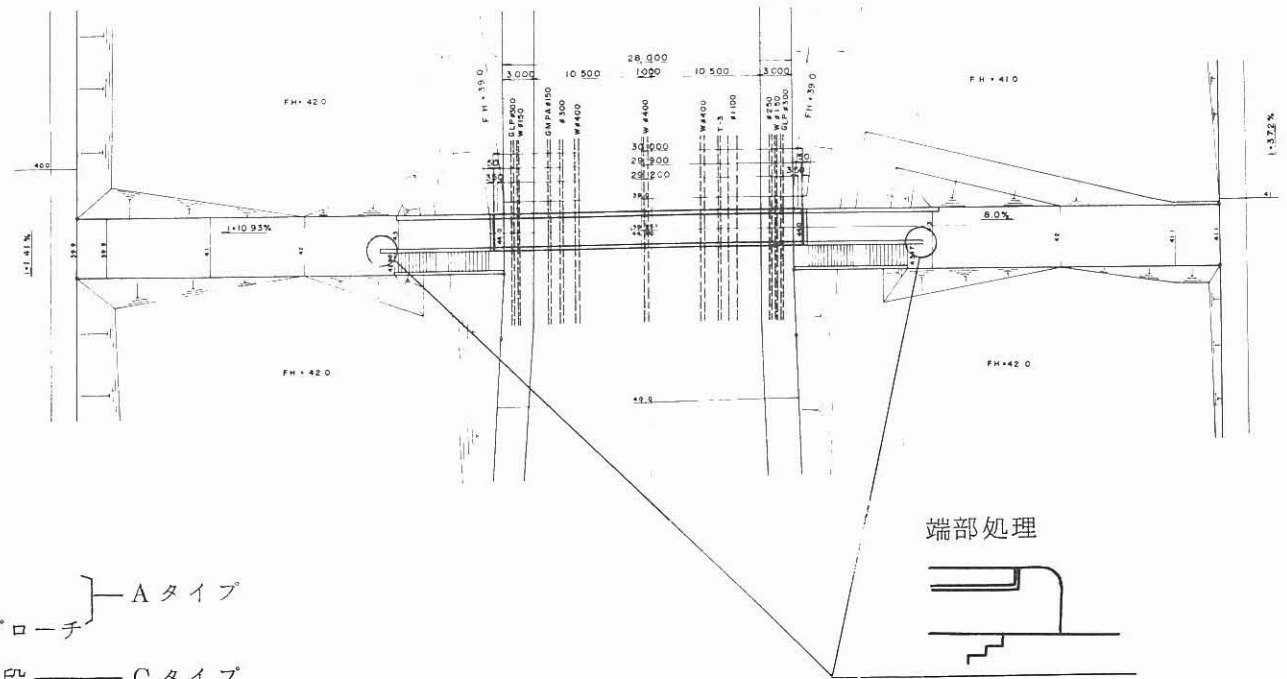
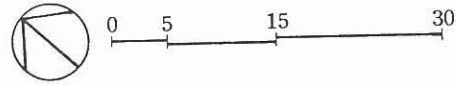
支 承	C - タイプ
伸縮装置	A - タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無

C-32



交差形態 歩専道 / 道路 (3・3・22)
 管理区分 b-1
 巾員 3.0 m / 28.0 m
 橋梁タイプ インターミディエート (幹線道路系・ルート色)
 構造形式 鋼単純C型桁
 橋長・巾員 30.0 m ・ 3.0 m
 設計荷重 TL-14
 設計意図

1. 経済性をはかり、美観上フランジが見えないC型鋼を使用した。

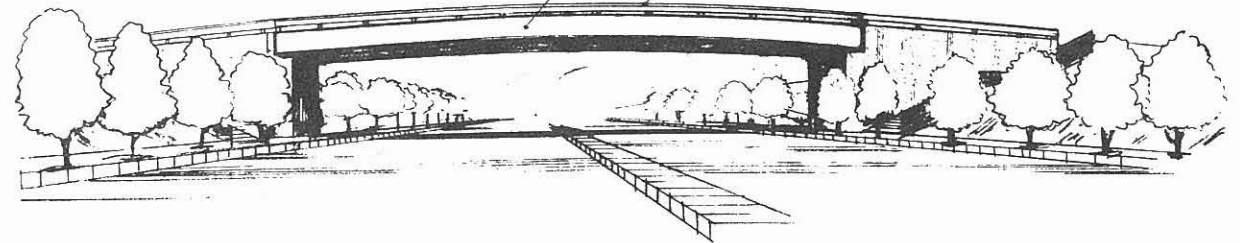


■ 高欄 [橋 / アプローチ] — Aタイプ
 [階段] — Cタイプ

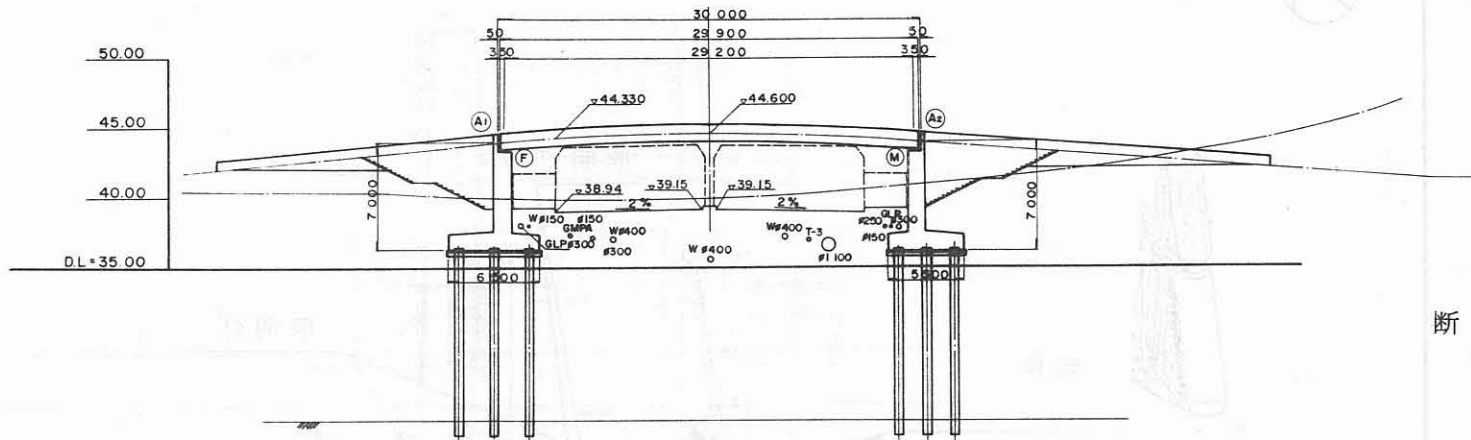
- 振動に対するチェックを行なうこと
- C型鋼は製作・施工がやや困難となる

■ 桁に塗装 (ルート色として赤茶系)

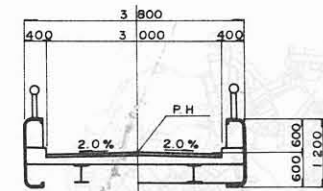
■ 高欄 Aタイプ



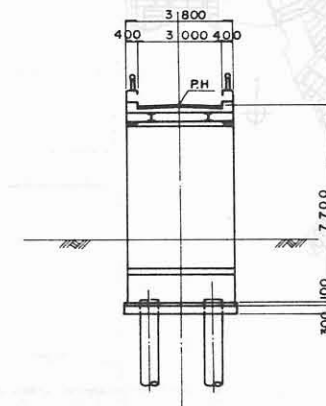
側面図縮尺 1:200



標準断面図縮尺 1:50

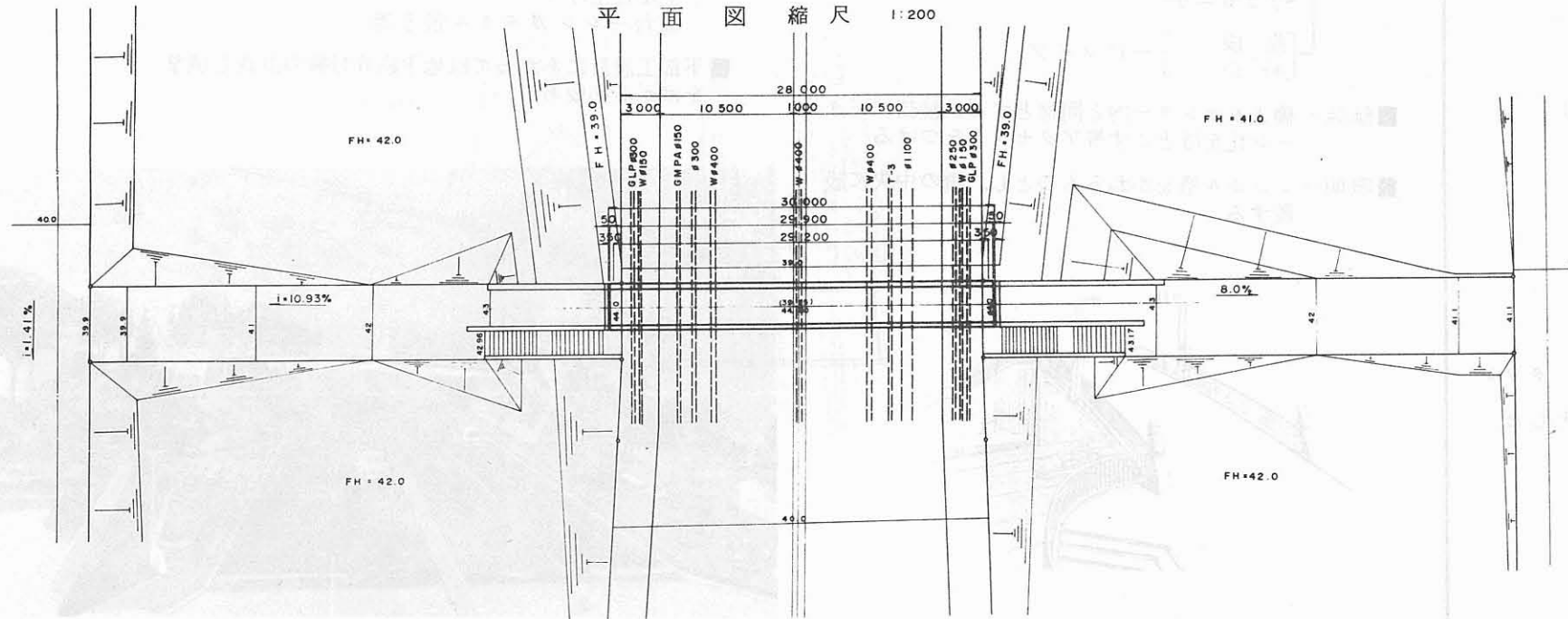


断面図縮尺 1:100



勾配	39.90	44.00	44.20	41.10
計画高	39.900	42.360	44.333	41.10
地盤高	43.20	43.453	44.000	42.800
追加距離	82.50	30.00	15.00	51.25
単距離	10.00	5.00	0.00	30.00
測点	NO. 5	NO. 3	NO. 1	NO. 5

平面図縮尺 1:200



支 承	E - タイプ
伸縮装置	A - タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無

C-34



交差形態 歩専道 / 道路 (3・4・36)
 管理区分 b-1
 巾員 5.50 m / 20.0 m
 橋梁タイプ フォーマル (センター系)

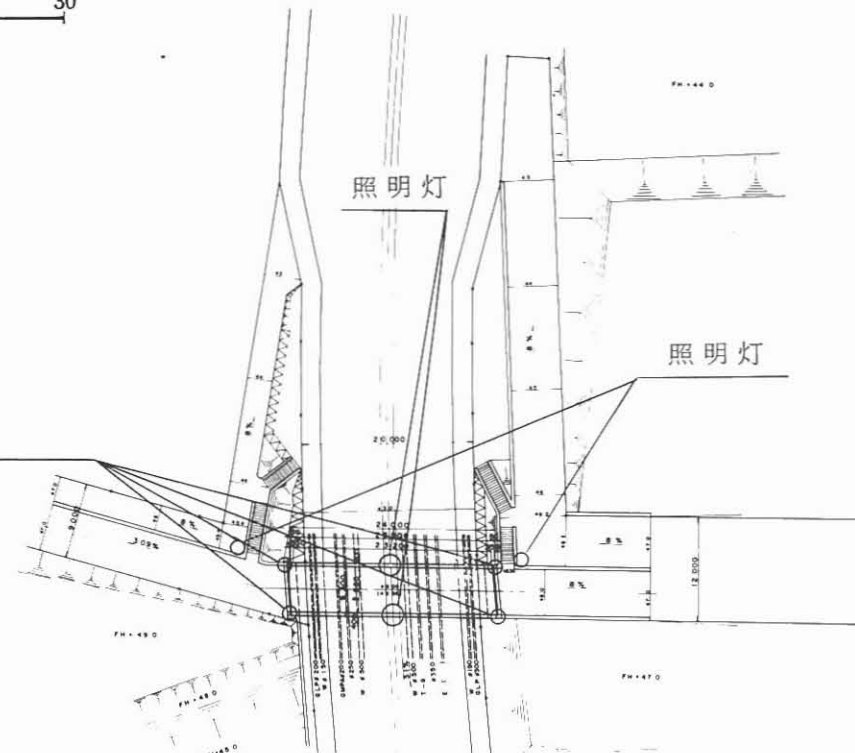
構造形式 PC単純T桁
 橋長・巾員 24.0 m ・ 5.50 m
 設計荷重 TL-14

設計意図

1. タウンセンターと住宅街を結ぶ橋で、タウンセンター象徴橋としてエレメントで工夫した。



親柱



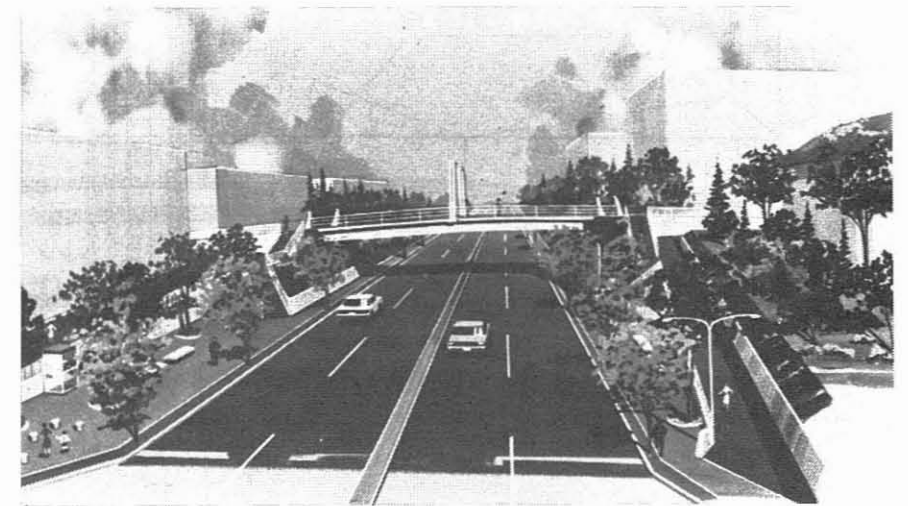
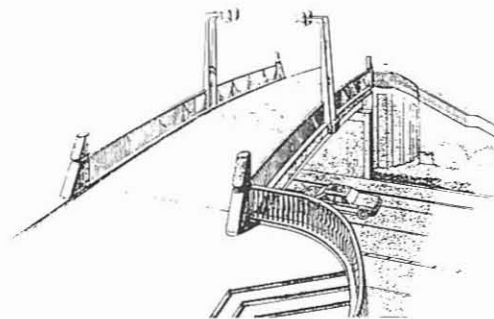
- 高欄
 - 橋
 - アプローチ
 - 階段
 - 斜路
 個別解
 Cタイプ

■舗装 - 橋よりセンター内と同材とするが舗装にパターン化をほどこす等アクセントをつける

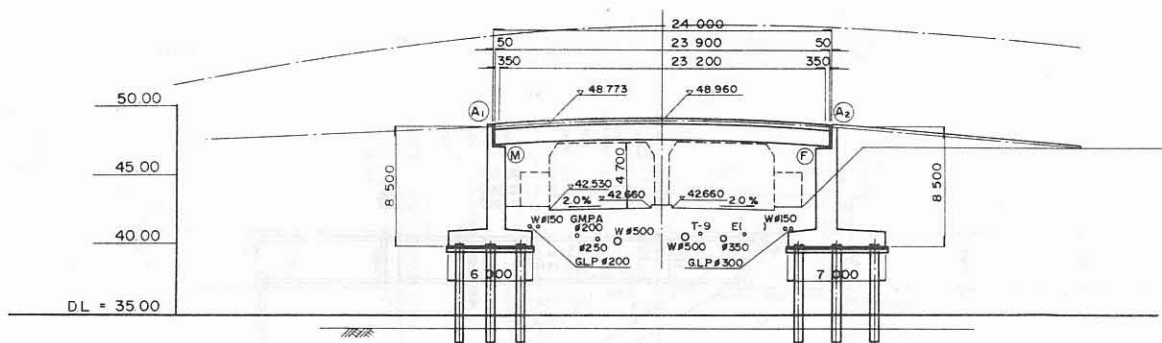
■照明 - シンボル塔をかねるものとし、橋の中央に設置する

■仕上げグレード-H (両サイドを視点として) (主な仕上げ)
橋台 - レンガタイル張り等

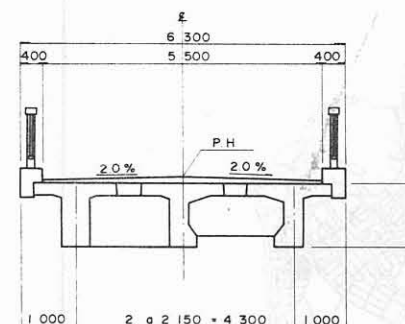
■下部工設計にあたっては地下鉄6号線の計画と調整をはかる必要あり



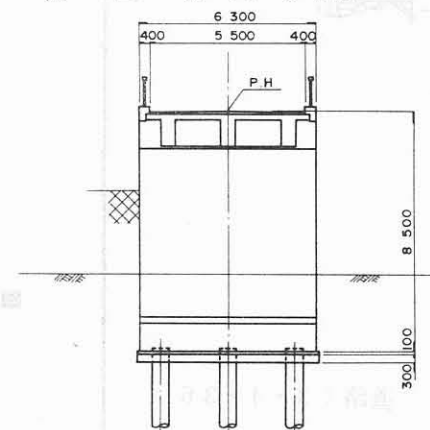
側面図縮尺 S=1/200



標準断面図縮尺 S=1/50

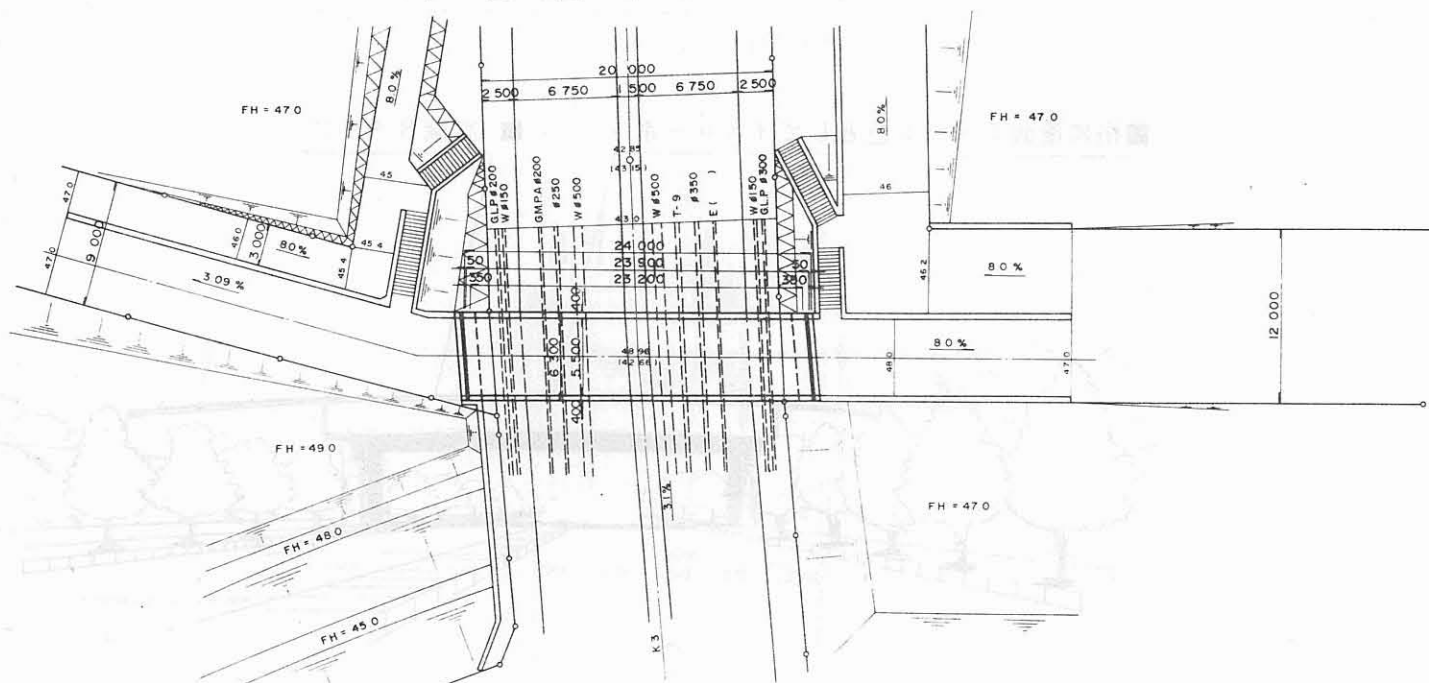


断面図縮尺 S=1/100



勾配														
計画高	-47.679	-47.926	-47.998	-48.141	-48.08	-48.480	-48.627	-48.960	-49.44	-48.627	-48.480	-47.840	-47.000	-47.000
地盤高														
追加距離	3.000	2.00	2.00	1.700		2.00	10.00	10.00	0.00	10.00	2.00	8.00	20.00	30.00
単距離	8.00	2.00	3.00	5.00		2.00	10.00	0.00		10.00	2.00	8.00	20.00	30.00
測点	NO. 3	-2.00	NO. 2	-7.00		-2.00	NO. 1	NO. 0		NO. 1	+2.00	NO. 2	NO. 3	

平面図縮尺 S=1/200



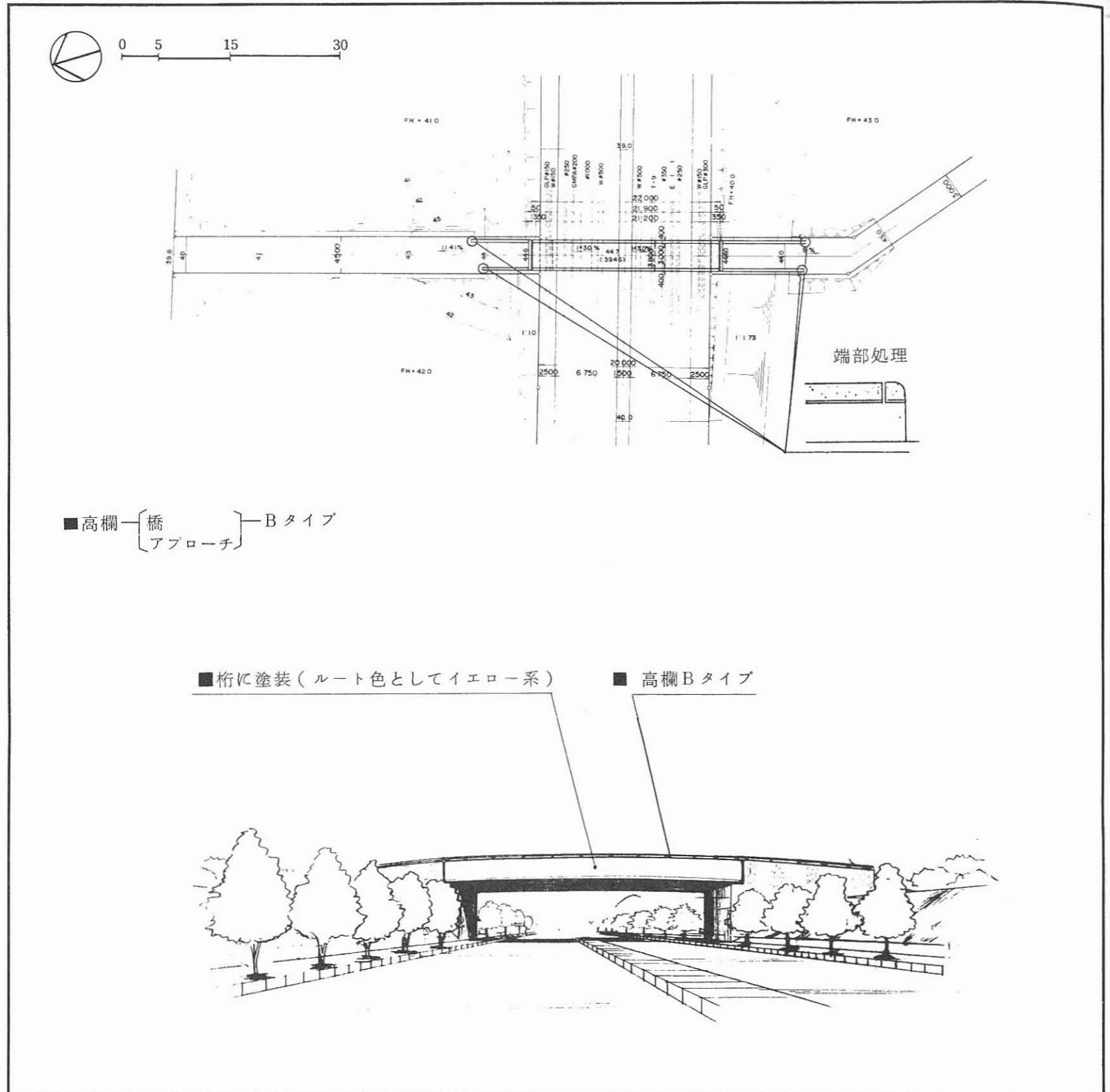
支 承	A - タイプ
伸縮装置	A - タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無

C-35

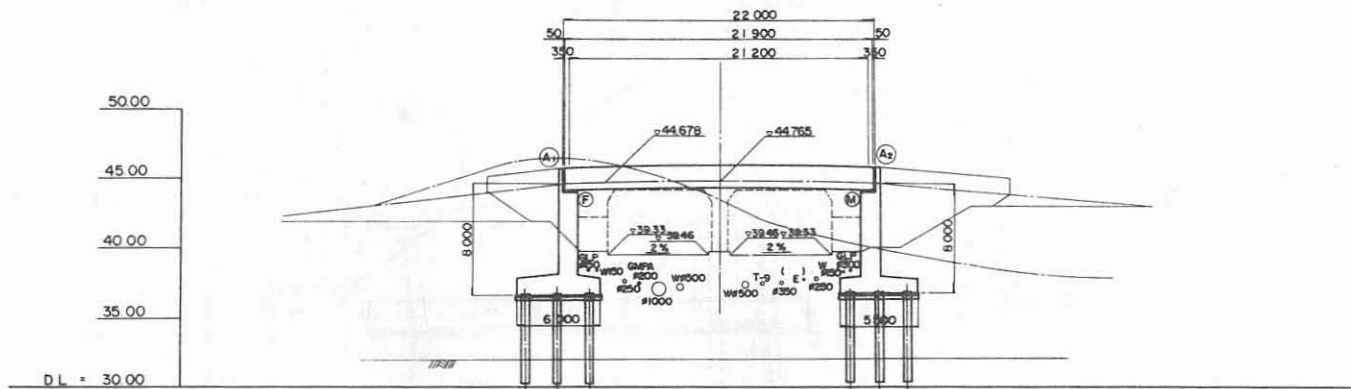


交差形態 歩専道 / 道路 (3・4・36)
 管理区分 b-1
 巾員 3.0 m / 20.0 m
 橋梁タイプ インターメディアート (幹線道路系・ルート色)
 構造形式 PC単純下路
 橋長・巾員 22.0 m ・ 3.0 m
 設計荷重 TL-14
 設計意図

1. 経済性をはかった。
2. 縦断勾配の関係で下路橋とした。

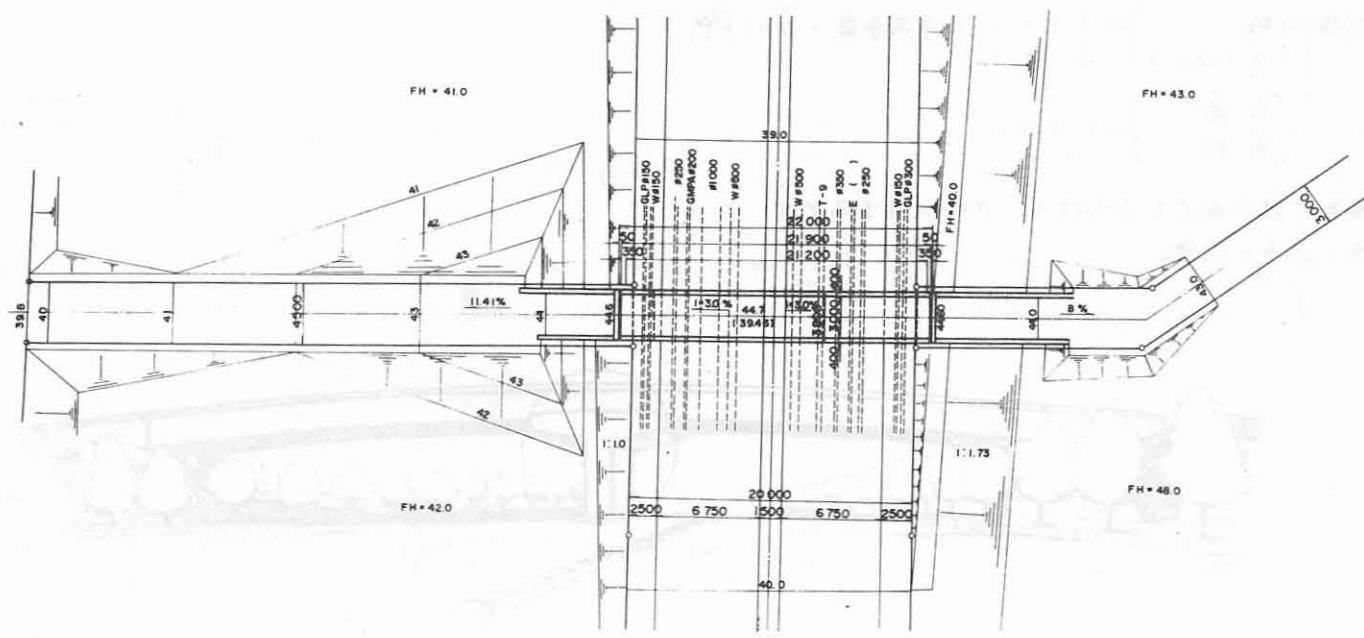


側面図縮尺 1:200

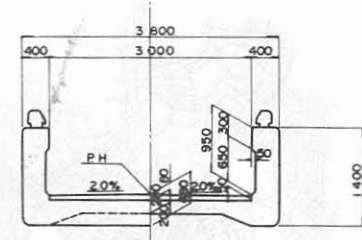


勾配	11.41% 42.050		3.00% 11.00		3.00% 41.00		8.00%	
計画高	43.573		44.600 44.629		44.930 44.765		43.688	
地盤高	39.46		39.46		39.46		39.46	
追加距離	2000		1100 1000		000 1100		2000 3000	
単距離	900		100 1000		000 1000		900 1000	
測点	NO.2		NO.1		NO.0		NO.1 NO.2 NO.3	

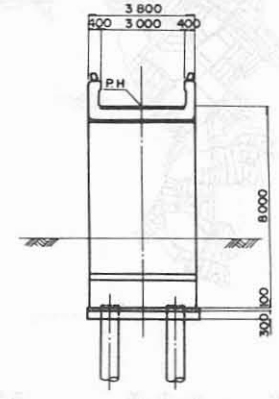
平面図縮尺 1:200



標準断面図縮尺 1:40



断面図縮尺 1:100



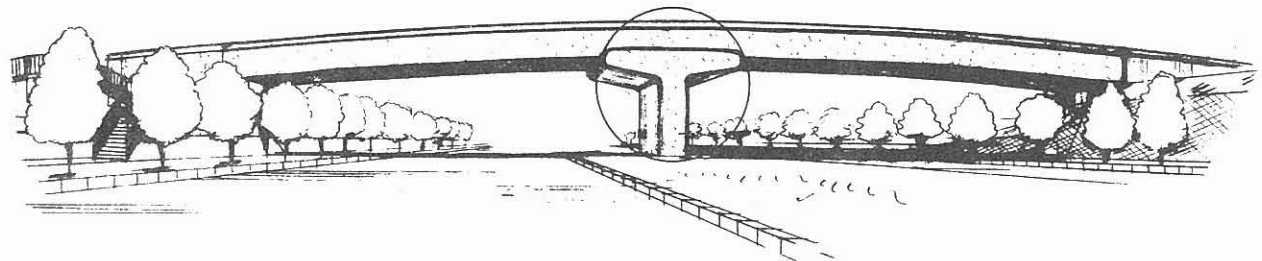
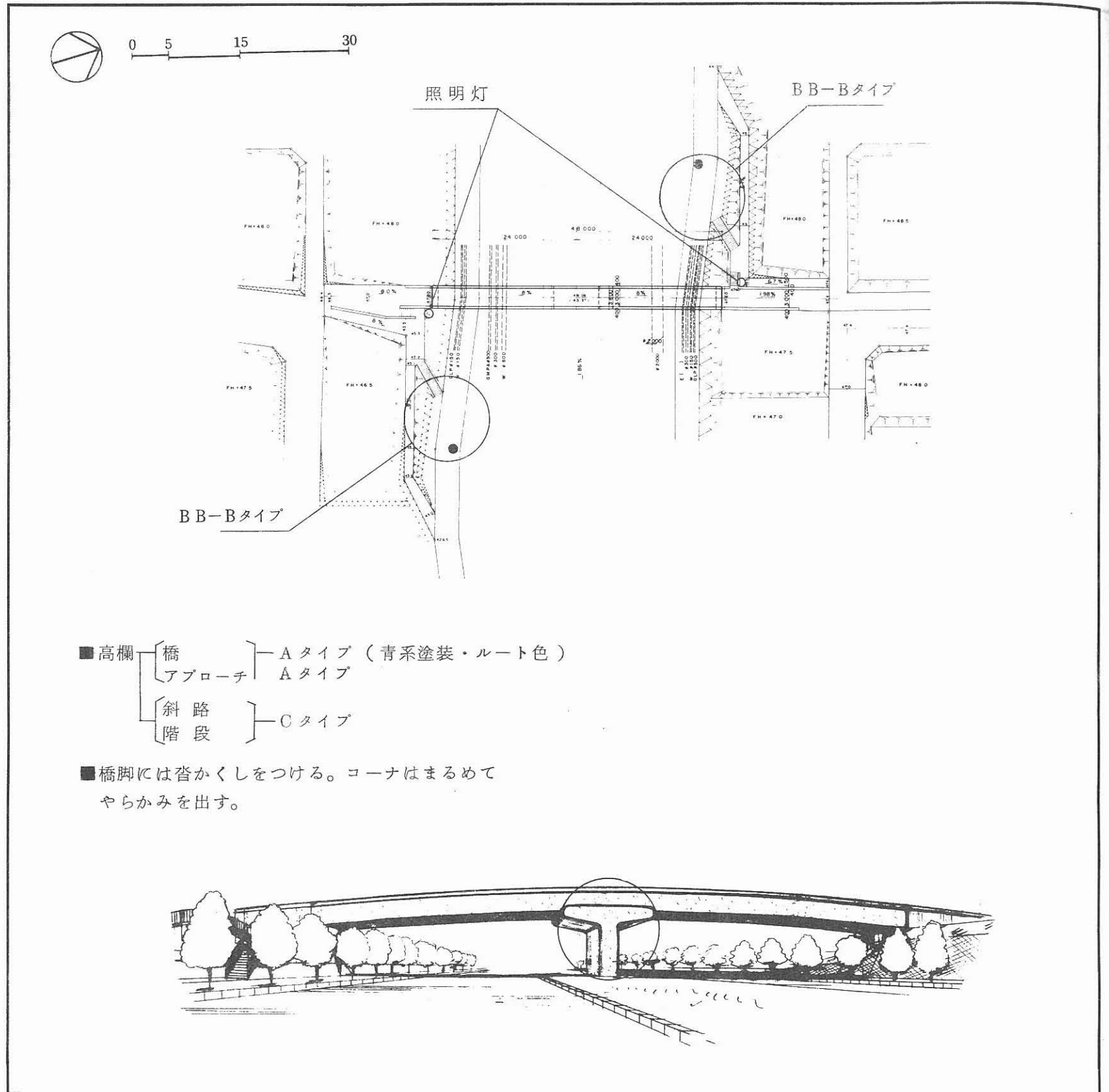
支 承	A - タイプ
伸縮装置	A - タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無

C-36

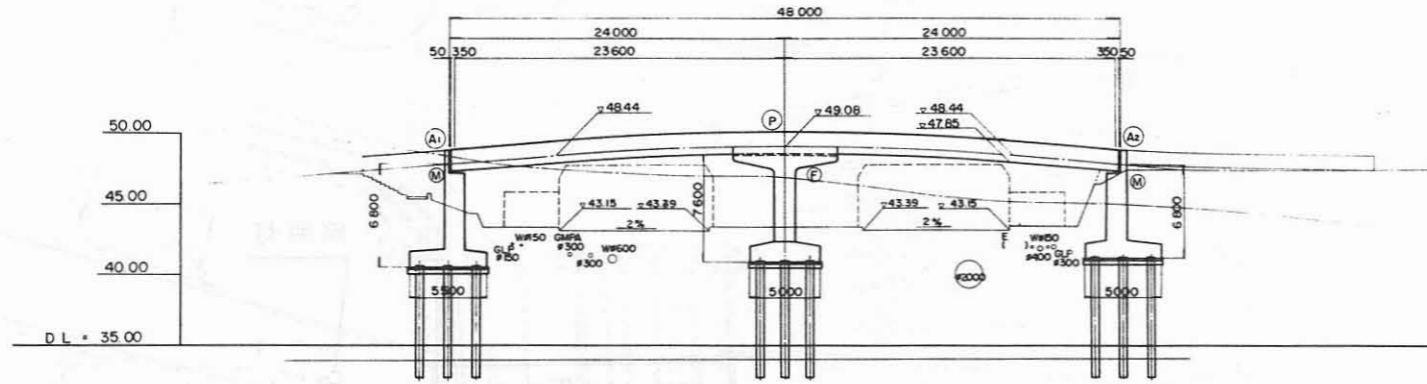


交差形態 歩専道 / 道路 (3・2・3)
 管理区分 b-2
 巾員 3.0 m / 40.0 m
 橋梁タイプ インターメディアート (幹線道路系・ルート色)
 構造形式 PC2径間連続下路
 橋長・巾員 48.0 m ・ 3.0 m
 設計荷重 $W = 350 \text{ Kg/m}^2$
 設計意図

1. 都計道3・2・3にかかる橋として統一性をもたした。
2. 縦断勾配を8%以内におさえるために下路橋とした。

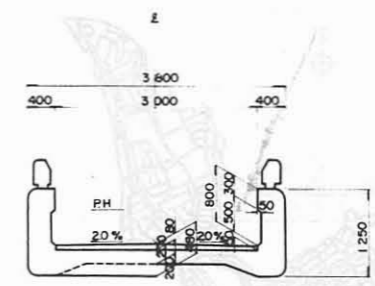


側面図縮尺 1:200

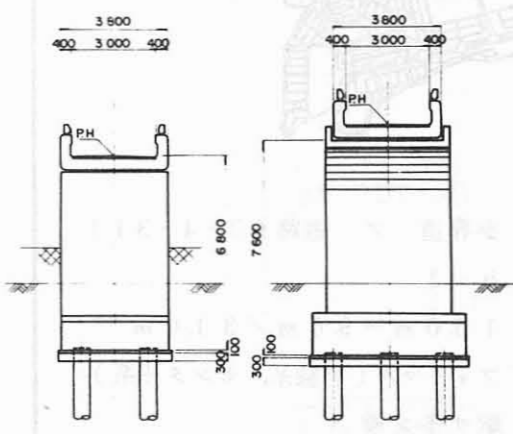


勾配	46.50 46.50 46.50	1:8.000% 1:40.25		VCL=32.000 1:6.000% 1:26.500		47.73 49.06 48.83		1:13.66 1:14.644		47.40				
計画高	46.50 46.52	47.32	47.80	48.12	48.44	48.83	49.06	48.83	48.44	47.80	47.64	47.42	47.40	
地盤高				43.12	43.39	43.14	43.39	43.14	43.14	43.39	46.10	47.55		
追加距離	40.25 40.00	30.00	24.00	20.00	16.00	10.00	0.00	10.00	16.00	24.00	26.50	40.00	41.14	
単距離	0.25 10.00	6.00	4.00	4.00	6.00	10.00	0.00	10.00	6.00	4.00	2.50	1.00	1.44	
測点	-0.25 10.14	10.3	-4.00	10.2	-6.00	10.1	10.0	10.0	+6.00	NO.2	+4.00	+6.50	+9.00	NO.4 +1.14

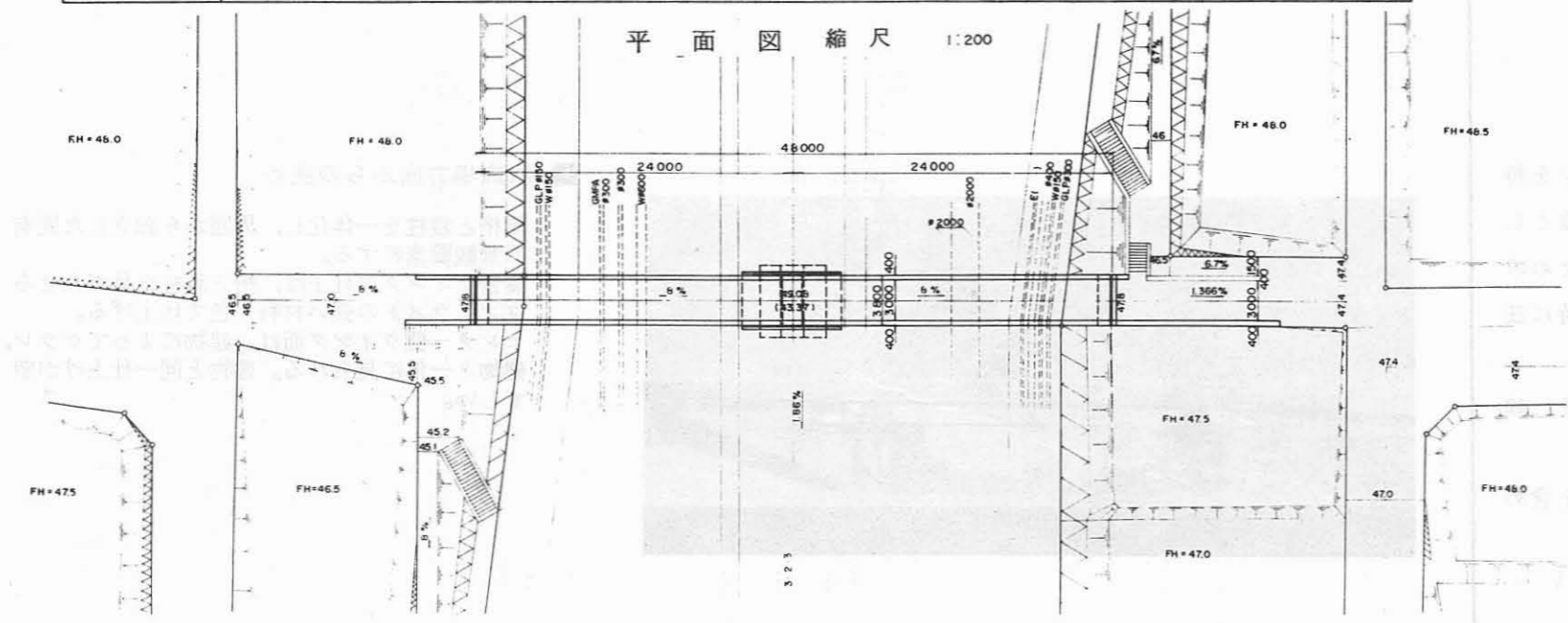
標準断面図縮尺 1:40



断面図縮尺 1:100



平面図縮尺 1:200



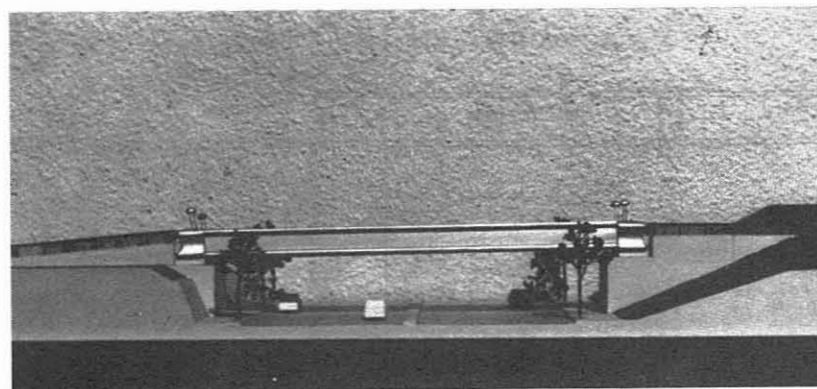
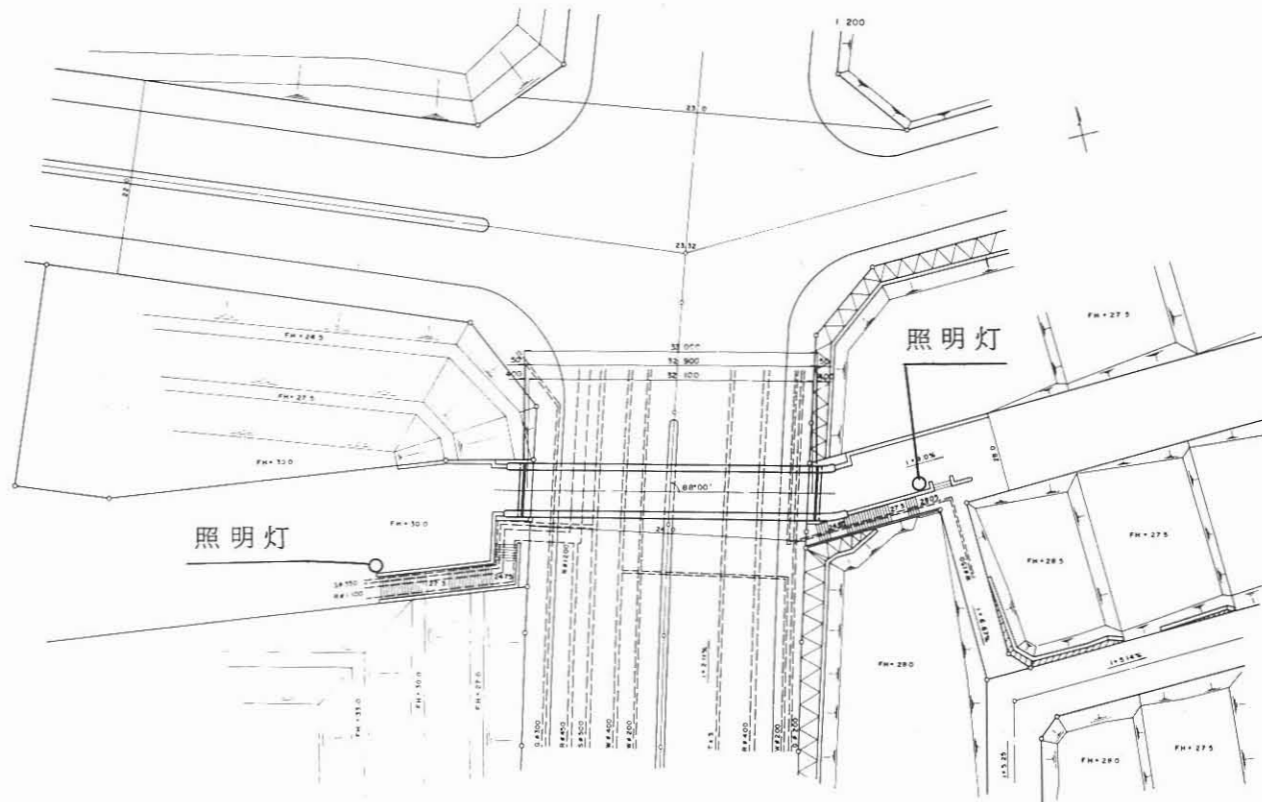
支 承	A-タイプ
伸縮装置	A-タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無

C-39



交差形態	歩専道 / 道路 (3・4・31)
管理区分	b-1
巾員	15.0m - 9.0m / 31.0m
橋梁タイプ	フォーマル (幹線系, センター系) 駅サイン橋
構造形式	鋼下路式鈹桁
橋長・巾員	33.0m ・ 4.5m
設計荷重	TL-14
設計意図	

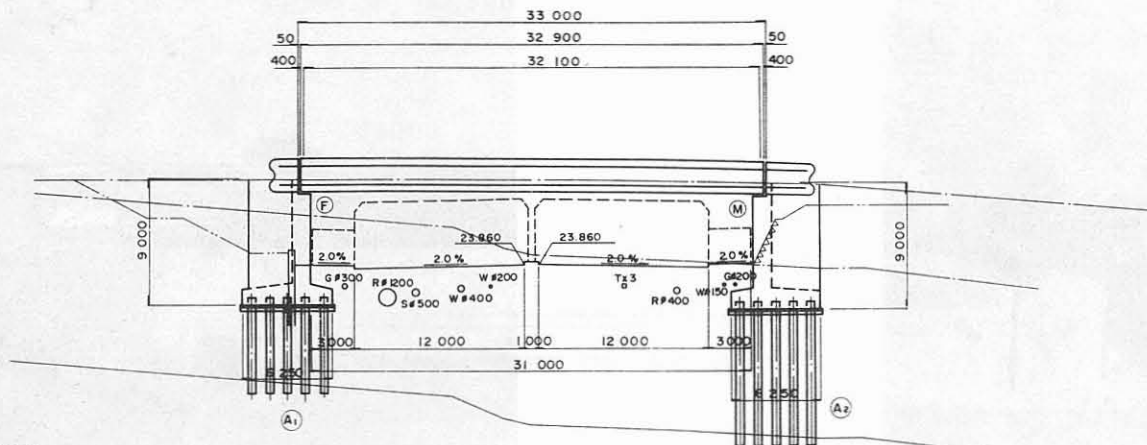
1. 駅前サイン橋としての独立したイメージを持たせること、またタウンセンター入口の橋として歩専道から見て特に強い分節を求めるために高欄、照明などエレメントのデザインに特に注意する。
2. 前後の仕上げ地盤高及び街路の計画高さ、建築限界を考慮し、下路橋型式とする。
3. 橋詰のおさまりについては橋軸の選定を含めて詳細設計の際に充分検討すること。



■ 駅広場方向からの眺め

- ・橋桁と親柱を一体化し、周囲から独立した固有の景観要素にする。
- ・橋台ウィングの仕上は、桁と親柱を目立たせるコントラストの強い材料・色で仕上げる。
- ・センター側ウィング面は、建物によってケラレ、建物と一体に見られる。建物と同一仕上げが望ましい。

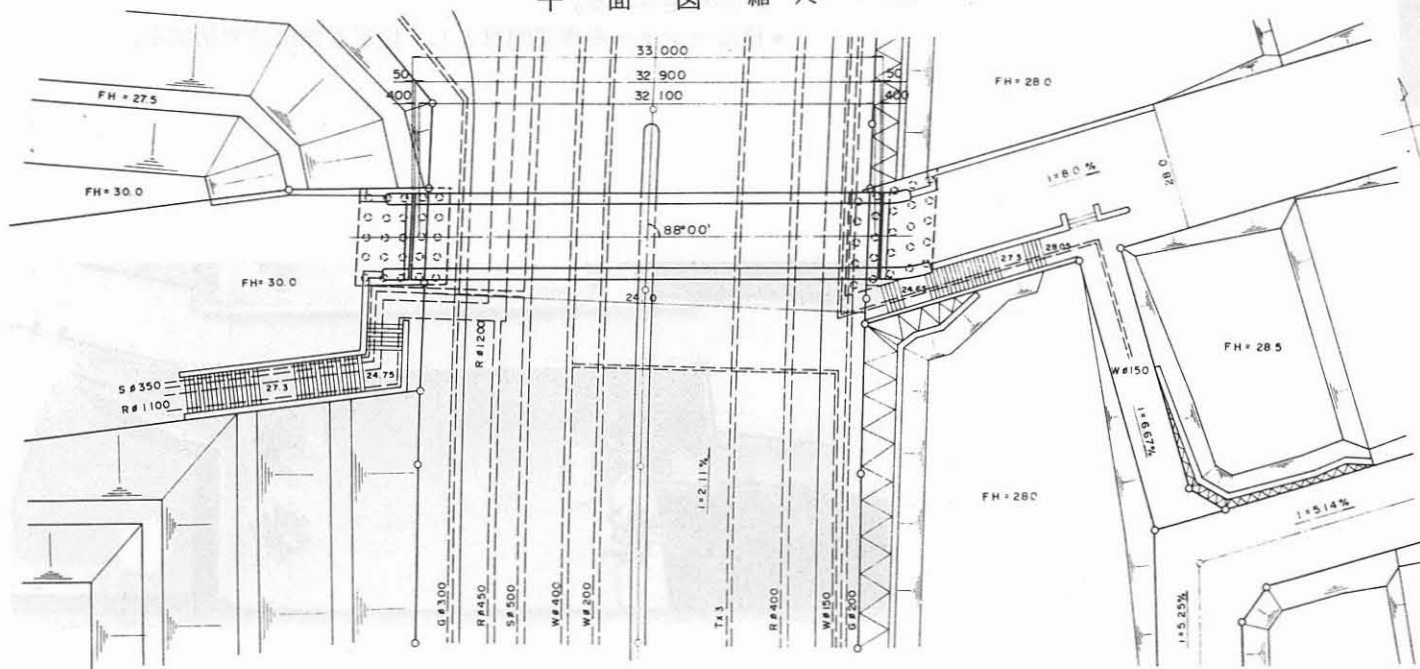
標準断面図 縮尺 1:200



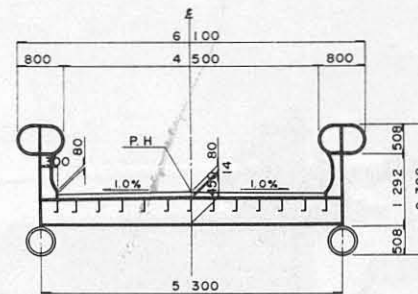
DL+10.000

勾配	LEVEL				
計画高	30.000	29.881	29.826	29.401	28.000
地盤高					
追加距離	16.500	0.000	16.500	3.000	17.500
単距離	0.000	16.500	16.500	0.500	15.000
測点	16.500	NO.0	16.500	2.500	17.500

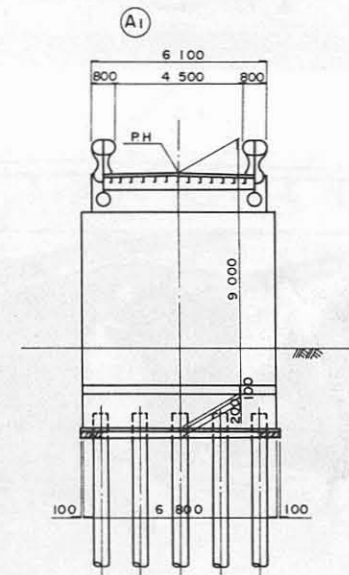
平面図 縮尺 1:200



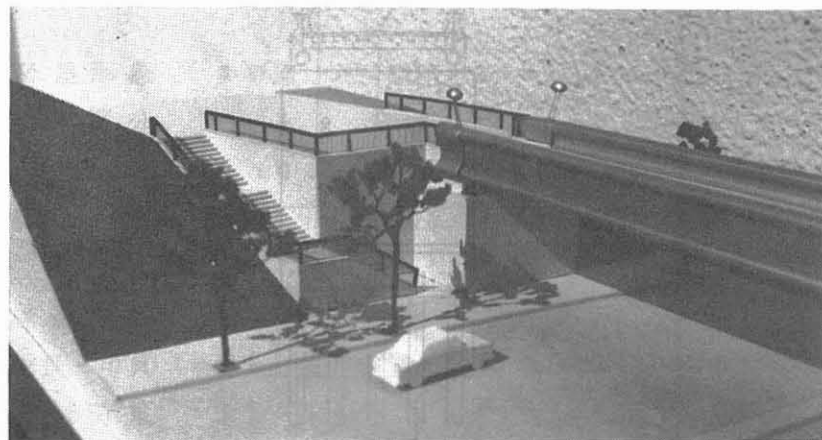
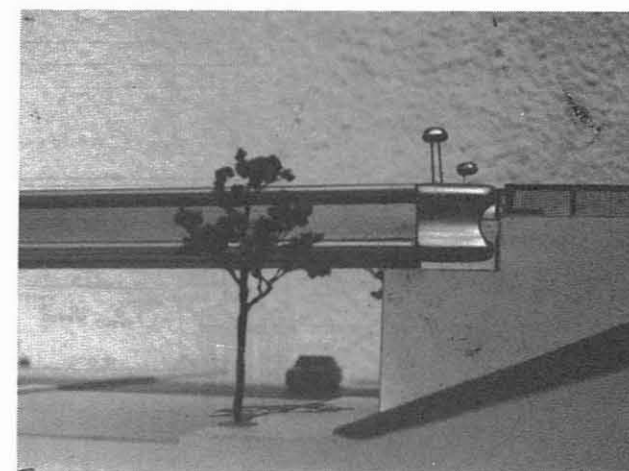
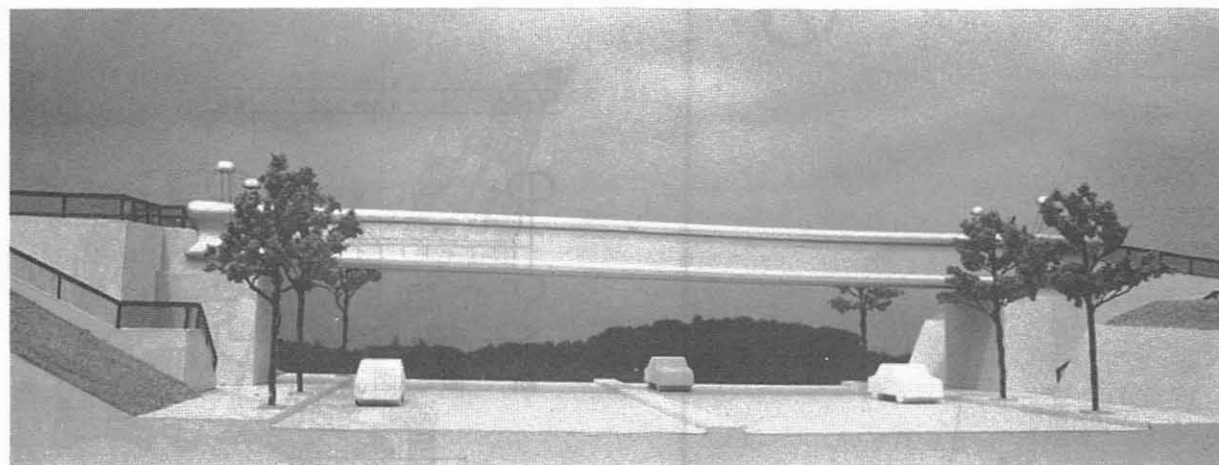
標準断面図 縮尺 1:50



断面図 縮尺 1:100



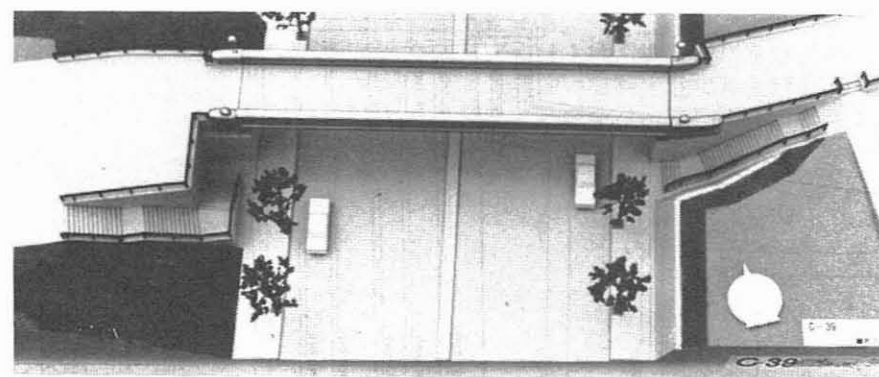
支 承	C - タイプ
伸縮装置	A - タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無



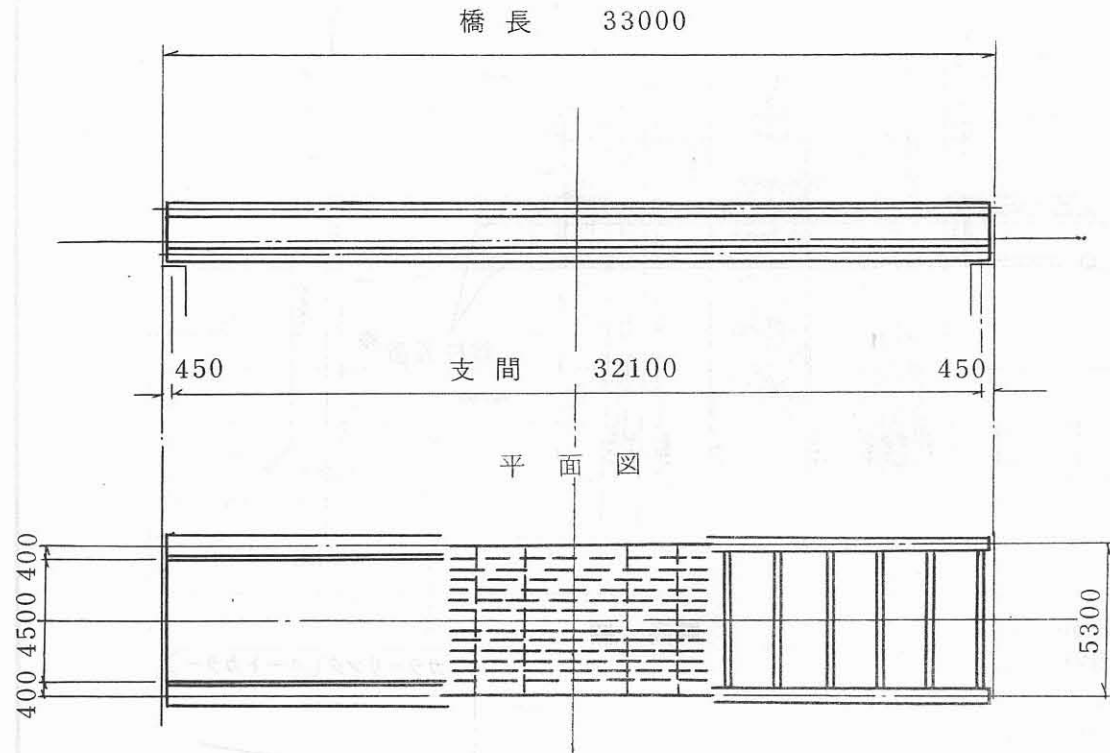
- 照明計画
 - 橋詰、親柱にオリジナルデザイン灯具を設置する。
 - 交差点に近いので、道路照明の照度は高い（明かるい）
 - 桁の内外装はシルバーである。
 - などから灯具は橋詰に設置するだけとし、配光を工夫する。（橋の中央部および下の階段に光がとどくよう灯具設計を行う。）
- 舗装計画
 - センター地区歩専道は、タイル貼り、住宅地側歩専道はアスコンが規定される。
 - 橋はセンター歩専道同材とし、住宅地側橋詰で見切る。

■ 仕上げ仕様—グレード設定

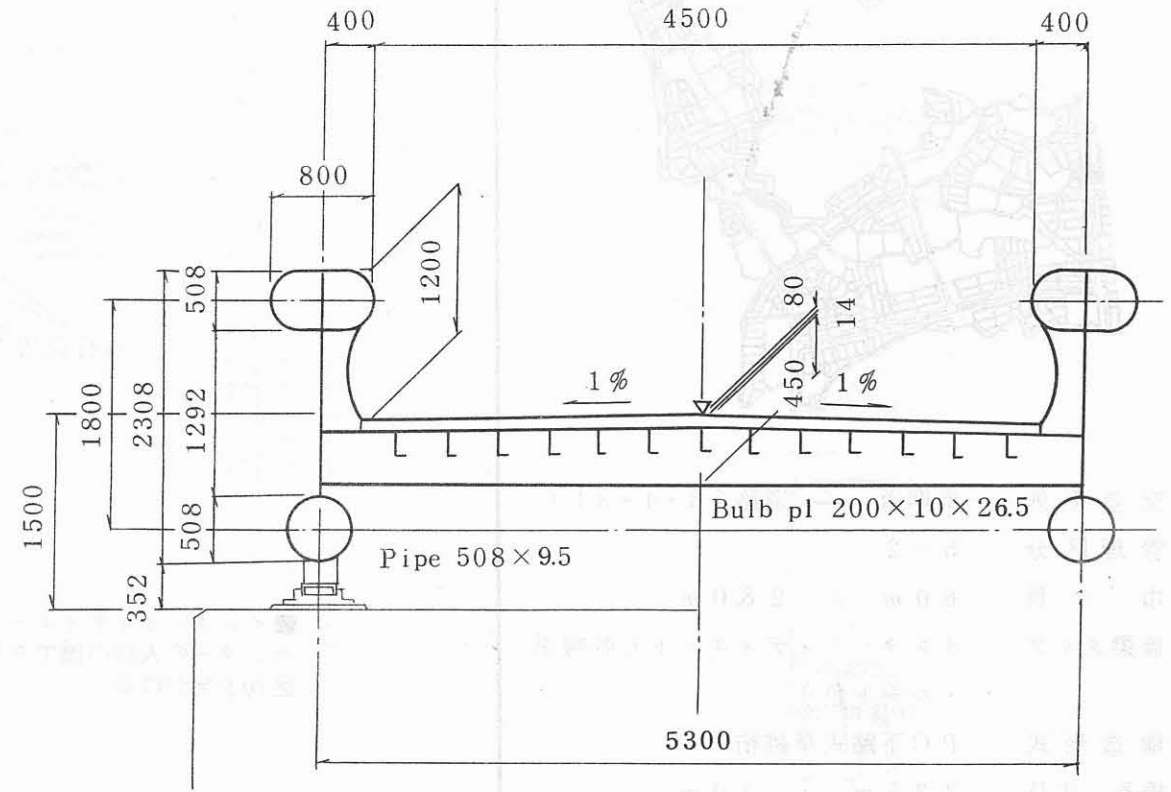
橋台、ウイング、橋脚	タイル貼り
桁	上弦材 塗装（シルバー）又はステンレスパイプの使用を検討する。
	斜材 塗装（黒）
	下弦材
高欄	バラスト型特注品 ステンレス
アプローチ柵	高欄同品
舗装	擬石タイル（御影石）



主桁側面図 S=1/300



断面図 S=1/60

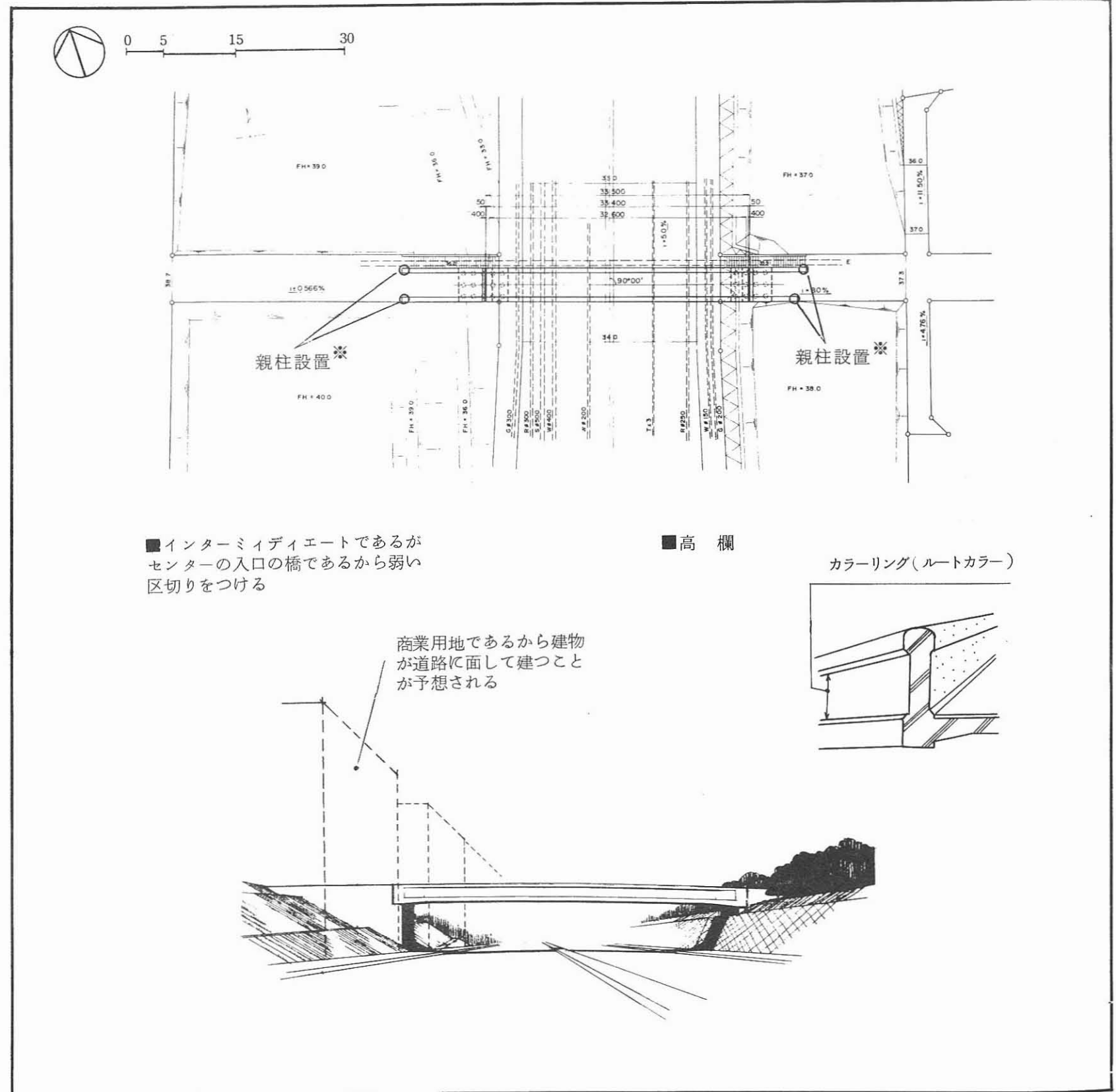


C-40



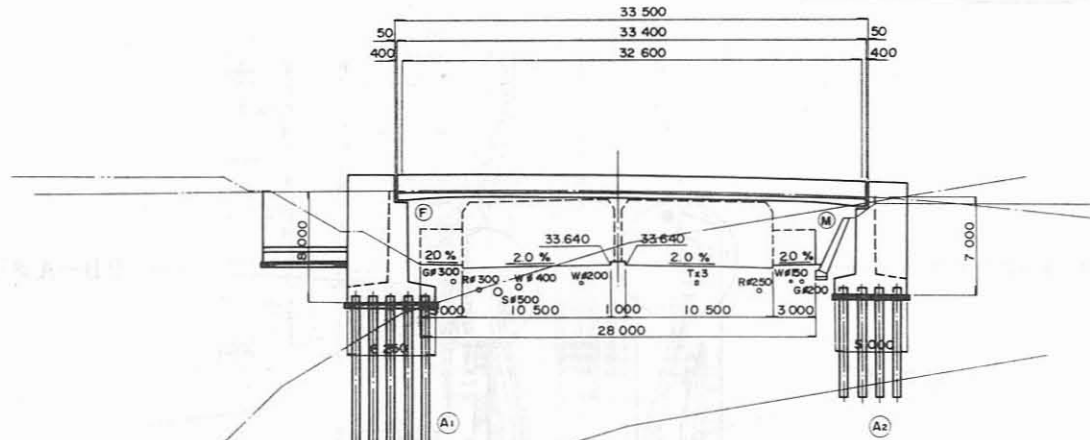
交差形態 歩専道 / 道路 (3・4・31)
 管理区分 b-2
 巾員 6.0 m / 28.0 m
 橋梁タイプ インターミディエート (幹線系・ルート色)
 構造形式 PC下路式単純桁
 橋長・巾員 33.5 m ・ 3.0 m
 設計荷重 $W = 350 \text{ Kg/m}^2$
 設計意図

1. 同一ルート上にC-42があるので統一したデザインとする。
2. 縦断勾配を8%以下におさえるために下路橋型式とする。
3. 桁端部にハンチを入れることにより柔らかさを出す。



側面図縮尺

1:200

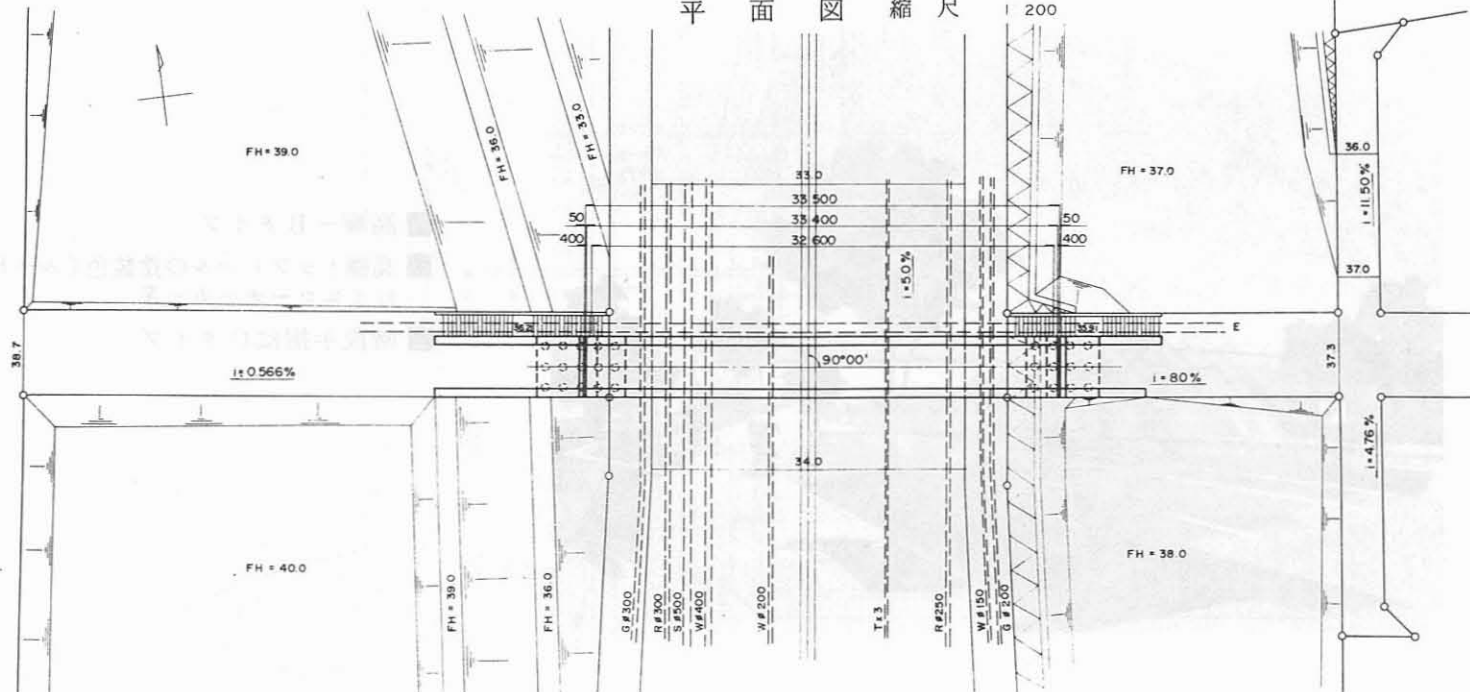


DL = 20^M000

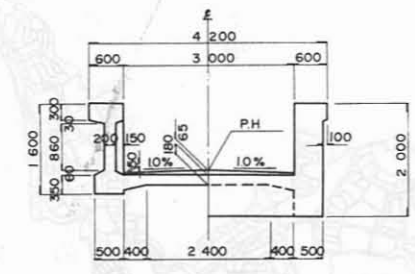
勾配	38.700	38.768	38.881	38.905	38.849	38.836	38.900	38.440	38.343	38.305	38.100	37.540	37.360	37.300
計画高	38.700	38.768	38.881	38.905	38.849	38.836	38.900	38.440	38.343	38.305	38.100	37.540	37.360	37.300
地盤高														
追加距離	0.000	13.000	20.000	15.800	0.000	0.950	0.950	17.700	2.300	30.000	20.700	7.000	3.000	36.700
単距離	0.000	13.000	20.000	15.800	0.000	0.950	0.950	17.700	2.300	30.000	20.700	7.000	3.000	36.700
測点	-13.000	NO-2	13.000	20.000	15.800	0.000	0.950	0.950	17.700	2.300	30.000	20.700	7.000	36.700

平面図縮尺

200

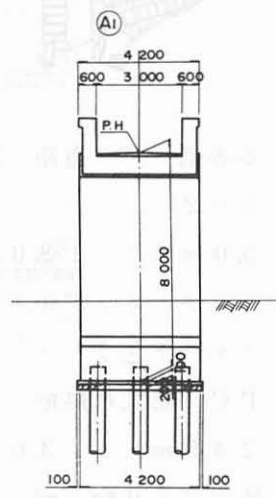


1:50



断面図縮尺

1:100



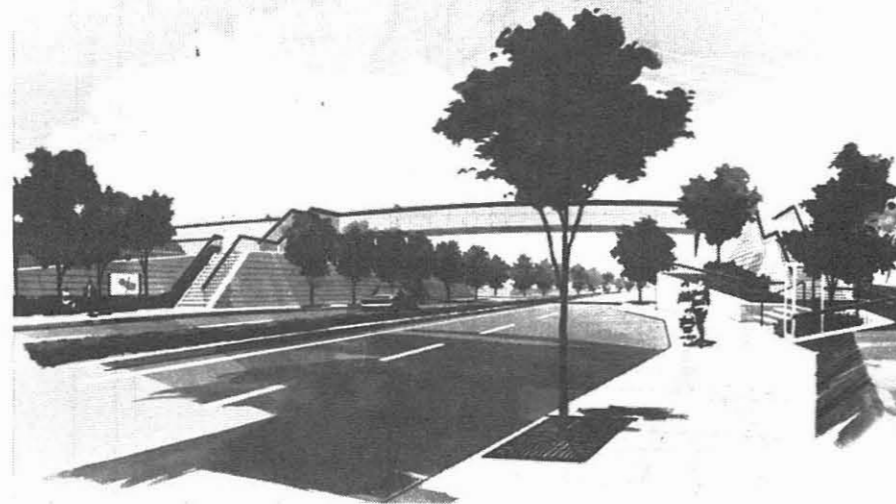
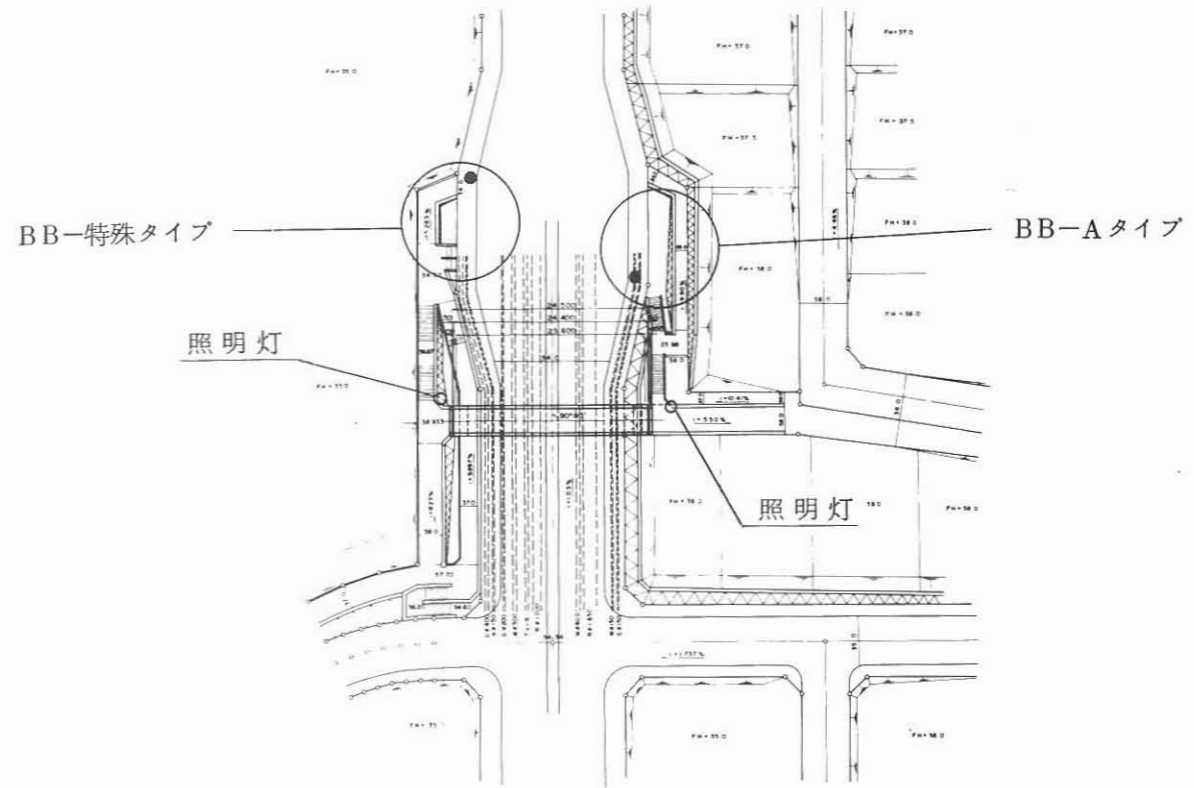
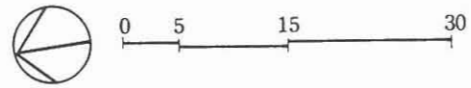
支 承	A - タイプ
伸縮装置	A - タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無

C-41



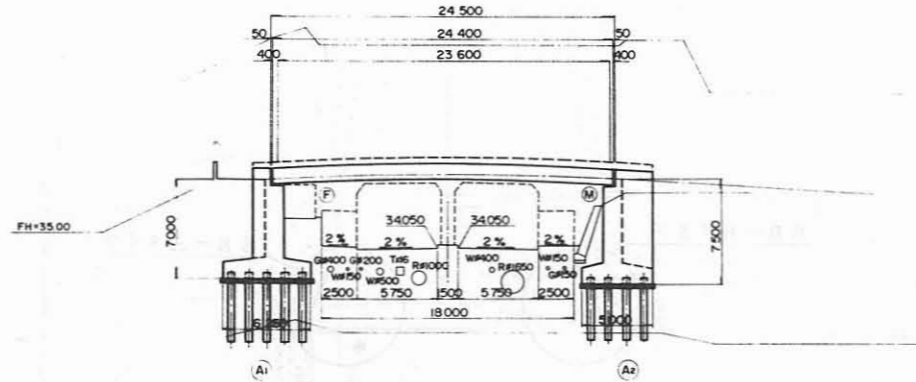
交差形態	歩専道 / 道路(3・4・36)
管理区分	b-2
巾員	3.0 m / 18.0 m
橋梁タイプ	インターミディエート(幹線系・ルート色)
構造形式	PC下路式単純桁
橋長・巾員	24.5 m ・ 3.0 m
設計荷重	W=350 Kg/m ²
設計意図	

1. 幹線街路上に設けられる標準的な橋であるが同一ルート上に設けられる他の橋と統一したイメージが必要となる。
2. 縦断勾配を8%以下におさえるために下路橋型式となる。



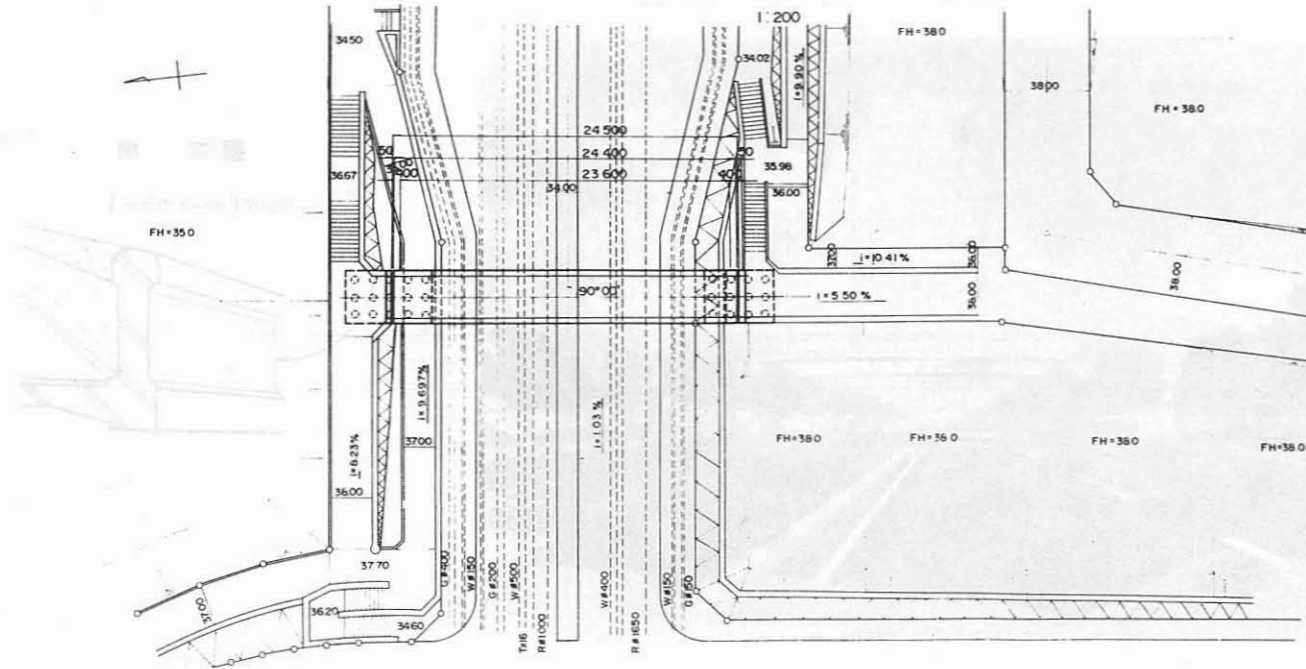
- 高欄-Bタイプ
- 高欄トップレールの塗装色(ルートカラー)はイエローオーカー系
- 階段手摺はCタイプ

側面図縮尺 1:200

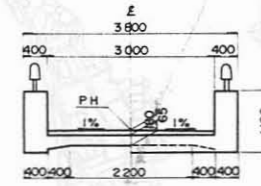


D.L. = 20^m000

勾配	1:5.50% L=12,250		1:5.50% L=26,250	
計画高	38,935	39,272	38,935	38,509
地盤高	38,935	39,272	38,935	38,509
追加距離	12,500	0,250	12,000	20,000
単距離	0,000	12,250	12,000	8,000
測点	-12,500	-0,250	-12,000	-6,000
	0,000	0,000	3,000	12,000



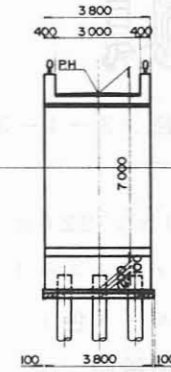
1:50



断面図縮尺 1:100

1:100

A1



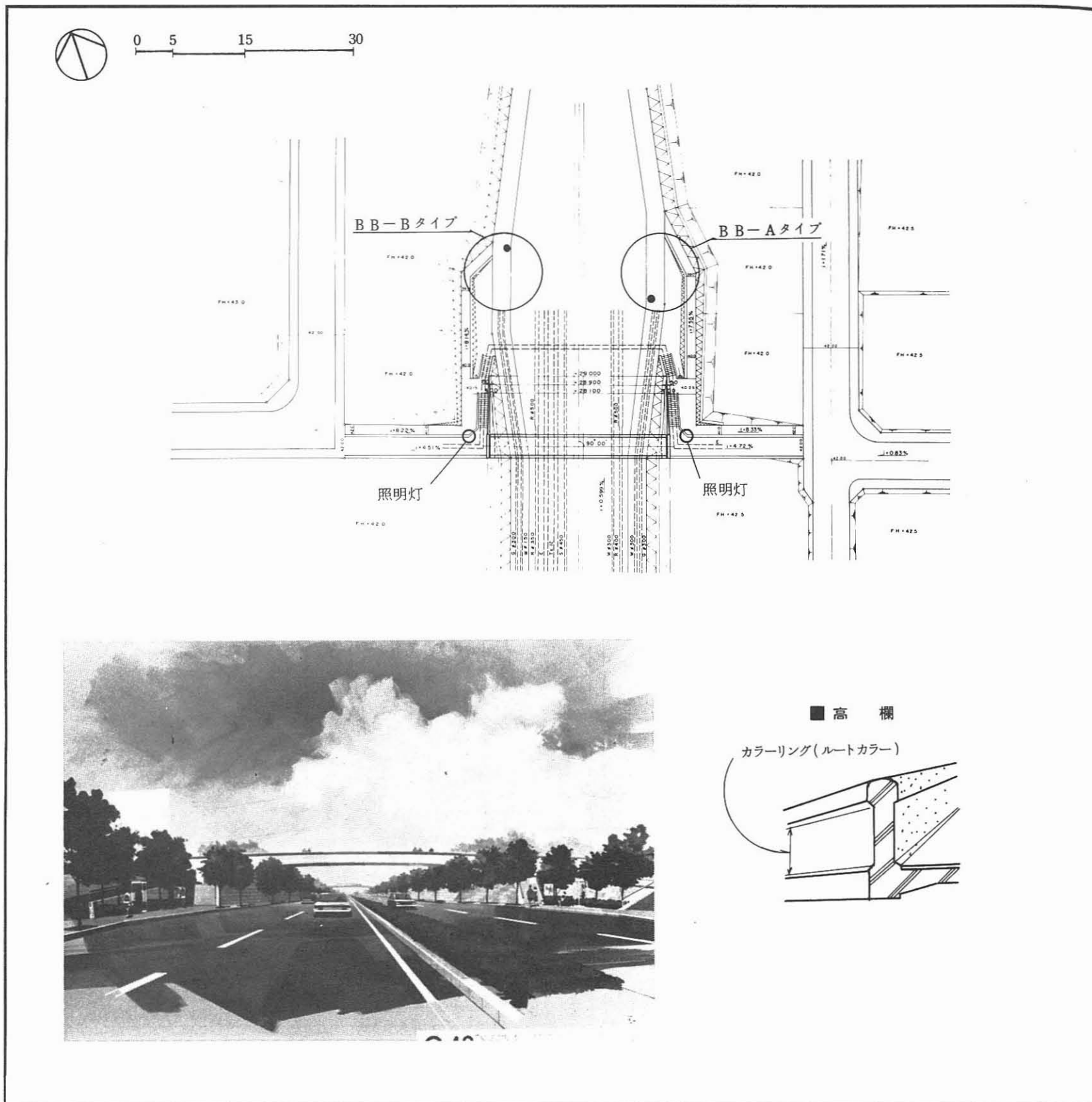
支 承	A - タイプ
伸縮装置	A - タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無

C-42

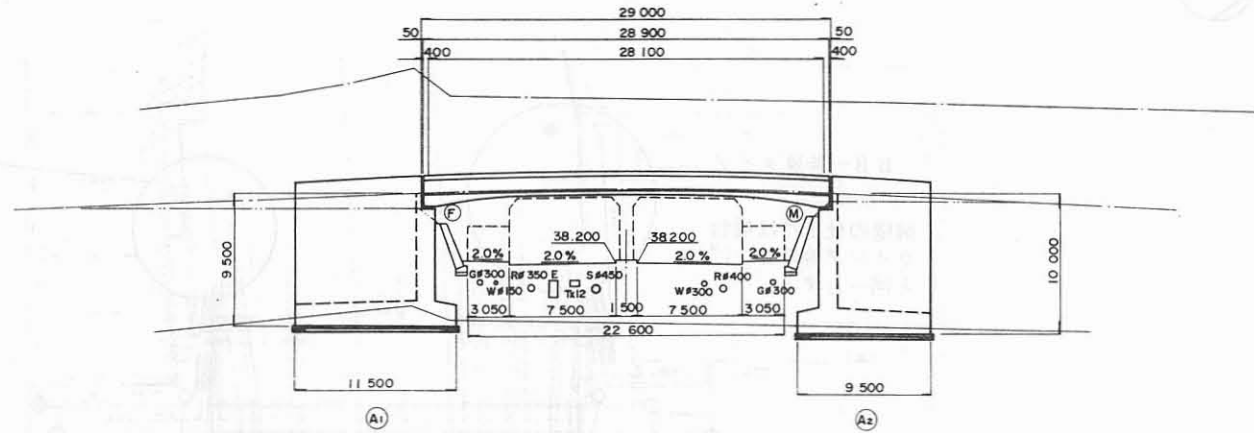


交差形態 歩専道／道路（3-4-31）
 管理区分 b-2
 巾員 3.0 m - 3.0 m / 22.6 m
 橋梁タイプ インターミディエート
 （幹線系・ルート色）
 構造形式 PC下路式単純桁
 橋長・巾員 29.0 m ・ 3.0 m
 設計荷重 $w = 350 \text{ kg/m}^2$
 設計意図

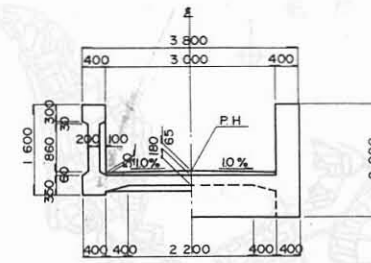
1. 同一ルート上にC-40があるので統一したデザインとする。
2. 縦断勾配を8%以下におさえるために下路橋型式とする。
3. 桁端部に曲線を入れることにより柔わかさを出す。



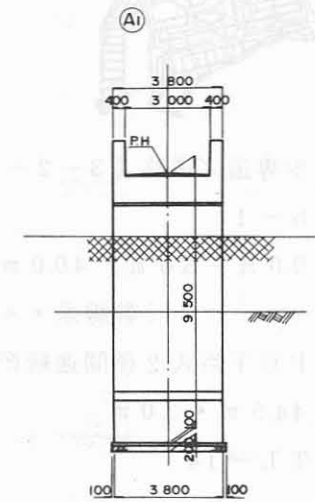
側面図縮尺 1:200



標準断面図縮尺 1:50



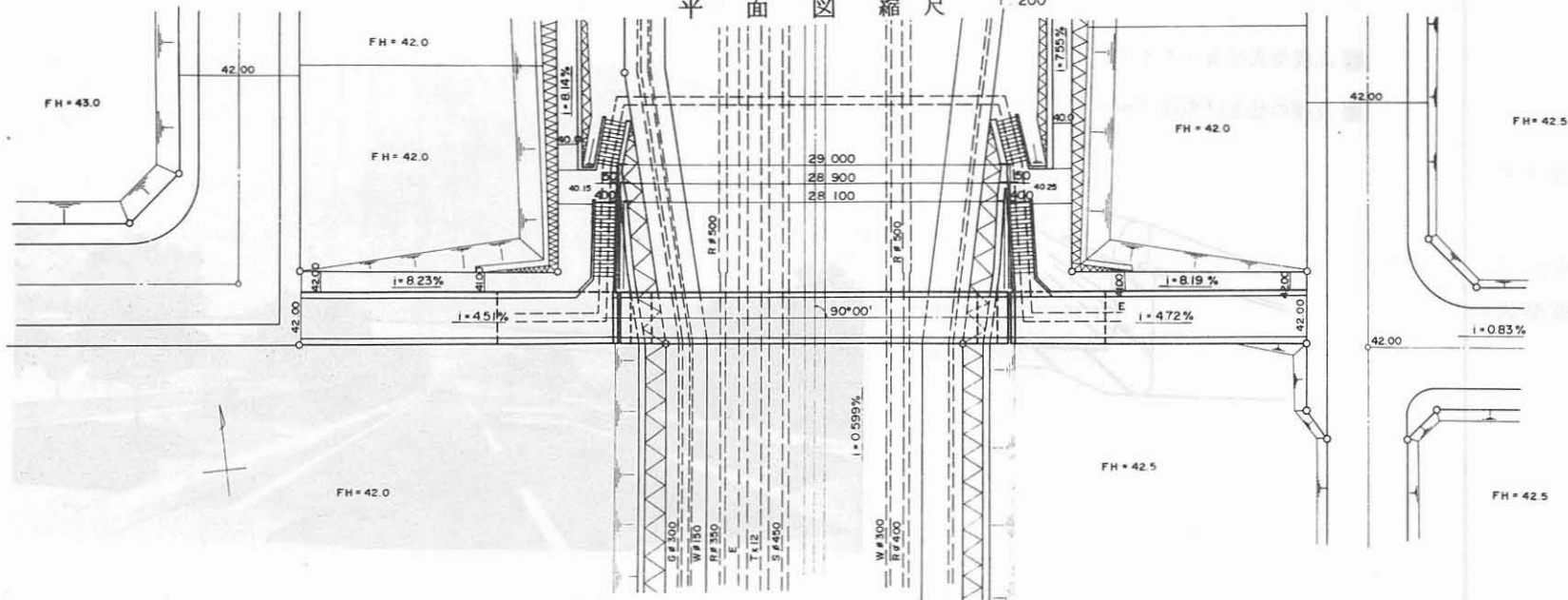
断面図縮尺 1:100



D.L. = 25^M000

勾配	● (42.120) ● (42.154) ● (42.257)		● (42.798) ● (43.046)		● (43.365) ● (43.700)		● (43.016) ● (42.756)		● (42.260) ● (42.154) ● (42.120)			
計画高	42.120	42.154	42.257	42.798	43.046	43.365	43.700	43.016	42.756	42.260	42.154	42.120
地盤高												
追加距離	38000	35000	32000	20000	14500	0000	14500	20000	30500	33500	36500	
単距離	0000	3000	3000	12000	5500	14500	14500	5500	10500	3000	3000	
測点	18000	15000	12000	NO-1	14500	NO 0	14500	NO 1	10500	13500	16500	

平面図縮尺 1:200



支 承	A-タイプ
伸縮装置	A-タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無

C-43

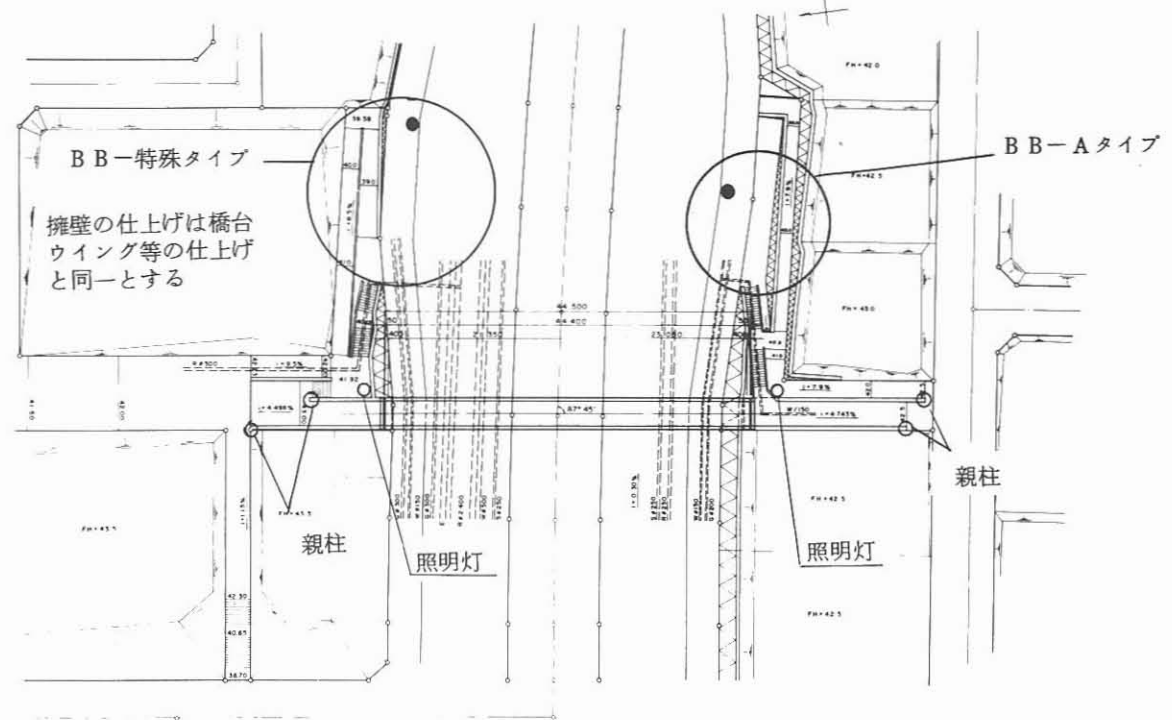


交差形態 歩専道／道路（3-2-3）
 管理区分 b-1
 巾員 9.0 m - 3.0 m / 40.0 m
 橋梁タイプ フォーマル（幹線系・ルート色）
 構造形式 PC下路式2径間連続桁
 橋長・巾員 44.5 m・3.0 m
 設計荷重 TL-14
 設計意図

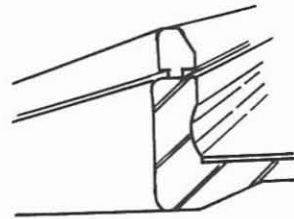
1. 地区センターの入口となる。
強い分節を形成する橋である。
従って同ルート上の他の橋と異なる表現（ビアのデザイン）を与える。
2. 中央分離帯上に橋脚を設け2径間とする。
3. 縦断勾配を8%におさえるために下路橋型式とする。
4. 橋梁全体に縦断曲線を入れる。



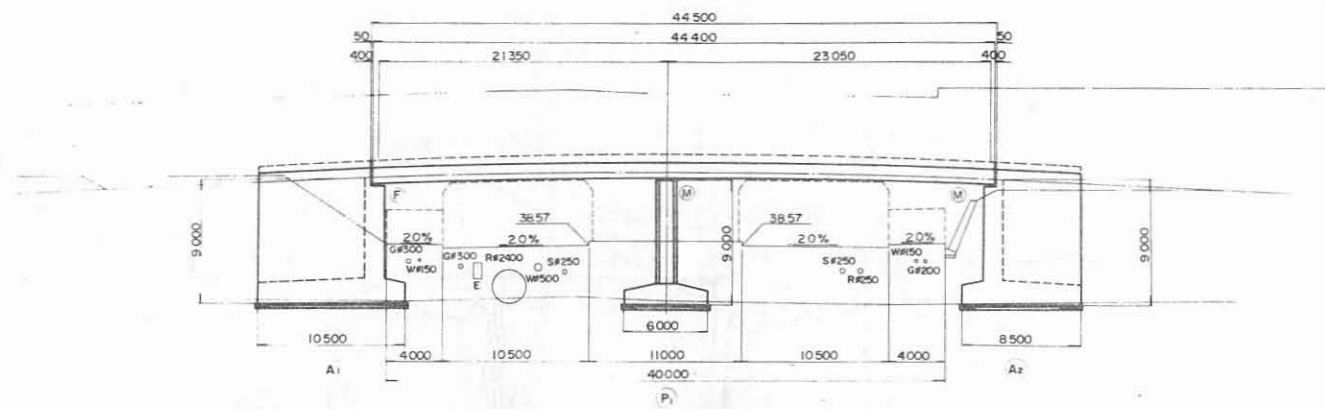
0 5 15 30



- 高欄型式はAタイプ
- 高欄の仕上げ色はブルー系



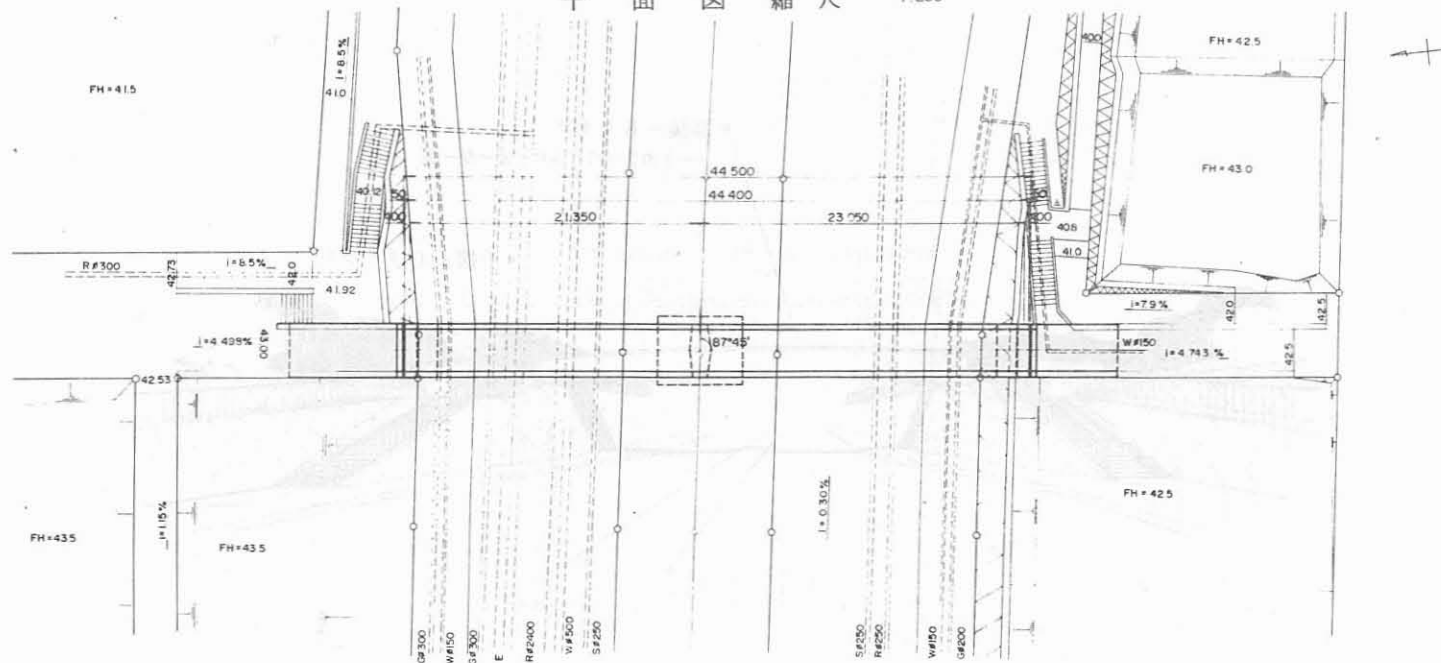
側面図縮尺 1:200



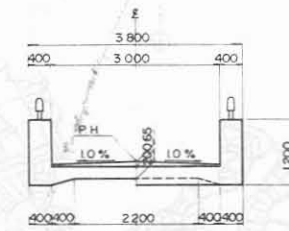
DL = 25⁺000

勾配	1:4.498% L=62.250		1:4.746% L=37.950		
計画高	41,500	41,534 41,559 41,635	43,299 43,343	43,786 43,786 43,398 43,244	42,642 42,535 42,518 42,500
地盤高					
追加距離	64,000	61,000 60,000 58,000	21,000 20,000	20,000 1,250	36,200 39,200 40,000 42,200
単距離	0,000	3,000 1,000 2,000	37,000 3,500	20,000 1,250 18,750 3,500	12,700 3,000 0,800 2,200
測点	4,000	1,000 NO-1 NO-2 18,000	1,000 NO-1	1,250 NO 1	16,200 18,200 NO 2 2,200

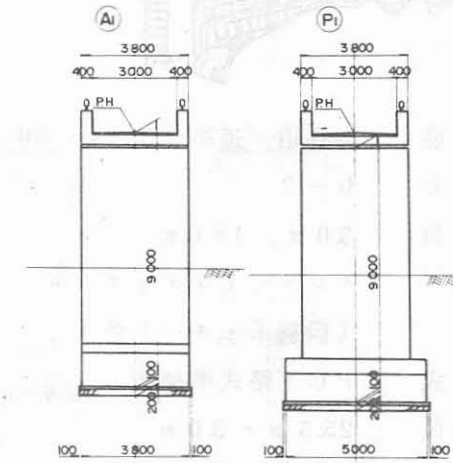
平面図縮尺 1:200



標準断面図縮尺 1:50

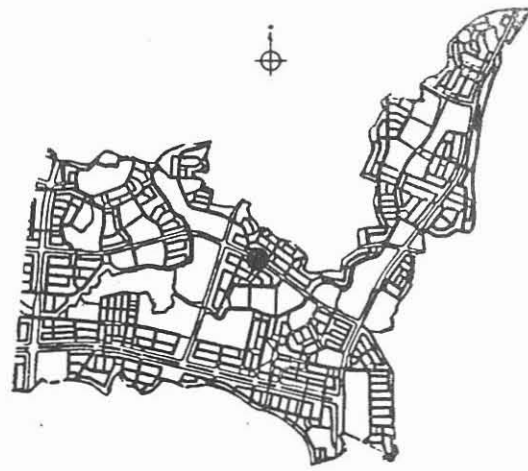


断面図縮尺 1:100



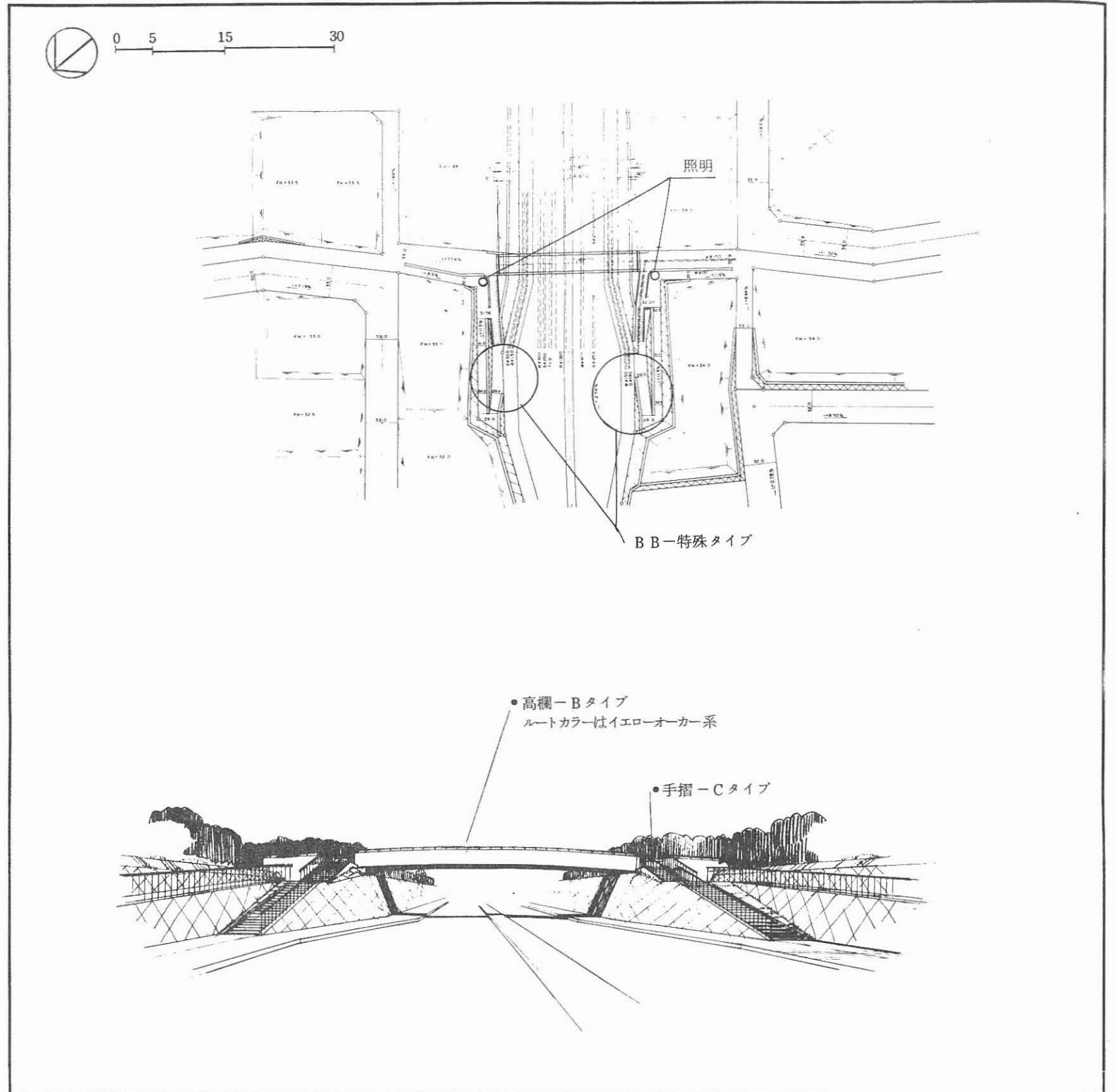
支 承	A - タイプ
伸縮装置	A - タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無

C-44

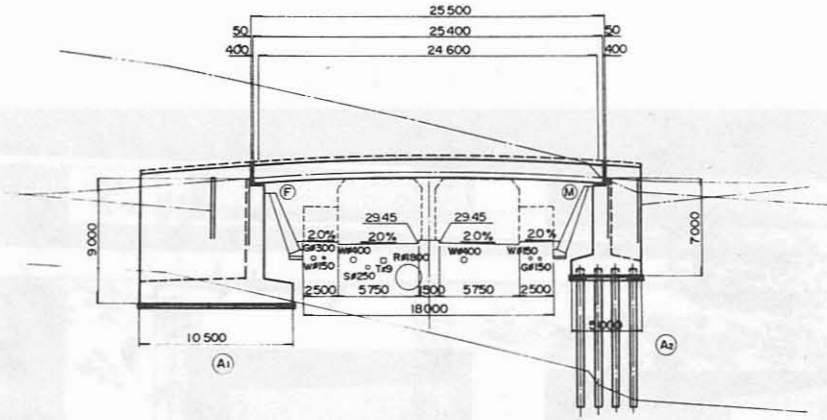


交差形態 歩専道／道路 (3-4-36)
 管理区分 b-2
 巾員 3.0 m / 18.0 m
 橋梁タイプ インターミディエート
 (幹線系・ルート色)
 構造形式 PC下路式単純桁
 橋長・巾員 25.5 m・3.0 m
 設計荷重 $w = 350 \text{ kg/m}^2$
 設計意図

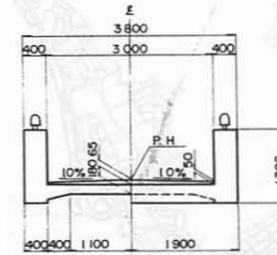
1. 幹線街路上に設けられる標準的な橋であるが同一ルート上に設けられる他の橋との統一したデザインが必要である。
2. 縦断勾配を8%以下におさえるために下路橋型式とする。



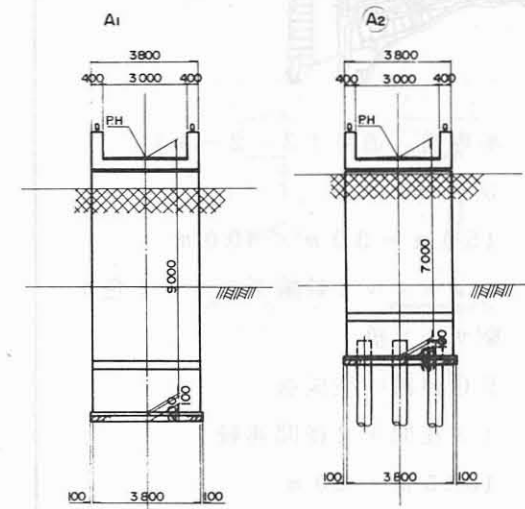
側面図縮尺 1:200



標準断面図縮尺 1:50



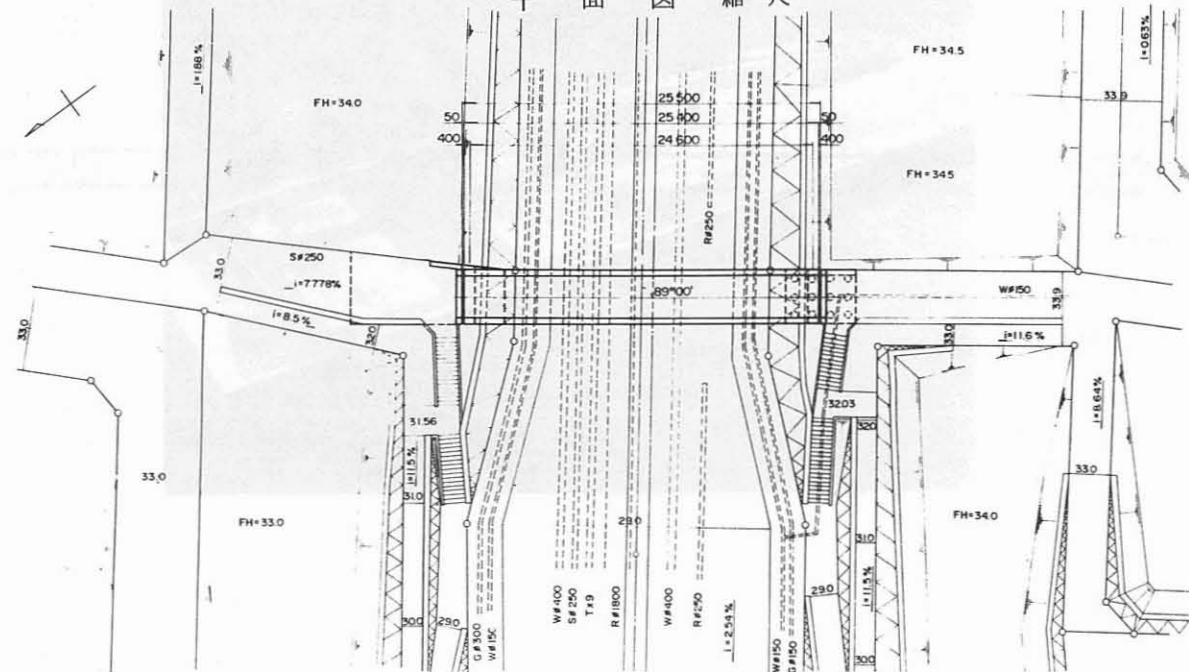
断面図縮尺 1:100



D.L. = 15^m000

勾配											
計画高	33,000	33,058	33,233	33,544	34,108	34,609	35,100	34,129	33,958	33,900	33,900
地盤高											
追加距離	30,000	27,000	24,000	20,000	12,750	0,000	12,750	15,750	18,750	20,000	30,000
単距離	0,000	3,000	3,000	4,000	7,250	12,750	12,750	3,000	3,000	1,250	10,000
測点	-10,000	-7,000	-4,000	NO.1	-12,750	NO.0	12,750	15,750	18,750	NO.1	-10,000

平面図縮尺 1:200



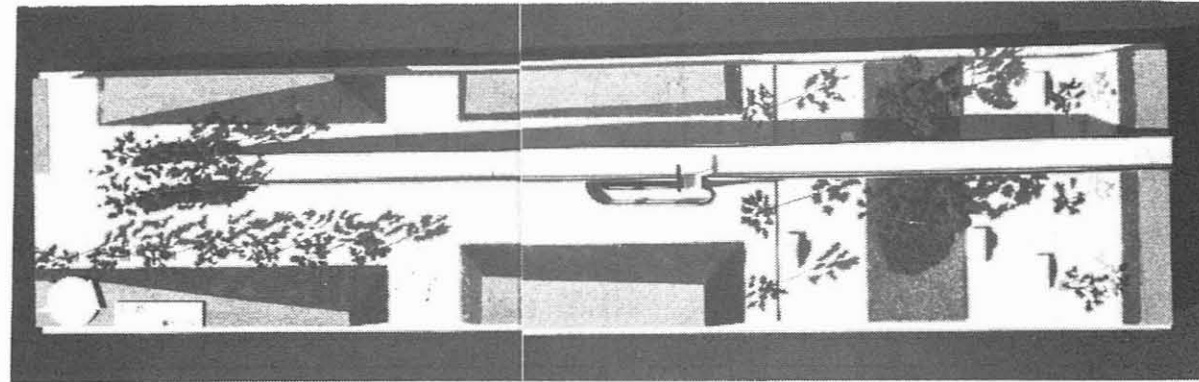
支 承	A-タイプ
伸縮装置	A-タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無

C-45

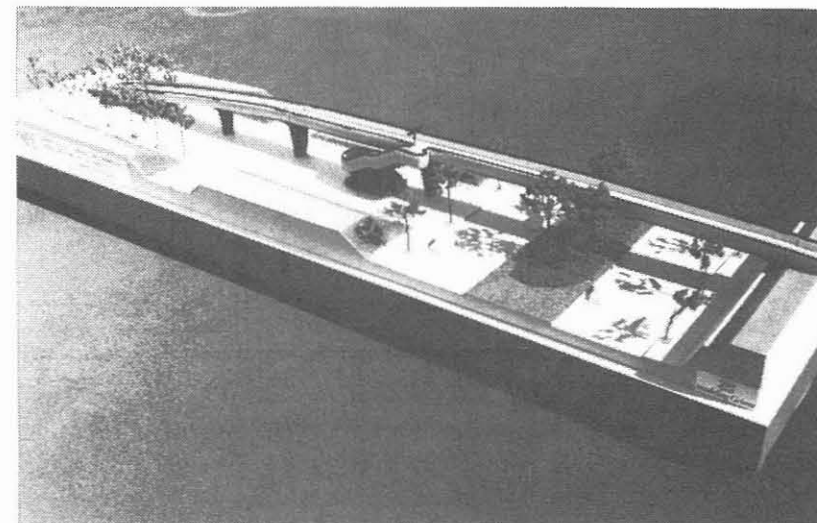


交差形態 歩専道／道路（3-2-3）
管理区分 b-2
巾員 15.0 m - 3.0 m / 40.0 m
橋梁タイプ フォーマル（幹線系・ルート色）
駅サイン橋
構造形成 PC連続中空床版
（3径間+2径間連続）
橋長・巾員 102.5 m・3.0 m
設計荷重 $w = 350 \text{ kg/m}^2$
設計意図

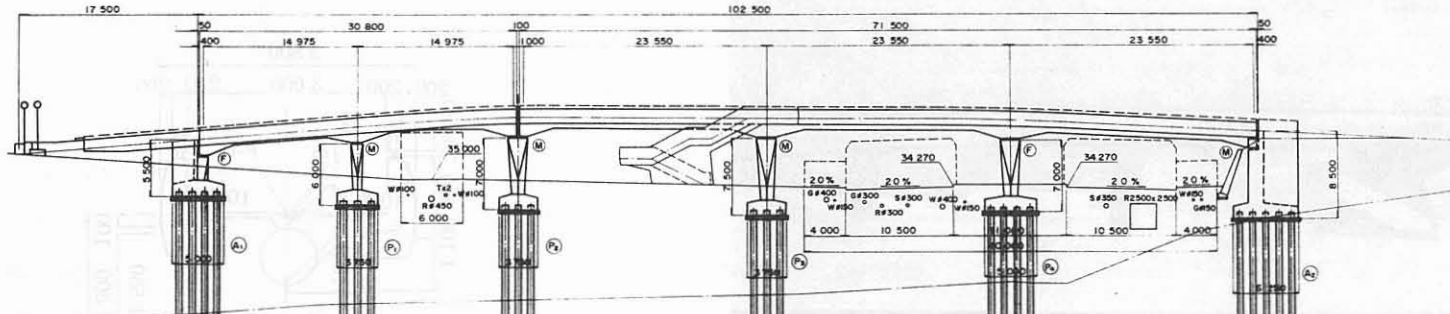
1. 駅サイン橋でありタウンセンターへの入口となる橋で、歩専道から見て特に強い分節を形成する橋でもあるために独立した主張を持った空間イメージが必要である。
2. 橋長が大きいのでスムーズな縦断勾配を入れる。
3. 橋の北半分は広い歩専道の上に架かるため橋脚の形状（テーパーにより変化させる）、上部工への見上げ（桁側面にカバーを取付け曲線を出す）等に注意する。



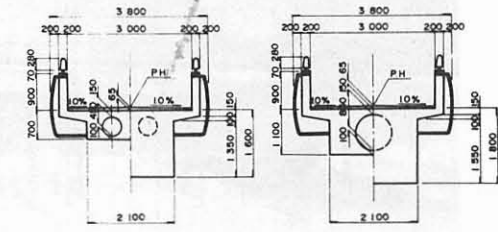
■ 橋の北半分は広い歩専道の上に架かるため、橋はオブジェ的に取り扱う。



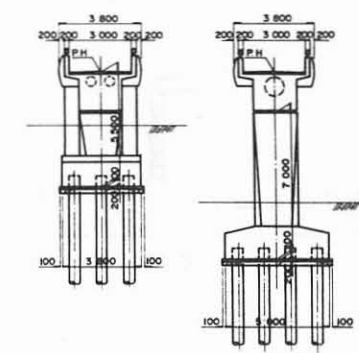
側面図縮尺 1/200



標準断面図縮尺 1/50



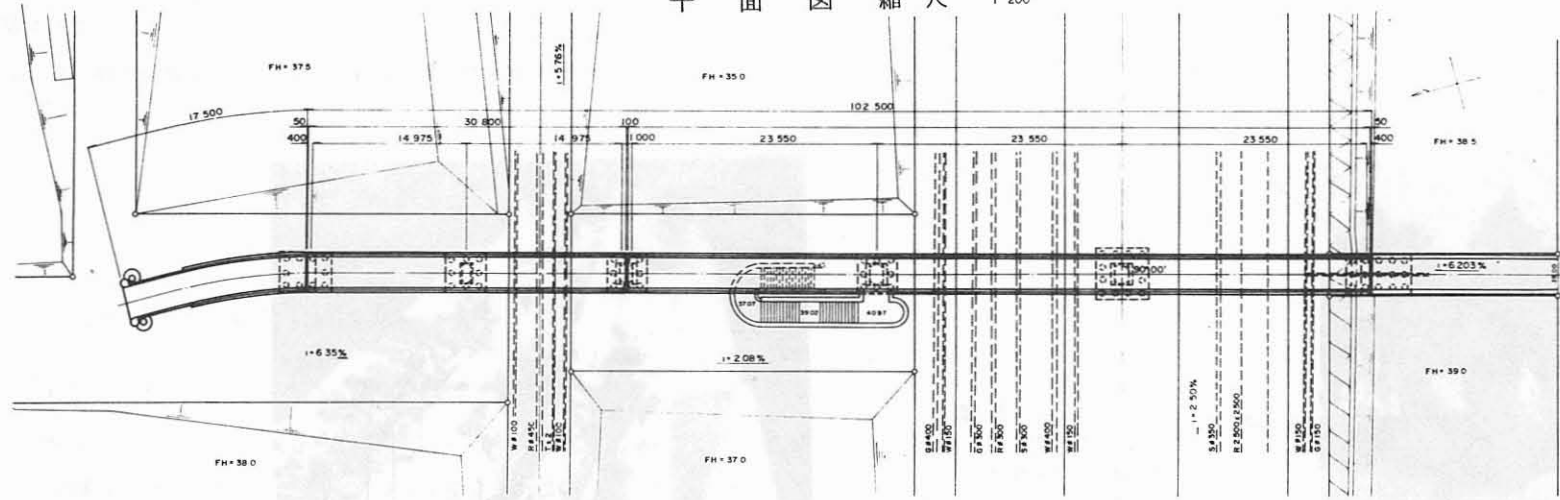
断面図縮尺 1/100



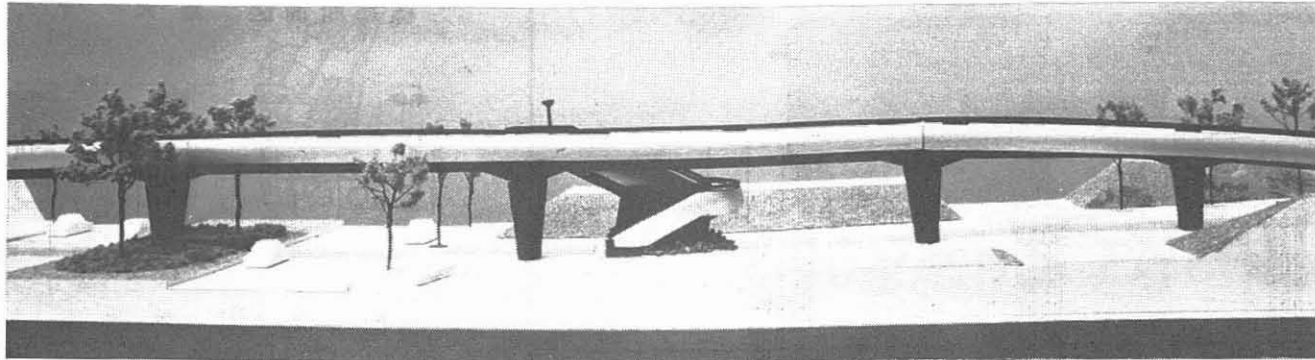
勾
計
地
追
単
測

配 画 盤 高	加 距 離	距離 点
37.500	0.000-89.000	-18.000
37.561	3.000-96.000	-18.000
37.743	3.000-93.000	-13.000
	13.000-80.000	-18.500
	15.000-78.500	-18.500
	15.425-63.075	-3.075
	3.075-60.000	-19.000
	1.000-55.000	-19.000
	7.500-51.500	-11.500
	3.900-47.600	-7.600
	3.600-44.000	-4.000
	4.000-40.000	-4.000
	3.550-33.550	-3.550
	3.550-20.000	-1.000
	12.500-7.500	-7.500
	7.500-0.000	0.000
	7.500-7.500	7.500
	20.000-39.901	12.500
	34.000-39.711	4.000
	35.000-39.142	16.000
	39.000-39.015	19.000
	40.000-42.000	2.000

平面図縮尺 1/200

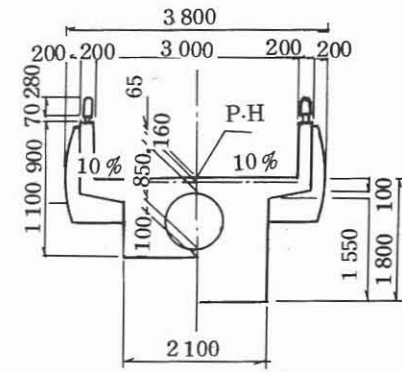


支 承	A, B-タイプ
伸縮装置	A-タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無



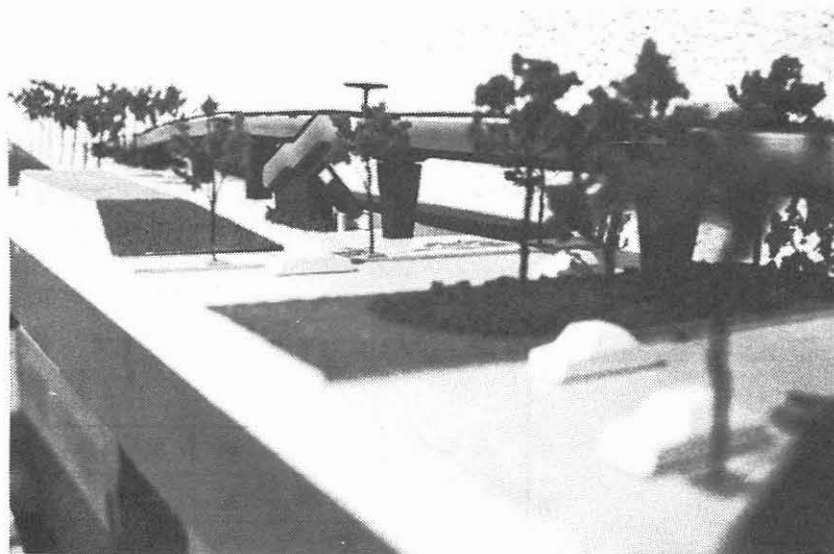
■ 緑化計画

高木を橋脚に近接して植える。
橋脚まわりは特に灌木を多くする。

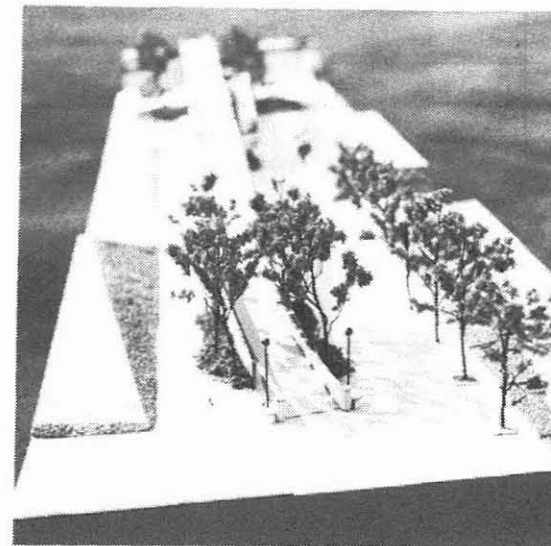


■ 駅サイン橋のシンボルカラーである
シルバーを素材色で表現する。

■ 桁側面ステンレス板(酸洗い)貼り

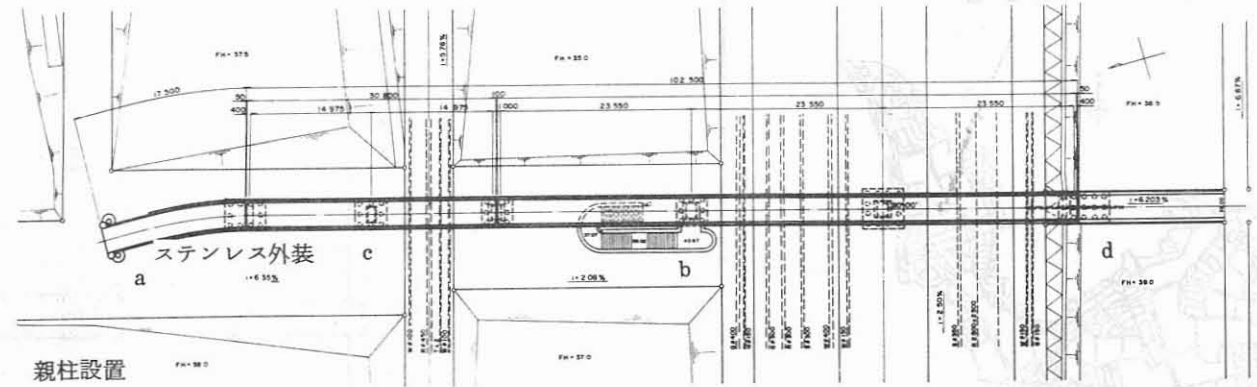


□ 階段の手摺壁も橋梁部と同じ仕上(外装)をする。



■ センター側の(橋の)入口
照明灯と壁の端部デザインと高木
によりゲートを形成する。

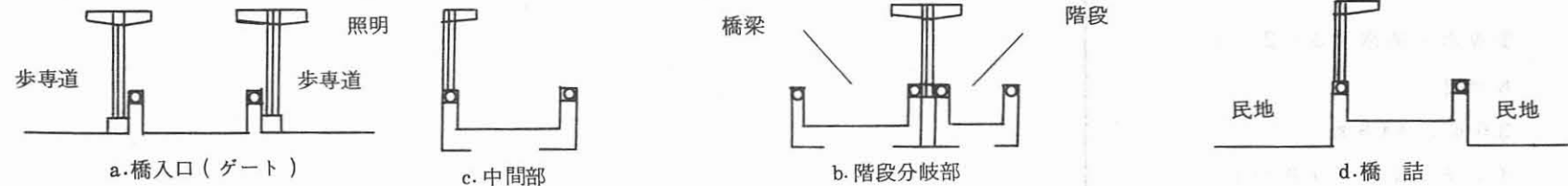
平面図縮尺



■ 照明計画

・ 4ヶ所に設置する。(右図中○印)

- a. 駅側・橋入口 — 両側にポール型
 - b. 階段分岐部 — ポール型 両側に灯見
 - c. 駅寄りの橋脚上部及び
 - d. 南側橋詰 — 片側(東側)にポール型
- a b c dは同一デザインとする。



■ 舗装計画

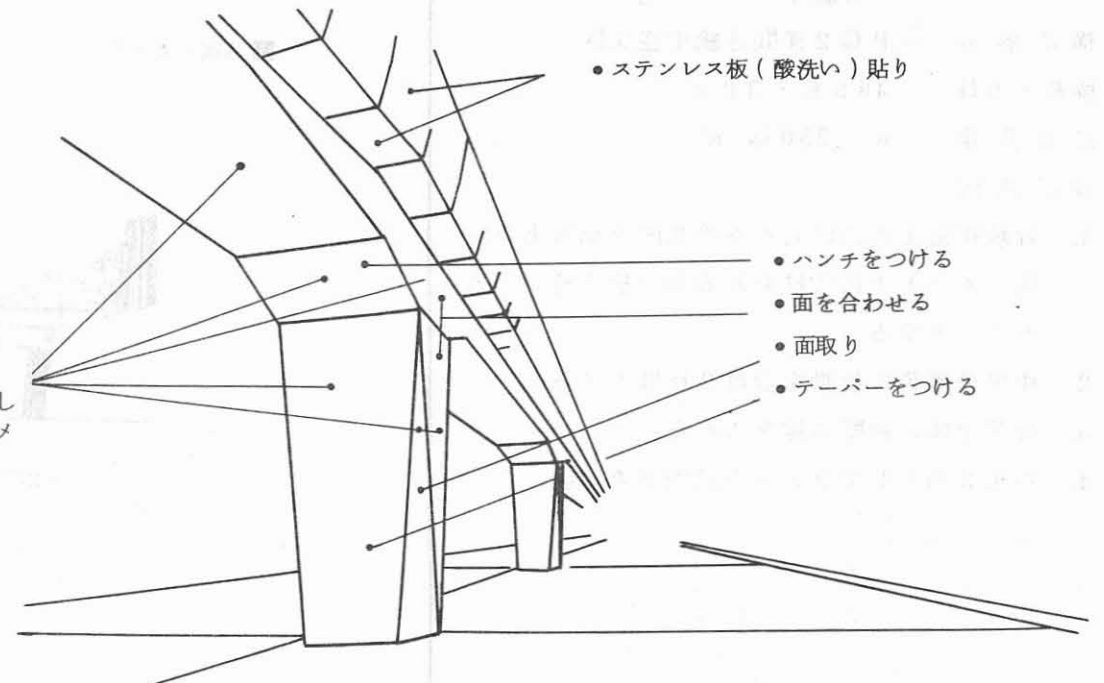
センター側の舗装と同質とし、パターンなどで変える。

■ 仕上げ仕様・グレード設定 = H

橋台, ウイング,	エポキシ系吹付タイル
橋脚	(舗装材との色合せ必要)
高欄及び階段手摺	コンクリート壁 t = 200
内装	タイル貼り
外装	ステンレス板(酸洗い)貼り
トップレール	Aタイプ(3-2-3用標準化品)塗装・黒
舗装	アスコン一部タイル貼り (駅前センター歩専道舗装と別材)

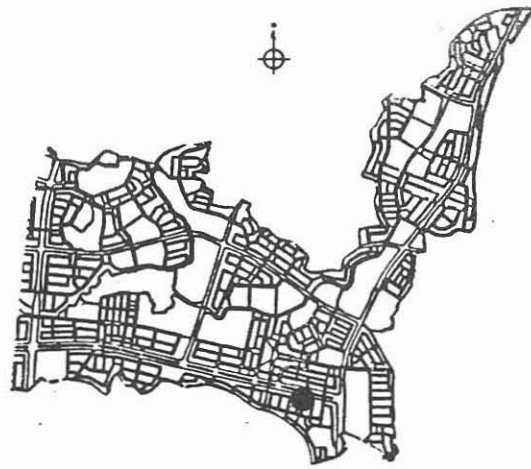
■ 塗装

舗装の色と同系とし連続的・一体的なイメージをだす。



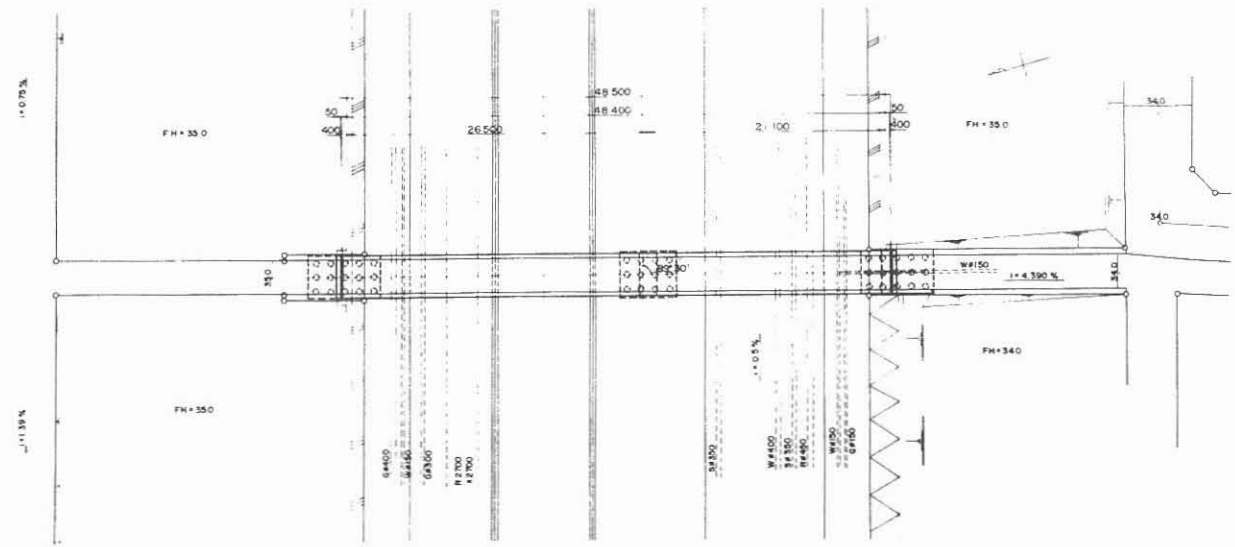
■ 橋の北側過半の部分は広い歩専道に架かるため、橋はオブジェ的に扱う。
橋脚および桁は、形態の一体化を図り(地面が立体化したように)、舗装材の色、テクスチャーと同質の仕上(茶色の塗装)を施す。

C-46

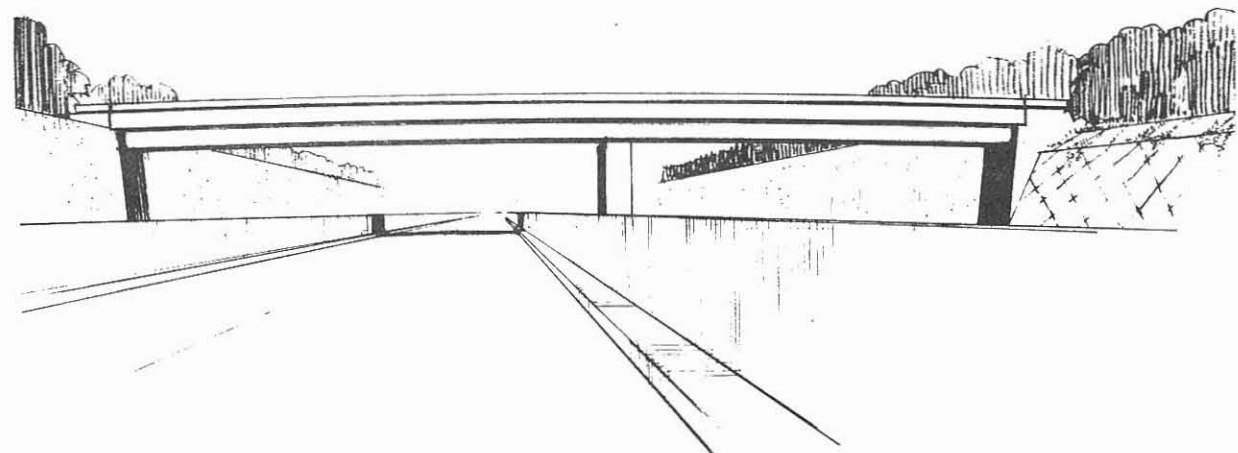


交差形態 歩専道/道路 (3-2-3)
 管理区分 b-2
 巾員 3.0 m / 44.5 m
 橋梁タイプ インターミディエート
 (幹線系・ルート色)
 構造形成 PC 2径間連続中空床版
 橋長・巾員 48.5 m ・ 3.0 m
 設計荷重 $w = 350 \text{ kg/m}^2$
 設計意図

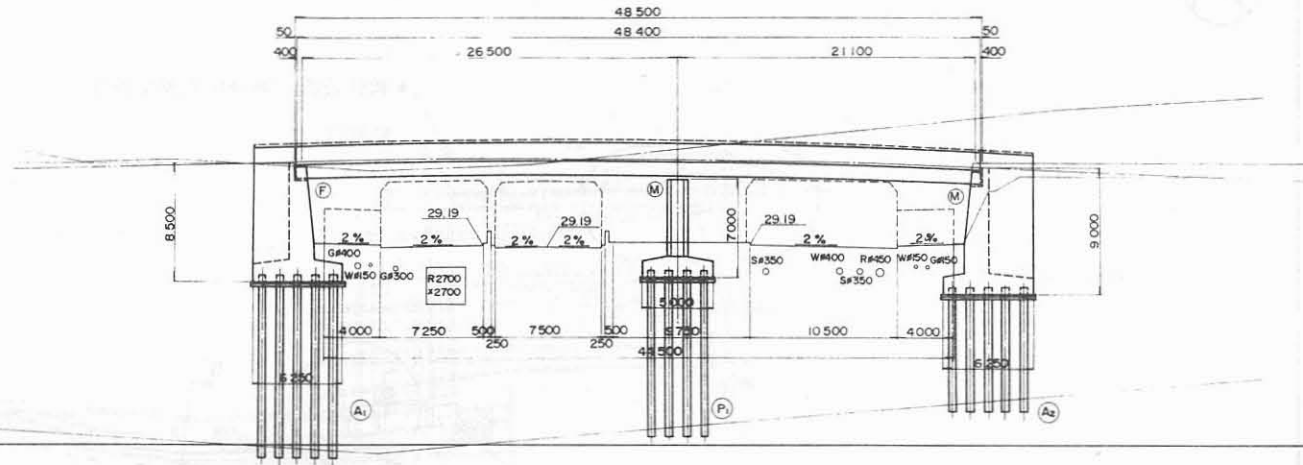
1. 幹線街路上に設けられる標準的な橋である。
同一ルート上に設けられる他の橋と統一したデザインとする。
2. 中央分離帯に橋脚を設け2径間とする。
3. 橋梁全体に縦断曲線を入れる。
4. 将来計画としてランプの計画がある。



■ 高欄-Aタイプ



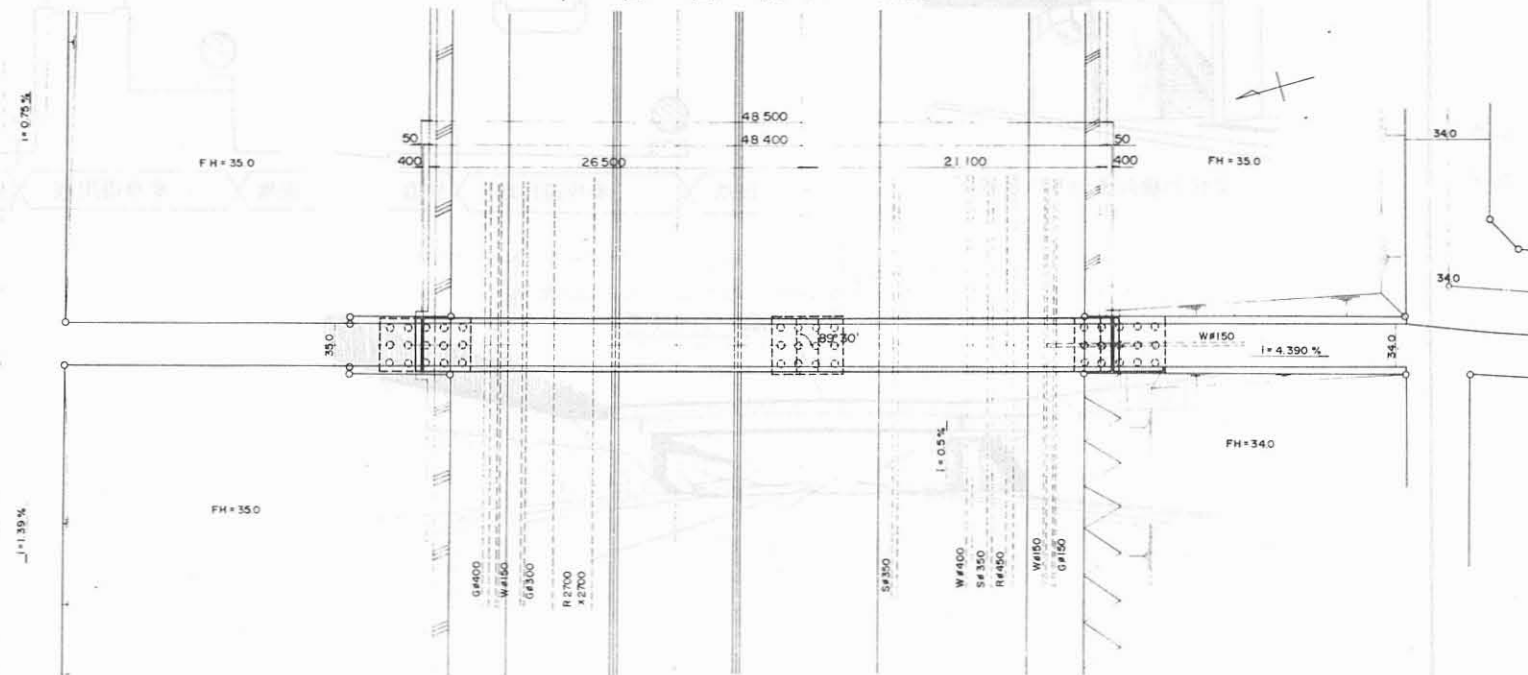
側面図縮尺 1:200



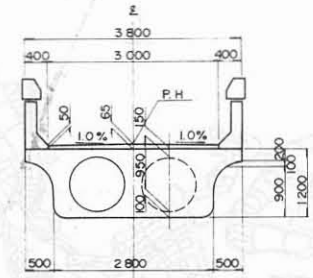
D.L. = 15^m000

勾配	● (35,000) ● (35,800) $i = 2.936\%$ $L = 27,250$		● (34,850) ● (34,000) $i = 4.390\%$ $L = 4,100$								
計画高	35,000	35,022	35,800	35,356	34,850	34,735	34,132	34,033	34,012	34,000	
地盤高											
追加距離		0,000	32,500		2,250	20,000	22,000	13,750	38,750	40,000	
単距離		3,000	29,500		17,750	2,250	2,000	3,000	1,250	1,750	
測点	-12,500	-9,500	-6,500	NO.1	2,250	NO.0	2,000	15,750	18,750	NO.2	1,750

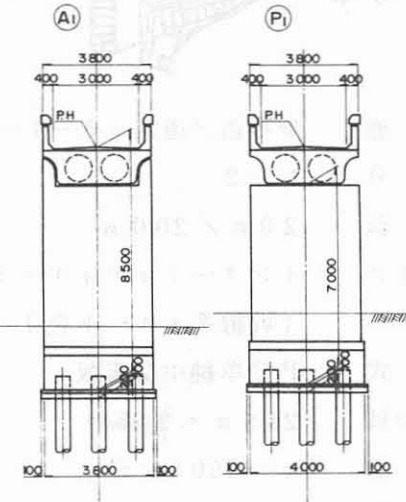
平面図縮尺 1:200



標準断面図縮尺 1:50



断面図縮尺 1:100



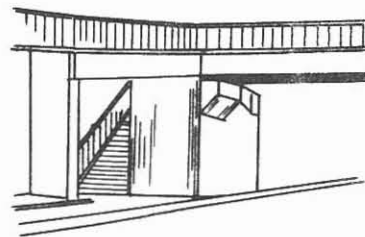
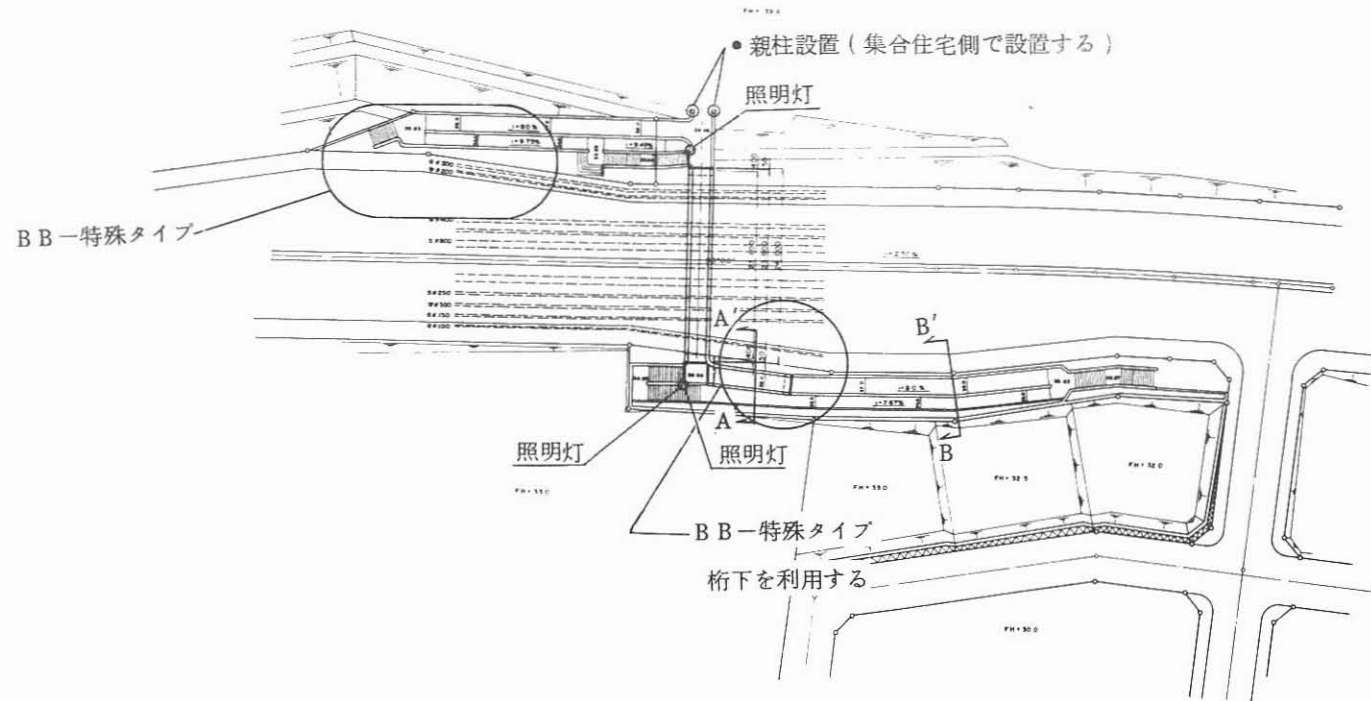
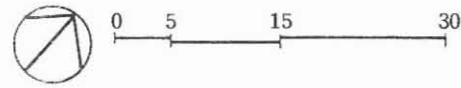
支 承	A - タイプ
伸縮装置	A - タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無

C-47



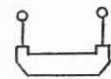
交差形態	歩専道／道路 (3-4-29)
管理区分	b-2
巾員	2.0 m / 20.0 m
橋梁タイプ	インターミディエート (幹線系・ルート色)
構造形式	PC単純中空床版
橋長・巾員	24.5 m・2.25 m
設計荷重	w = 350 kg/m ²
設計意図	

1. 幹線街路上に設けられる標準的な橋であるが同一ルート上に設けられる他の橋と統一したデザインとする。

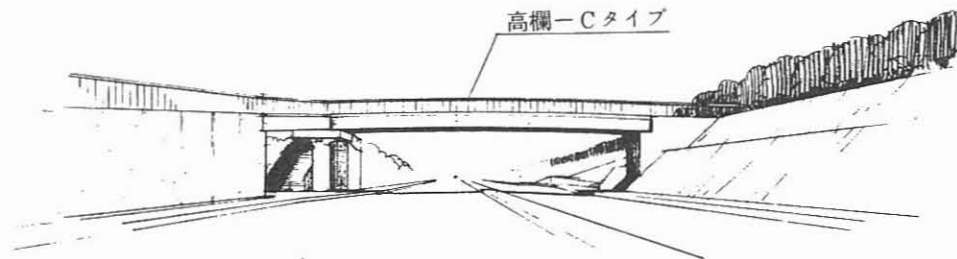
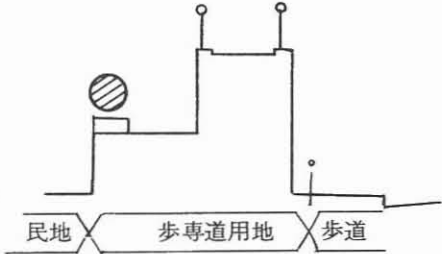


*東側の橋台まわりの比較案

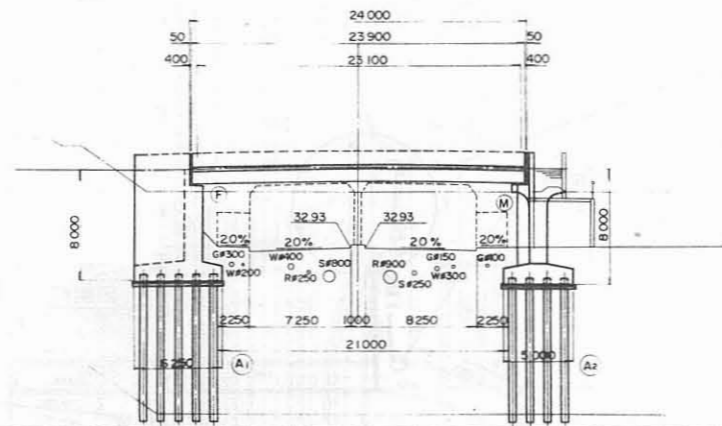
A-A'断面図



B-B'断面図



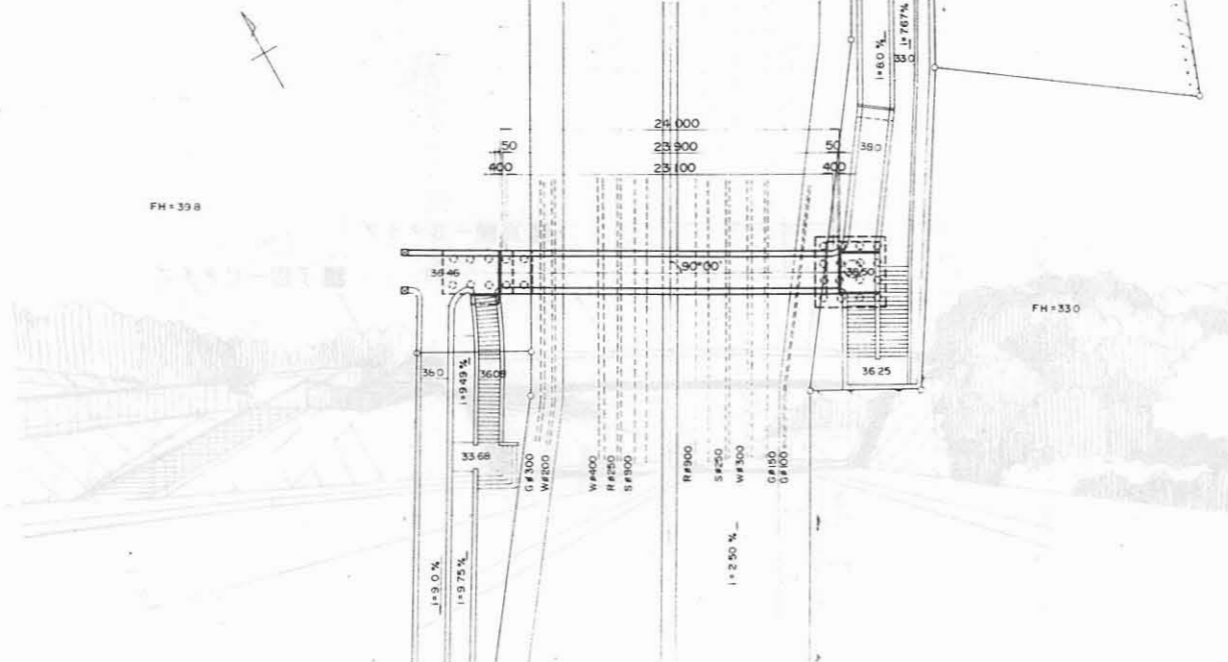
側面図縮尺 1:200



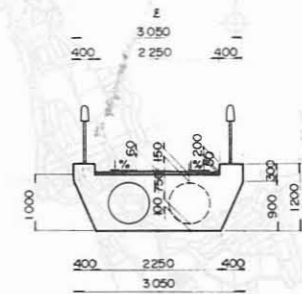
D.L. = 20^m000

勾配		1:3.00%	1:15.00%	1:3.00%	1:15.00%
計画高		38 457	38 480	38 547	38 727
地盤高		38 457	38 480	38 547	38 727
追加距離		18 000	15 000	12 000	0 000
単距離		0 000	3 000	3 000	12 000
測点		-18 000	-15 000	-12 000	0

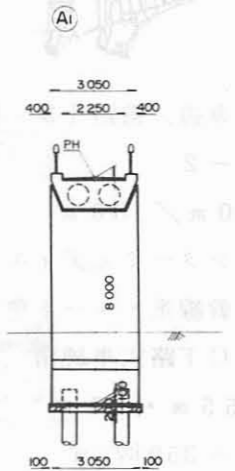
平面図縮尺 1:200



標準断面図縮尺 1:50

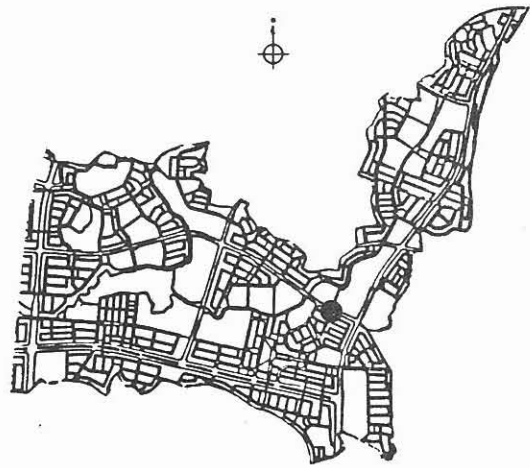


断面図縮尺 1:100



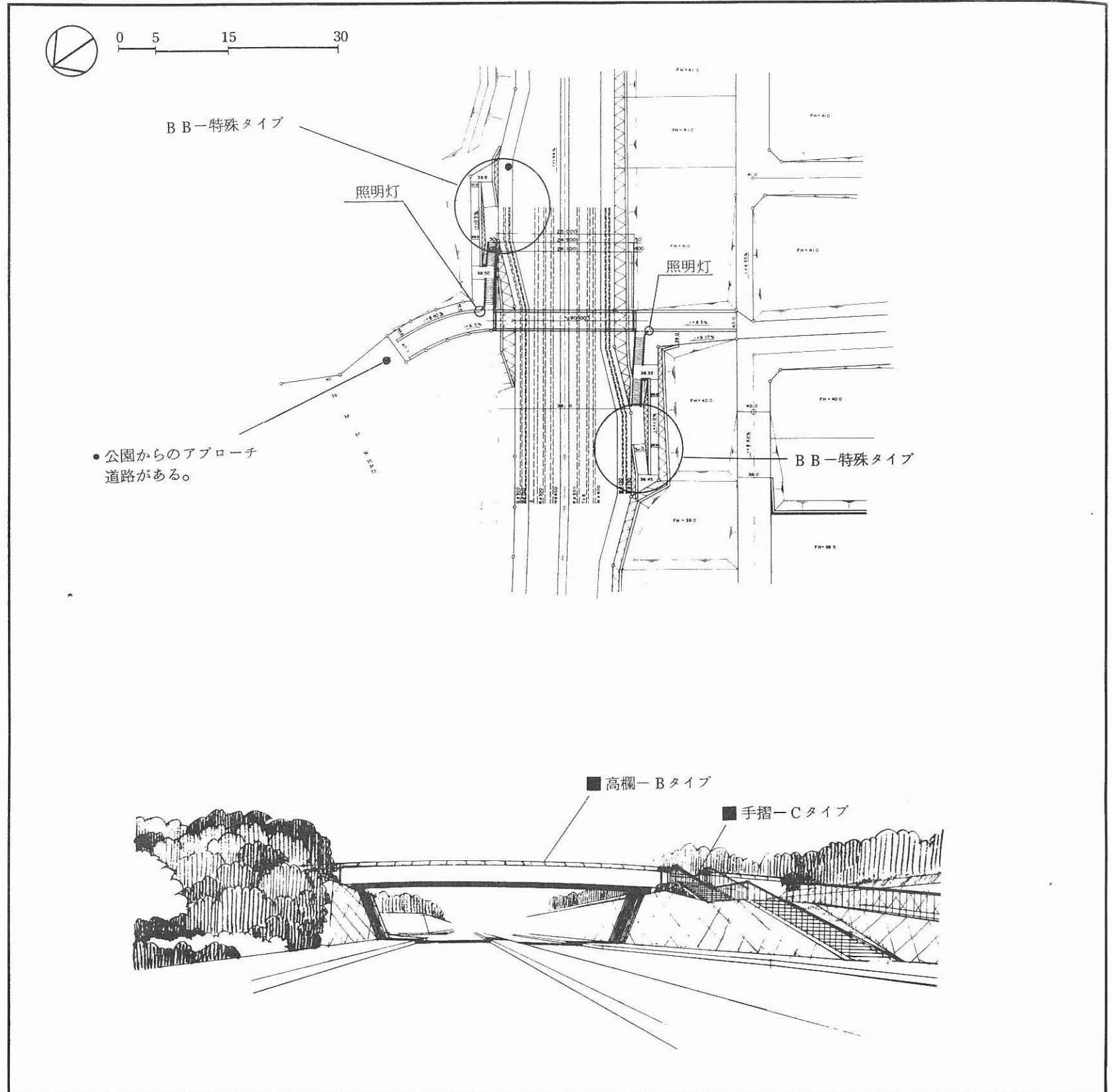
支 承	A - タイプ
伸縮装置	A - タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無

C-48

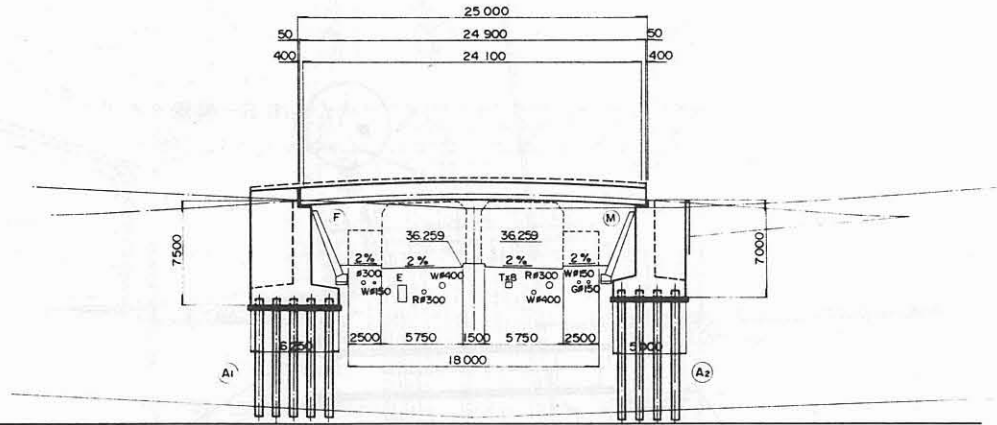


交差形態 歩専道／道路 (3-4-36)
 管理区分 b-2
 巾員 3.0 m / 18.0 m
 橋梁タイプ インターミディエイト
 (幹線系・ルート色)
 構造形式 PC下路式単純桁
 橋長・巾員 25.5 m ・ 3.0 m
 設計荷重 $w = 350 \text{ kg/m}^2$
 設計意図

1. 幹線街路上に設けられる標準的な橋であるが同一ルート上に設けられる他の橋との統一したデザインが必要である。
2. 縦断勾配を8%以下におさえるために下路橋型式とする。



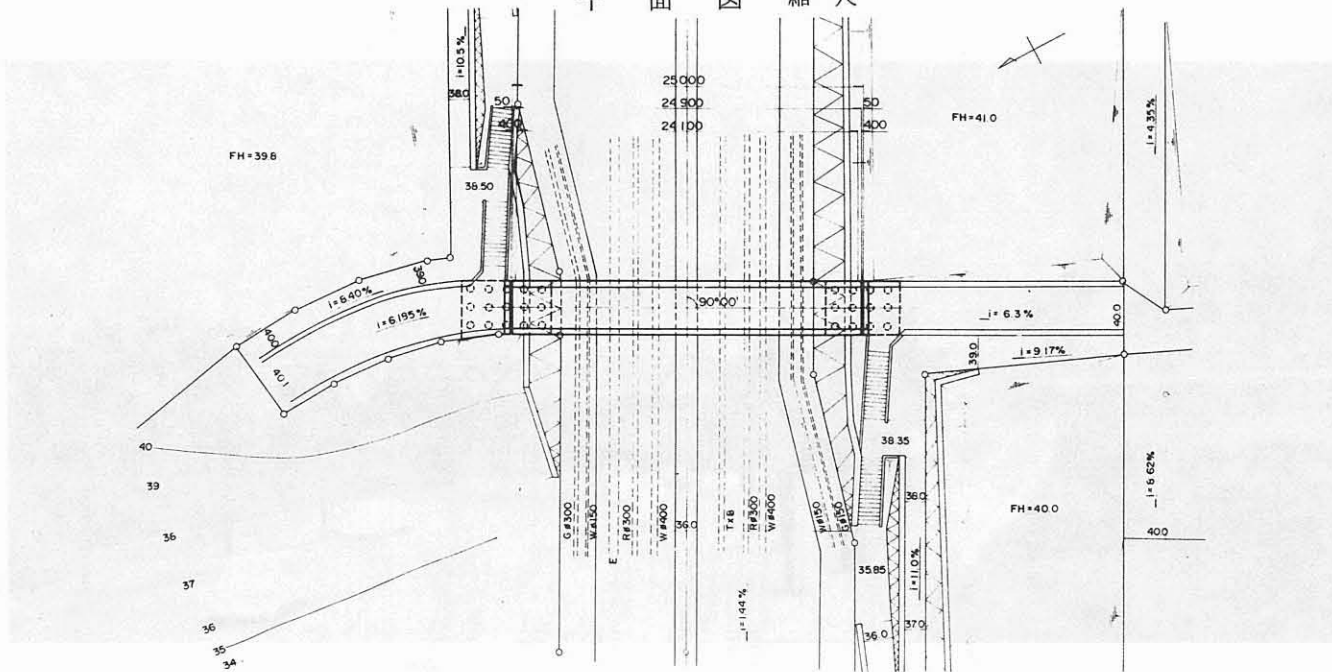
側面図縮尺 1:200



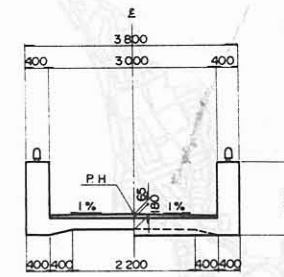
D.L. = 25'000

勾配											
計画高	40 100	40 146	40 286	40 533	40 997	41 377	40 993	40 510	40 189	40 047	40 000
地盤高											
追加距離	30 000	27 000	24 000	20 000	12 500	0 000	12 500	20 000	24 800	27 800	30 800
単距離	0 000	3 000	3 000	4 000	7 500	12 500	12 500	7 500	4 800	3 000	3 000
測点	-10 000	-7 000	-4 000	NO-1	-12 500	NO 0	-12 500	NO 1	5 100	8 100	-11 100

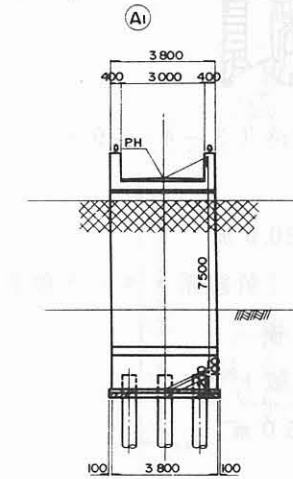
平面図縮尺 1:200



標準断面図縮尺 1:50



断面図縮尺 1:100



支 承	A - タイプ
伸縮装置	A - タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無

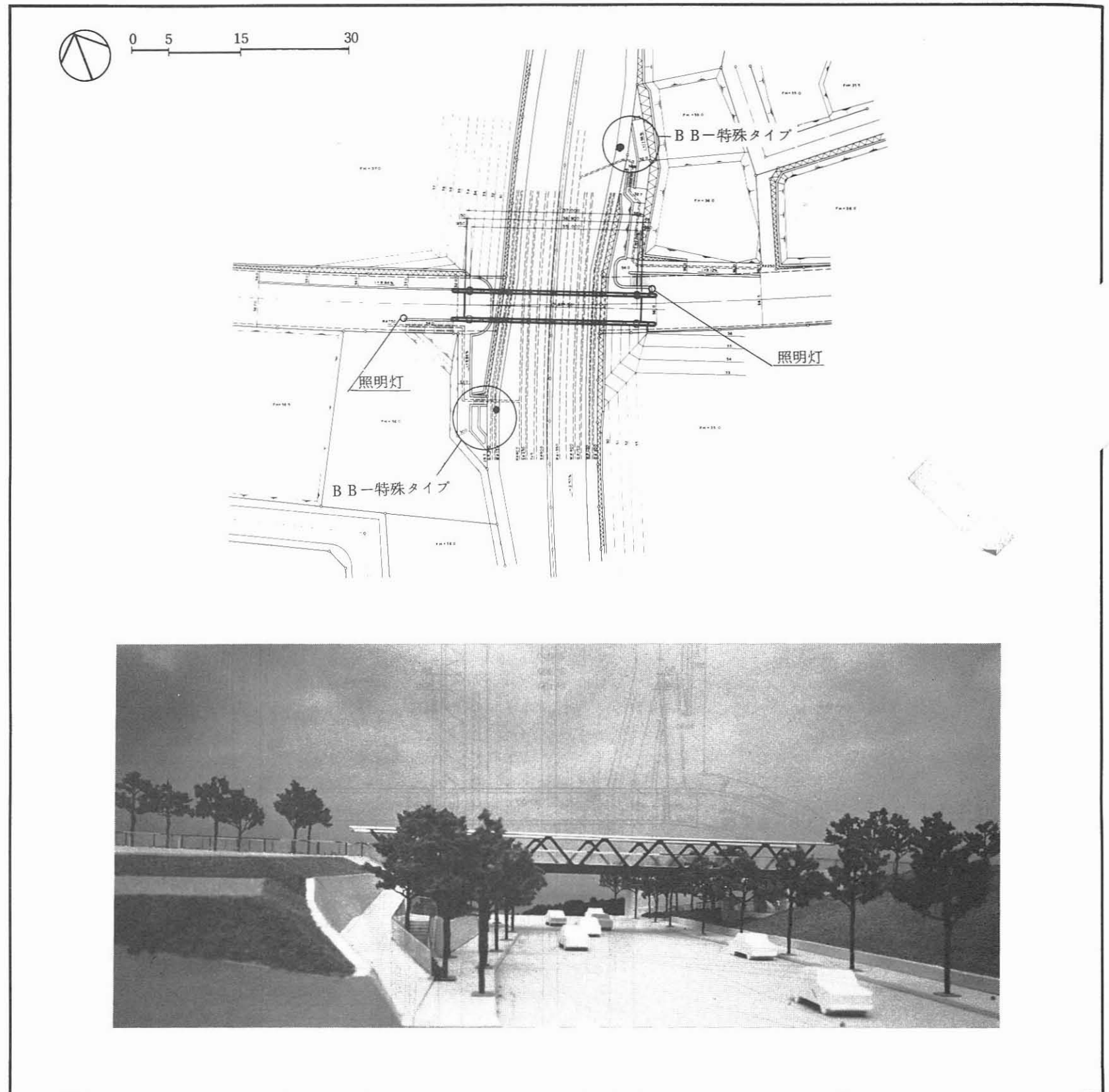
C-49



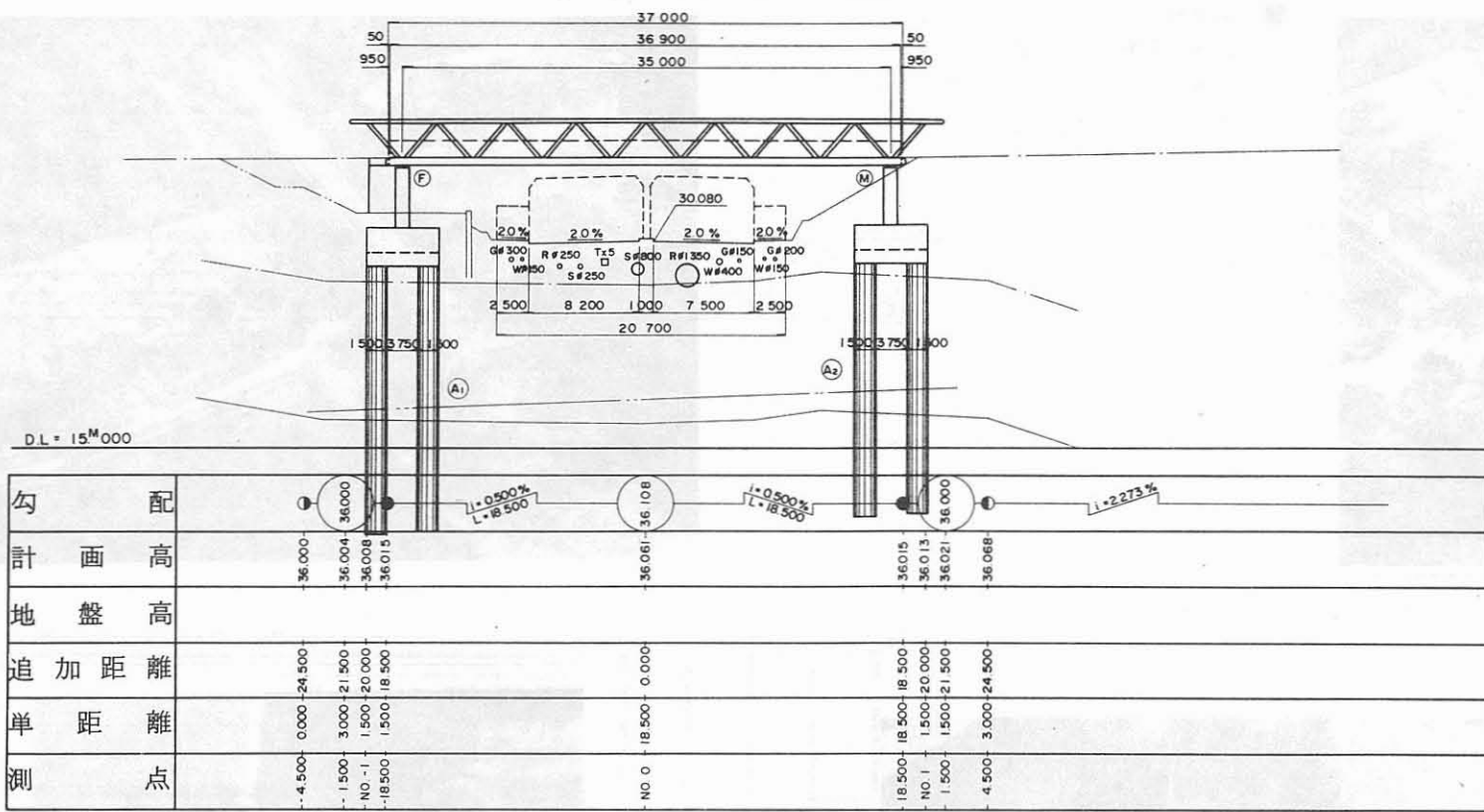
交差形態 歩専道／道路（3-4-29）
 管理区分 b-1
 巾員 12.0 m / 20.0 m
 橋梁タイプ フォーマル（幹線系・ルート色）
 駅前サイン橋
 構造形式 鋼単純鋼床版トラス
 橋長・巾員 37.0 m・5.0 m
 設計荷重 TL-14

設計意図

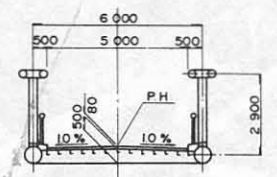
- ① 駅前サイン橋として、目立たせること。
- ② センター入口の橋として歩専道の空間を強く区切る（分節させる）こと。
- ③ 地下鉄路線上であるから軽量化を図る。
 などの方針からトラス形式を選定し、①②の意図を強調するデザインを施した。
 ・主構をパイプで構成していること、特に上弦材をダブルにしていること、端部にデザイン上斜材を付け加えていることなどが主たる提案部分である。



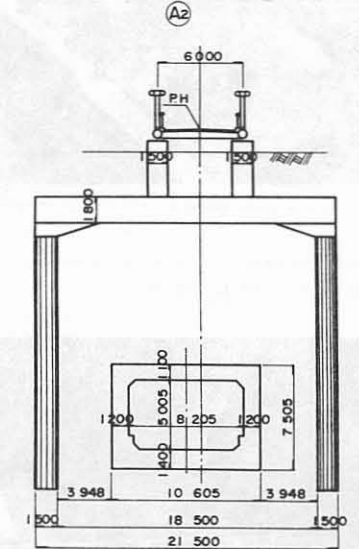
側面図縮尺 1:200



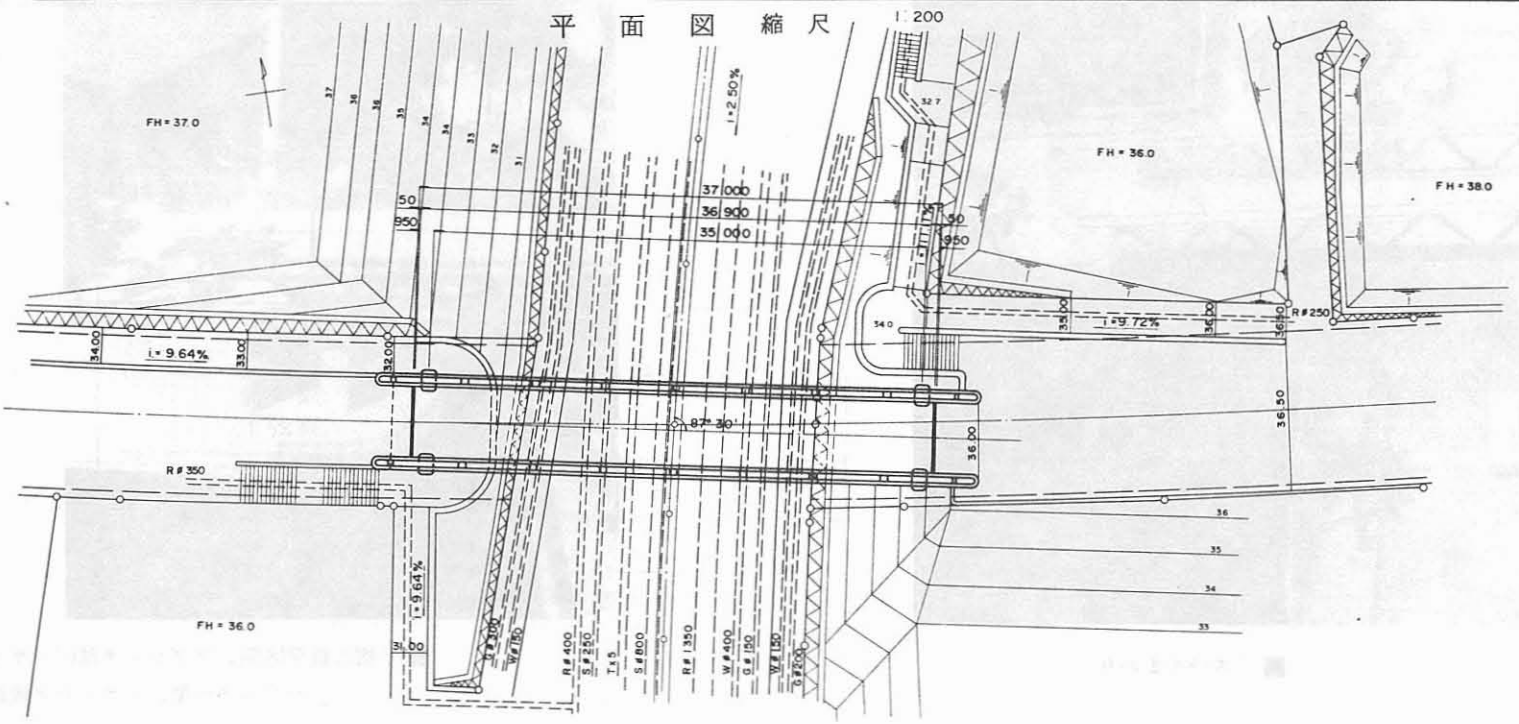
標準断面図縮尺 1:100



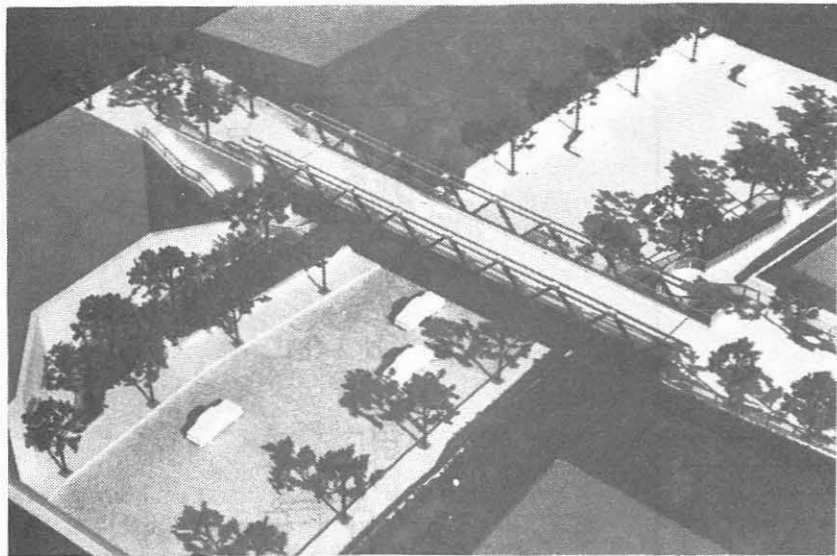
断面図縮尺 1:200



平面図縮尺 1:200

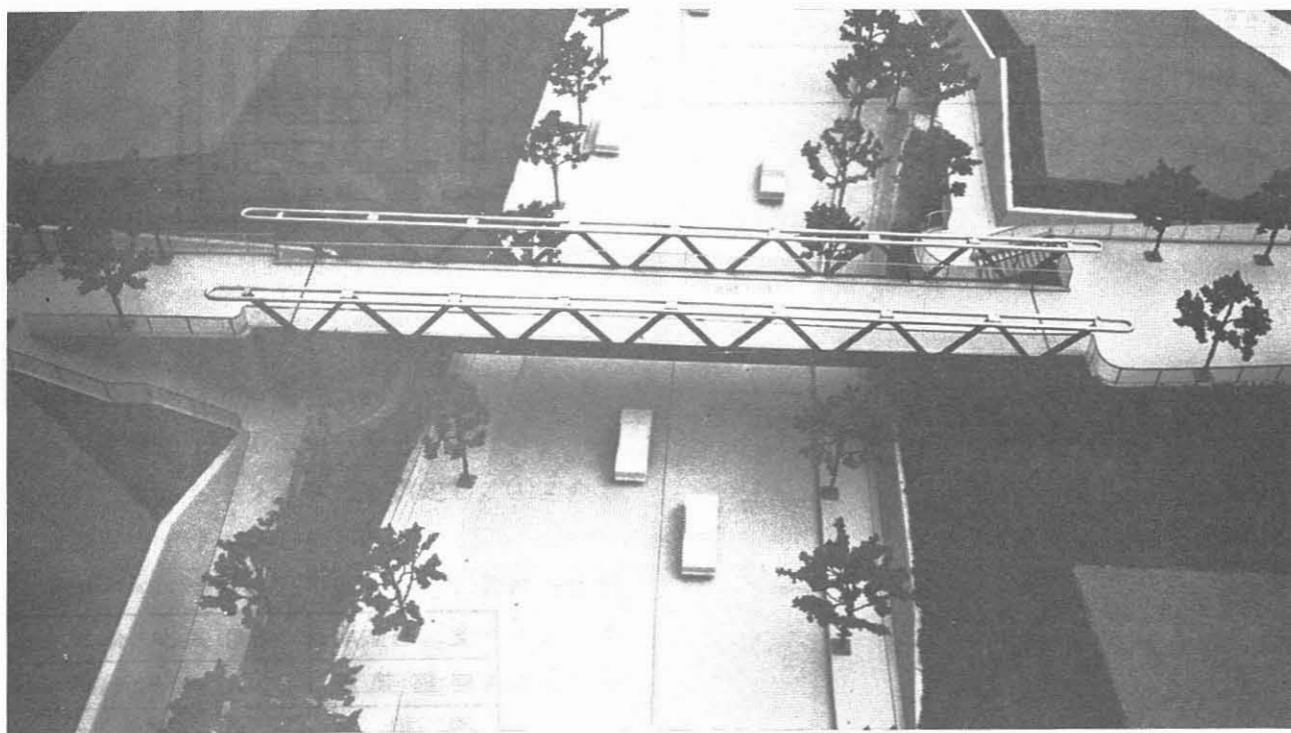
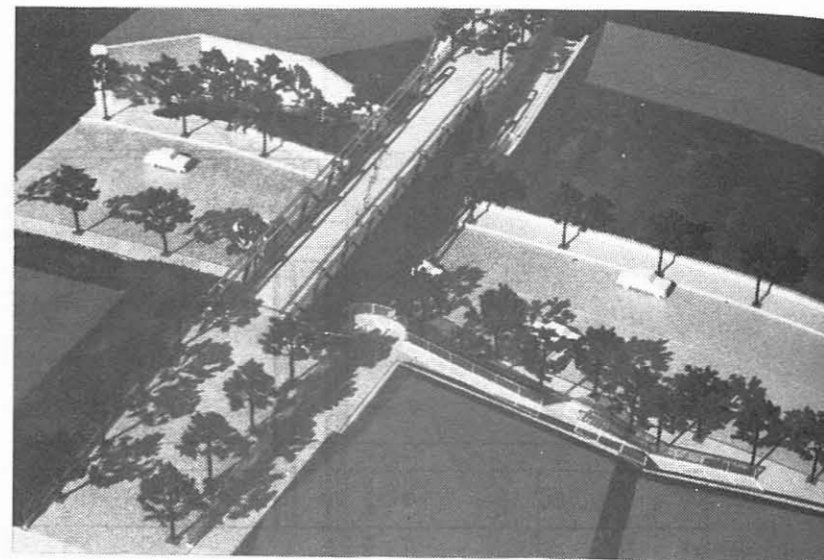


支 承	C-タイプ
伸縮装置	A-タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無

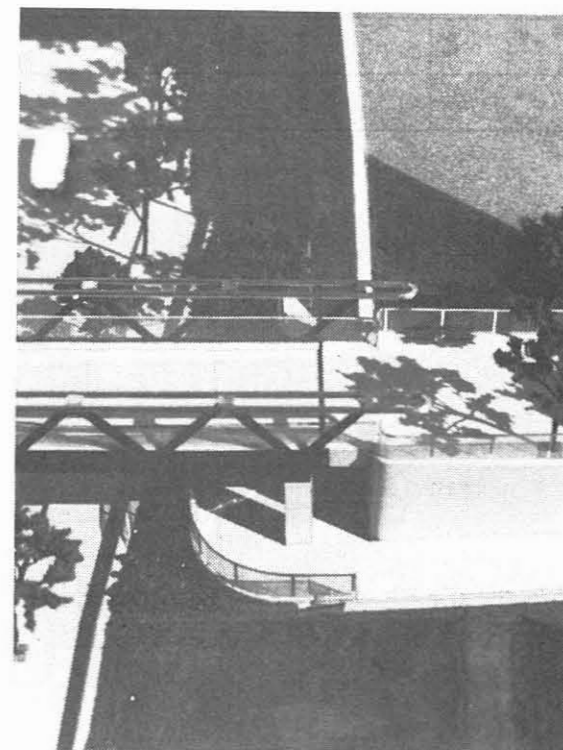


■ 舗装計画

- ・ 舗装を分節表現の手段とはしない。
- ・ 比較的地味なテクスチャー色をねらう
(或いはシックなイメージ)

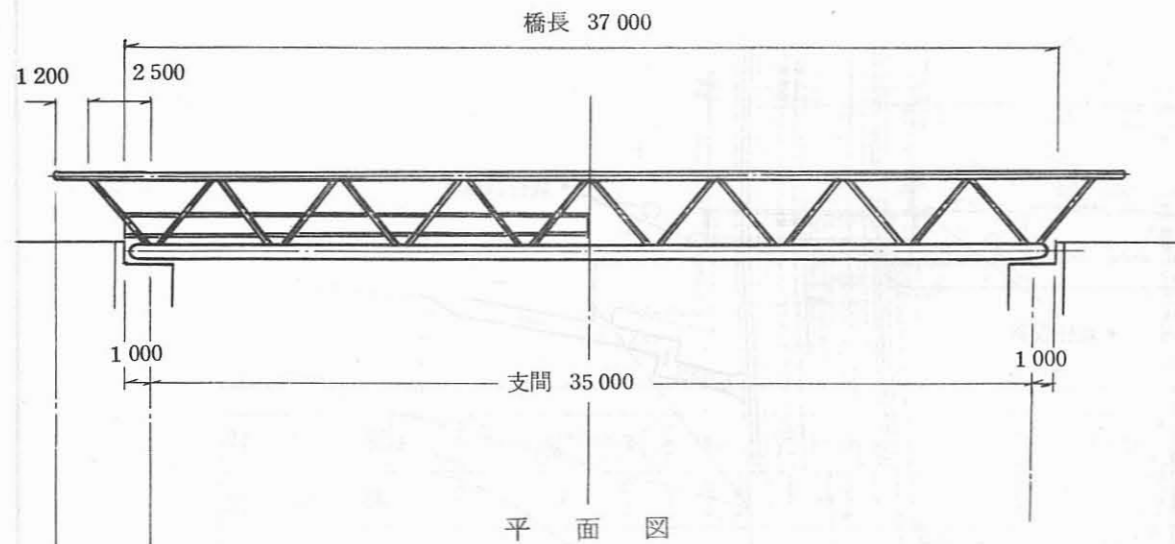


■ バスベイまわり

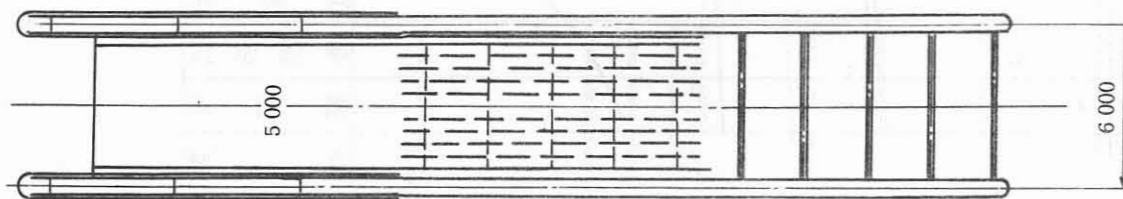


■ 手摺は橋梁区間、アプローチ部同デザインとする。
バラスター型、ステンレス鏡面

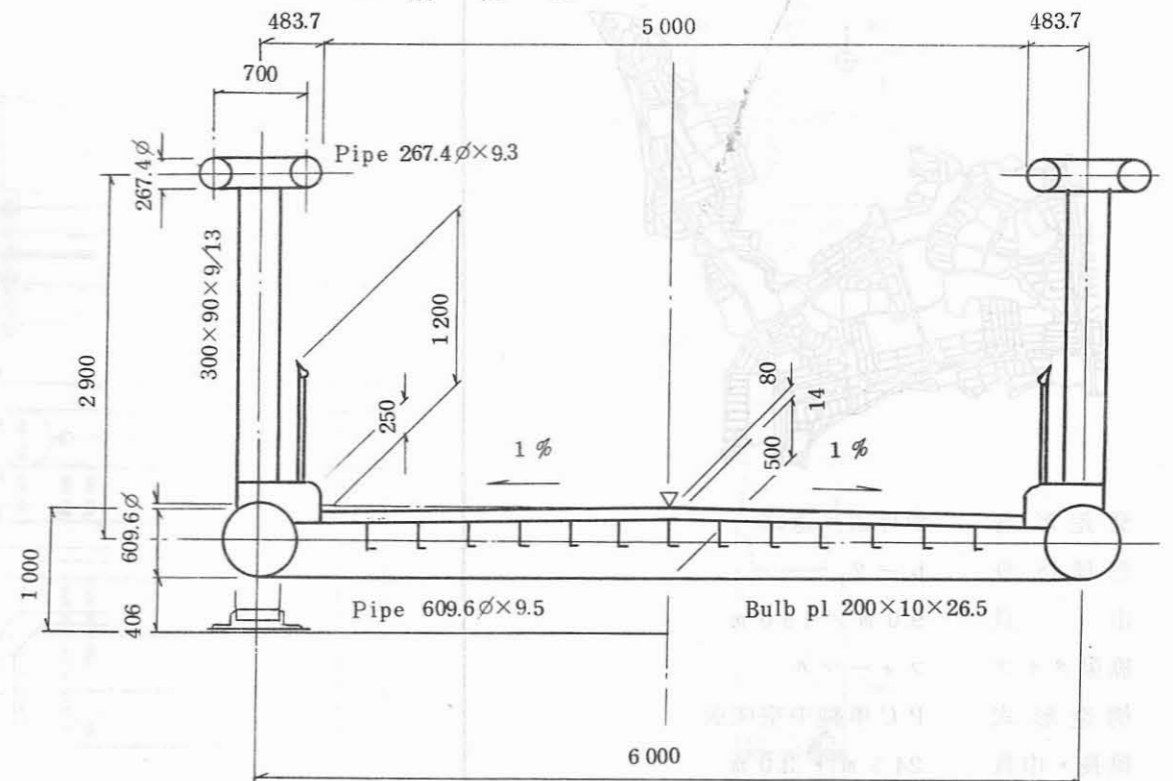
側面図



平面図



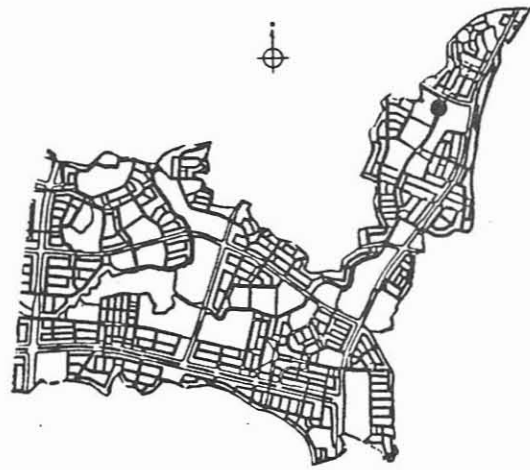
断面図



■ 仕上げ仕様・グレード設定=H

橋台・ウイング・橋脚	タイル貼り
桁 上弦材	塗装(シルバー)又はステンレス パイプの使用を検討する
斜材 下弦材	塗装(黒)
高欄	バラスト型特注品 ステンレス
アプローチ柵	高欄同品
舗装	擬石タイル(御影石)

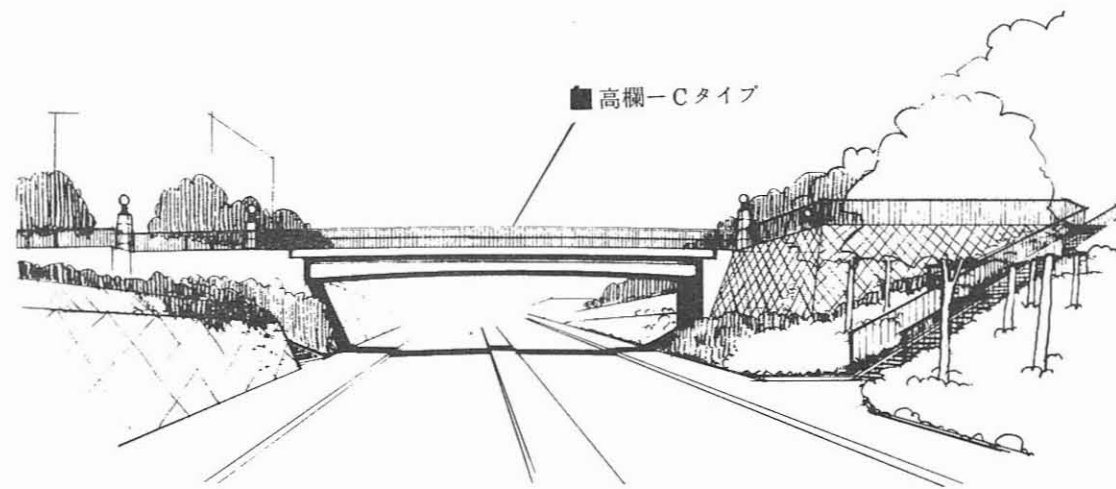
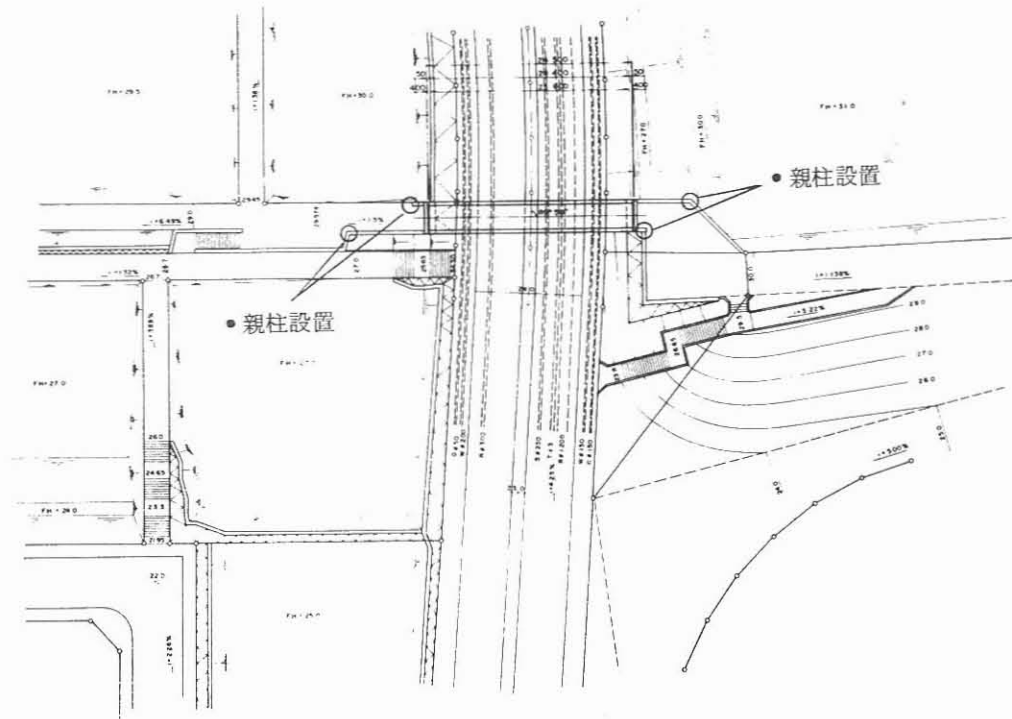
C-50



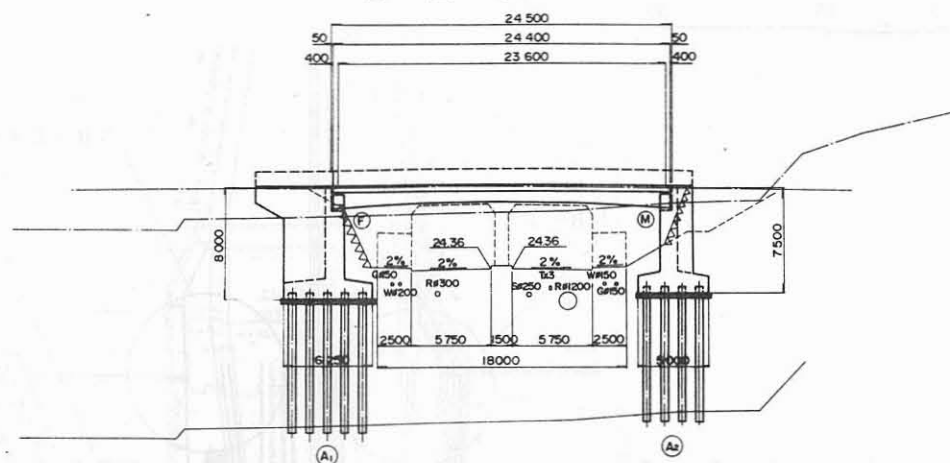
交差形態	歩専道／道路
管理区分	b-2
巾員	9.0 m / 18.0 m
橋梁タイプ	フォーマル
構造形式	PC単純中空床版
橋長・巾員	24.5 m ・ 3.0 m
設計荷重	w = 350 kg/m ²

設計意図

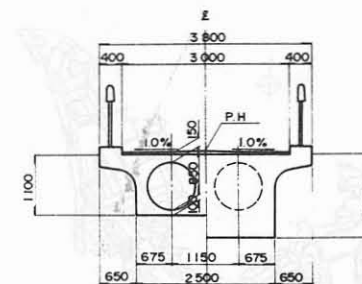
1. 地区センター入口への橋として強い分節を形成する橋であり、また緑道からの「見上げ」のある橋である。
2. 主桁側面及び下面に曲線を入れることにより親しみやすさと柔らかさを出す。



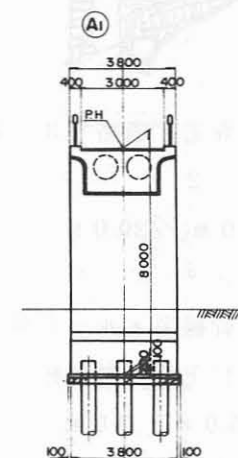
側面図縮尺 1:200



標準断面図縮尺 1:50



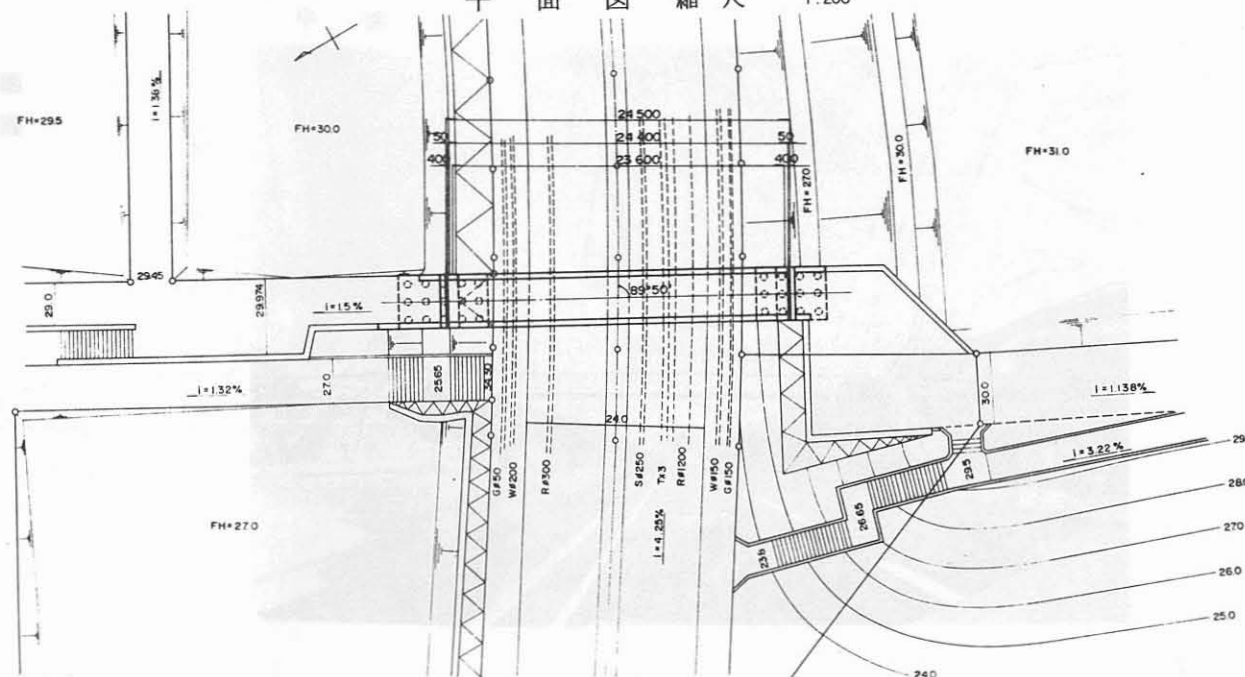
断面図縮尺 1:100



DL = 10^m000

勾配											
計画高	27500	27500	29779	29942	30040	30084	30255	30390	30255	30189	29000
地盤高											
追加距離	63120	28000	25000	22000	20000	12250	0000	12250	15250	18250	119750
単距離	0000	35120	3000	3000	2000	7750	12250	12250	3000	3000	104500
測点	NO-2				NO-1		NO 0			NO 1	NO 5

平面図縮尺 1:200



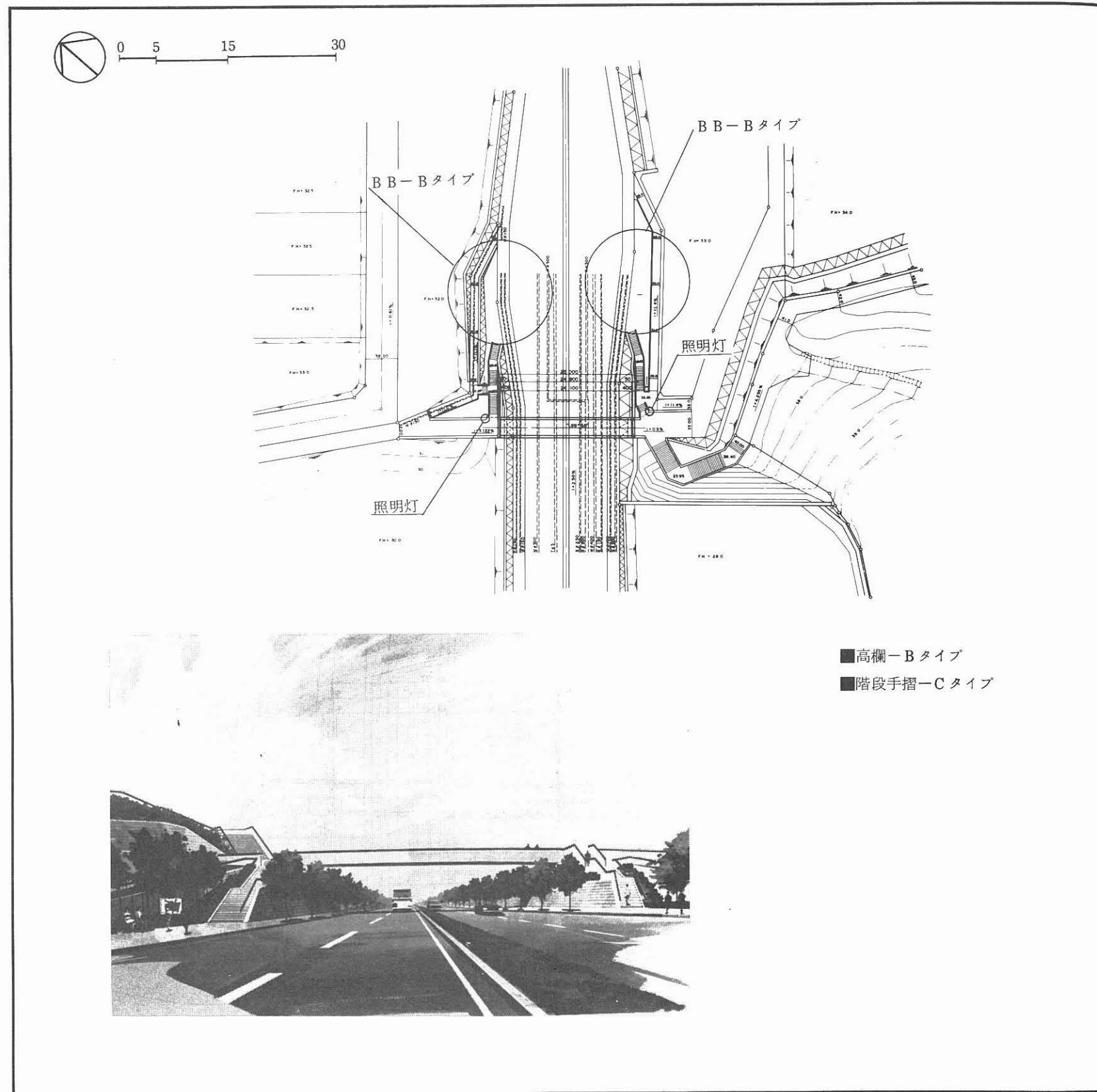
支 承	A - タイプ
伸縮装置	A - タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無

C-51



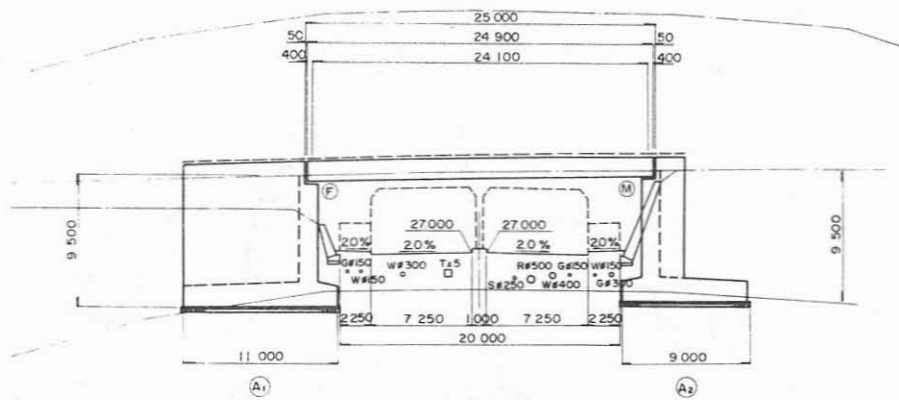
交差形態 歩専道／道路（3-4-29）
 管理区分 b-2
 巾員 3.0 m / 20.0 m
 橋梁タイプ インターミディエート
 （幹線系・ルート色）
 構造形成 PC下路式単純桁
 橋長・巾員 25.0 m ・ 3.0 m
 設計荷重 TL-14
 設計意図

1. 幹線街路上に設けられる標準的な橋であるが同一ルート上に設けられる他の橋との統一したデザインが必要である。
2. 縦断勾配を8%以下におさえるために下路橋型式とする。

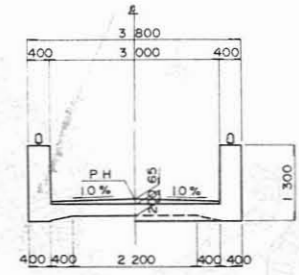


■ 高欄-Bタイプ
 ■ 階段手摺-Cタイプ

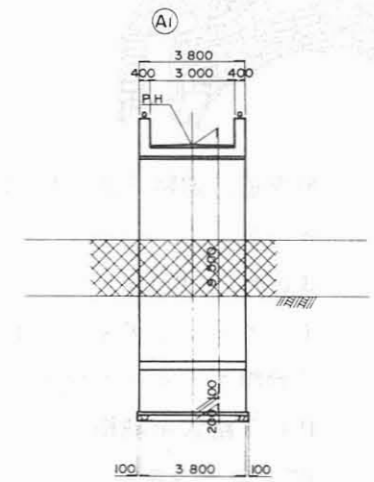
側面図縮尺 1/200



標準断面図縮尺 1/50



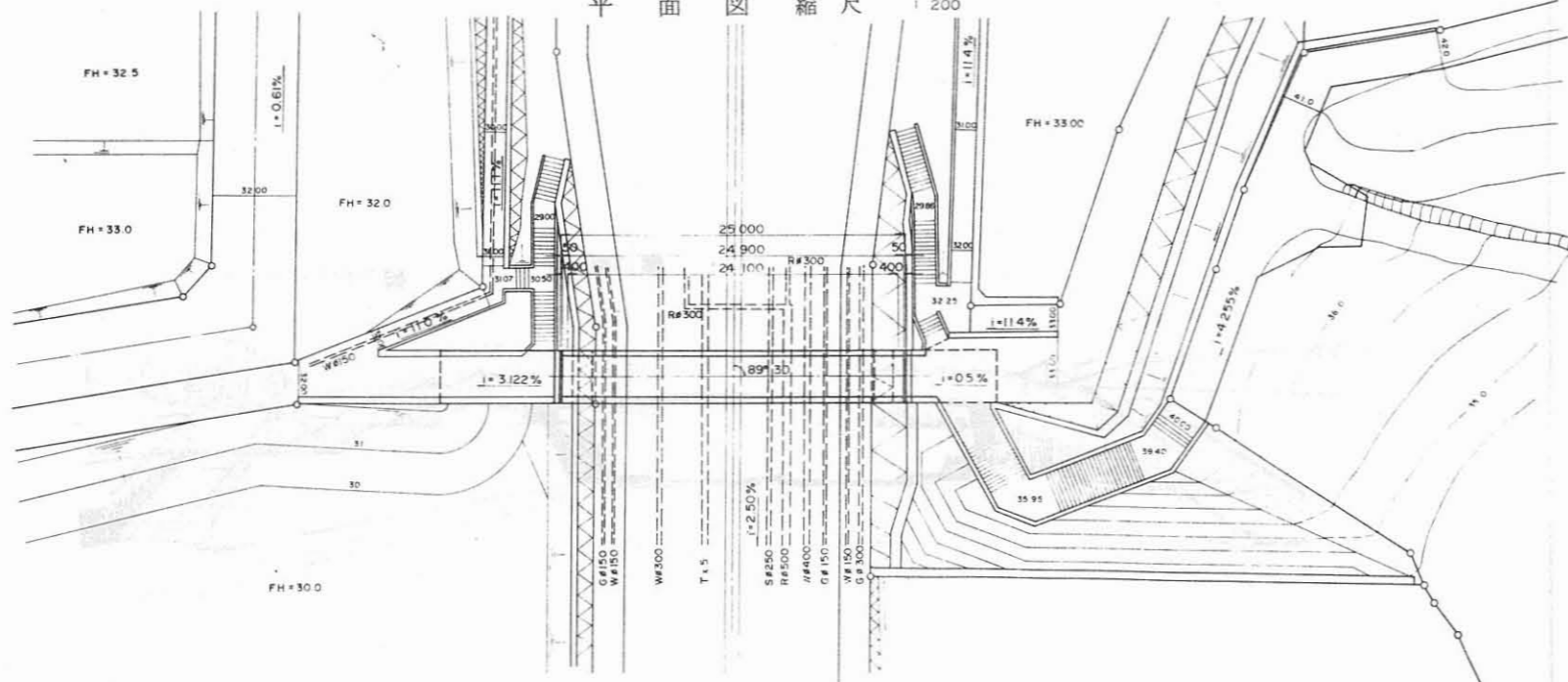
断面図縮尺 1/100



D.L = 15M000

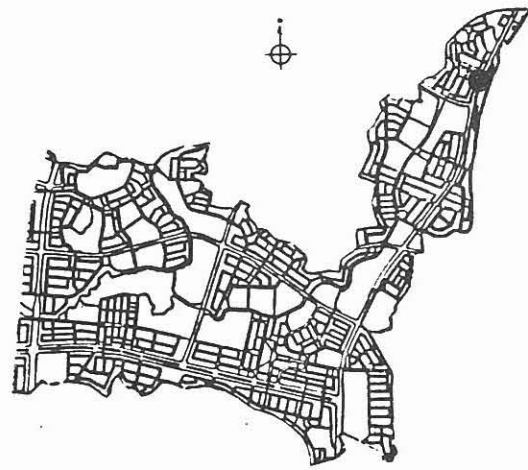
勾配	● (32,000) ● (32,000)		● (32,890) ● (32,890)		● (33,000) ● (33,000)	
計画高	32,000	32,023	32,094	32,266	32,500	32,808
地盤高						
追加距離	31,500	28,900	25,500	20,000	12,500	0,000
単距離	0,000	3,000	3,000	5,500	7,500	12,500
測点	-11,500	-8,500	-5,500	N0-1	-12,500	N0-0

平面図縮尺 1/200



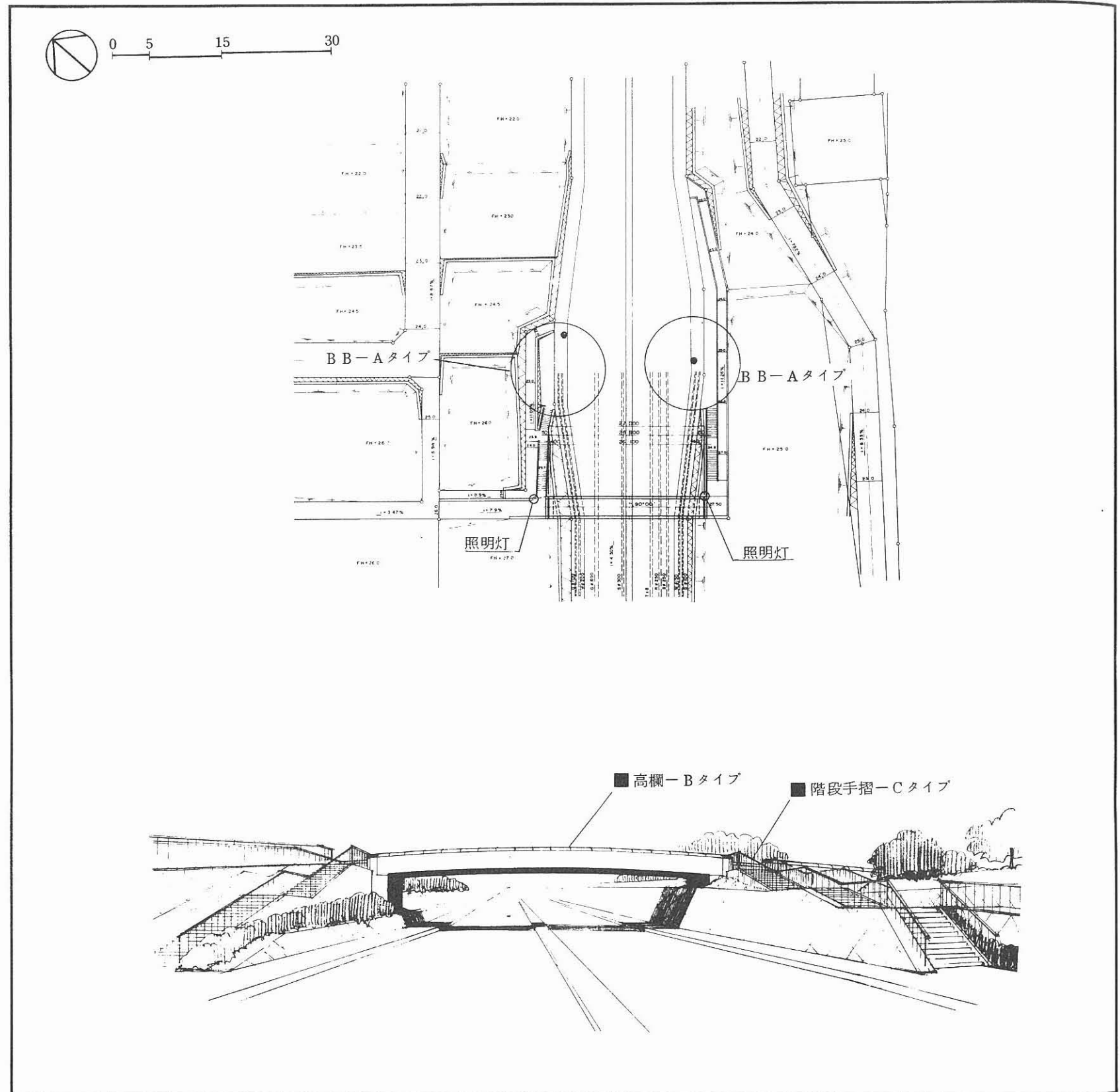
支 承	A - タイプ
伸縮装置	A - タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無

C-52

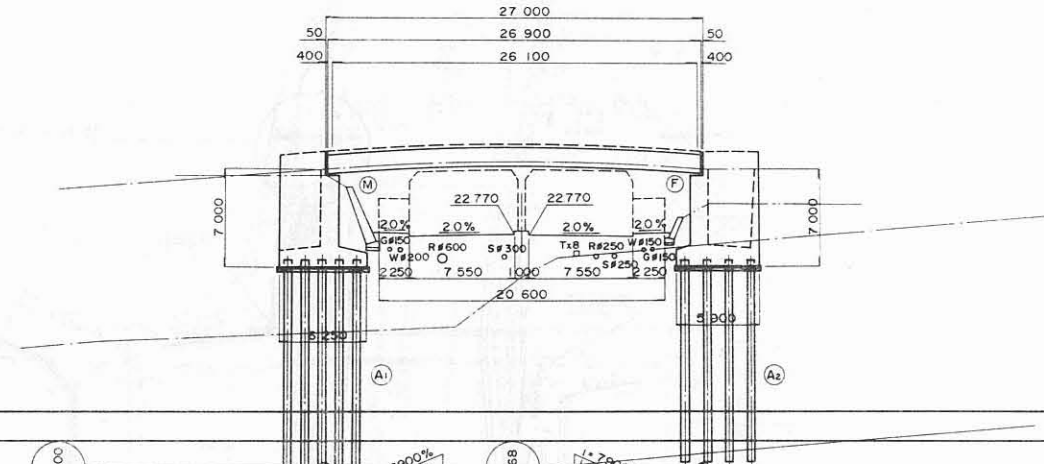


交差形態 歩専道／道路（3-4-29）
 管理区分 b-2
 巾員 3.0 m / 20.0 m
 橋梁タイプ インターミディエート
 （幹線系・ルート色）
 構造形成 PC下路式単純桁
 橋長・巾員 27.0 m・3.0 m
 設計荷重 $w = 350 \text{ kg/m}^2$
 設計意図

1. 幹線街路上に設けられる標準的な橋であるが同一ルート上に設けられる他の橋との統一したデザインが必要である。
2. 縦断勾配を8%以下におさえるために下路橋型式とする。



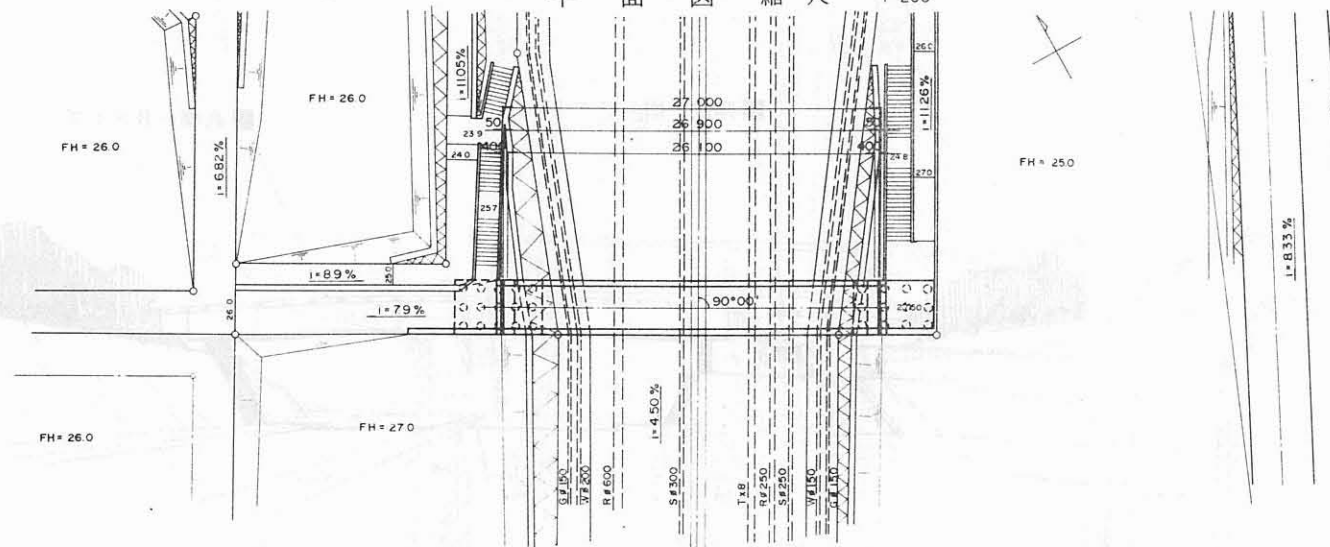
側面図縮尺 1:200



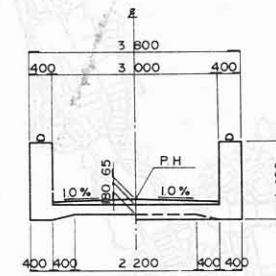
D.L = 10^M000

勾配	26.000	27.027	27.263	28.034	27.501
計画高	26.000	27.027	27.263	28.034	27.501
地盤高					
追加距離	33,000	20,000	14,000	0,000	13,000
単距離	0,000	13,000	6,000	13,500	13,000
測点	-13,000	NO.1	-14,000	0,500	-13,000

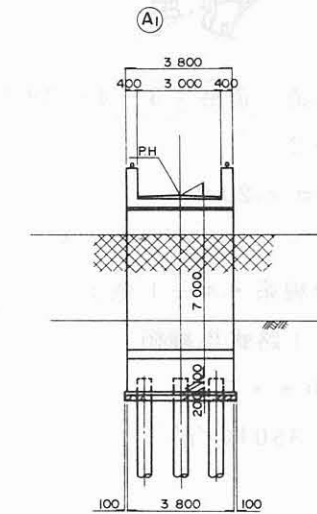
平面図縮尺 1:200



標準断面図縮尺 1:50

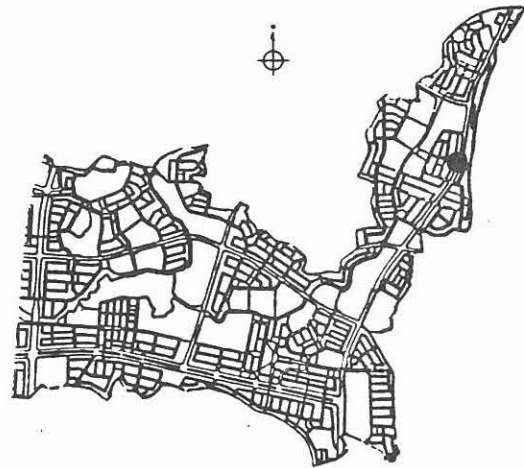


断面図縮尺 1:100



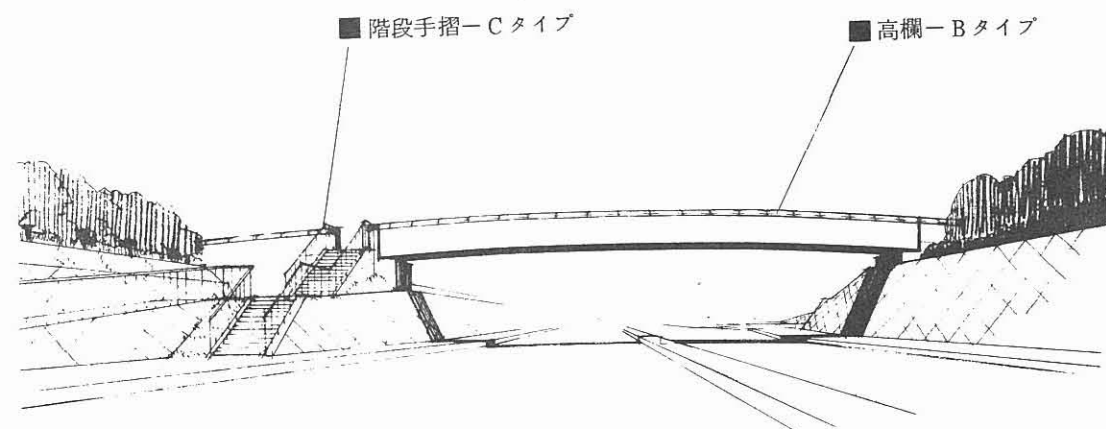
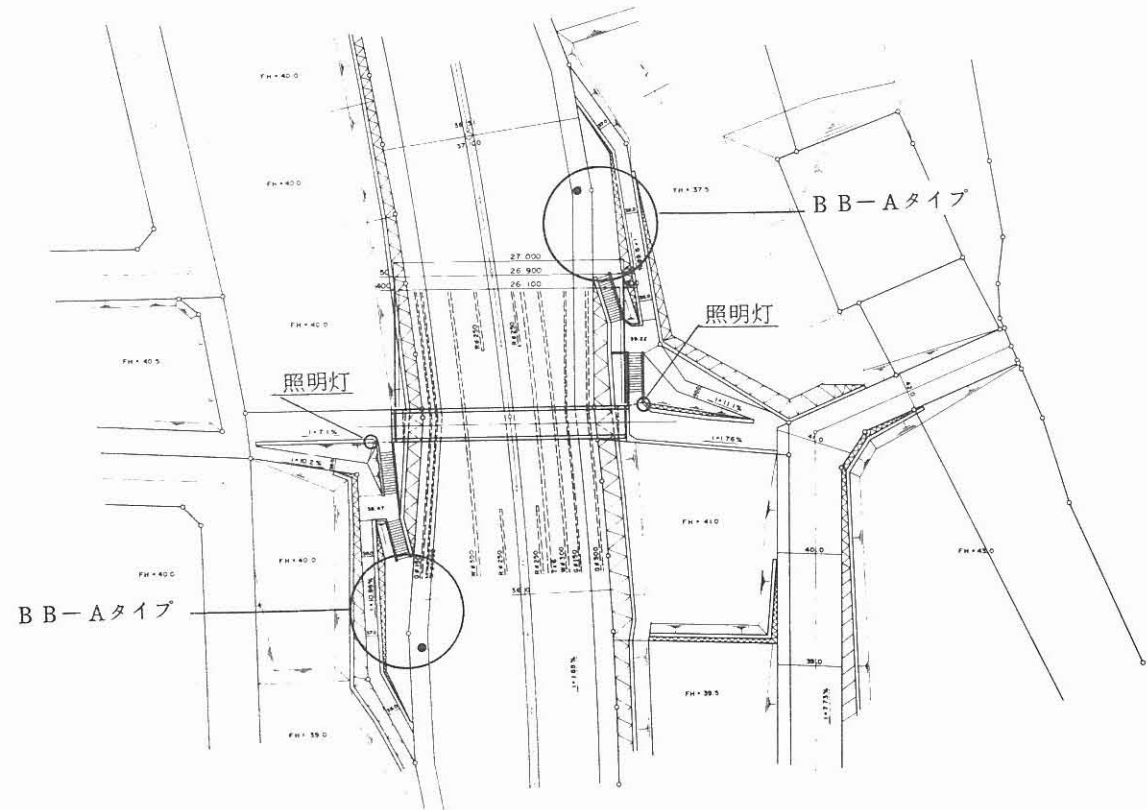
支 承	A - タイプ
伸縮装置	A - タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無

C-53

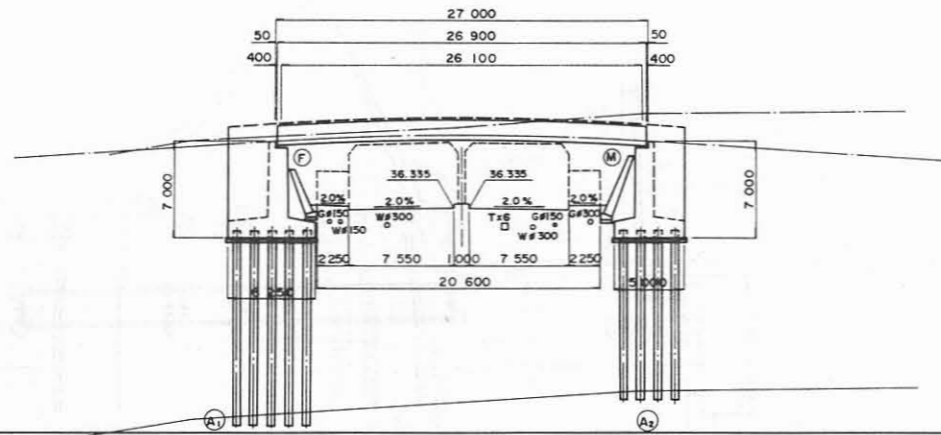


交差形態 歩専道／道路 (3-4-29)
 管理区分 b-2
 巾員 3.0 m / 20.0 m
 橋梁タイプ インターミディエート
 (幹線系・ルート色)
 構造形式 PC下路式単純桁
 橋長・巾員 27.0 m・3.0 m
 設計荷重 $w = 350 \text{ kg/m}^2$
 設計意図

1. 幹線街路上に設けられる標準的な橋であるが同一ルート上に設けられる他の橋との統一したデザインが必要である。
2. 縦断勾配を8%以下におさえるために下路橋型式とする。



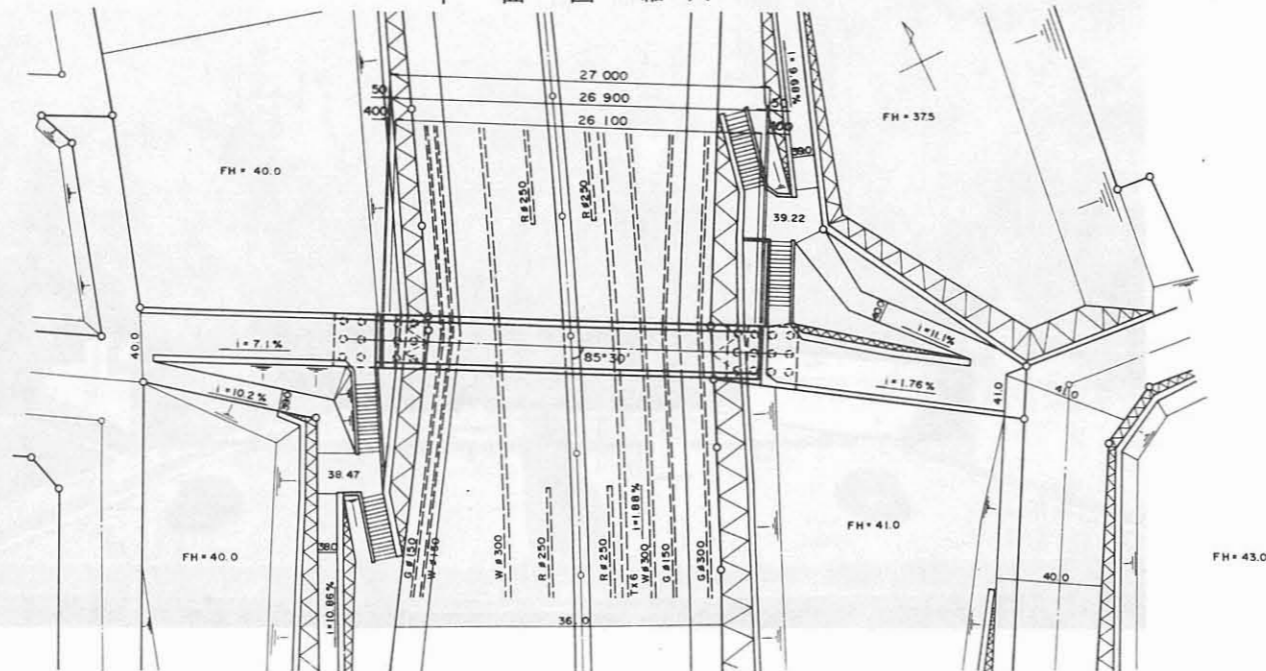
側面図縮尺 1:200



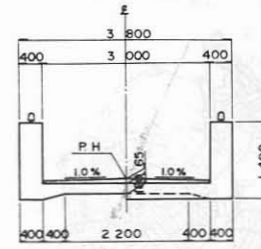
D.L. = 20,000

勾配	1:7.1%		1:10.2%		1:7.1%		1:17.6%		1:11.80%	
計画高	40,000	40,053	40,213	40,548	41,009	41,488	41,968	40,796	40,862	40,948
地盤高										
追加距離	0,000	30,700	3,000	27,700	3,000	24,700	4,700	20,000	6,500	13,500
単距離	0,000	30,700	3,000	27,700	3,000	24,700	4,700	20,000	6,500	13,500
測点	-10,700	-7,700	-4,700	NO. -1	4,700	20,000	-13,500	6,500	13,500	0,000

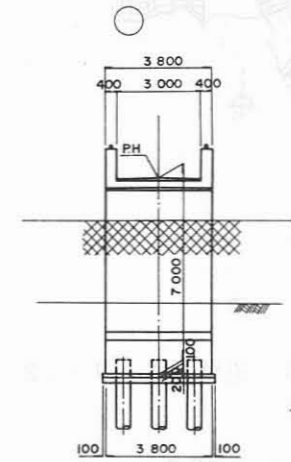
平面図縮尺 1:200



標準断面図縮尺 1:50



断面図縮尺 1:100



支 承	A - タイプ
伸縮装置	A - タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無

D-1

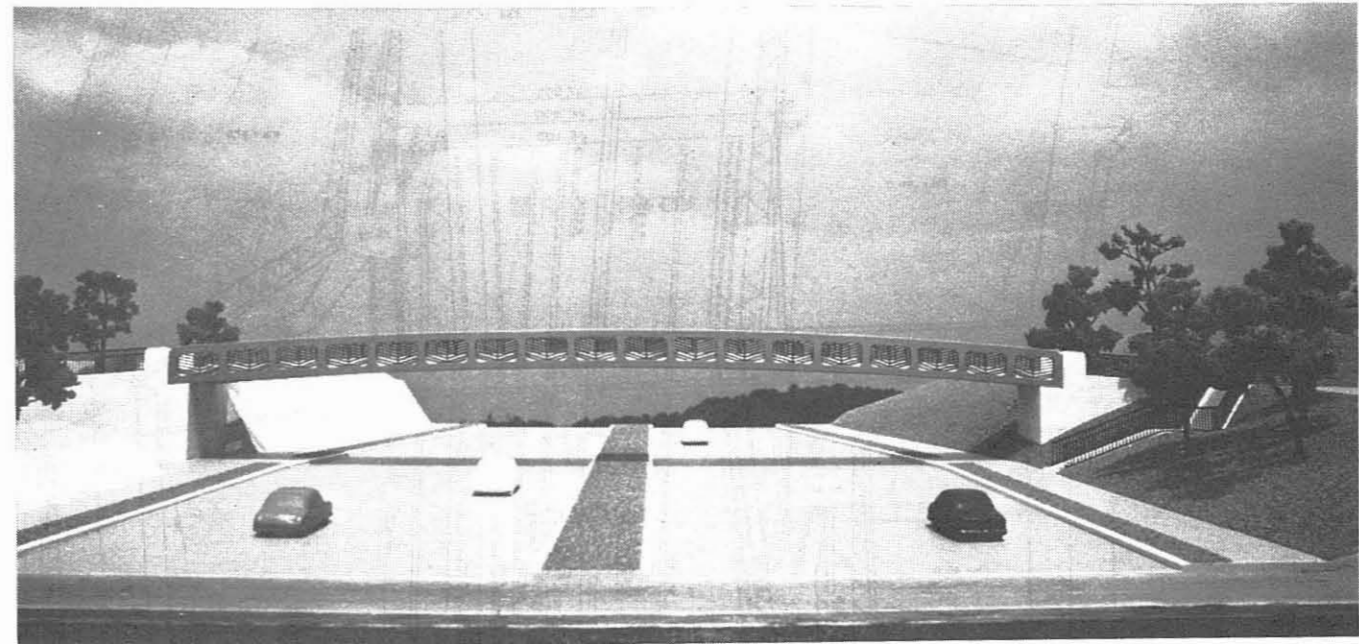
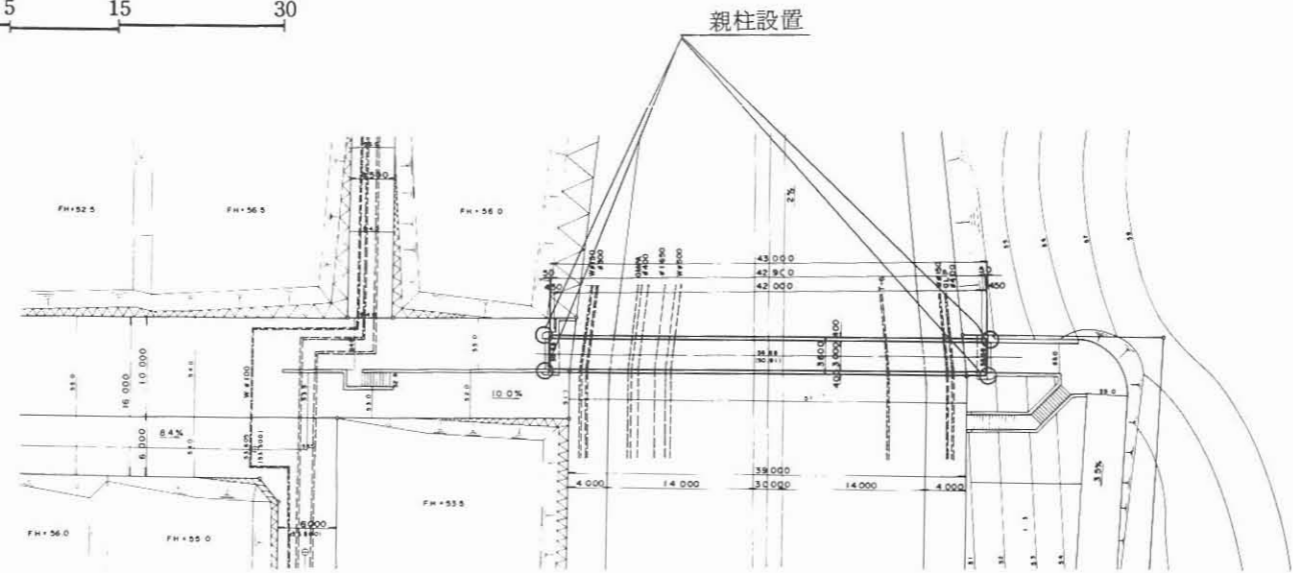


交差形態 緑道／道路（3-3-32）
 管理区分 a
 巾員 3.0 m / 32.0 m
 橋梁タイプ フォーマル
 （緑道系・緑道結節点）
 構造形式 鋼単純フィーレンディール桁
 橋長・巾員 43.0 m ・ 3.0 m
 設計荷重 TL-14
 設計意図

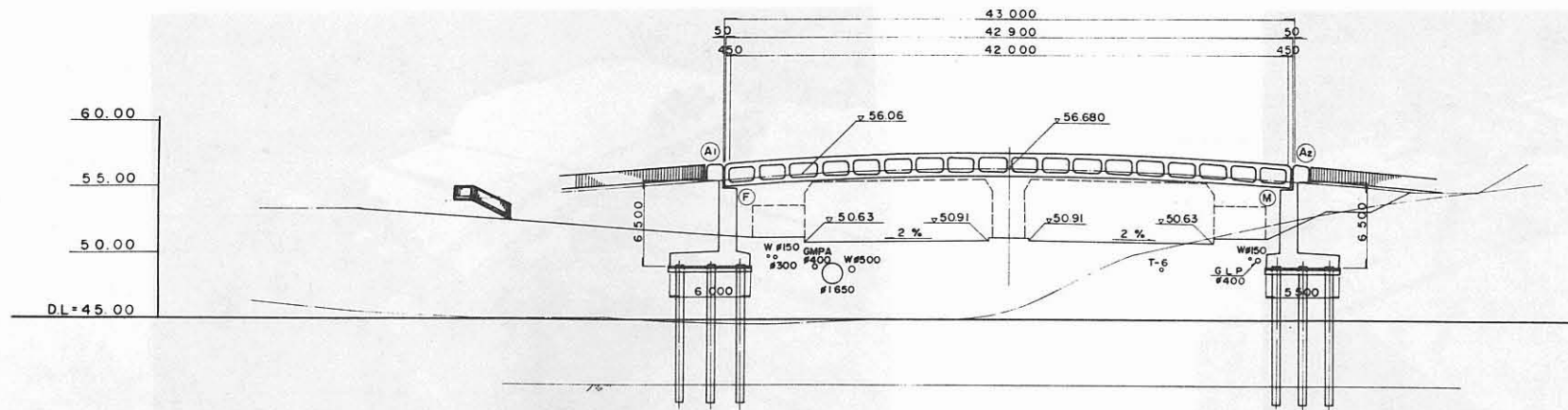
1. 緑道空間構成が橋梁部で著しく変化するので特徴のある桁形態とした。
2. 3-3-32の統一をはかるために鋼橋にした。
3. 縦断勾配を8%以下にするために下路橋とした。



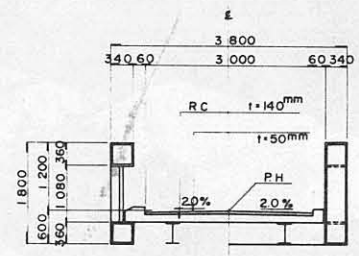
0 5 15 30



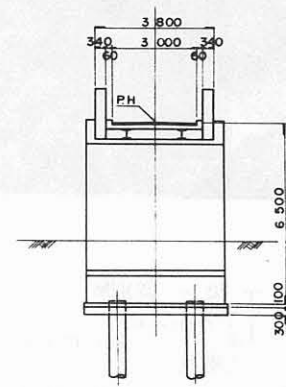
側面図縮尺 1:200



標準断面図縮尺 1:50

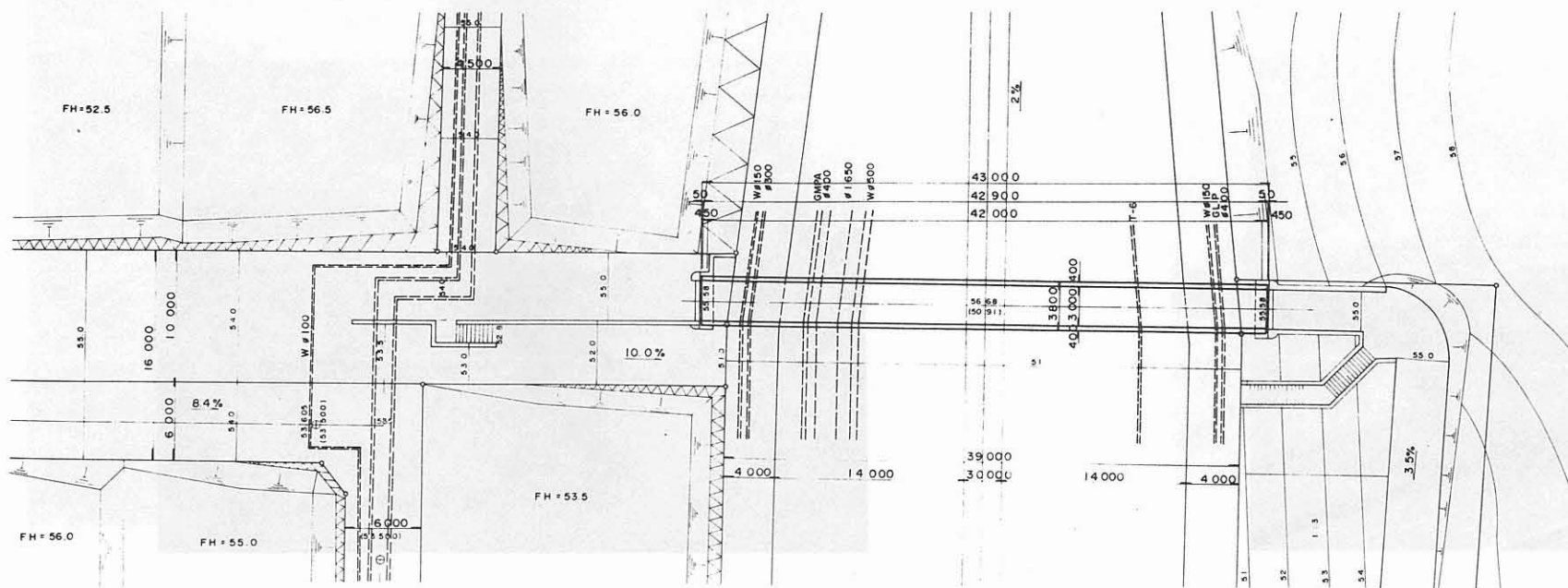


断面図縮尺 1:100



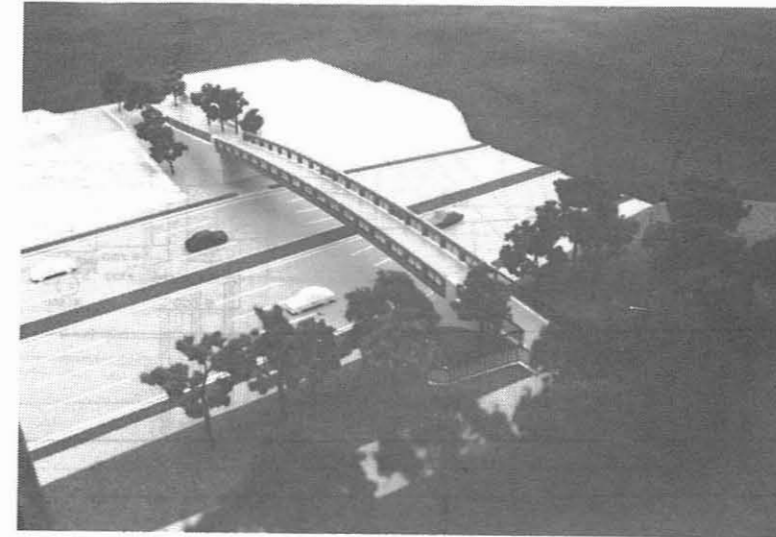
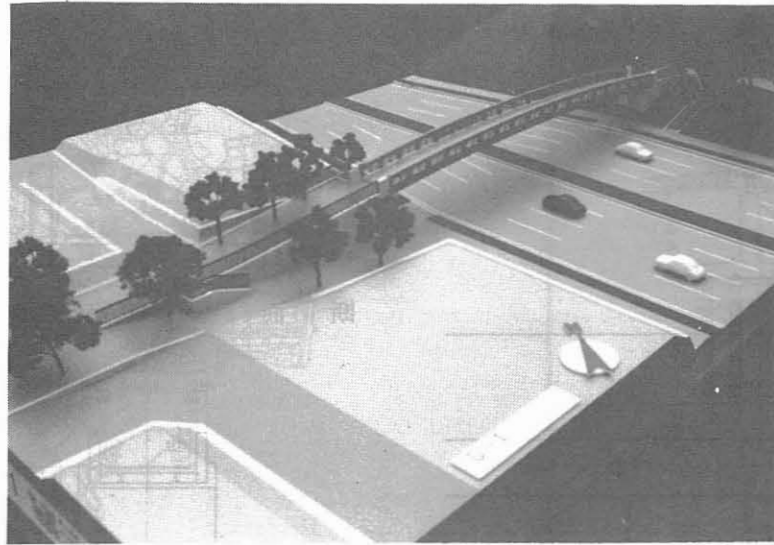
勾配	i = 8.0%											
計画高							V.C.L. + 31.00					
地盤高												
追加距離												
単距離												
測点	NO-5	NO-4	NO-3	NO-2	-5.50	NO-1	NO 0	NO 1	NO 2	NO 3		
	10.00	10.00	8.50	1.50		10.00	0.00	10.00	10.00	6.50		
	50.00	40.00	30.00	20.00		10.00	0.00	10.00	20.00	30.00		
	53.46	52.73	52.00	51.20		50.91	50.91	50.91	51.16	54.42		

平面図縮尺 1:200



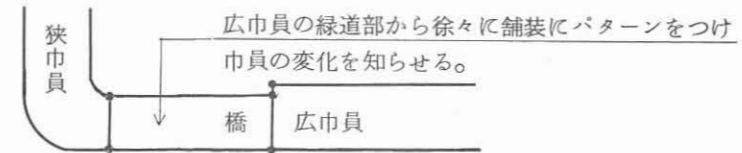
支 承	C - タイプ
伸縮装置	A - タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無

■ 橋詰部に植栽



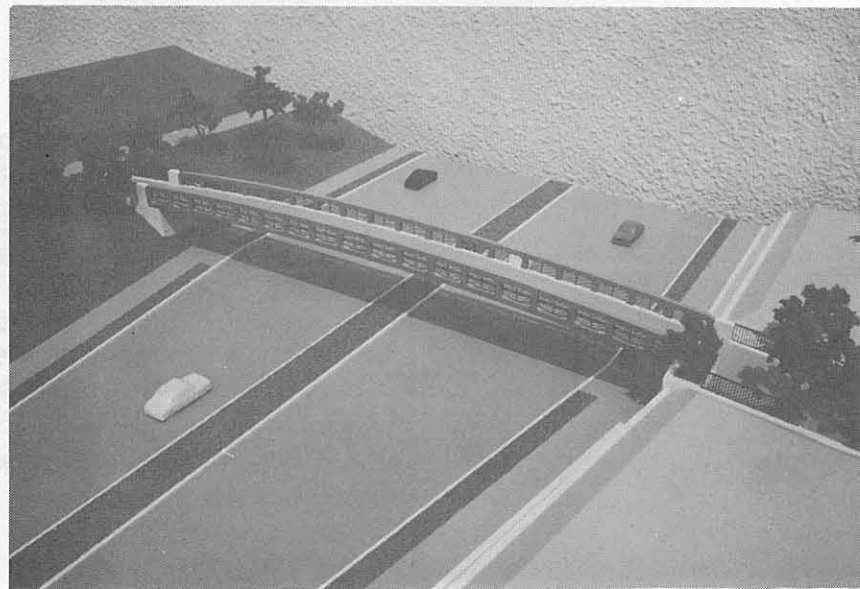
- 高欄
 - 橋 — 個別解
 - 【アプローチ】 — Cタイプ
 - 【階段】

■ 舗装 原則として橋前後と同材とするが舗装にパターンを入れ緑道巾員の変化を知らせる。





■ 仕上げグレード — H (緑道を視点として)

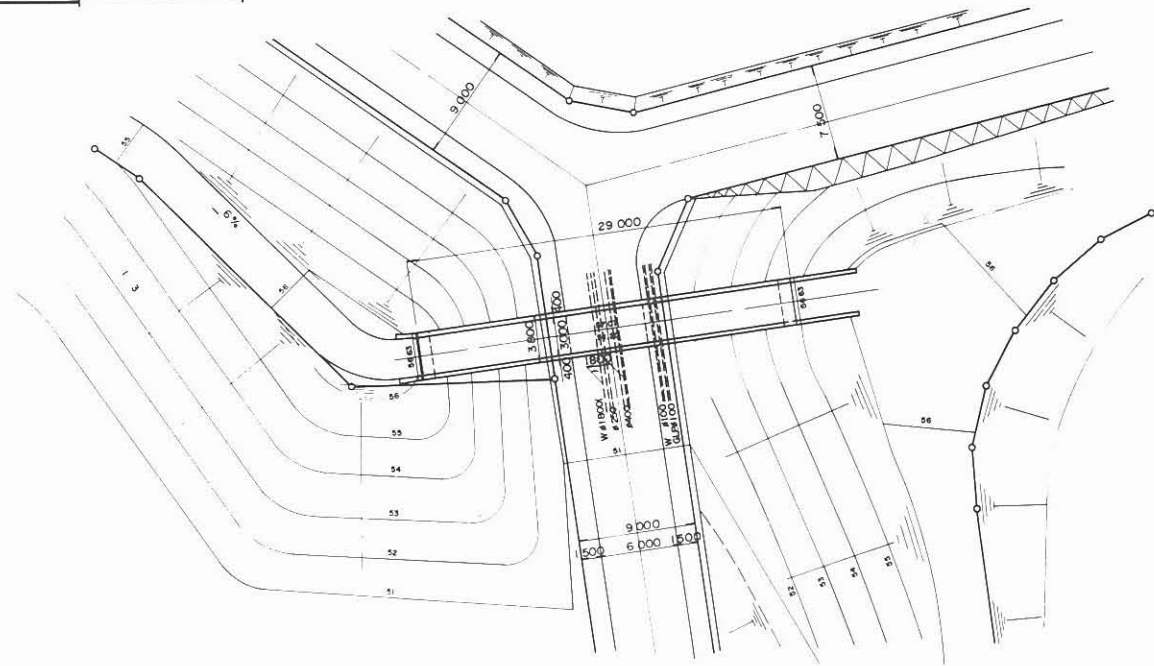
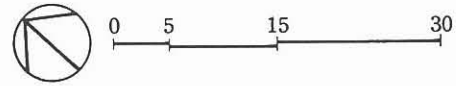


D-2



交差形態 緑道／道路
 管理区分 a
 巾員 3.0 m / 9.0 m
 橋梁タイプ インフォーマル
 (緑道系・中景域)
 構造形式 RC1 ヒンジアーチ
 橋長・巾員 29.0 m ・ 3.0 m
 設計荷重 TL-14
 設計意図

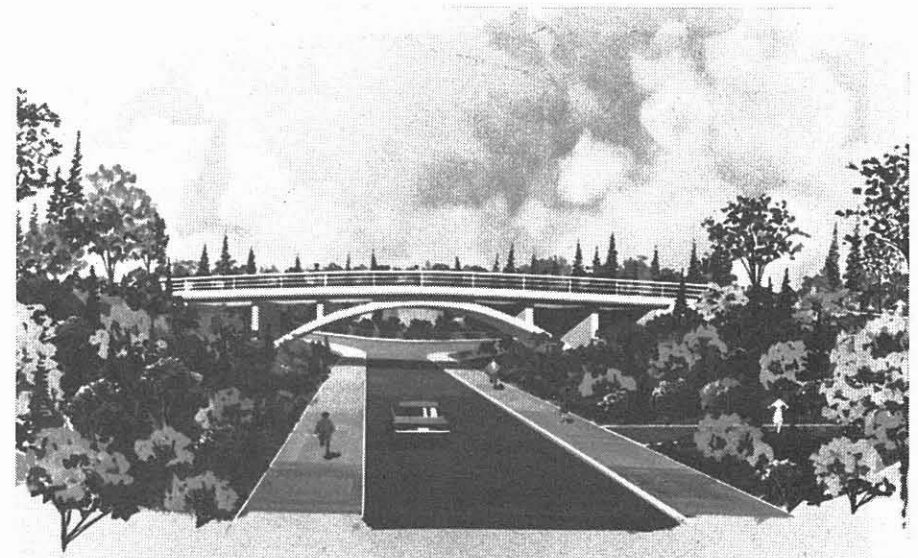
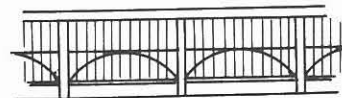
1. 周辺ととけこみやすく、一体となった親しみやすい橋とした。
2. 中景域の橋である。



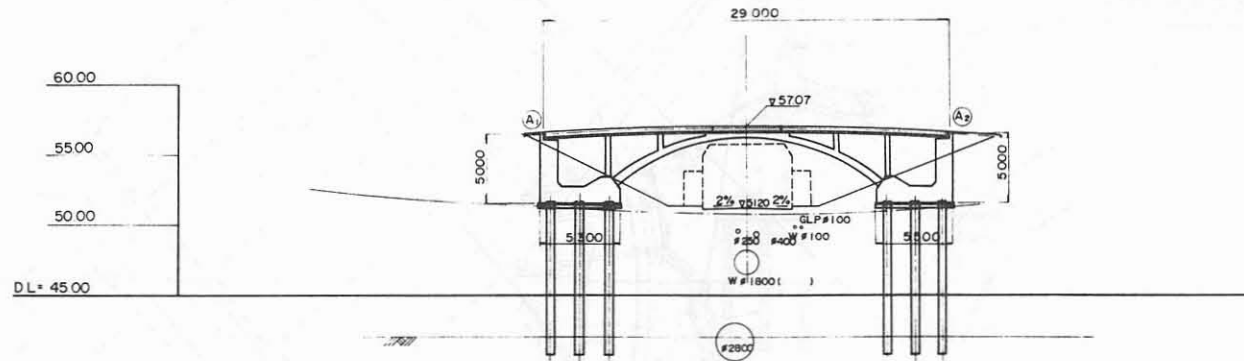
■ 高欄—橋—個別解
 —アプローチ—

- 地盤調査等事前にチェックし型式が妥当かどうか注意
- 建築限界の適用に注意すること

■ 高欄例

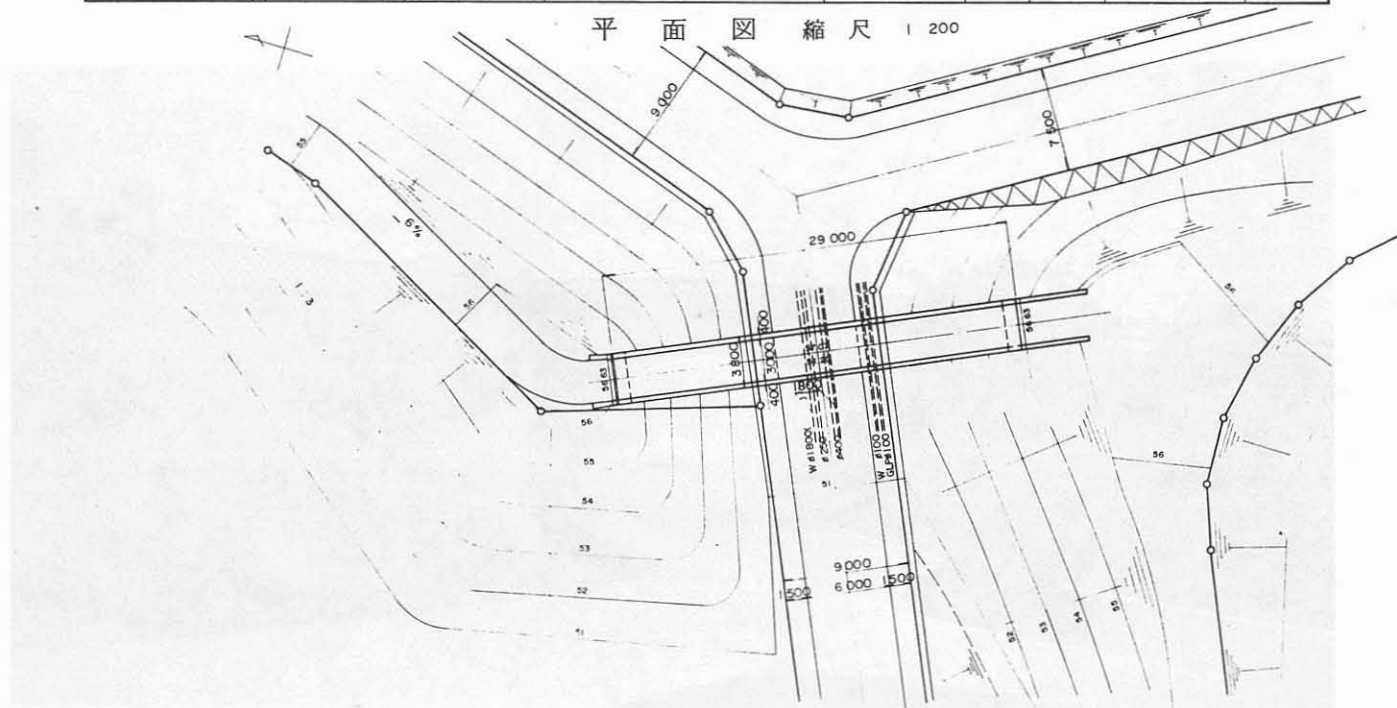


側面図 縮尺 1/200

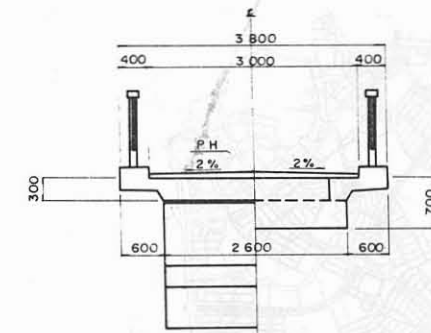


勾配										
計画高		55.70	56.30	56.63	56.86	57.07	56.86	56.63	56.30	
地盤高					53.85	51.20	53.20			
追加距離		30.00	20.00	14.50	10.00	0.00	10.00	14.50	20.00	30.00
単距離		10.00	5.50	4.50	10.00	0.00	10.00	4.50	5.50	10.00
測点	NO. 4	NO. 3	NO. 2	-4.50	NO. 1	NO. 0	NO. 1	+4.50	NO. 2	NO. 3

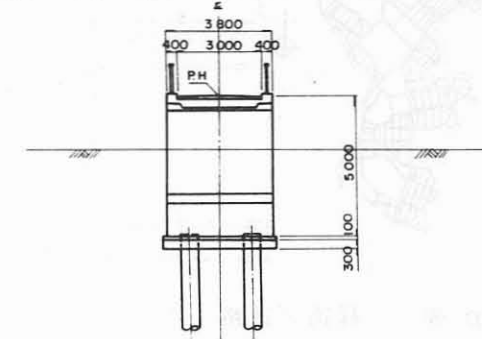
平面図 縮尺 1/200



標準断面図 縮尺 1/40



断面図 縮尺 1/100



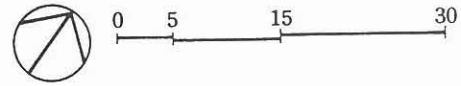
支 承	A, B-タイプ
伸縮装置	A-タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無

D-3

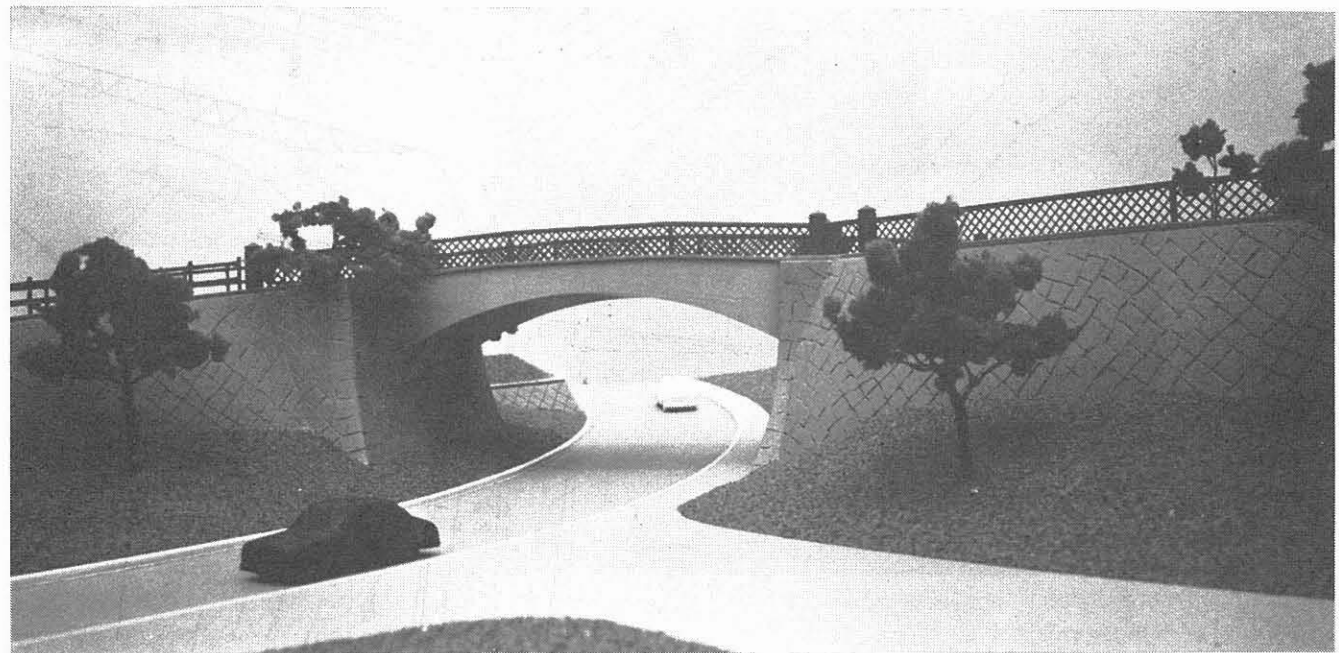
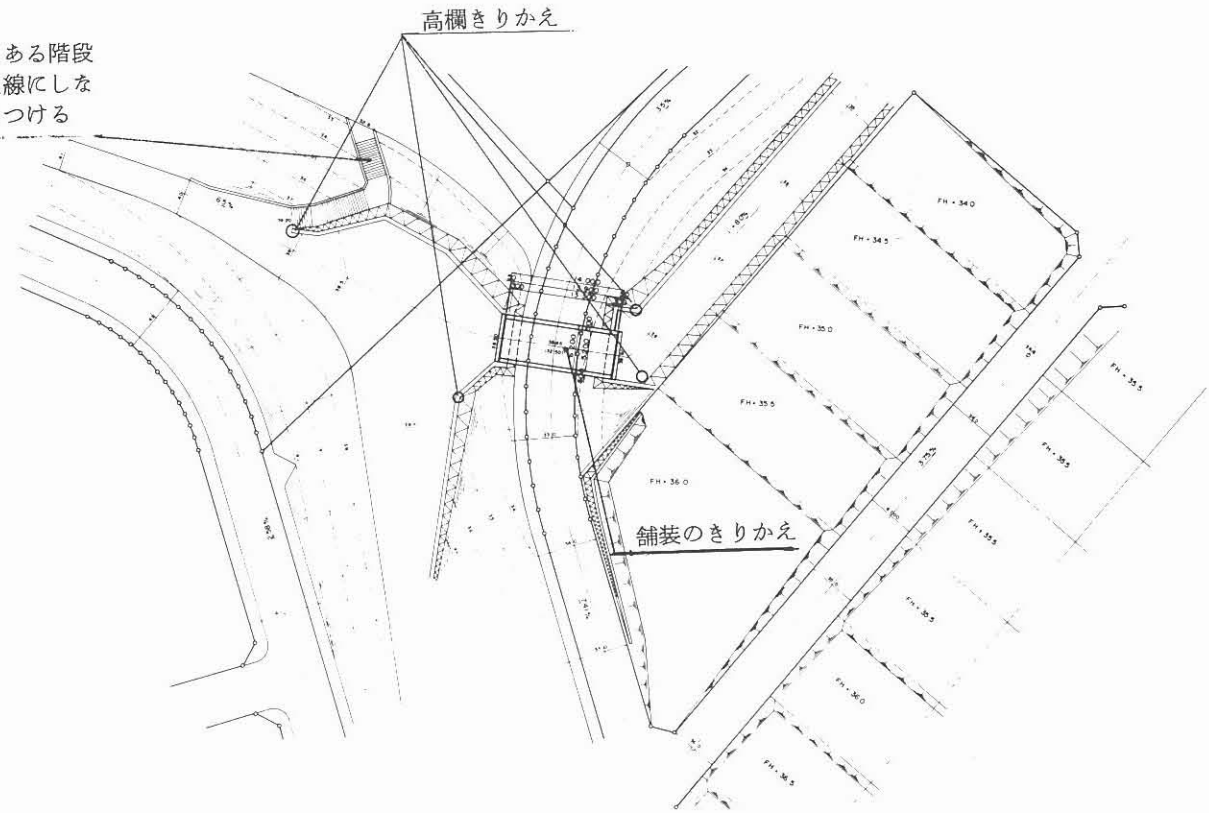


交差形態	緑道／道路
管理区分	a
巾員	4.0 m / 6.0 m
橋梁タイプ	インフォーマル (緑道系・中景域・歴史文化景域)
構造形式	RC単純中空床版
橋長・巾員	14.0 m ・ 4.0 m
設計荷重	TL-14
設計意図	

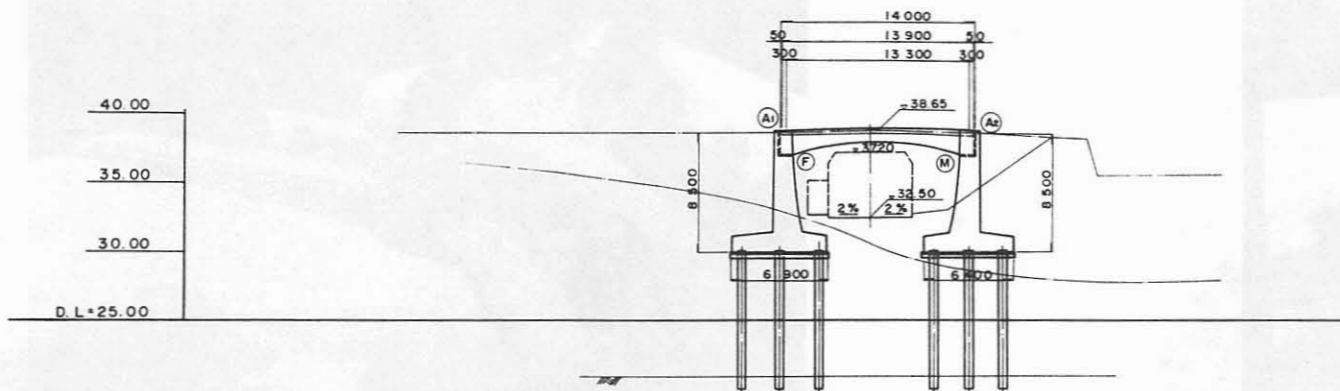
1. 基本的に橋らしくない橋として周辺と一体になるような橋を考えた。
2. 中景域，歴史文化景域内の橋である。



緑道の中にある階段
なので一直線にしない
いで変化をつける

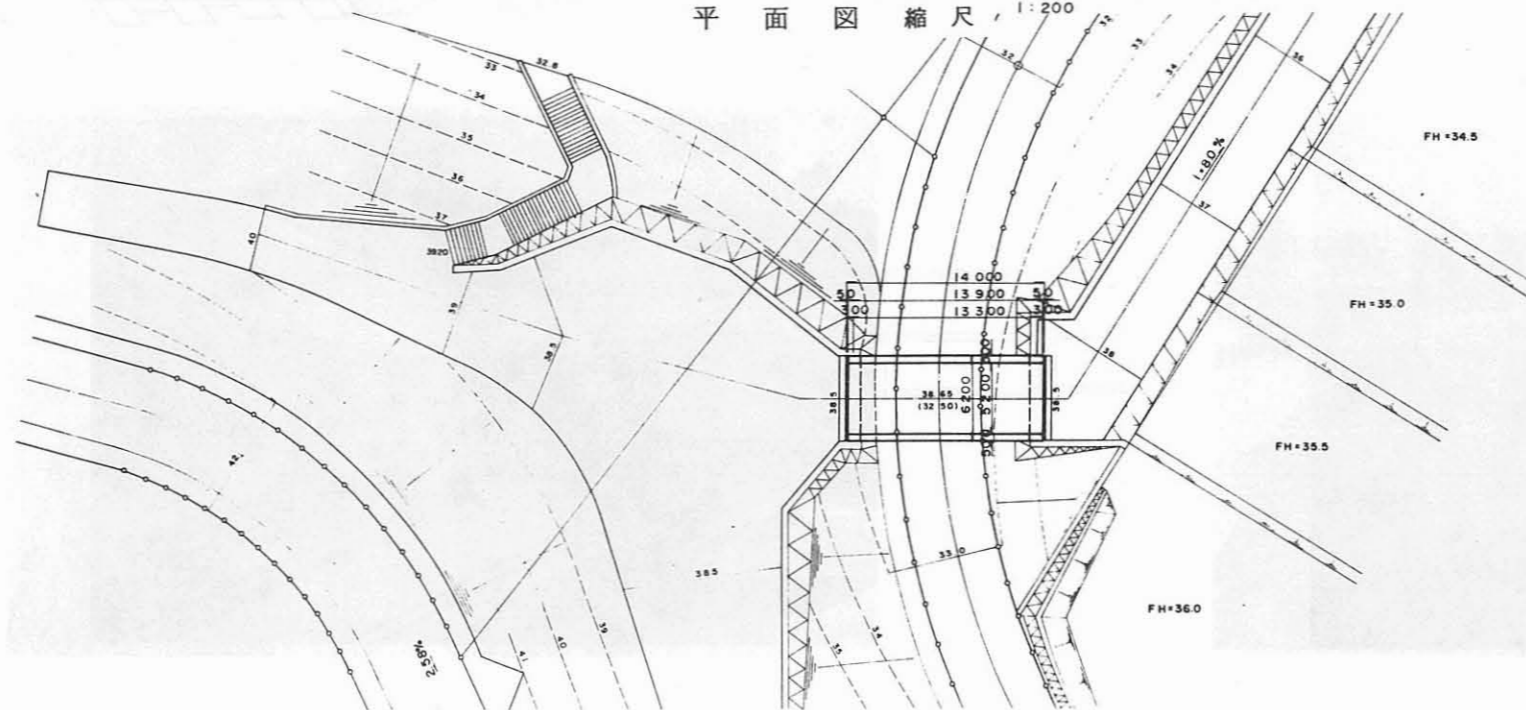


側面図 縮尺 1:200

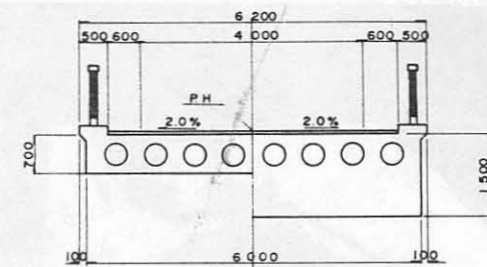


勾配	LEVEL						
計画高	38.50	38.50	38.50	38.50	38.65	38.50	37.46
地盤高					32.50		
追加距離	30.00	20.00	10.00	7.00	0.00	7.00	20.00
単距離	10.00	10.00	3.00	7.00	0.00	7.00	10.00
測点	NO. 3	NO. 2	NO. 1	NO. 0	NO. 1	NO. 2	NO. 3

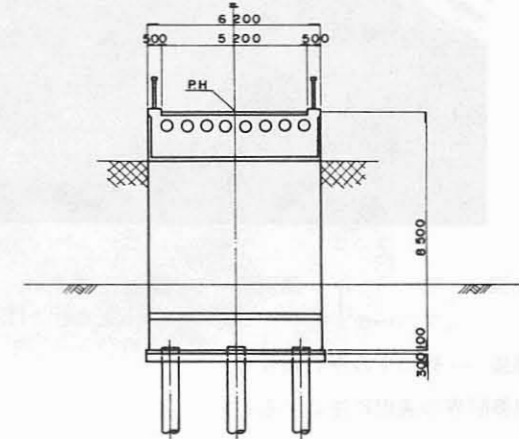
平面図 縮尺 1:200



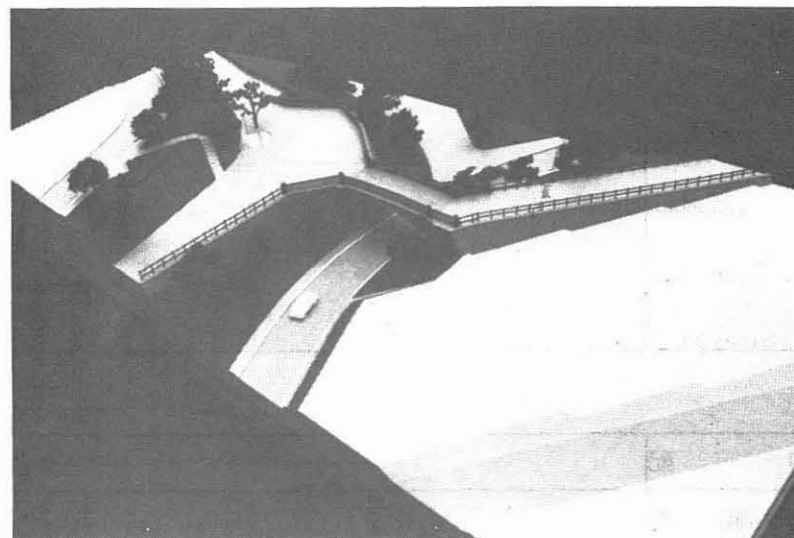
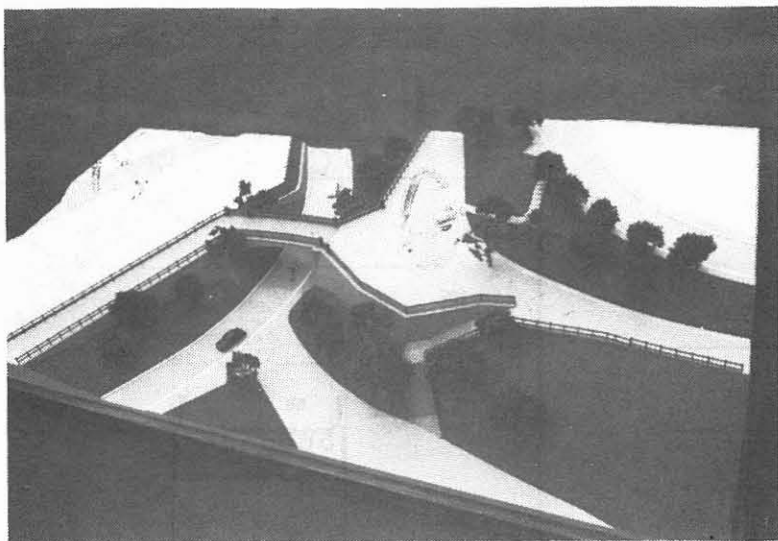
標準断面図 縮尺 1:50



断面図 縮尺 1:100



支 承	A-タイプ
伸縮装置	A-タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無



■ 高欄 — 橋
— アプローチ — 個別解

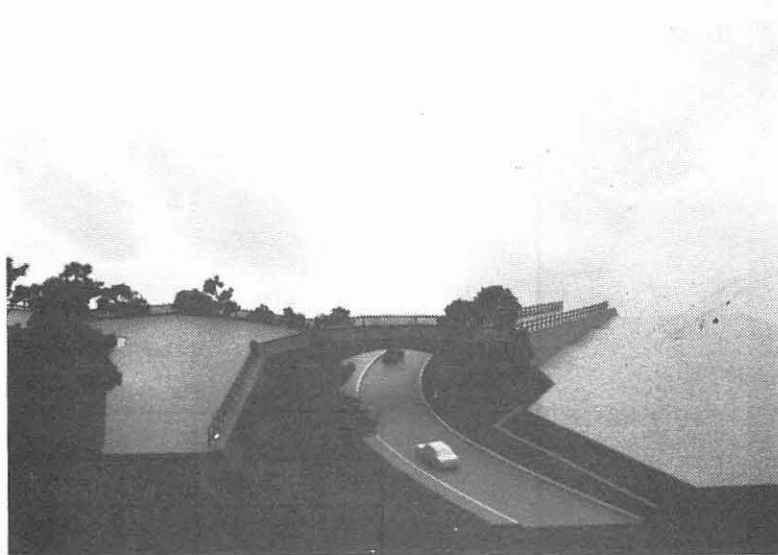
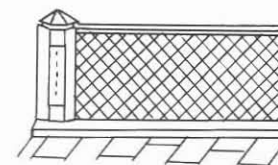
■ 舗装 — 橋の中のみ石張り等

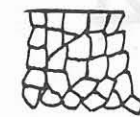
■ 建築限界の適用に注意すること

■ 仕上げグレード — H (緑道を視点として)
(主な仕上げ)

橋台 — 石張り等

■ 親柱は古典的なものとする

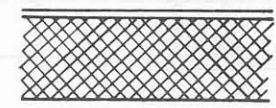




■ 不規則な配列・形の石積(EX城の城壁)



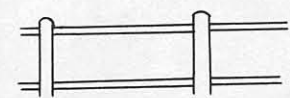
■ 橋台は石張り等



■ 高欄は緑系塗装



■ 田舎の木の柵みたいな感じを出す

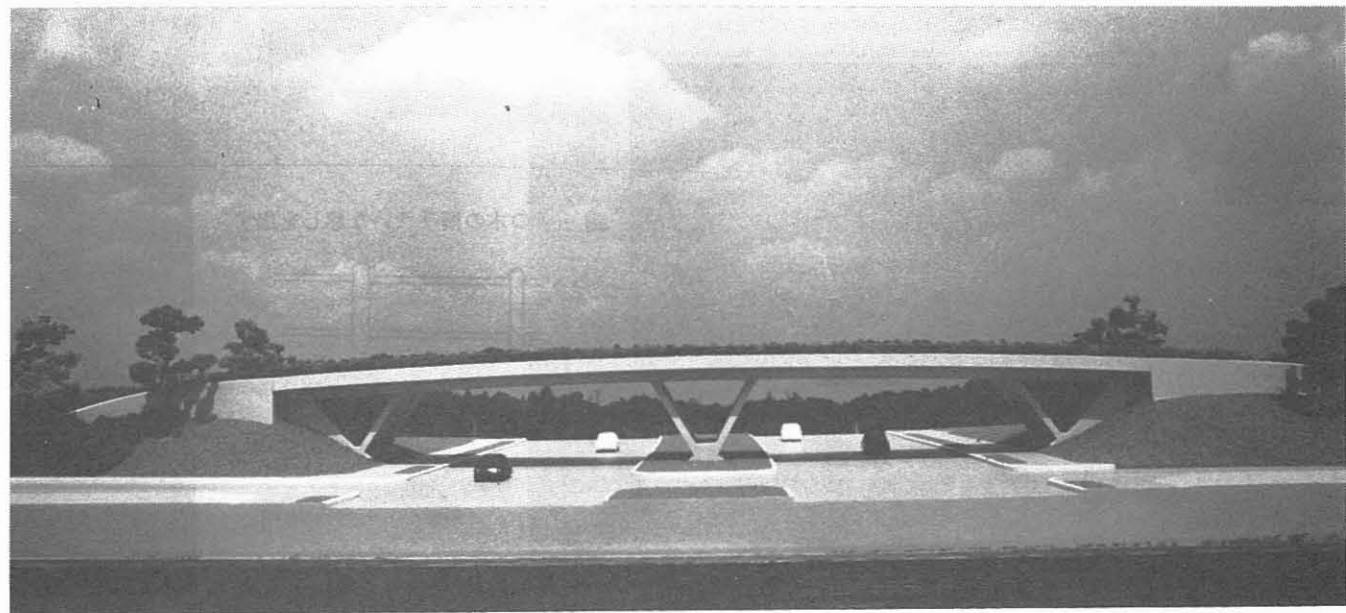
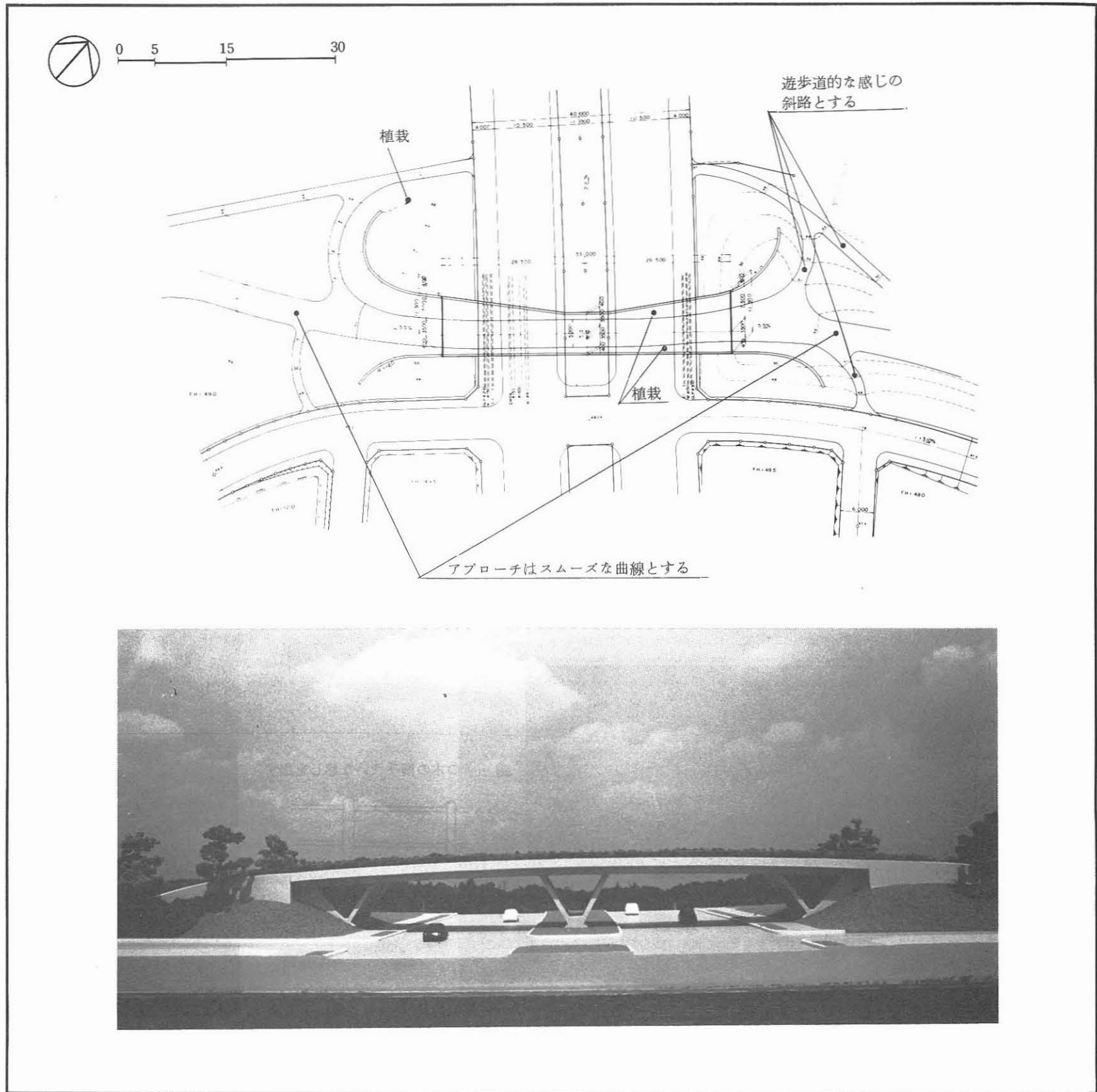


D-4

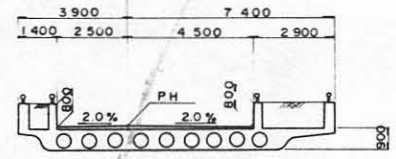


交差形態	緑道／道路 (3-2-3)
管理区分	a
巾員	5.0 m / 40.0 m
橋梁タイプ	インフォーマル (緑道系・中景域)
構造形式	PC連続V脚ラーメン中空床版
橋長・巾員	53.0 m・5.0 m
設計荷重	TL-14
設計意図	

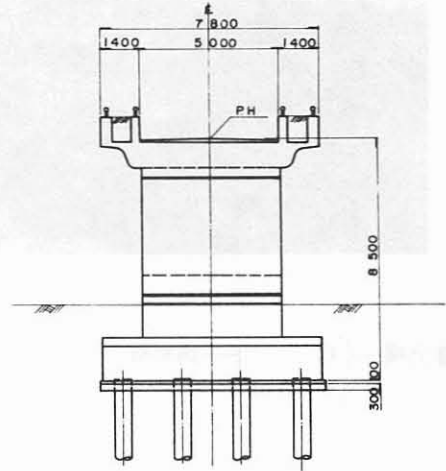
1. 地区公園を結ぶ橋なので緑道の連続性をたすために橋上に植栽をほどこし、橋を意識させないようにした。



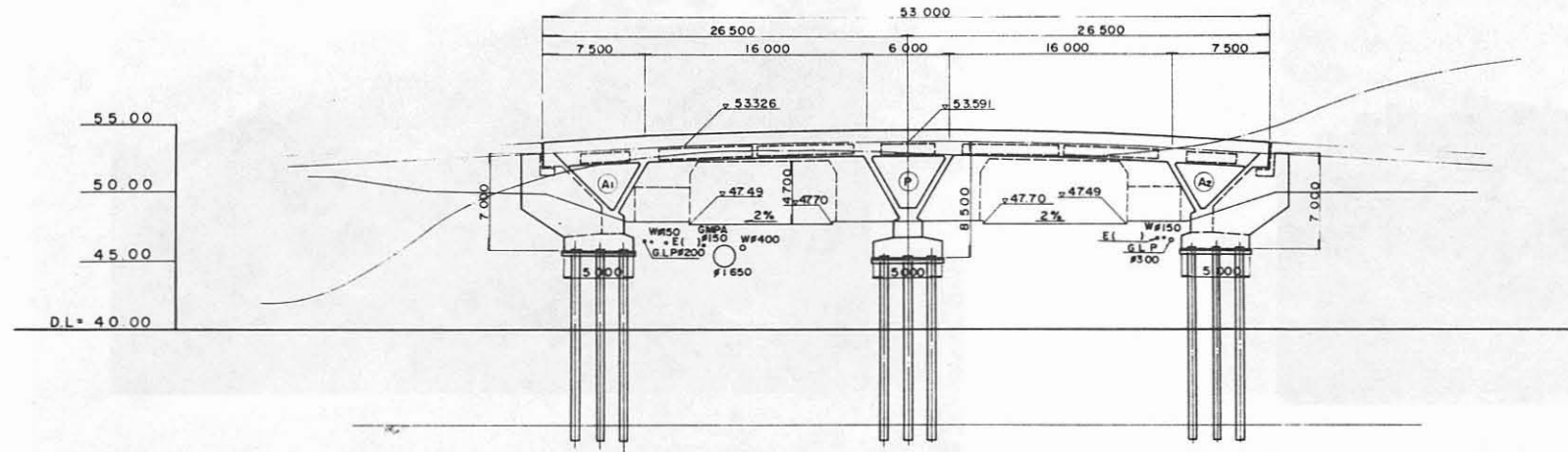
標準断面図 縮尺 1:100



断面図 縮尺 1:100

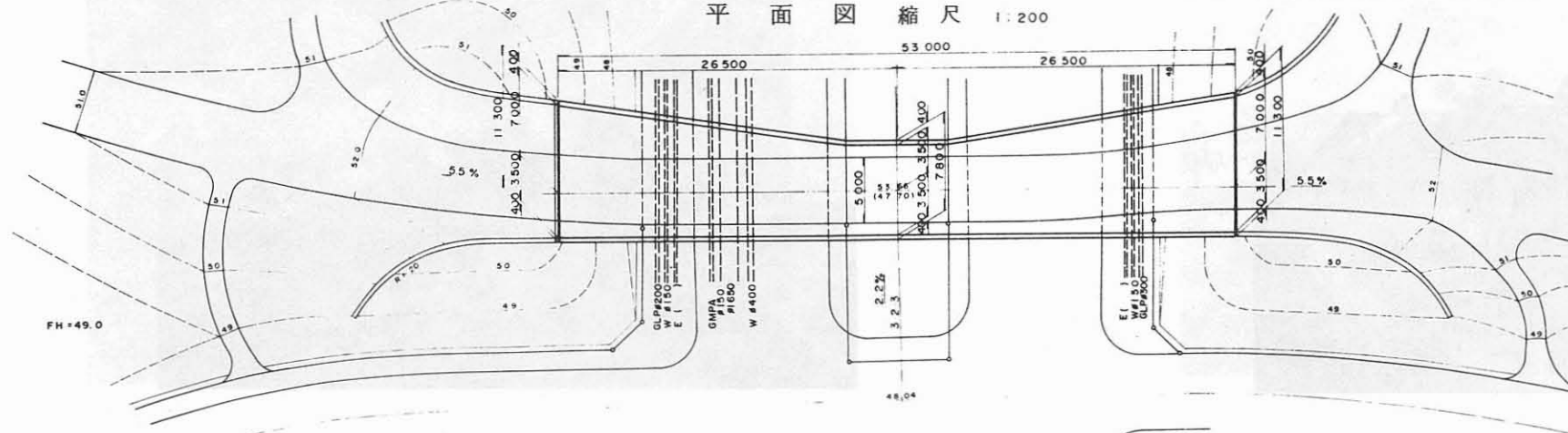


側面図 縮尺 1:200

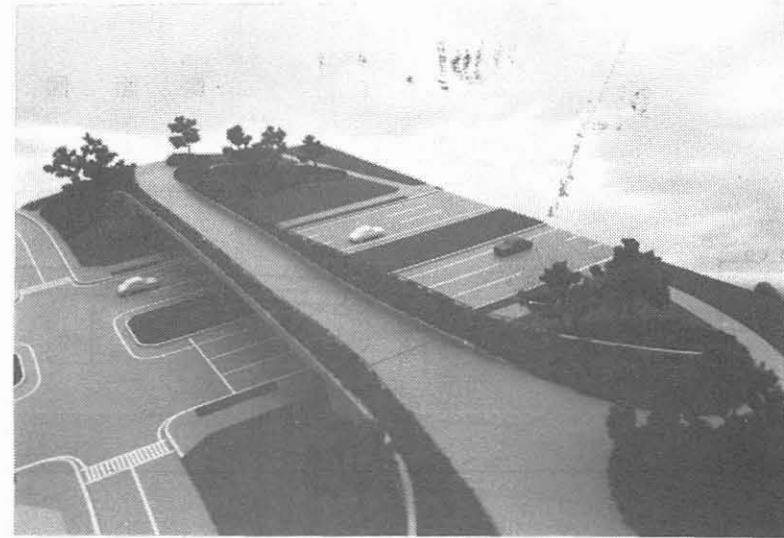


勾配	1.5 50%											
計画高	VC L+53.00											
地盤高	-52.120	-52.670	-52.863	-47.75	-53.176	-47.61	-53.487	-47.61	-53.176	-52.863	-52.670	-52.120
追加距離	10.00	40.00	3.50	30.00	6.50	26.50	10.00	20.00	47.75	53.176	10.00	40.00
単距離	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
測点	NO. 4	NO. 3	NO. 2	NO. 1	NO. 0	NO. 1	NO. 2	NO. 3	NO. 4			

平面図 縮尺 1:200

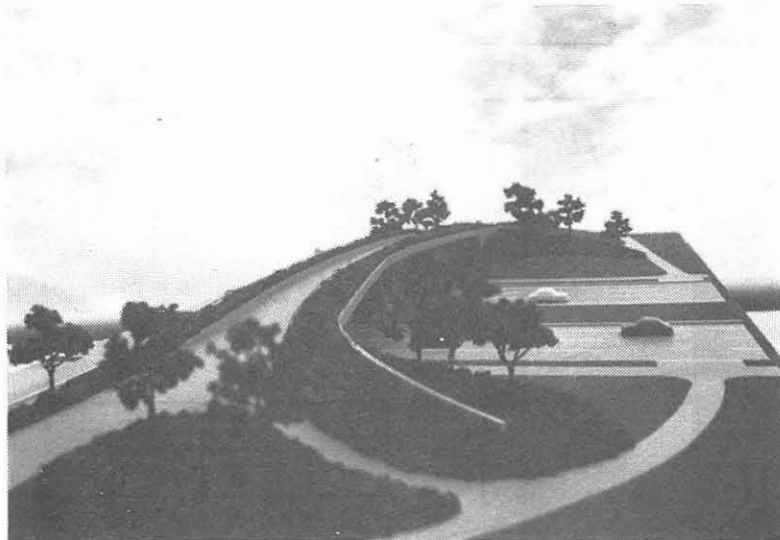


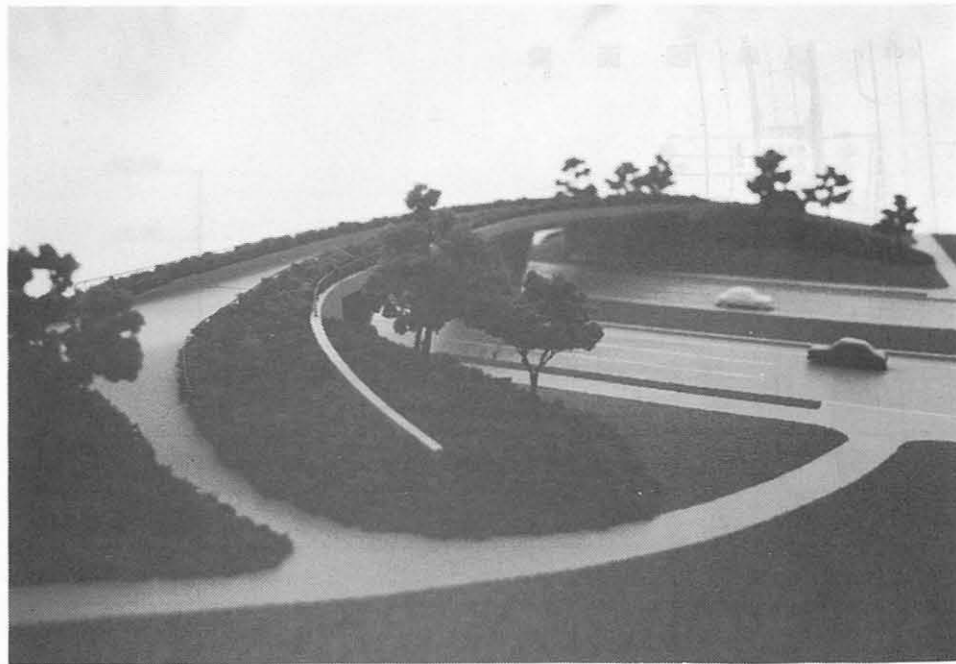
支 承	B-タイプ
伸縮装置	A-タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無



■ 高欄—橋—個別解
 [アプローチ]

■ 歩行者が橋を意識させないようになめらかな曲線でアプローチをすりつける

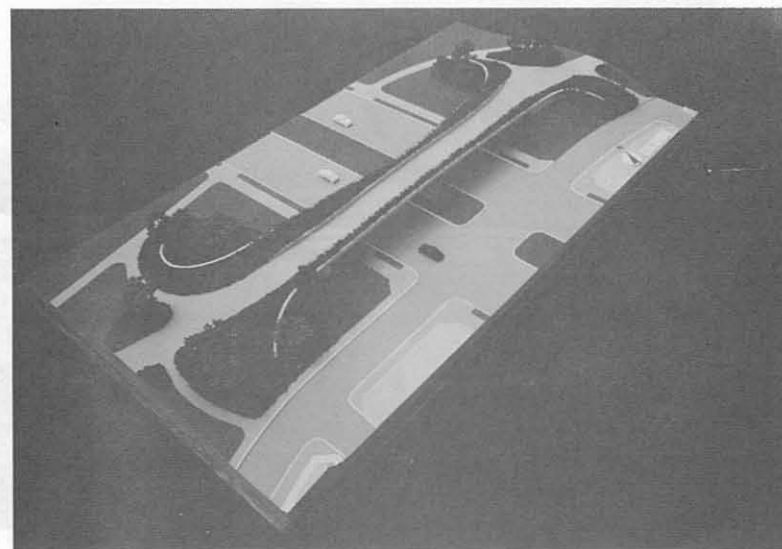




■ 高欄はハンドレールのなものとし木に対して目立たないものを設置する



■ 桁自体をスレンダーにしてあまりごつい感じをださない



■ 低木を植栽



D-5



交差形態 緑道／道路
 管理区分 a
 巾員 5.0 m ～ 7.0 m / 6.0 m
 橋梁タイプ インフォーマル
 (緑道系・近景域・歴史文化景域)
 構造形式 RC単純T桁
 橋長・巾員 13.50 m ・ 5.0 ～ 7.0 m
 設計荷重 TL-14
 設計意図

1. 緑道からよく見える橋で近景域の橋であるため、橋桁構造が気にならない形状としている。



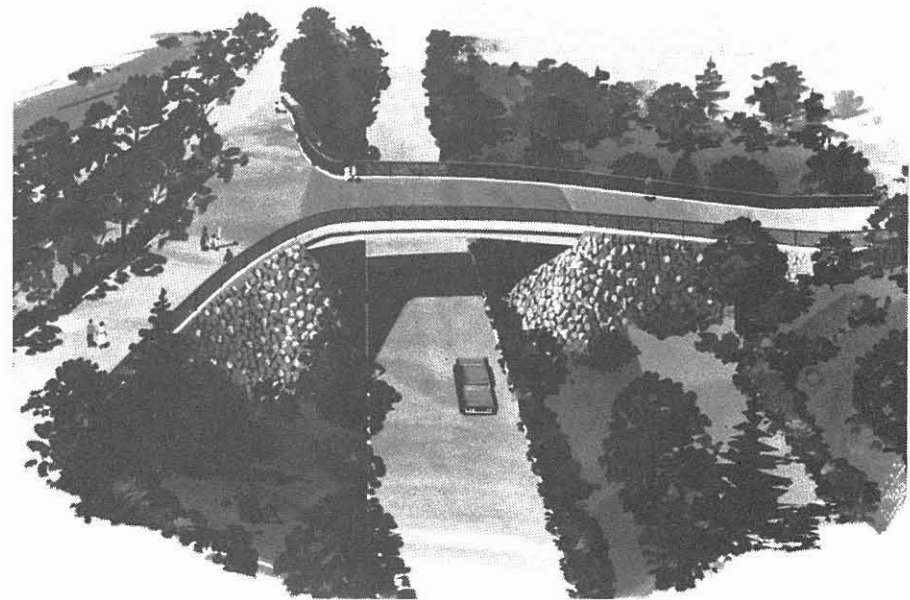
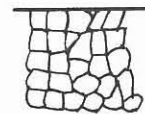
0 5 15 30



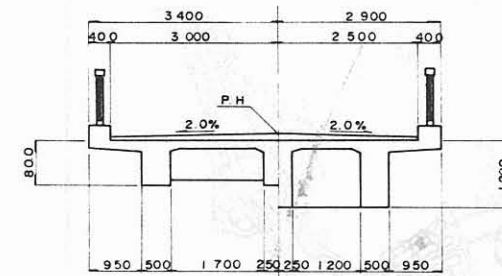
■ 高欄 [橋 / アプローチ] 個別解

■ 仕上げグレードH (主な仕上げ) 橋台 — 石張り等

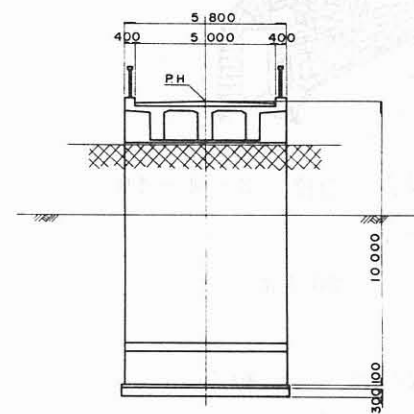
- 建築限界の適用に注意すること
- 不規則な配列・形の石積とする。



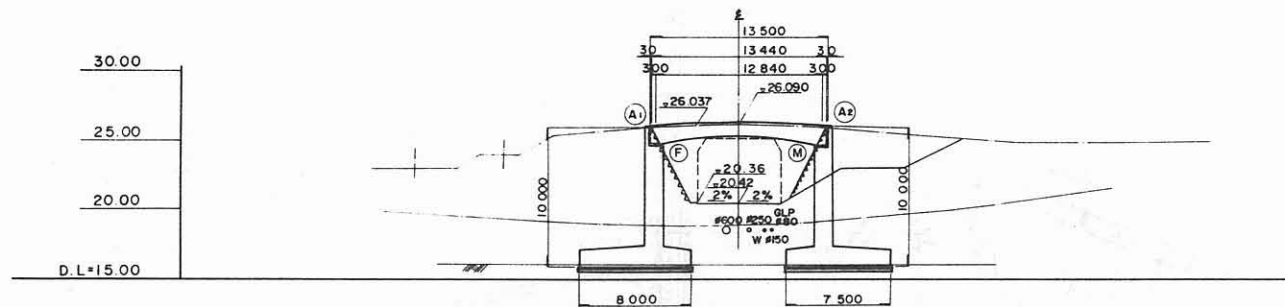
標準断面図 縮尺 1:50



断面図 縮尺 1:100

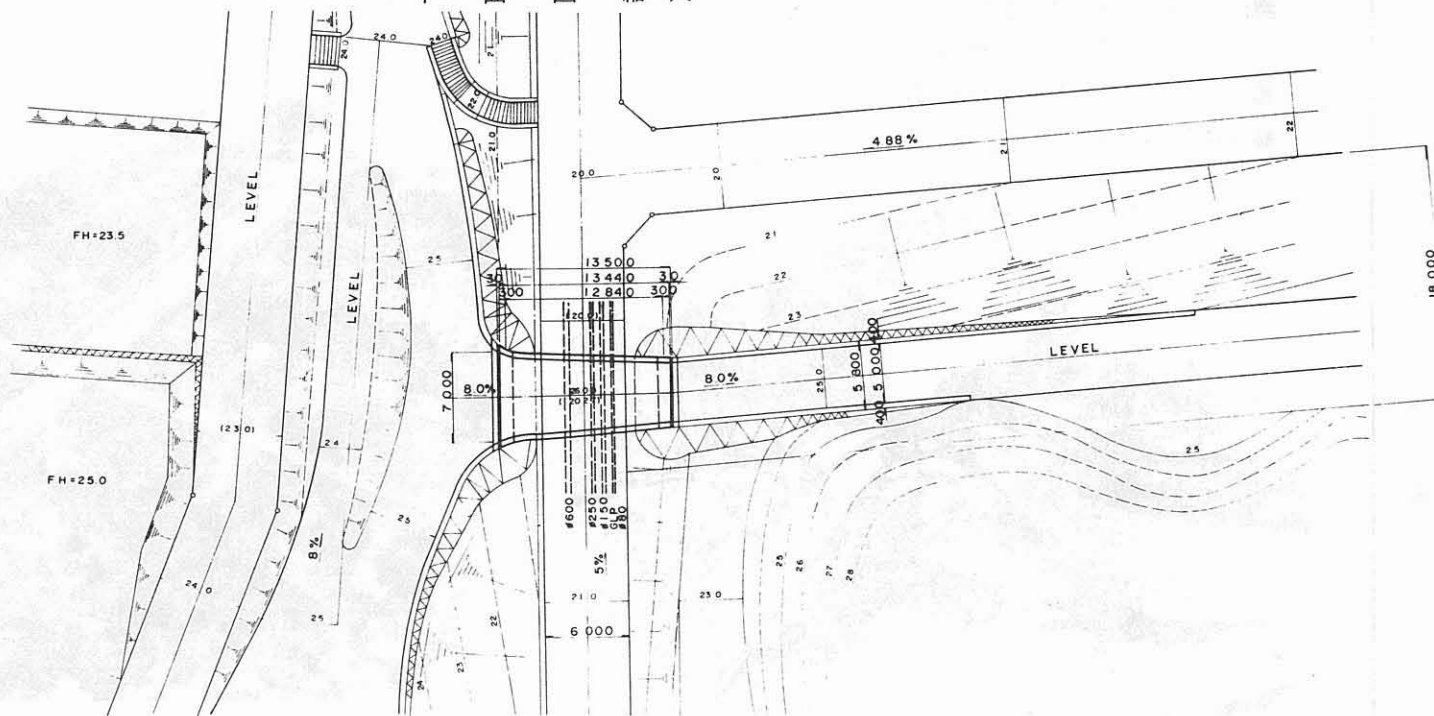


側面図 縮尺 1:200



勾配	1.8%					
計画高		25.860	25.820	26.090	25.820	24.760
地盤高		25.56	25.41	26.04	25.56	
追加距離	20.00	10.00	6.25	0.00	6.25	20.00
単距離	10.00	3.75	6.25	0.00	6.25	10.00
測点	NO. 2	NO. 1	NO. 0	NO. 1	NO. 2	

平面図 縮尺 1:200



支 承	A - タイプ
伸縮装置	A - タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無

D-6

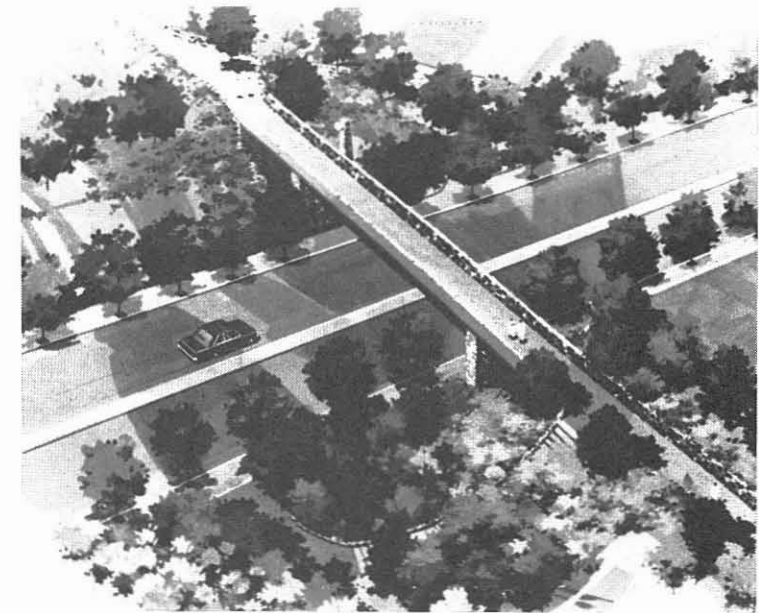
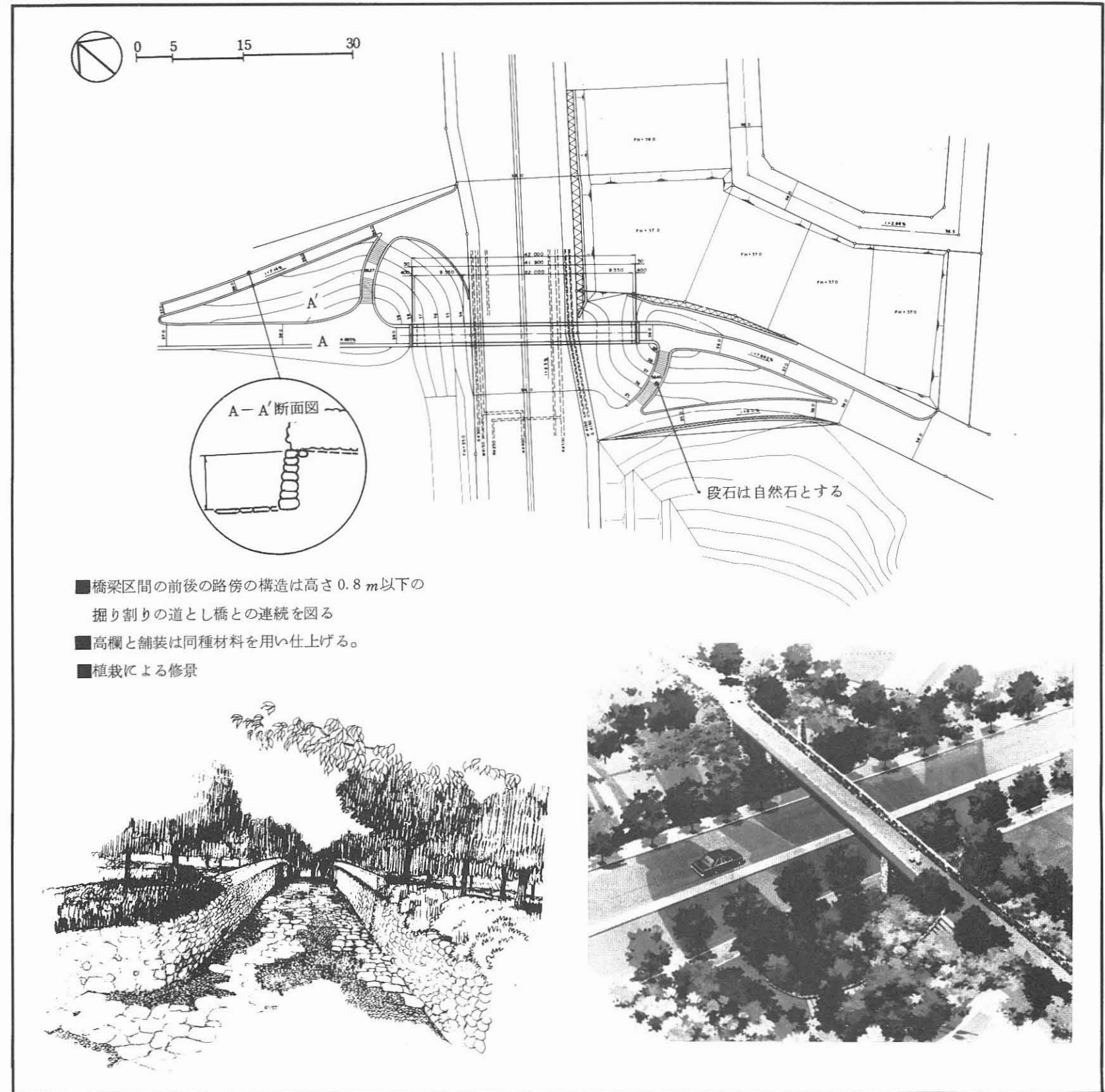


交差形態 ※緑道／道路（3-4-19）
 管理区分 b-1
 巾員 3.0 m / 20.0 m
 橋梁タイプ インフォーマル
 （緑道系）（幹線系）
 構造形式 PC 3 径間連続中空床版
 橋長・巾員 42.0 m ・ 3.0 m
 設計荷重 TL-14

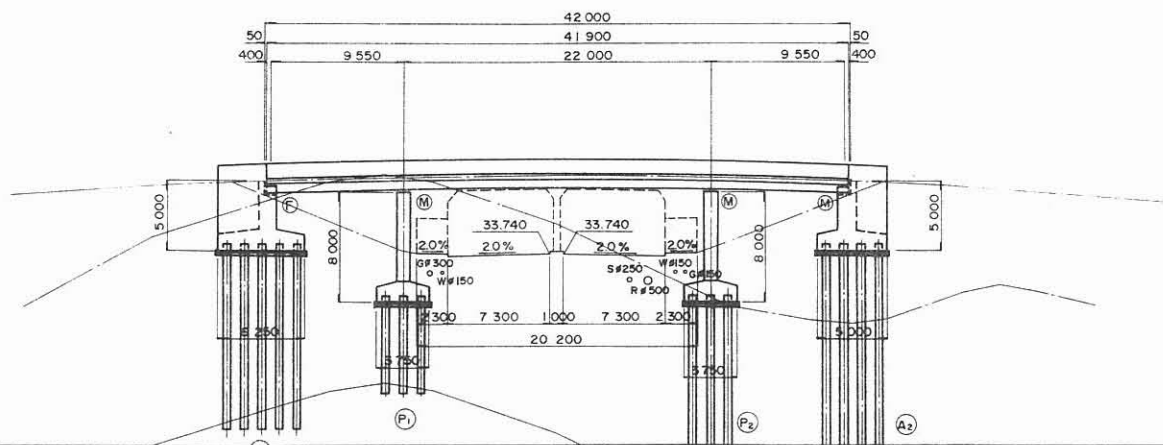
設計意図

1. 近景域（緑道からの視野が比較的せまい）に属する緑道橋である。
2. アプローチと橋とのスムーズな線形が必要である。
3. 主桁側面および高欄に曲線を入れることにより柔らかさを出す。

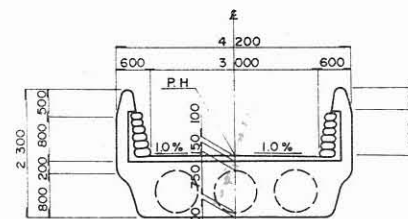
※ 計画意図としては緑道であるが橋梁部の行政上の取扱いは歩専用用地である。



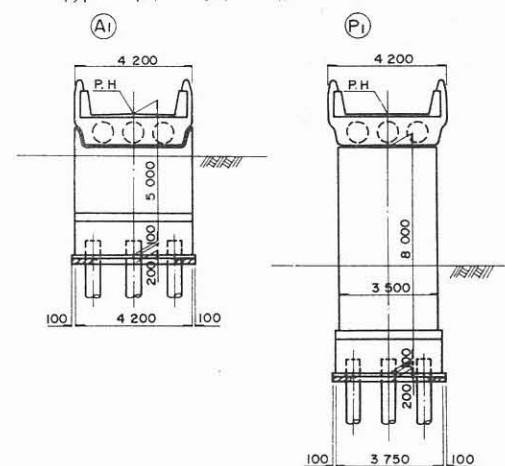
側面図 縮尺 1/200



標準断面図 縮尺 1/50



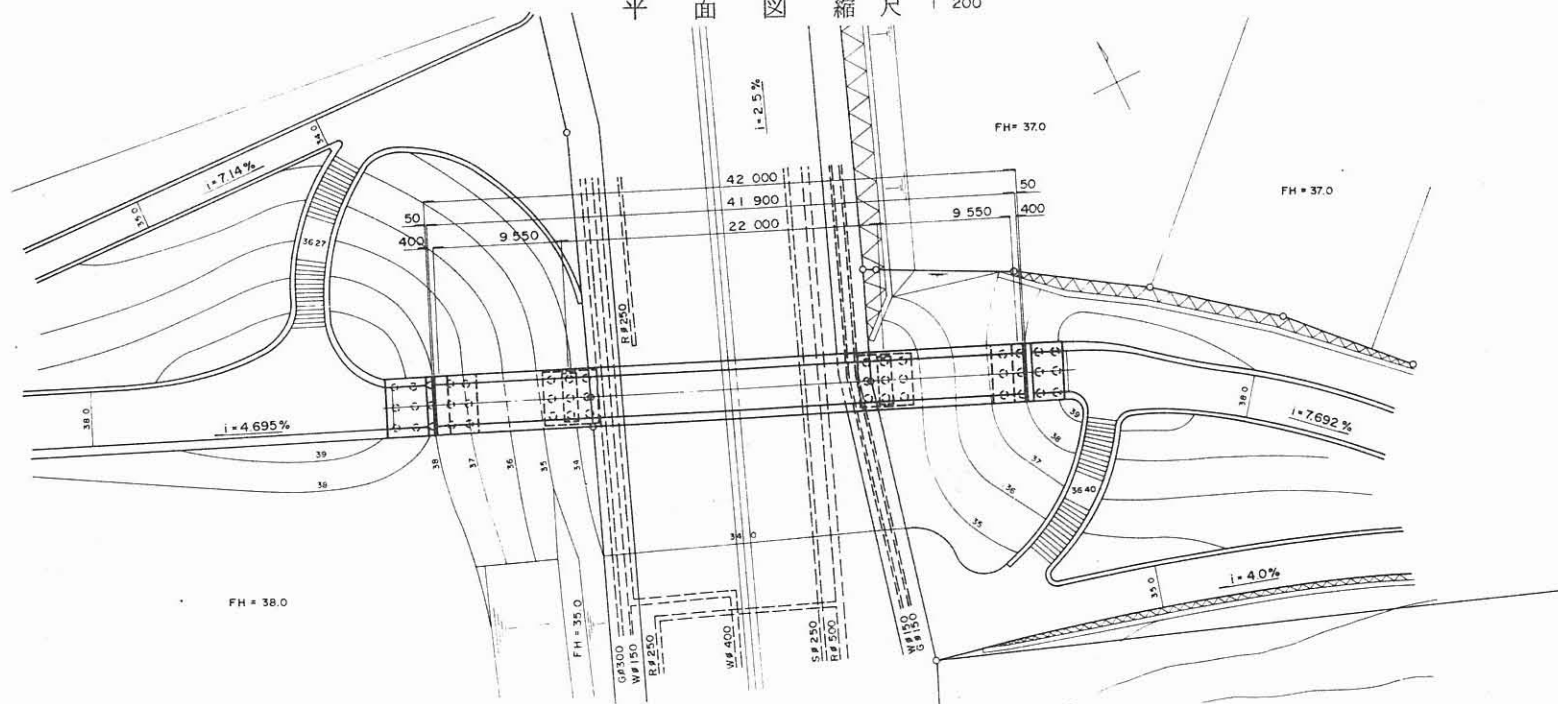
断面図 縮尺 1/100



M
D.L = 20,000

勾配	1/4.695%		1/4.000%		1/7.692%	
計画高	38,859	38,995	39,120	39,159	39,425	39,540
地盤高						
追加距離	-27,000	-24,000	-21,000	-20,000	11,000	0,000
単距離	0,000	3,000	3,000	1,000	9,000	11,000
測点	-7,000	-4,000	-1,000	NO-2	-11,000	NO 0

平面図 縮尺 1/200



支 承	A-タイプ
伸縮装置	A-タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無

D-7

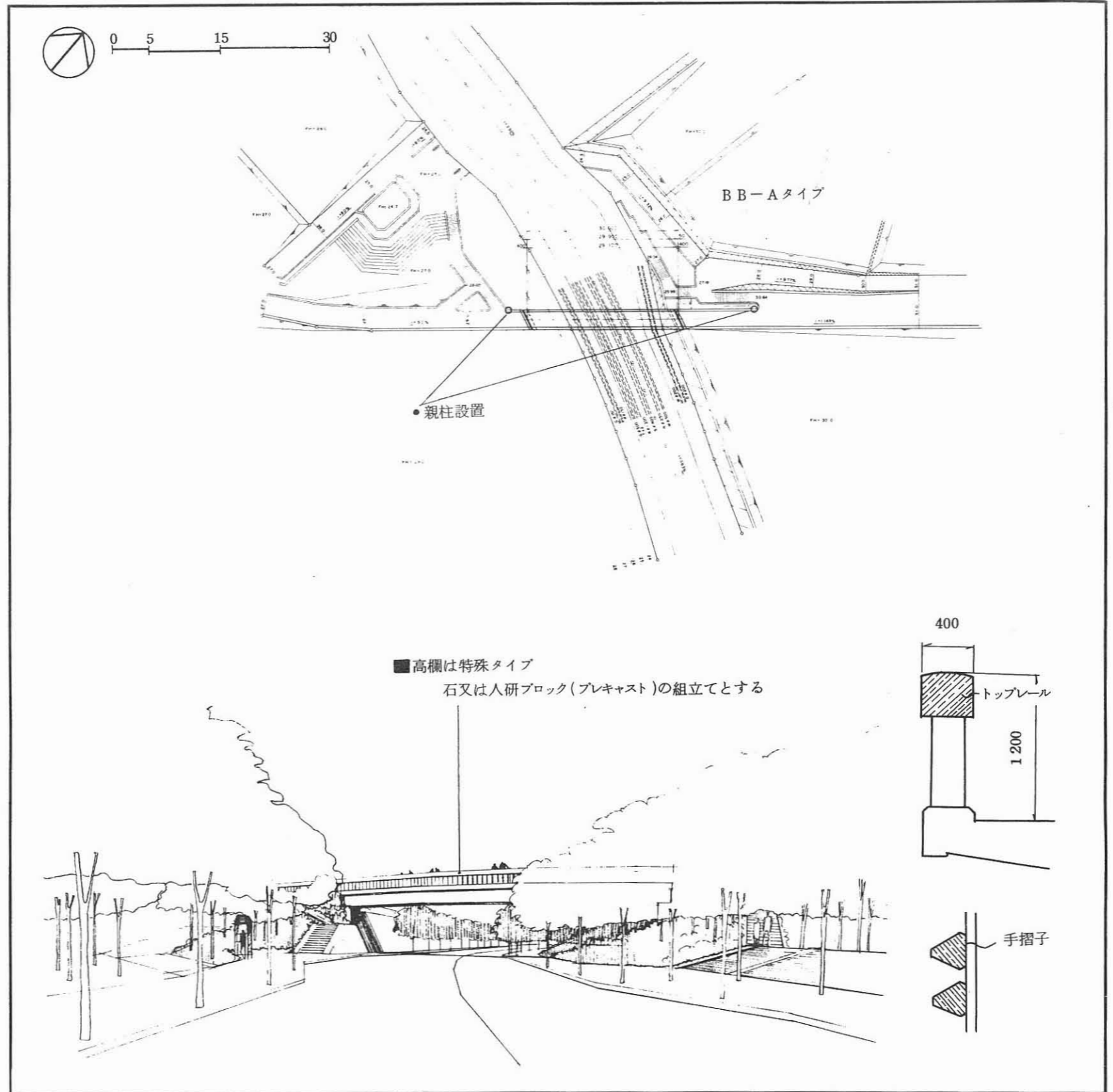


交差形態	※緑道／道路
管理区分	b-1
巾員	3.0 m / 16.0 m
橋梁タイプ	フォーマル（緑道結接点）
構造形式	PC単純中空床版
橋長・巾員	30.0 m ・ 3.0 m
設計荷重	TL-14

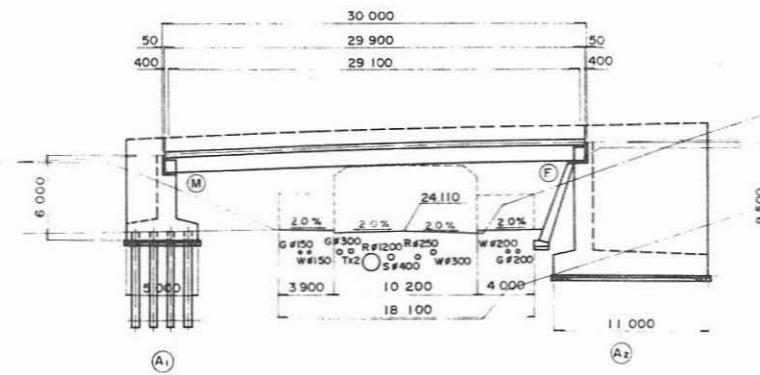
設計意図

1. 緑道結接点を形成する橋である。
2. アプローチとのスムーズな線形が必要である。
3. 主桁側面に曲線を入れることにより柔らかさを出す。

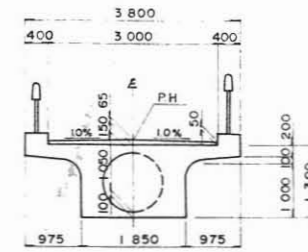
※ 計画意図としては緑道であるが橋梁部の行政上の取扱いは歩専用用地である。



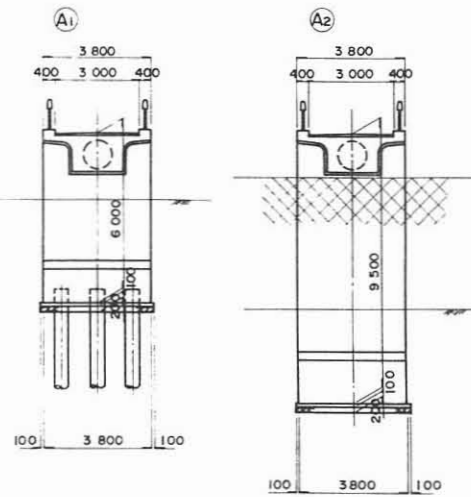
側面図縮尺 1/200



標準断面図縮尺 1/50



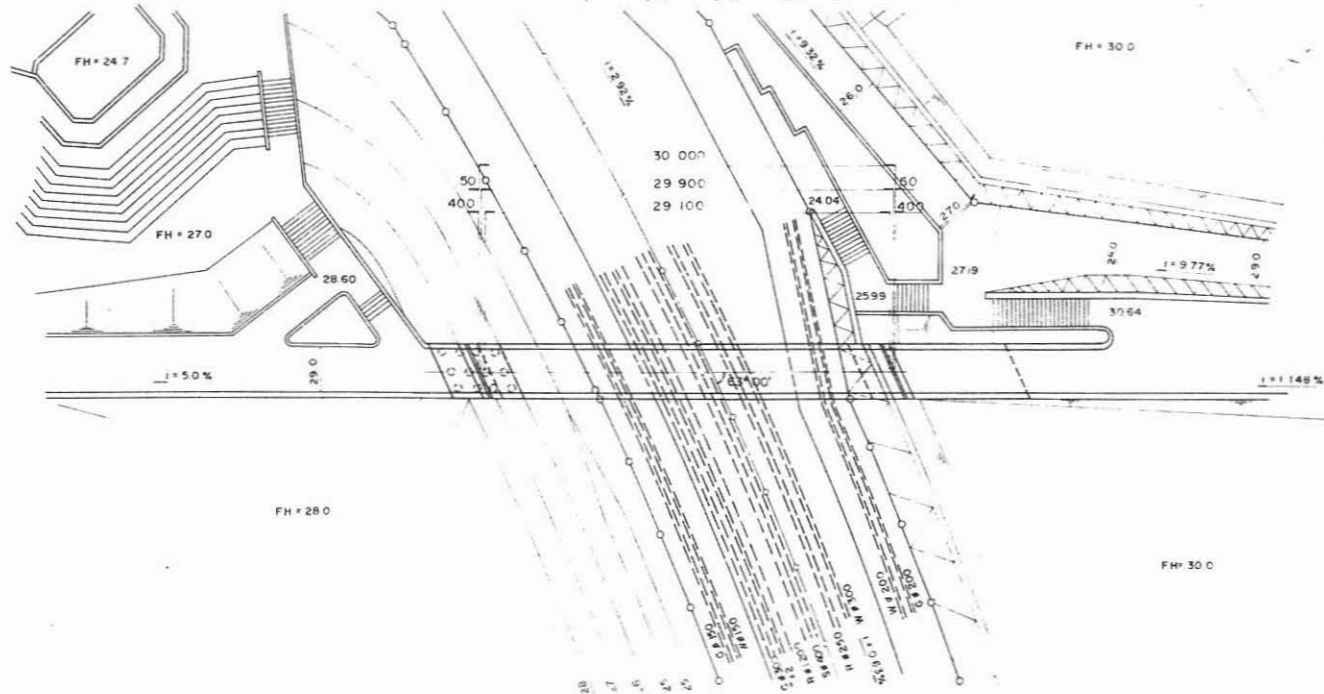
断面図縮尺 1/100



D.L. = 10.000

勾配	27.000	29.448	29.601	30.214	30.272	30.922	30.989	31.000
計画高								
地盤高								
追加距離								
単距離								
測点								

平面図縮尺 1/200



支 承	A-タイプ
伸縮装置	A-タイプ
踏掛板	無
計画添加物	無